

佐賀市文化財調査報告書 第48集

おお の ばる
大 野 原 遺 跡

平成5年3月

佐賀市教育委員会

＜正 誤 表＞

P10 9行目	
誤	方形周溝幕
正	方形周溝墓
P25・26 折り込み挿図 キャプション	
誤	Fig.19 大野原遺跡2区遺構配置図(1/200)
正	Fig.19 大野原遺跡2区遺構配置図(1/300)
P139 29～31行目	
誤	高坏(7・8) 7は坏部破片で口径11.5cm。口縁部横ナデ、外面縦方向のハケ目、内面工具によるナデ調整。外面に黒斑有り。淡褐色。8は口径7.3cm、復元裾部径10.8cm、器高9.1cm。脚部に4個の孔を穿つ。外面及び坏部内面ヘラミガキ調整、他は調整不明瞭。
正	高坏(7) 坏部破片で口径11.5cm。口縁部横ナデ、外面縦方向のハケ目、内面工具によるナデ調整。外面に黒斑有り。淡褐色。 器台(8) 受部径7.3cm、復元裾部径10.8cm、器高9.1cm。脚部に4個の孔を穿つ。外面及び受部内面ヘラミガキ調整、他は調整不明瞭。
P146 33行目	
誤	確かにB型のものがC型よりも規模的に若干大型で、
正	確かにC型のものがB型よりも規模的に若干大型で、
P147 1行目	
誤	C型よりも大型の動物を捕獲する目的が
正	B型よりも大型の動物を捕獲する目的が

発刊にあたって

本書は、農業基盤整備事業の施工に先立ち、佐賀市教育委員会が平成3年度に発掘調査を実施した大野原遺跡の発掘調査報告書であります。

調査の結果、縄文時代から中世にかけての遺構、遺物を検出しました。その中心をなすのは弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落跡で、竪穴住居、掘立柱建物などの遺構群のほか、当時の遺物が比較的まとまって出土しました。特に竪穴住居は比較的遺存状態が良好で、弥生時代から古墳時代の竪穴住居の変遷を考えるうえで大変貴重な資料になると思われま

す。これらの資料は、佐賀市の古代史を考えるうえで貴重なものであり、この報告書が、郷土の歴史と文化財に対する認識と理解に少しでも役立てば幸いです。最後になりましたが、調査に際しましてご協力いただきました佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、並びに地元の方々に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

佐賀市教育委員会

教育長 野 口 健

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成3年度に調査を実施した佐賀市金立町所在の大野原遺跡（1～4区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀県農林部の委託を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在および規模などは以下のとおり。

遺跡登録番号	1036・2060・3079	遺跡略号	ONR-1～4
調査地	佐賀市金立町大字金立字大野原	開発面積	190,000m ²
調査対象面積	3,849m ²	調査実施面積	3,849m ²
遺跡調査番号	9106	調査期間	平成3年10月22日～平成4年2月7日

4. 発掘作業・整理事業・報告書作成の分担は以下のとおり。

表土除去	山豊建設株式会社
空中写真	有限会社 空中写真企画
遺構実測	有限会社 朝日測量設計
個別遺構実測	友添丸子・原 京子・龍由美子・副島かすみ・角信一郎・西田 巖
遺構・遺物写真	角・西田
遺物復元	鬼崎玲子
遺物実測	貞包洋子・幸尾由紀子・西田
製図	幸尾由紀子・西田

5. 調査・整理記録および出土遺物（I種）は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121）で一括保管している。また出土遺物（II種）については佐賀市循誘収蔵庫で保管している。
6. 本書の執筆・編集は西田がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号をつけ、番号の前に遺構分類番号をつけた。分類は以下のとおり。

SB:掘立柱建物	SD:溝	SE:井戸	SH:竪穴住居	SK:土壇	SP:土壇墓	SK:不明遺構	P:小穴・柱穴
----------	------	-------	---------	-------	--------	---------	---------

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 表示した方位はすべて座標北（G. N.）である。
4. 遺物の実測図は基本的に、縄文・弥生土器及び土師器・陶磁器は断面白ヌキ、須恵器は断面黒塗りで表現している。

本文目次

I. 序 説	1	(4) 溝	117
1. 調査にいたる経過	1	(5) 土 墳 墓	117
2. 調査の組織	1	2. 中世の遺構と遺物	118
II. 遺跡の位置と環境	3	(1) 溝	118
1. 遺跡の位置	3	VI. 調査の記録 — 3 区 —	121
2. 歴史的環境	3	1. 縄文時代の遺構と遺物	121
III. 調査の概要	7	(1) 土 墳	121
1. 調査の概要	7	2. 弥生・古墳時代の遺構と遺物	126
2. 調査成果の概要	7	(1) 掘立柱建物	126
IV. 調査の記録 — 1 区 —	13	(2) 土 墳	128
1. 縄文時代の遺構と遺物	13	(3) 溝	130
(1) 土 墳	14	(4) 不明遺構	130
(2) 小穴出土遺物	14	3. 谷部包含層の層序と出土遺物	131
2. 弥生時代の遺構と遺物	14	(1) 層 序	131
(1) 土 墳	15	(2) 出土遺物	133
(2) 溝	15	VII. 調査の記録 — 4 区 —	136
3. 奈良時代の遺構と遺物	17	1. 古墳時代の遺構と遺物	136
(1) 溝	17	(1) 竪穴住居	136
4. 谷部包含層の層序と出土遺物	19	(2) 土 墳	141
(1) 層 序	19	(3) 溝	145
(2) 出土遺物	19	VIII. 小 結	146
V. 調査の記録 — 2 区 —	27	1. 落とし穴状遺構	146
1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物	27	(1) 形状と配置	146
(1) 竪穴住居	27	(2) 年 代	147
(2) 掘立柱建物	99	2. 2 区の集落について	148
(3) 土 墳	109	(1) 集落の変遷	148
		(2) 竪穴住居の構造	150

挿 図 目 次

Fig. 1	大野原遺跡周辺主要遺跡分布図 (1/30,000)	2	Fig. 38	S H208竪穴住居実測図 (1/60)	44
Fig. 2	大野原遺跡グリッド設定図 (1/2,000)	8	Fig. 39	S H209竪穴住居実測図 (1/60)	45
Fig. 3	大野原遺跡1区遺構配置図 (1/200)	11・12	Fig. 40	S H209出土遺物実測図 (1/4・1/2)	46
Fig. 4	S K109・110土壌実測図 (1/40・1/60)	13	Fig. 41	S H211竪穴住居実測図 (1/60)	48
Fig. 5	S K110・P1006出土遺物実測図 (1/2)	14	Fig. 42	S H211出土遺物実測図① (1/4)	49
Fig. 6	S K108土壌実測図 (1/40)	15	Fig. 43	S H211出土遺物実測図② (1/4)	50
Fig. 7	S K108出土遺物実測図 (1/4)	15	Fig. 44	S H211出土遺物実測図③ (1/4)	51
Fig. 8	S D101・102・104溝及び土層断面実測図 (1/80・1/40)	16	Fig. 45	S H211出土遺物実測図④ (1/4)	52
Fig. 9	S D102出土遺物実測図 (1/4・1/3)	16	Fig. 46	S H211出土遺物実測図⑤ (1/4)	53
Fig. 10	S D103・106溝及び土層断面実測図 (1/150・1/40)	17	Fig. 47	S H211出土遺物実測図⑥ (1/4)	54
Fig. 11	S D106出土遺物実測図 (1/3)	18	Fig. 48	S H211出土遺物実測図⑦ (1/4)	55
Fig. 12	包含層実測図 (1/150・1/80)	18	Fig. 49	S H212竪穴住居実測図 (1/60)	57
Fig. 13	包含層出土遺物実測図① (1/4)	20	Fig. 50	S H212出土遺物実測図① (1/4)	58
Fig. 14	包含層出土遺物実測図② (1/4・1/8)	21	Fig. 51	S H212出土遺物実測図② (1/4)	59
Fig. 15	包含層出土遺物実測図③ (1/4)	22	Fig. 52	S H212出土遺物実測図③ (1/4)	60
Fig. 16	包含層出土遺物実測図④ (1/4)	23	Fig. 53	S H212出土遺物実測図④ (1/4)	61
Fig. 17	包含層出土遺物実測図⑤ (1/4・1/3)	24	Fig. 54	S H212出土遺物実測図⑤ (1/4・1/2)	62
Fig. 18	包含層出土遺物実測図⑥ (1/2)	24	Fig. 55	S H213竪穴住居実測図 (1/60)	63
Fig. 19	大野原遺跡2区遺構配置図 (1/300)	25・26	Fig. 56	S H213出土遺物実測図 (1/4・1/2)	64
Fig. 20	S H201竪穴住居実測図 (1/60)	28	Fig. 57	S H214竪穴住居実測図 (1/60)	65
Fig. 21	S H201出土遺物実測図① (1/4)	29	Fig. 58	S H214出土遺物実測図 (1/4・1/2)	66
Fig. 22	S H201出土遺物実測図② (1/4)	30	Fig. 59	S H215竪穴住居実測図 (1/60)	68
Fig. 23	S H201出土遺物実測図③ (1/4・1/2)	31	Fig. 60	S H215出土遺物実測図① (1/4)	69
Fig. 24	S H202竪穴住居実測図 (1/60)	32	Fig. 61	S H215出土遺物実測図② (1/2・1/4)	70
Fig. 25	S H202出土遺物実測図① (1/4)	34	Fig. 62	S H216竪穴住居実測図 (1/60)	71
Fig. 26	S H202出土遺物実測図② (1/4)	35	Fig. 63	S H216出土遺物実測図① (1/4)	72
Fig. 27	S H202出土遺物実測図③ (1/4)	36	Fig. 64	S H216出土遺物実測図② (1/4)	73
Fig. 28	S H203竪穴住居実測図 (1/60)	37	Fig. 65	S H217竪穴住居実測図 (1/60)	74
Fig. 29	S H203出土遺物実測図 (1/4・1/2)	38	Fig. 66	S H217出土遺物実測図 (1/4)	75
Fig. 30	S H204・210竪穴住居実測図 (1/60)	40	Fig. 67	S H219竪穴住居実測図 (1/60)	76
Fig. 31	S H204出土遺物実測図 (1/4)	41	Fig. 68	S H219出土遺物実測図 (1/4・1/2)	76
Fig. 32	S H205竪穴住居実測図 (1/60)	41	Fig. 69	S H220竪穴住居実測図 (1/60)	77
Fig. 33	S H205出土遺物実測図 (1/4)	42	Fig. 70	S H220出土遺物実測図 (1/4・1/2)	77
Fig. 34	S H206竪穴住居実測図 (1/60)	42	Fig. 71	S H221竪穴住居実測図 (1/60)	79
Fig. 35	S H206出土遺物実測図 (1/4・1/2)	43	Fig. 72	S H221出土遺物実測図 (1/4・1/2)	80
Fig. 36	S H207竪穴住居実測図 (1/60)	43	Fig. 73	S H222竪穴住居実測図 (1/60)	81
Fig. 37	S H207出土遺物実測図 (1/4)	44	Fig. 74	S H223竪穴住居実測図 (1/60)	82

Fig. 75	S H223出土遺物実測図 (1/4・1/2)	82	Fig. 109	S K270土壌実測図 (1/40)	115
Fig. 76	S H224竪穴住居実測図 (1/60)	83	Fig. 110	S K270出土遺物実測図 (1/4)	116
Fig. 77	S H224出土遺物実測図① (1/4)	85	Fig. 111	S P262土壌墓及び出土遺物実測図 (1/40・1・4)	117
Fig. 78	S H224出土遺物実測図② (1/4・1/3)	86	Fig. 112	S D263土層断面図 (1/30)	118
Fig. 79	S H225竪穴住居実測図 (1/60)	87	Fig. 113	S D263出土遺物実測図 (1/4)	118
Fig. 80	S H225出土遺物実測図 (1/4・1/3)	88	Fig. 114	大野原遺跡3区遺構配置図 (1/200)	119・120
Fig. 81	S H226・227竪穴住居実測図 (1/60)	89	Fig. 115	S K301土壌実測図 (1/40)	121
Fig. 82	S H228竪穴住居実測図 (1/60)	90	Fig. 116	S K301・302出土遺物実測図 (1/4・1/3)	121
Fig. 83	S H228出土遺物実測図① (1/4)	91	Fig. 117	S K302～306土壌実測図 (1/40)	123
Fig. 84	S H228出土遺物実測図② (1/4)	92	Fig. 118	S K306・307出土遺物実測図 (1/2)	124
Fig. 85	S H228出土遺物実測図③ (1/4・1/2)	93	Fig. 119	S K307・308・310・311土壌実測図 (1/40)	125
Fig. 86	S H229竪穴住居実測図 (1/60)	94	Fig. 120	SB351～353掘立柱建物及び出土遺物実測図(1/60・1/4)	127
Fig. 87	S H229出土遺物実測図 (1/4)	95	Fig. 121	S K313出土遺物実測図 (1/4)	128
Fig. 88	S H230竪穴住居実測図 (1/60)	96	Fig. 122	S K313土壌実測図 (1/40)	129
Fig. 89	S H230出土遺物実測図 (1/4・1/3)	97	Fig. 123	S D309溝及び土層断面実測図 (1/100・1/30)	129
Fig. 90	S H231・233竪穴住居実測図 (1/60)	99	Fig. 124	S D309出土遺物実測図 (1/3)	130
Fig. 91	掘立柱建物群配置図 (1/800)	99	Fig. 125	S X354不明遺構実測図 (1/60)	130
Fig. 92	S B246・247掘立柱建物実測図 (1/60)	100	Fig. 126	谷部包含層及び土層断面実測図 (1/100・1/60)	132
Fig. 93	S B248・250掘立柱建物実測図 (1/60)	101	Fig. 127	包含層出土遺物実測図① (1/3・1/4)	133
Fig. 94	S B251・252掘立柱建物実測図 (1/60)	102	Fig. 128	包含層出土遺物実測図② (1/2)	134
Fig. 95	S B250・252出土遺物実測図 (1/4)	103	Fig. 129	大野原遺跡4区遺構配置図 (1/200)	135
Fig. 96	S B253掘立柱建物実測図 (1/60)	103	Fig. 130	S D402溝及び土層断面実測図 (1/100・1/30)	137
Fig. 97	S B254・256掘立柱建物実測図 (1/60)	104	Fig. 131	S D402出土遺物実測図 (1/4)	138
Fig. 98	S B257・258掘立柱建物実測図 (1/60)	105	Fig. 132	S H403竪穴住居実測図 (1/60)	140
Fig. 99	S B257・259・260出土遺物実測図 (1/4)	106	Fig. 133	S H403出土遺物実測図 (1/4)	141
Fig. 100	S B259・260掘立柱建物実測図 (1/60)	107	Fig. 134	S K404土壌実測図 (1/40)	142
Fig. 101	S B266・269掘立柱建物実測図 (1/60)	108	Fig. 135	S K404出土遺物実測図 (1/4・1/2)	143
Fig. 102	S K232土壌実測図 (1/40)	109	Fig. 136	S K405・406土壌実測図 (1/60)	144
Fig. 103	S K232出土遺物実測図① (1/4)	110	Fig. 137	S K405・406出土遺物実測図 (1/4)	144
Fig. 104	S K232出土遺物実測図② (1/4)	111	Fig. 138	S D401溝及び土層断面実測図 (1/100・1/30)	145
Fig. 105	S K232出土遺物実測図③ (1/4)	112	Fig. 139	落し穴状遺構配置図(1/400)・小穴出土縄文土器(1/3)	147
Fig. 106	S K232出土遺物実測図④ (1/3・1/2)	113	Fig. 140	大野原遺跡2区集落変遷図① (1/800)	149
Fig. 107	S K261土壌及び出土遺物実測図 (1/40・1/4)	113	Fig. 141	大野原遺跡2区集落変遷図② (1/800)	150
Fig. 108	S K265土壌及び出土遺物実測図 (1/40・1/4)	114	Fig. 142	ベッド状遺構の配置及び構築法による分類	151

表 目 次

Tab. 1 大野原遺跡竪穴住居一覧表……………152

Tab. 2 大野原遺跡掘立柱建物一覧表……………154

図 版 目 次

大野原遺跡周辺の景観

- P L. 1 (1) S D103・104土層断面 (西から) (2) S D101~104溝 (北から)
(3) S D106土層断面 (東から) (4) S D106周辺 (東から)
(5) 谷部包含層土層断面 (北西から)
包含層、S K110土壌、P1006小穴出土遺物
- P L. 2 (1) 大野原遺跡2区全景
- P L. 3 (1) 大野原遺跡2区集落中心部 (2) S H201竪穴住居 (北から)
(3) S H201遺物出土状況 (北から)
- P L. 4 (1) S H202竪穴住居 (北から) (2) S H203竪穴住居 (東から)
(3) S H203壁際土壌 (北から) (4) S H205竪穴住居 (北から)
(5) S H205竪穴住居 (北から) (6) S H206竪穴住居 (北西から)
(7) S H207竪穴住居 (北東から) (8) S H209竪穴住居 (東から)
- P L. 5 (1) S H211竪穴住居 (北から) (2) S H212竪穴住居 (南から)
(3) S H213竪穴住居 (北から) (4) S H213竪穴住居 床面下層(西から)
(5) S H213南壁ピット群 (西から) (6) S H214竪穴住居 (南東から)
(7) S H214竪穴住居 床面下層 (南東から)
- P L. 6 (1) S H215竪穴住居 (東から) (2) S H215遺物出土状況 (南から)
(3) S H216竪穴住居 (北から) (4) S H217竪穴住居 (北から)
(5) S H219竪穴住居 (南から) (6) S H220竪穴住居 (北東から)
(7) S H223竪穴住居 (北から) (8) S H224竪穴住居 (北西から)
- P L. 7 (1) S H225竪穴住居 (北から) (2) S H226・227竪穴住居 (北から)
(3) S H228竪穴住居 (南から) (4) S H229竪穴住居 (西から)
(5) S H230竪穴住居 (南から) (6) S H230遺物出土状況 (南から)
(7) S H231竪穴住居 (北から)
- P L. 8 (1) S B257・258掘立柱建物 (南から) (2) S B258 P2土層断面 (南から)
(3) S B259・260掘立柱建物 (南から) (4) S B260 P3土層断面 (東から)
(5) S K232土壌 (東から) (6) S K261土壌 (東から)
(7) S K265土壌 (北から)
- P L. 9 (1) S P262土壌墓 (北から) (2) S P262土層断面 (南から)
S H201・202竪穴住居出土遺物
- P L. 10 S H202・203・204竪穴住居出土遺物
- P L. 11 S H211竪穴住居出土遺物
- P L. 12 S H211・212竪穴住居出土遺物
- P L. 13 S H215・217・224竪穴住居出土遺物
- P L. 14 S H214・215・221・228・229・230竪穴住居出土遺物
- P L. 15 S K232・270土壌出土遺物
- P L. 16 (1) 大野原遺跡3区全景 (南東から) (2) S B351掘立柱建物 (東から)
(3) S B352掘立柱建物 (北西から) (4) S D309溝 (西から)
(5) 谷部包含層 (北から)
- P L. 17 (1) S K302土壌 (北東から) (2) S K302土壌 (南西から)
(3) S K305土壌 (南西から) (4) S K306土壌 (西から)
S K313土壌、包含層出土遺物
- P L. 18 (1) 大野原遺跡4区全景 (2) S H403竪穴住居 (北から)
(3) S H403 P5遺物出土状況 (南から) (4) S D402遺物出土状況 (北から)
- P L. 19 S H403竪穴住居、S D402溝出土遺物

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

金立北部地区における農業基盤整備事業は、平成3年度に起工された。初年度ではあったが、その施工面積は19haという広範囲におよぶものであった。この計画の提示を受け、平成2年度11月に当該地区の埋蔵文化財確認調査を実施した。調査は掘削を免れない水路予定地や高畑を中心に、任意に試掘坑を設けて行なった。試掘坑の掘削は、機械力及び人力によって行なった。調査の結果、削平を免れた高畑を中心に、8,400㎡に及ぶ遺跡の存在が確認された。この調査結果をもとに佐賀県農林部、佐賀県文化財課、佐賀市土地改良課、佐賀市教育委員会の四者で埋蔵文化財の保護に関する協議を実施した。その結果、水路建設により掘削を受ける部分と、工事の切り土により削平を受ける高畑部分3,849㎡について発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。

発掘調査は平成3年10月22日から開始し、平成4年2月7日にすべての現場作業を終了した。また整理作業及び調査報告書作成は、平成4年4月から平成5年3月にかけて佐賀市文化財資料館で行なった。

厳冬のなかで常に苦勞を共にした地元作業員の方々や、調査に際し便宜をはかって下さった地元の方々、並びに関係者各位に心からお礼申しあげたい。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局 佐賀市教育委員会 文化課

文化課長 中野和彦

文化係長 野口義通（庶務担当）

事務吏員 甲木亮一（庶務担当 平成3年度）

増田耕輔（庶務担当 平成4年度）

文化財係長 福田義彦

事務吏員 木島慎治（確認調査担当）

西田 巖（本調査担当 1・2・4区）

角信一郎（本調査担当 3区）

発掘作業員 広瀬八重子・広瀬幸子・後藤美智江・村川キクエ・生田美代子・福田妙子・武富サチコ・大林里子・江下生子・宮崎久枝・平方スミ子・宮地峰子・内村美里・角田千代乃・富永ツヤ子・角田絹子・山田八重子・大野ユキエ・大坪エイ・友

II. 遺跡の位置と環境

添丸子・原 京子・龍由美子・副島かすみ

調査協力 佐賀県教育委員会・佐賀県農林部・中部農林事務所・佐賀市土地改良課・金立
土地改良区・地元各位

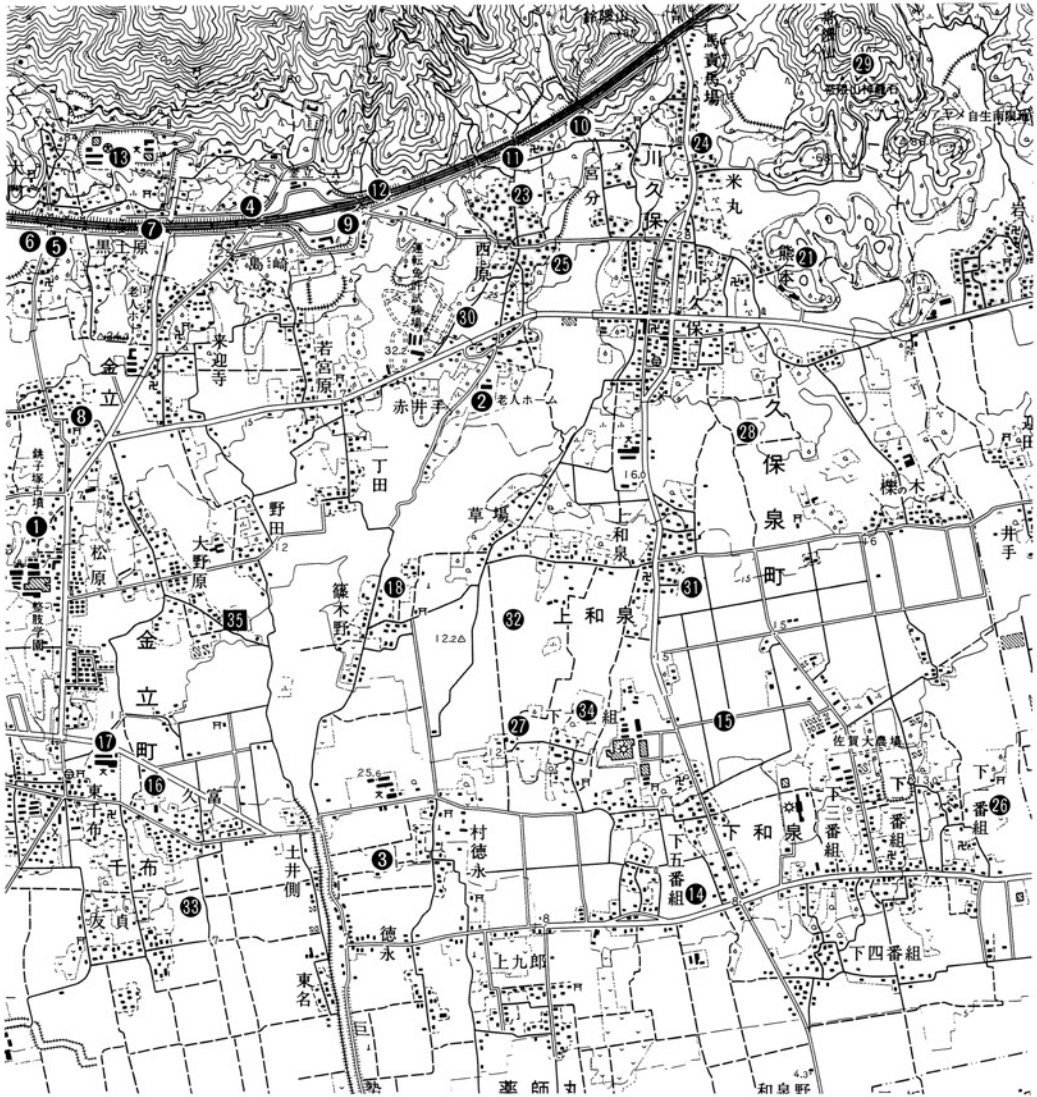


Fig. 1 大野原遺跡周辺主要遺跡分布図 (1/30,000)

- | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|---------|------------|
| ① 銚子塚古墳 | ② 琵琶原遺跡 | ③ 村徳永遺跡 | ④ 金立開拓遺跡 | ⑤ 大門遺跡 | ⑥ 大門西遺跡 |
| ⑦ 六本黒木遺跡 | ⑧ 来迎寺遺跡 | ⑨ 藤附遺跡 | ⑩ 鈴隈遺跡 | ⑪ 西原遺跡 | ⑫ 丸山遺跡 |
| ⑬ 黒土原遺跡 | ⑭ 立野遺跡 | ⑮ 泉三本栗遺跡 | ⑯ 久富遺跡 | ⑰ 東千布遺跡 | ⑱ 篠木野遺跡 |
| ⑳ 熊本山古墳 | ㉑ 西原古墳 | ㉒ 関行丸古墳 | ㉓ 御手水遺跡 | ㉔ 本村遺跡 | ㉕ 古村遺跡 |
| ㉖ 東高田遺跡 | ㉗ 帯隈山神籠石 | ㉘ 大日遺跡 | ㉙ 上和泉遺跡 | ㉚ 徳永遺跡 | ㉛ 千布二本黒木遺跡 |
| ㉜ 古陣館跡 | ㉝ 大野原遺跡 | | | | |
- 分布図番号は〈註〉番号に同じ

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

佐賀市は、佐賀県の東南部に広がる佐賀平野のほぼ中央に位置し、東は神埼郡神埼町・同郡千代田町・佐賀郡諸富町、西は佐賀郡大和町・小城郡三日月町、北は佐賀郡大和町、南は佐賀郡東与賀町・同郡川副町と接している。佐賀市域は南北に長く、北部には脊振山系が連なり、その南麓には舌状丘陵が派生し、さらに下位には複合扇状地が延びている。また南部には沖積平野が広がり、有明海沿岸まで達している。

佐賀市金立町は、北は脊振山系にかかり、南は沖積平野の北部にあたる。東には巨勢川が南北にその流路をとり、西は佐賀郡大和町に接する。遺跡が所在する金立周辺は農業が盛んで、大部分が田・畑等の農地として利用されている。

大野原遺跡は、佐賀市金立町大字金立字大野原に所在し、地形的には巨勢川によって形成された複合扇状地上に立地している。周辺は水田化が進んでおり、開墾により湮滅した遺構が数多くあると思われる。今回調査した地点は削平を免れた高畑部分が中心で、その標高は8.5～10.5 mを測る。周辺には国指定史蹟である銚子塚古墳¹⁾や、弥生後期～古墳初頭の集落跡が調査された琵琶原遺跡²⁾、100棟以上にのぼる掘立柱建物を検出した弥生後期の拠点集落である村徳永遺跡³⁾等が存在する。

2. 歴史的環境

近年標高3 m前後の低湿地にも弥生時代の集落跡が確認されており、山麓部から沖積低地まで佐賀市内には数多くの遺跡が存在している。その大部分は脊振山南麓部一帯及びそこから南へ広がる平野部に集中しており、遺跡の宝庫として知られている。以下、周辺の遺跡を時代順に概観してみたい。

旧石器時代では、断片的な資料が得られているのみで、その概要は明らかでない。

縄文時代の遺跡は、山麓部中心に分布している。金立町では金立開拓遺跡⁴⁾(早・前期、後期)、大門遺跡⁵⁾(前期、後・晩期)、大門西遺跡⁶⁾(後期)、六本黒木遺跡⁷⁾(前後、後・晩期)、来迎寺遺跡⁸⁾(中期・後期)の調査が行なわれ、隣接する久保泉町では藤附A遺跡⁹⁾(後期)、鈴隈遺跡¹⁰⁾・西原遺跡¹¹⁾(晩期)の調査が行なわれている。いずれも各時期の土器とともに大量の石器が出土し、特に金立開拓遺跡では、後期の竪穴住居・土器埋納遺構が検出されている。また埋葬遺跡としては、丸山遺跡¹²⁾・黒土原遺跡¹³⁾で支石墓、甕棺墓等が検出されており、当時の墓地の様相を窺い知ることができる。

弥生時代に入ると、それまで山麓部中心であった遺跡の分布も、稲作の浸透とともに急速に

II. 遺跡の位置と環境

平野部に広がる。後期の100棟以上もの掘立柱建物が検出された村徳永遺跡や、後期から古墳初頭にかけての竪穴住居が数多く検出された琵琶原遺跡・大野原遺跡などは当該期の拠点集落として存在していた可能性が高い。その他集落遺跡としては、中期～後期の竪穴住居・掘立柱建物・周溝状遺構等が検出された立野遺跡¹⁴⁾や前期末～中期にかけての竪穴住居が検出された泉三本栗遺跡¹⁵⁾、中期初頭の竪穴住居が検出された久富遺跡¹⁶⁾等がある。また周辺では埋葬遺構の調査は以外に少なく、前期～中期の甕棺墓群である東千布遺跡¹⁷⁾、中期の甕棺墓群の一部が調査された篠木野遺跡¹⁸⁾がある程度である。範囲外ではあるが、佐賀市西部の嘉瀬川中流域に存在する増田遺跡¹⁹⁾・津留遺跡²⁰⁾では、近年500基を超える甕棺墓の調査が行なわれており、当時の墓地の調査例が希薄な佐賀市域において貴重な資料となっている。

古墳時代になると4世紀に築かれた銚子塚（前方後円墳）をはじめとして、脊振山南麓に数多くの古墳が築造される。5世紀代には船形石棺を出土した熊本山古墳²¹⁾、横口式の装飾家形石棺を有する西隈古墳²²⁾、竪穴石室・船形石棺直葬・初期横穴石室等の埋葬主体をもつ丸山古墳群、盾型石製品を出土した西原古墳²³⁾（前方後円墳）が築かれる。6世紀代には初期横穴石室を有する関行丸古墳²⁴⁾（前方後円墳）が築かれ、それ以後は、後期群集墳が主流を占めるようになる。後期群集墳としては、金立開拓遺跡、黒土原遺跡等で調査が行なわれている。また集落遺跡としては、琵琶原遺跡・大野原遺跡・久富遺跡・御手水遺跡²⁵⁾で4世紀代の集落、村徳永遺跡K地区・本村遺跡では5世紀代の集落、古村遺跡²⁷⁾・東高田遺跡²⁸⁾・御手水遺跡では6世紀～7世紀の集落が確認されている。この他、市域を一望できる帯隈山には、朝鮮式山城とされる帯隈山神籠石²⁹⁾等がある。

奈良・平安時代には大和町久池井に国府が置かれたこともあり、政治的な様相を帯びてくる。東高田遺跡・大野原遺跡では古代官道と考えられる遺構を検出している。琵琶原遺跡では、底部に「稻主」とへら描きされた須恵器坏が出土し、古村遺跡では緑釉陶器が出土している。また大日遺跡³⁰⁾・東高田遺跡・御手水遺跡では、通常の集落形態とは異なった、竪穴住居を伴わない掘立柱建物群のみで構成された集落を確認している。その他、上和泉遺跡³¹⁾や泉三本栗遺跡では、平安時代前半の良好な一括資料が出土している。

中世については近年調査例が増加し、その様相が明らかにされつつある。立野遺跡・村徳永遺跡・本村遺跡・徳永遺跡³²⁾・千布二本黒木遺跡³³⁾等で調査が行なわれているが、当時の景観としては、区画溝を巡らした屋敷地が点在していたようである。特に本村遺跡では一辺40～70mの方形区画溝を伴う居館跡が、徳永遺跡では一辺100～130mの規模を有する方形区画溝を伴う居館跡が検出されている。その他、古陣館跡³⁴⁾は未調査ではあるが、ほぼ1町(108m)×2町(216m)の長方形の掘とそれに伴う土塁が現状で確認できる。今後の調査例の増加と、文献資料からのアプローチにより、中世村落のありかたが明らかにされていくものと期待される。

<註>

- 1) 木下之治編『銚子塚』佐賀市教育委員会 1976
- 2) 福田義彦『琵琶原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第13集 佐賀市教育委員会 1981
- 3) 木島慎治『村徳永遺跡-A・B地区-』佐賀市文化財調査報告書第26集 佐賀市教育委員会 1989
 福田義彦『立野遺跡・村徳永遺跡(C地区)』佐賀市文化財調査報告書第26集 佐賀市教育委員会 1989
 木島慎治ほか『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡(D地区)・古村遺跡』佐賀市文化財調査報告書第28集 佐賀市教育委員会 1990
 木島慎治『村徳永遺跡-E・F・G・H地区-』佐賀市文化財調査報告書第32集 佐賀市教育委員会 1990
 前田達男『村徳永遺跡-J地区-』佐賀市文化財調査報告書第34集 佐賀市教育委員会 1991
 前田達男『村徳永遺跡(K地区)・篠木野遺跡(1地区)』佐賀市文化財調査報告書第37集 佐賀市教育委員会 1991
 西田 巖『村徳永遺跡-L地区-』佐賀市文化財調査報告書第42集 佐賀市教育委員会 1992
- 4) 蒲原宏行ほか『金立開拓遺跡』佐賀県文化財調査報告書第77集 佐賀県教育委員会 1984
- 5) 木下之治『大門遺跡-第1次調査-』佐賀市文化財調査報告書第8集 佐賀市教育委員会 1972
 木下之治『大門遺跡-第2次調査-』佐賀市文化財調査報告書第9集 佐賀市教育委員会 1973
- 6) 高瀬哲郎ほか『大門西遺跡』佐賀県文化財調査報告書第51集 佐賀県教育委員会 1980
- 7) 6)に同じ
- 8) 加藤元信『来迎寺遺跡』佐賀市文化財調査報告書第27集 佐賀市教育委員会 1990
- 9) 高瀬哲郎ほか『香田遺跡』佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 蒲原宏行『鈴隈遺跡』『九州横断道関係埋蔵文化財発掘調査概報第5集』佐賀県教育委員会 1978
- 11) 東中川忠美ほか『西原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第66集 佐賀県教育委員会 1983
- 12) 東中川忠美ほか『久保泉丸山遺跡』佐賀県文化財調査報告書第84集 佐賀県教育委員会 1986
- 13) 福田義彦『黒土原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第19集 佐賀市教育委員会 1987
- 14) 福田義彦『立野遺跡・村徳永遺跡』佐賀市文化財調査報告書第26集 佐賀市教育委員会 1989
- 15) 福田義彦『泉三本栗遺跡』佐賀市文化財調査報告書第18集 佐賀市教育委員会 1987
- 16) 福田義彦『久富遺跡』『東千布遺跡』佐賀市文化財調査報告書第15集 佐賀市教育委員会 1985
 木島慎治『久富遺跡』佐賀市文化財調査報告書第39集 佐賀市教育委員会 1992
- 17) 福田義彦『東千布遺跡』佐賀市文化財調査報告書第15集 佐賀市教育委員会 1985
- 18) 角信一郎『篠木野遺跡・琵琶原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第45集 佐賀市教育委員会 1993
- 19) 前田達男『増田遺跡』佐賀市文化財調査報告書第43集 佐賀市教育委員会 1993
- 20) 平成4年度佐賀市教育委員会調査実施

II. 遺跡の位置と環境

- 21) 木下之治・小田富士雄「熊本山船型石棺墓」『帯隈山神籠石とその周辺』佐賀県文化財調査報告書第16集 佐賀県教育委員会 1967
- 22) 佐賀市教育委員会編『西隈古墳』 1975
- 23) 松尾禎作「埴輪円筒を繞らせる西原古墳」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五輯 1936
- 24) 渡辺正気『佐賀市関行丸古墳』佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯 佐賀県教育委員会 1958
- 25) 平成4年度佐賀市教育委員会調査実施
- 26) 前田達男『本村遺跡』佐賀市文化財調査報告書第29集 佐賀市教育委員会 1990
徳永貞紹『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第102集 佐賀県教育委員会 1991
- 27) 木島慎治ほか『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡』佐賀市文化財調査報告書第28集 佐賀市教育委員会 1990
- 28) 西田 巖編『原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡』佐賀市文化財調査報告書第38集 佐賀市教育委員会 1992
- 29) 木下之治・小田富士雄『帯隈山神籠石とその周辺』佐賀県文化財調査報告書第16集 佐賀県教育委員会 1967
- 30) 木島慎治『大日遺跡』佐賀市文化財調査報告書第25集 佐賀市教育委員会 1989
- 31) 福田義彦『上和泉遺跡』佐賀市文化財調査報告書第20・21集 佐賀市教育委員会 1988
- 32) 平成3年度～佐賀市教育委員会調査実施
- 33) 西田 巖『千布二本黒木遺跡』佐賀市教育委員会第47集 佐賀市教育委員会 1993
- 34) 佐賀市久保泉町大字上和泉所在（久保泉工業団地予定地内）

III. 調査の概要

1. 調査の概要

調査は掘削機による表土除去作業から開始した。表土は20～80cm程度で、基盤は褐色～黄褐色の砂質土もしくはやや粘性のある土であった。

表土除去後、国土座標を基準に5m方眼のグリッドを設定し、人力による掘削及び記録作業に入った。このグリッドは調査の基本となるもので、1/100の遺構配置図・1/20の全体平面図を作成する際の基準とした。グリッドには国土座標X=34K910、Y=-64K300の交点を始点とし、東に1、2、3…、南にAA、AB、AC…と名称を与え、それぞれ1グリッドをAA-1、AA-2と表示することにした。(Fig. 2 参照)

調査区は狭小な4地区に分かれており、便宜的に北から順に1区、2区、3区、4区と呼称することにした。遺構番号は重複を避けるため1区を100番台、2区を200番台、3区を300番台、4区を400番台とした。1区は支線水路予定地、4区は幹線水路予定地、2・3区は切り土により削平を受ける高畑部分で、上記グリッドのAC～DD-8～48グリッドにあたる。高畑であった2区においては遺構の残存状態は比較的良好であったが、他地区は開墾等の削平を受けており良好とはいえなかった。

2. 調査成果の概要

1～4区まで調査区が分割されているため、以下調査区ごとにその概要を述べる。

1区 水田下にあり、厚さ20～30cmの現耕作土下には部分的に黒褐色の遺物包含層が厚さ10cm程度堆積していた。その直下に黄褐色土の基盤面が存在し、遺構は暗褐色～黒褐色で検出された。遺構検出面の標高は10.1m前後で、ほぼ平坦であった。また南西方向にむかって谷地形になるようで、そこに堆積する黒褐色の遺物包含層が調査区内にも部分的に検出された。検出した遺構は縄文時代から奈良時代の所産で、水田化のため削平を受けており残存状態は良好とはいえなかった。以下、時代別にその概要を述べる。

縄文時代の遺構は土器が出土していないため時期の確定はできないが、出土した石器や遺構の形状及び埋土の状態等を勘察し、当該期の所産である可能性の高い土壌を2基検出している。遺物はサヌカイト製と黒曜石製の石匙がそれぞれ1個ずつ出土している。

弥生時代の遺構としては溝4条を検出している。うち2条は埋土の状態より流水があったことが考えられる。遺構から出土した遺物はわずかであったが、遺物包含層からは後期～終末を中心とした遺物が比較的多く出土している。

奈良時代の遺構は溝2条を検出している。地理的分野から推測される古代官道の推定ライン

III. 調査の概要

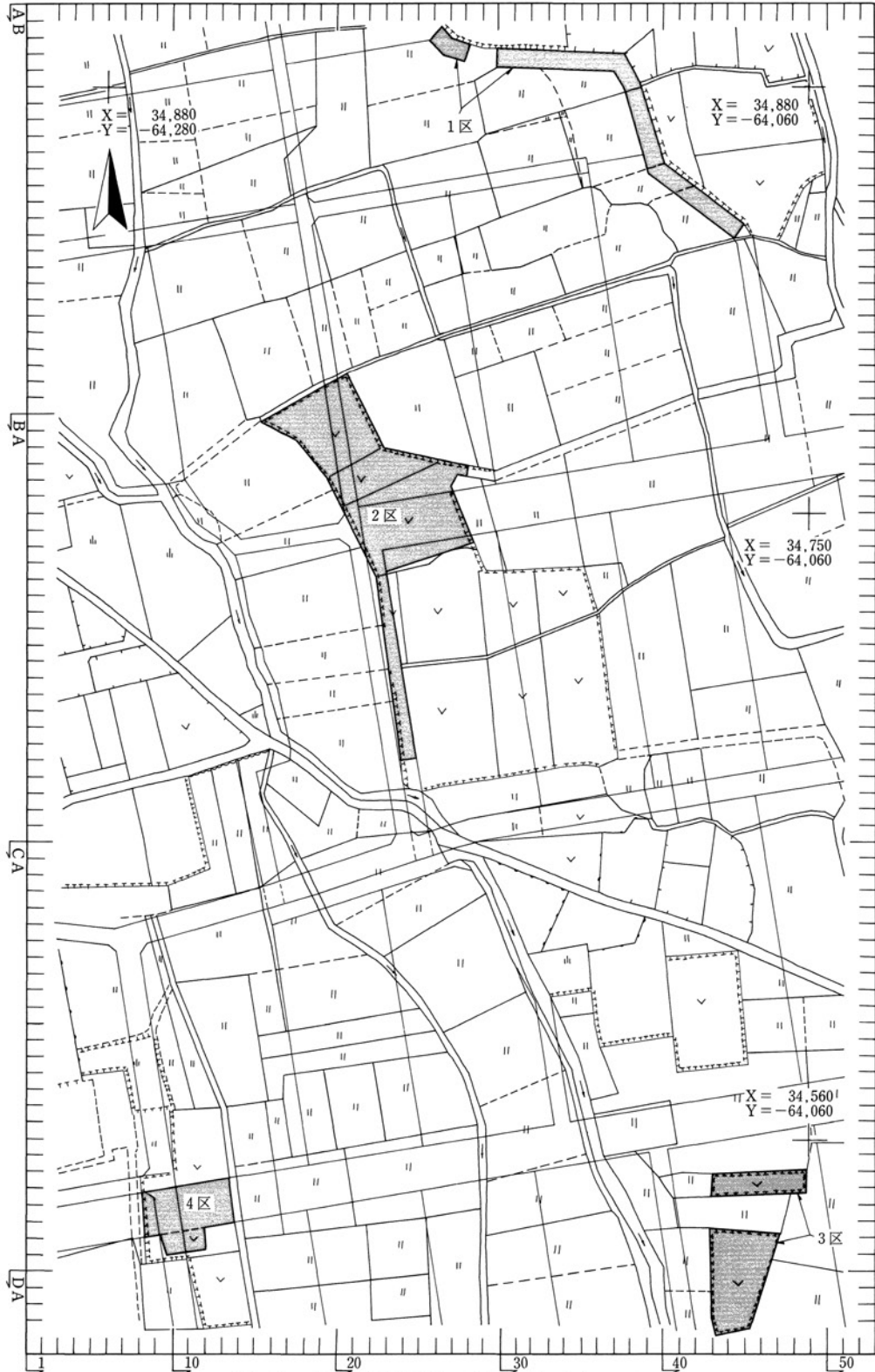


Fig. 2 大野原遺跡グリッド設定図 (1/2,000)

1. 調査の概要

上にあたり、この2条の溝が官道の側溝になる可能性が高い。官道の調査は県内の数箇所でも部分的に行なわれているだけでその全貌は明らかにされていなかった。そのため今回のように側溝と思われる溝の一部しか確認できないような検出状況が悪い（削平を受けている）所ではその認定が困難であったが、近年佐賀県教育委員会によって確認調査が行なわれ、その実態が明らかにされつつある。

遺物包含層からは弥生時代後期～終末を中心とした遺物が比較的まとまって出土しているが、調査区内には当該期の遺構がほとんど検出できていない。周辺には当該期の集落の存在が予想されるが、その中心は調査区北東にある丘陵上にあると思われる。

2区 高畑部分にあたり、厚さ40～60cmの耕作土及び盛り土下に部分的に薄く黒褐色の遺物包含層が堆積していた。その直下に褐色～淡黄褐色の基盤面が存在し、遺構は黒褐色で検出された。遺構検出面の標高は10.0～10.5mで、南にむかって緩やかに傾斜する。検出した遺構は竪穴住居31軒、掘立柱建物18棟、土壇墓1基、土壇10基、溝2条、小穴多数で、弥生時代から中世にかけての所産である。その中でも特に弥生時代後期～古墳時代初頭が中心で、当該期の遺物が比較的大量に出土している。以下、時代別にその概要を述べる。

弥生時代～古墳時代の遺構は竪穴住居、掘立柱建物、土壇墓、土壇、溝等があり、検出した遺構のほとんどがこの時期の所産である。竪穴住居は円形プランと方形～長方形プランの2つに大別でき、その多くが床面積が30㎡を超えるような大型のものであった。中でも後期～終末の長方形プランの住居が最も多く、いずれも2本主柱で当該期特有のベッド状遺構を有するものであった。ベッド状遺構が設けられている位置は5種類程度に分類でき、その構築方法も削り出しのタイプと貼り付けのタイプ、削り出しと貼り付けの併用タイプと様々である。比較的遺存状態が良好なものも含まれており、当該期の住居の構造を知る上で貴重である。また住居内からは比較的大量の遺物が出土し、特に焼失住居と考えられるSH211（遺構の半分程度が削平される）からは大量の一括資料を得ることができた。掘立柱建物は1×1間を基調としていた。竪穴住居が集中する部分の周辺で検出しており倉庫的機能を有していた可能性が高い。土壇墓は1基確認しているが、土層の状況より木棺墓になる可能性がある。

中世の遺構は溝1条を検出しているのみで、その概要は明らかではないが周辺には当該期の集落の存在が十分考えられる。

3区 高畑部分にあたり、厚さ30cm～60cmの現耕作土下に黒褐色の遺物包含層が部分的に厚さ10～20cm程度堆積していた。その直下に淡黄褐色～黄褐色の基盤面が存在し、遺構は基本的に暗褐色～黒褐色で検出された。遺構検出面の標高は8.1～8.8mで、地形的に舌状丘陵の先端部分にあたる。そのため地形が落ち込む東側、西側及び南側には黒褐色の遺物包含層が堆積していた。検出した遺構は掘立柱建物3棟、土壇14基、溝4条、不明遺構1基、小穴多数で、縄文時代～古墳時代の所産である。以下、時代別にその概要を述べる。

III. 調査の概要

縄文時代の遺構としては土壌11基検出している。いずれも落し穴状遺構と考えられるもので、多くは平面隅丸長方形を基調とし、底面にピットを1～2個有するものであった。土壌埋土中のわずかな遺物と谷部包含層出土土器等から縄文早期～前期の所産と考えられる。佐賀県内においては当該期の遺構の検出例は少なく、また当時の狩猟の様相を知るうえで貴重である。

弥生時代～古墳時代の遺構としては掘立柱建物、土壌、溝等がある。掘立柱建物は1×1間と2×1間のものがあるが、遺物が出土していないため時期が限定できない。しかし、他地区においても明確な住居関連遺構はこの弥生時代～古墳時代のものしか確認できていないため、当該期のものとして報告しておきたい。また溝としたものの中にはS D309のように区画溝の可能性が高いものがある。方形周溝墓とも考えられなくもないが、規模及び溝幅、周辺の状況より集落に関連する区画溝と考えたい。遺物はS K313土壌から古墳時代初頭の土師器が、また谷部包含層より縄文土器等が出土している。

4区 高畑部分にあたり、厚さ40～50cm程度の耕作土下に部分的に黒褐色の遺物包含層が厚さ10cm弱程度堆積していた。その直下に淡黄褐色の基盤面が存在し、遺構は黒褐色で検出された。検出面の標高は8.9m前後で、西側がやや地形的に落ち込み黒褐色の遺物包含層が薄く堆積していた。検出した遺構は竪穴住居1軒、土壌3基、溝2条で、古墳時代の所産と考えられる。以下、その特徴を述べる。

竪穴住居は4本主柱で、低いベッドを有するものであった。さらに住居の周りには溝を巡らしており、何か特別な機能を有する住居であることが考えられた。住居内から鉄滓及び靱羽口の破片が出土し、さらに周辺の土壌の埋土中より鉄滓が出土していることから製鉄関連の遺構である可能性がある。遺物は古墳時代初頭の土師器等が出土している。

以上概略を簡単に述べたが、本遺跡は弥生時代～古墳時代初頭を中心とした集落跡とすることができよう。特に弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居を多数検出し、加えて遺物も住居内より比較的大量に出土しており、弥生時代から古墳時代の竪穴住居の変遷、さらに当該期の土器編年を考える上で貴重な資料を提供している。今回は部分的な調査で遺跡の全貌を明らかにするものではないが、地理的部分を勘案するとさらに集落が広がっている可能性が高く、この地に当時の大集落が存在していたことが十分考えられる。また市域にはほぼ同時期の大集落の存在が予想される琵琶原遺跡(本遺跡より北東に約1.3km)があり、当時の社会状況を知る上で興味深い。

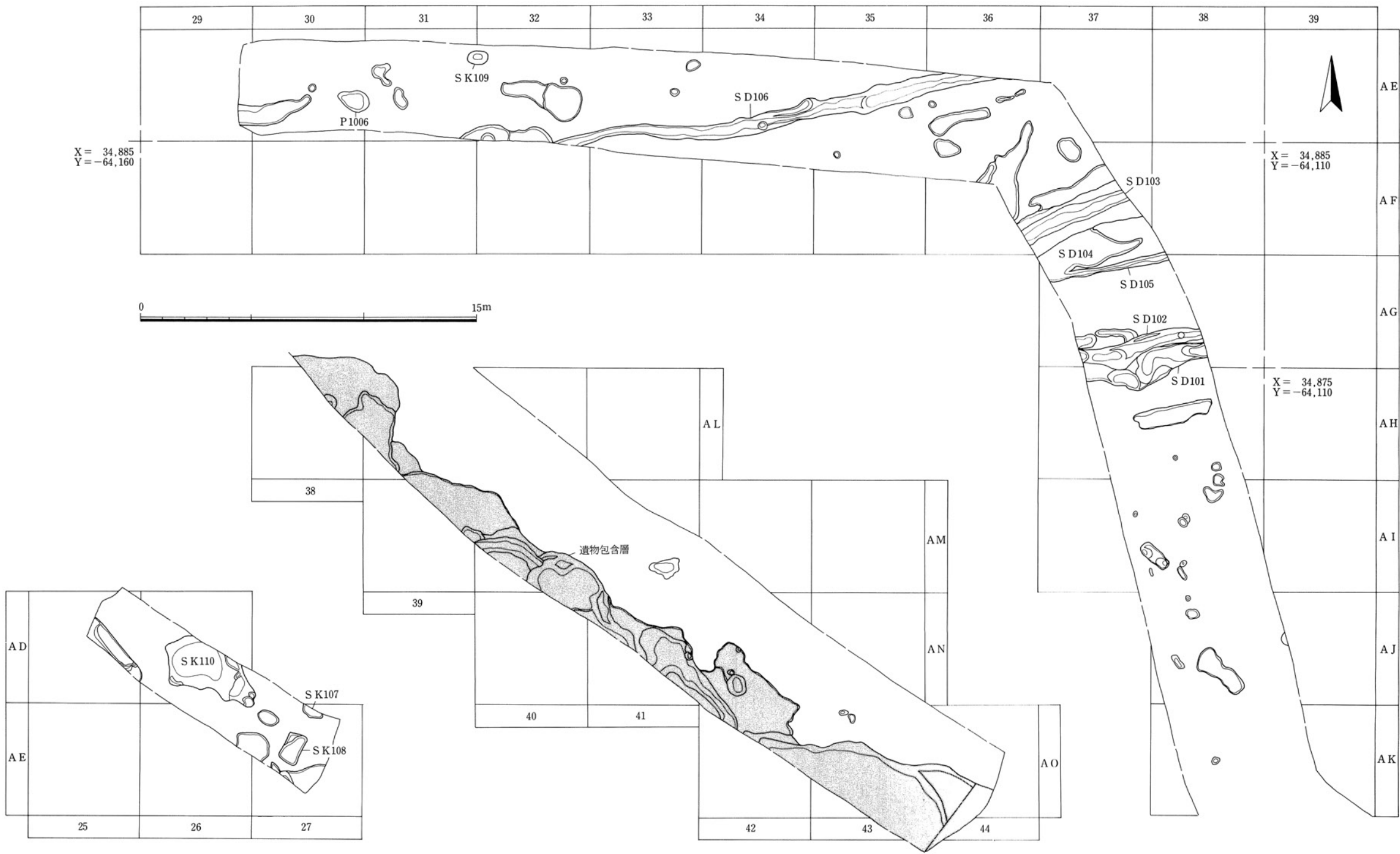


Fig. 3 大野原遺跡 1 区遺構配置図 (1/200)

IV. 調査の記録 - 1区 -

1区は水田下であり、厚さ20~30cmの耕作土直下に黄褐色の基盤面を検出している。遺構は縄文時代~奈良時代にかけての土壌4基、溝6条の他、遺物包含層を確認している。このうちS D103・106は古代官道の側溝になる可能性が高い。以下、時代別に報告する。

1. 縄文時代の遺構と遺物

土器が出土していないため時期の確定はできないが、出土した石器や遺構の形状及び埋土の状態等を勘案し、縄文時代の所産である可能性が高い土壌2基をここで報告しておく。

(1) 土 壙

調査区の西側で2基検出している。

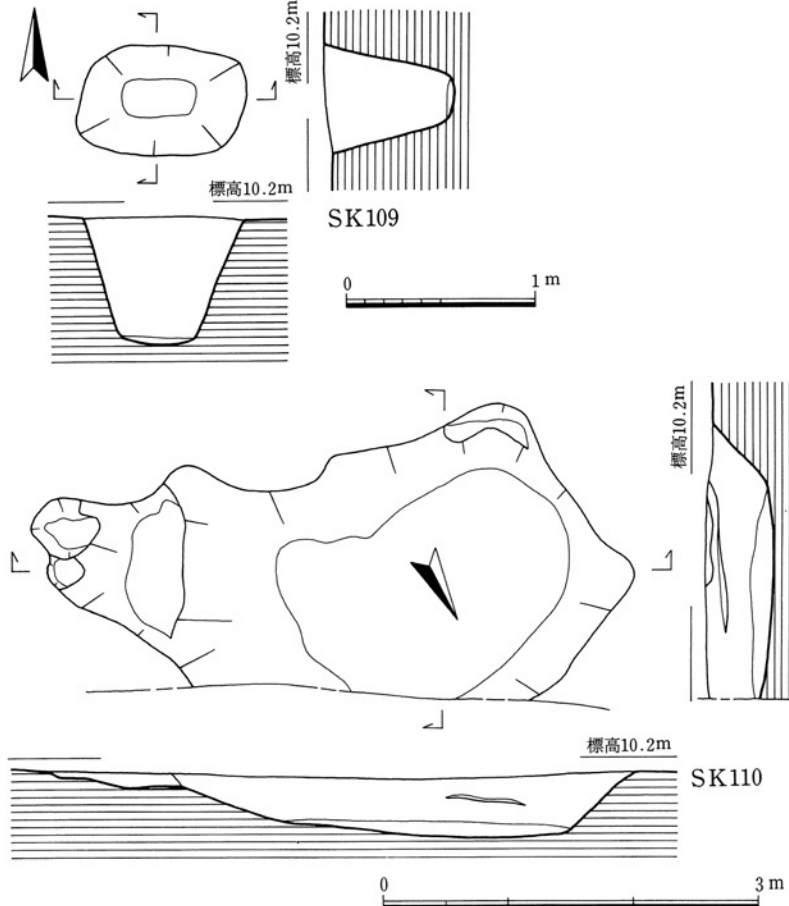


Fig. 4 S K109・110土壙実測図 (1/40・1/60)

IV. 調査の記録（1区）

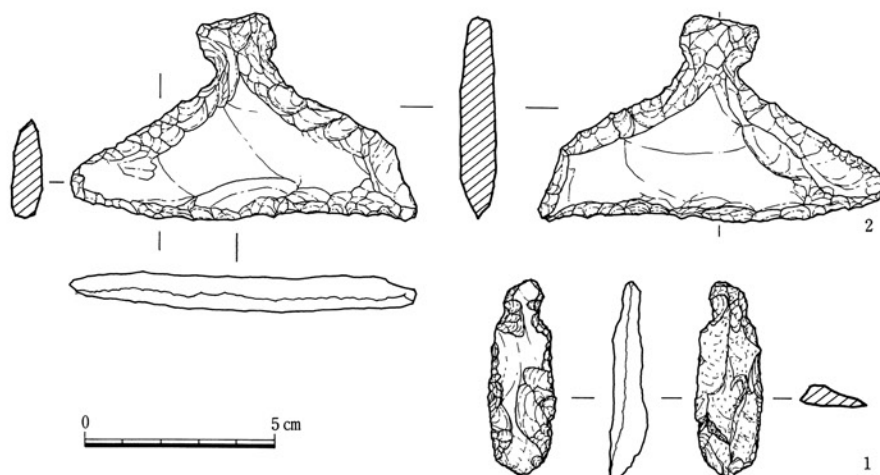


Fig. 5 S K110・P1006出土遺物実測図（1/2）

S K109土壌（Fig. 4）

A E-31・32グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。平面形は長軸0.86m、短軸0.6m程度の隅丸長方形を呈し、深さ0.66mを測る。底面は浅いレンズ状を呈し、壁面は角度をもって立ち上がる。埋土は暗茶褐色土を基調としていた。遺物は全く出土していない。

S K110土壌（Fig. 4）

A D-26グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。遺構北側部分は調査区外にある。平面形は長軸4.65m、短軸2.1+ α m程度の不定形を呈し、深さ0.55mを測る。底面は概ね船底状を呈し、壁面は角度をもって立ち上がる。埋土は暗褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より石器等がわずかに出土している。

出土遺物（Fig. 5）

石器（1） 黒曜石製の縦型石匙。完存品で最大長5.2cm、最大幅1.8cm、重量6.9g。

(2) 小穴出土遺物

P1006出土遺物（Fig. 5）

石器（2） サヌカイト製の横型石匙。完存品で最大長8.9cm、最大幅5.3cm、重量39.5g。

2. 弥生時代の遺構と遺物

遺構としては土壌1基、溝4条を検出している。また遺物包含層からは後期～終末にかけての比較的大量の遺物が出土している。

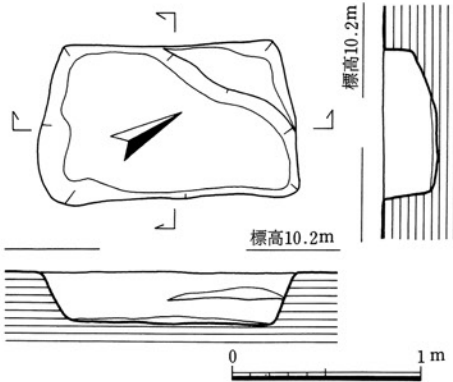


Fig. 6 S K 108土壌実測図 (1/40)

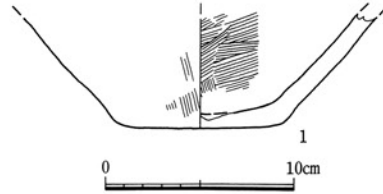


Fig. 7 S K 108出土遺物実測図 (1/4)

(1) 土 壙

調査区の西側で1基検出している。

S K 108土壙 (Fig. 6)

A E-27グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。平面形は長軸1.35m、短軸0.8m程度の隅丸長方形を呈し、深さ0.25mを測る。底面は細かい起伏があるものの概ね平坦で、壁面はきつく立ち上がる。埋土は黒褐色土の単層であった。遺物は埋土中より弥生土器がわずかに出土している。

出土遺物 (Fig. 7)

甕(1) 底部破片。復元底径9.0cm。外面工具によるナデ、内面横・斜方向のハケ目調整。褐色を呈する。

(2) 溝

調査区の中央部分で4条検出している。

S D 101溝 (Fig. 8)

A G・A H-37・38グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。S D 102と切り合い関係にあり本溝が後出する。東西方向に検出し、その延長は調査区外にある。平均幅2.2m、深さ0.2m程度である。底面は起伏が多く、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。埋土は褐色の砂層を基調としており、その状態より流水があったものと考えられる。遺物は埋土中より弥生土器片がわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

S D 102溝 (Fig. 8)

A G-37・38グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。S D 101と切り合い関係にあり本溝が先行する。東西方向に検出し、その延長は調査区外にある。幅0.7m、深さ0.25m程度である。断面形はU字形に近く、埋土は褐色砂質土と暗褐色土の2層に大別できる。遺物は埋土中より弥生土器、石器等がビニール2袋程度出土している。

IV. 調査の記録（1区）

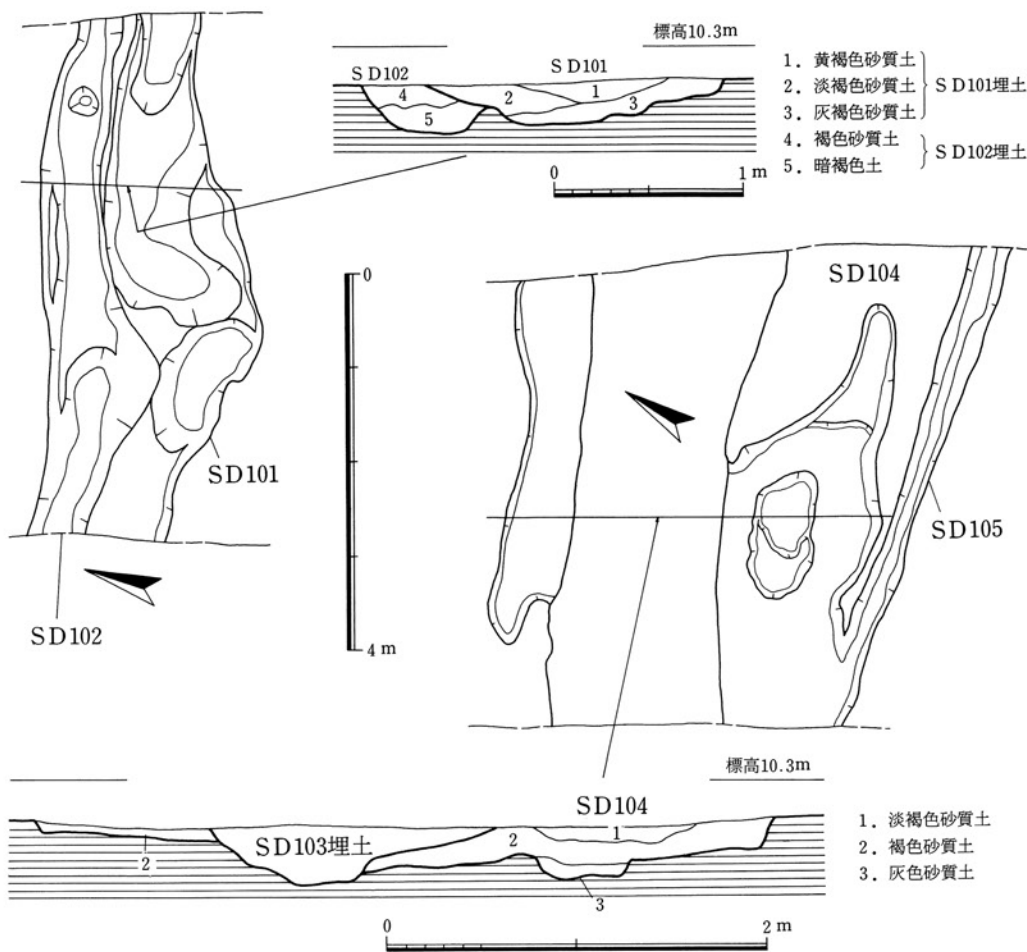


Fig. 8 SD101・102・104溝及び土層断面実測図
(1/80・1/40)

出土遺物 (Fig. 9)

甕 (1) 底部破片。復元底径12.4cm。外面ナデ、内面工具によるナデ調整。褐色を呈する。

石器 (2) 砥石。残存長5.8m、最大幅4.4cm、重量79.7g。5面を使用し、うち1面に使用痕が残る。

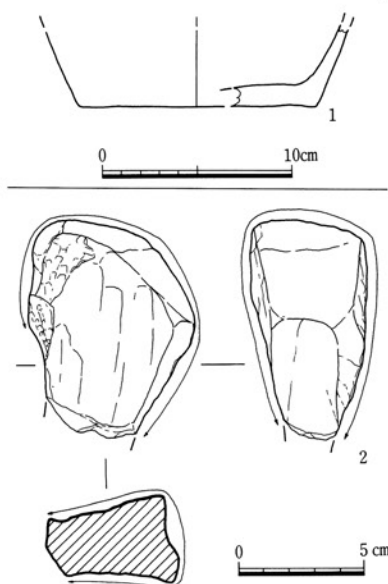


Fig. 9 SD102出土遺物実測図 (1/4・1/3)

SD104溝 (Fig. 8)

AF・AG-36・37グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。古代の溝SD103に切られる。東西方向に検出し、その延長は調査区外にある。最大幅3.8m、

深さ0.25m程度である。平面形はやや歪で、S D105と連結する。埋土は褐色の砂層を基調としており、S D101同様、流水があったものと考えられる。遺物は埋土中より弥生土器片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

3. 奈良時代の遺構と遺物

溝2条を検出している。地理的分野から推測される古代官道の推定ライン上にあたり、この2条の溝が官道の側溝になる可能性が高い。

(1) 溝

調査区の中央部分で2条検出している。

S D103・106溝

(Fig.10)

A E・A F-32~37グリッドで検出した。検出面の標高は10.1m。古代官道推定ライン上にあたり、両溝が官道の側溝になる可能性が高い。S D103は弥生時代の溝S D104を切る。幅1.5m、深さ0.3m程度で、断面形は2段掘り状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とする3層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと判断される。

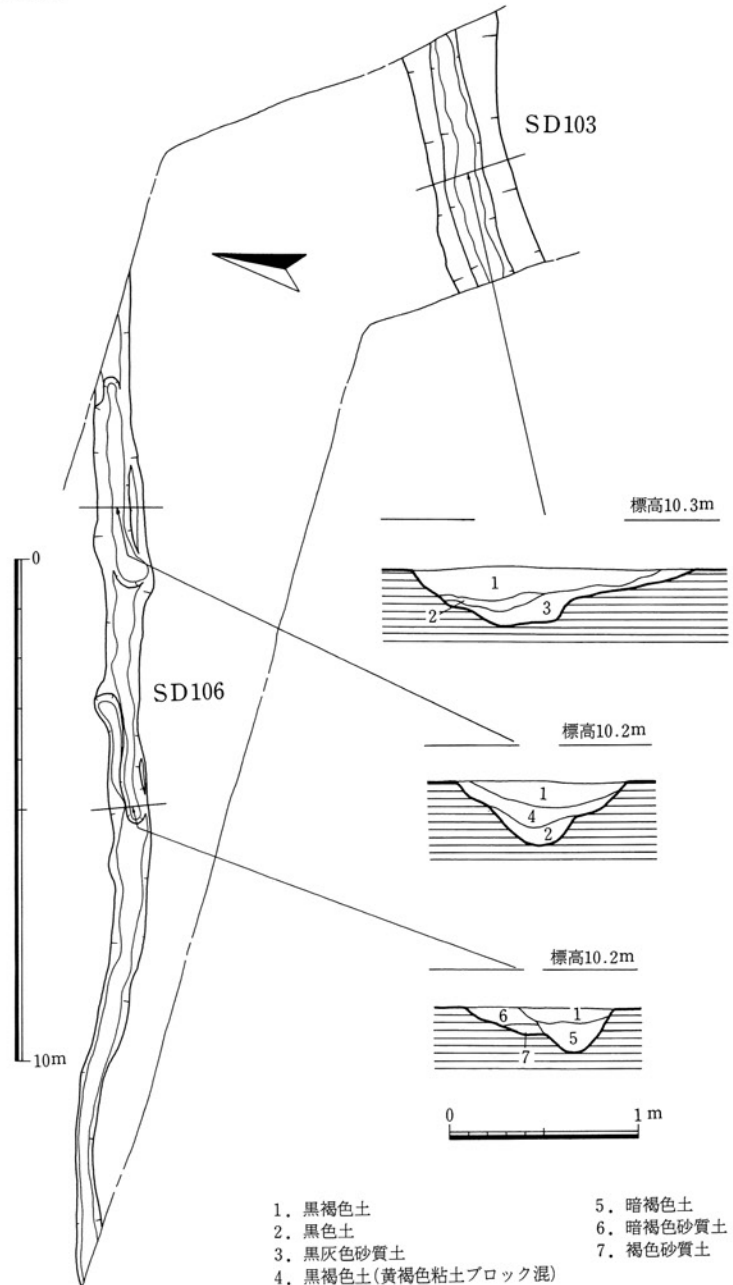


Fig.10 S D103・106溝及び土層断面実測図 (1/150・1/40)

IV. 調査の記録 (1区)

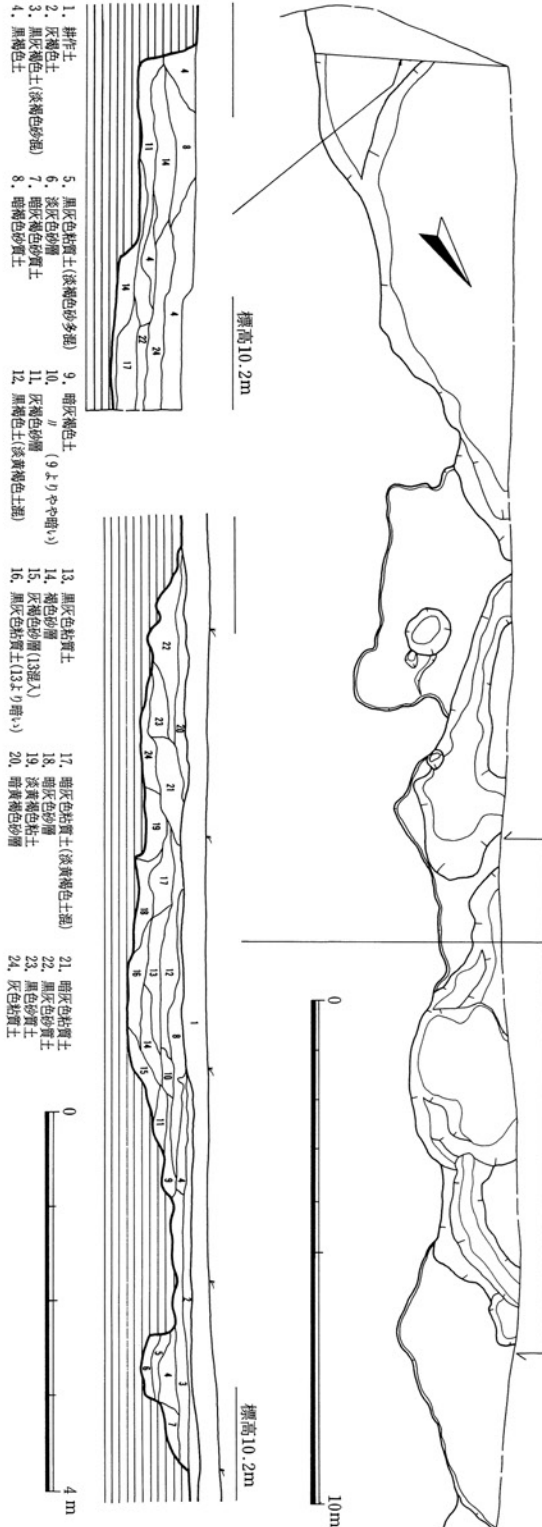


Fig.12 包含層実測図 (1/150・1/80)

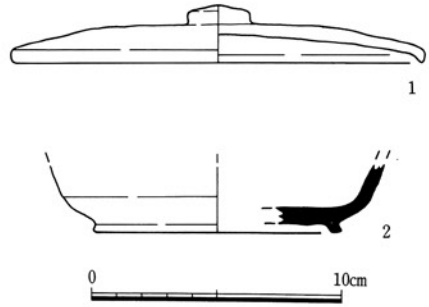


Fig.11 S D106出土遺物実測図 (1/3)

S D106は幅0.6~0.9m、深さ0.2~0.35 m程度で、断面形はU字形もしくは2段掘り状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とする3~4層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと判断される。両溝間の長さは計測できる部分で約6.5m、両溝を含めた長さは約9.0mであった。溝の埋土中からは少量ではあるが奈良時代の遺物が出土している。しかし、道路と考えられる部分は完全に地山面まで削平を受けており、特に堅く締まった面は検出できなかった。また調査区も狭小であったためその実態を把握できず、確実に官道であると断定するに至らなかった。

出土遺物 (Fig.11)

蓋(1) 土師器の坏蓋で、撮を有する。復元口径16.0cm、器高2.2cm、撮径2.4cm。口縁部横ナデ、天井内面ナデ、同外面回転ヘラ削り調整。橙褐色を呈する。

高台付坏(2) 須恵器。復元高台径9.5cm。内外面横ナデ調整で、灰色を呈する。

4. 谷部包含層の層序と出土遺物

調査区の南東部分（AK～AP-38～44グリッド）で検出している。もともと本調査区が丘陵の落ち際部分（南西方向に落ちる）にあたり、そこが水田化のために削平されたため現況のような検出状況になったものと思われる。遺物は弥生時代後期～終末が中心でコンテナ4箱程度が出土した。このため同時期の集落が周辺に存在するものと考えられるが、その中心は調査区の北東にある丘陵上にあると思われる。

(1) 層 序 (Fig.12)

埋土は黒褐色土を基調とした10層に大別できた。基盤は黄褐色土から深い部分では淡褐色の砂層に変化していた。特に遺物が集中するような層は認められなかった。また黒褐色土下に溝状の遺構とそれに連結するような土壌状の遺構を検出している。確認調査の結果、1区と2区の間は谷地形になっており旧河川が存在した可能性がある。现阶段では調査部分が狭小なため判断し難いが、検出した溝状の遺構は河川から引き込んだ水路とは考えられないだろうか。そうするとそれに連結している土壌状の遺構は溜め池のような機能を有していた可能性がある。

(2) 出土遺物 (Fig.13～18)

甕（1～16） 1～10は口縁部破片。基本的に内外面ハケ目調整を行う。1は復元口径15.6cm。外面暗褐色、内面赤褐色。2は復元口径14.0cm。淡褐色。3は復元口径15.6cm。口縁部内面に黒斑が認められる。外面暗褐色、内面淡褐色。4は復元口径18.4cm。淡褐色。5は復元口径26.8cm。胴部外面に黒斑が認められる。褐色。6は復元口径23.6cm。褐色。7は復元口径20.0cm。外面は平行タタキ、内面ナデ調整。淡褐色。8は復元口径19.6cm。外面に黒斑が認められる。9は復元口径16.4cm。胴部外面に黒斑が認められる。褐色。10は復元口径61.6cm。口縁部と胴部の境に刻目を施した突帯を1条巡らす。淡褐色。11～16は底部破片。基本的に内外面ハケ目調整を行う。11は底径6.0cm。外面ナデ、内面ハケ目後ナデ調整。褐色。12は底径6.8cm。外面カキ削り調整。暗赤褐色。13は復元底径8.2cm。褐色。14は復元底径6.8cm。茶褐色。15は復元底径8.5cm。内面ナデ調整。褐色。16は復元底径8.4cm。胴部下端から外底にかけて黒斑が認められる。淡褐色。

脚台（17～19） 17は底径9.6cm。基本的にナデ調整。暗褐色。18は復元底径11.0cm。内面横方向のハケ目、外面横ナデ調整。淡褐色。19は復元口径11.2cm。内外面横ナデ調整。淡褐色。

壺（20～26） 20～24は口縁部から胴部にかけての破片。20は復元口径12.0cm。内外面ハケ目調整。外面淡赤褐色、内面褐色。21は復元口径14.0cm。口縁部横ナデ、外面調整不明瞭、内面横方向のハケ目調整。褐色。22は復元口径17.3cm。内外面ハケ目調整。胴部外面に黒斑が認

IV. 調査の記録（1区）

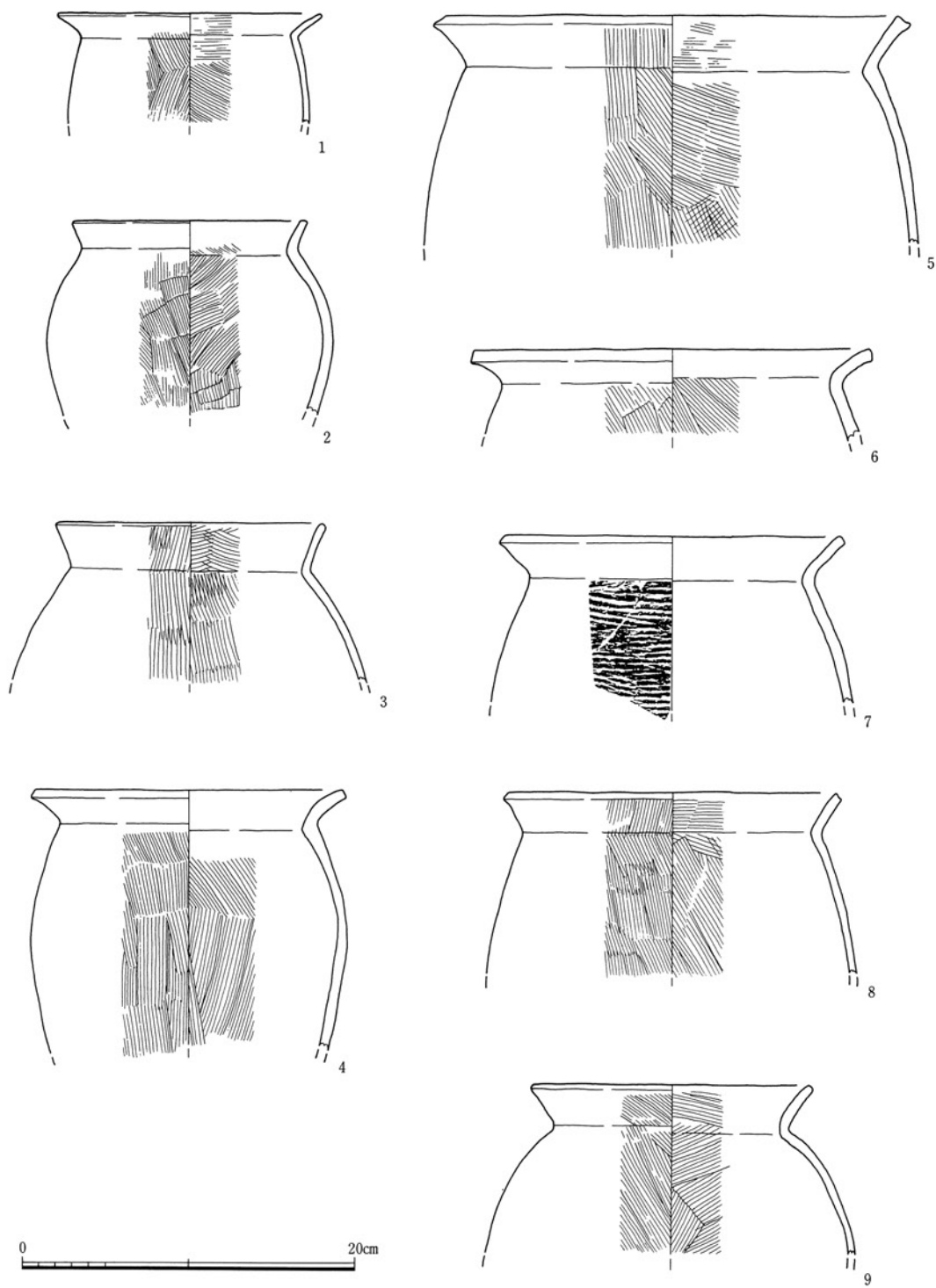


Fig.13 包含層出土遺物実測図①（1/4）

4. 谷部包含層の層序と出土遺物

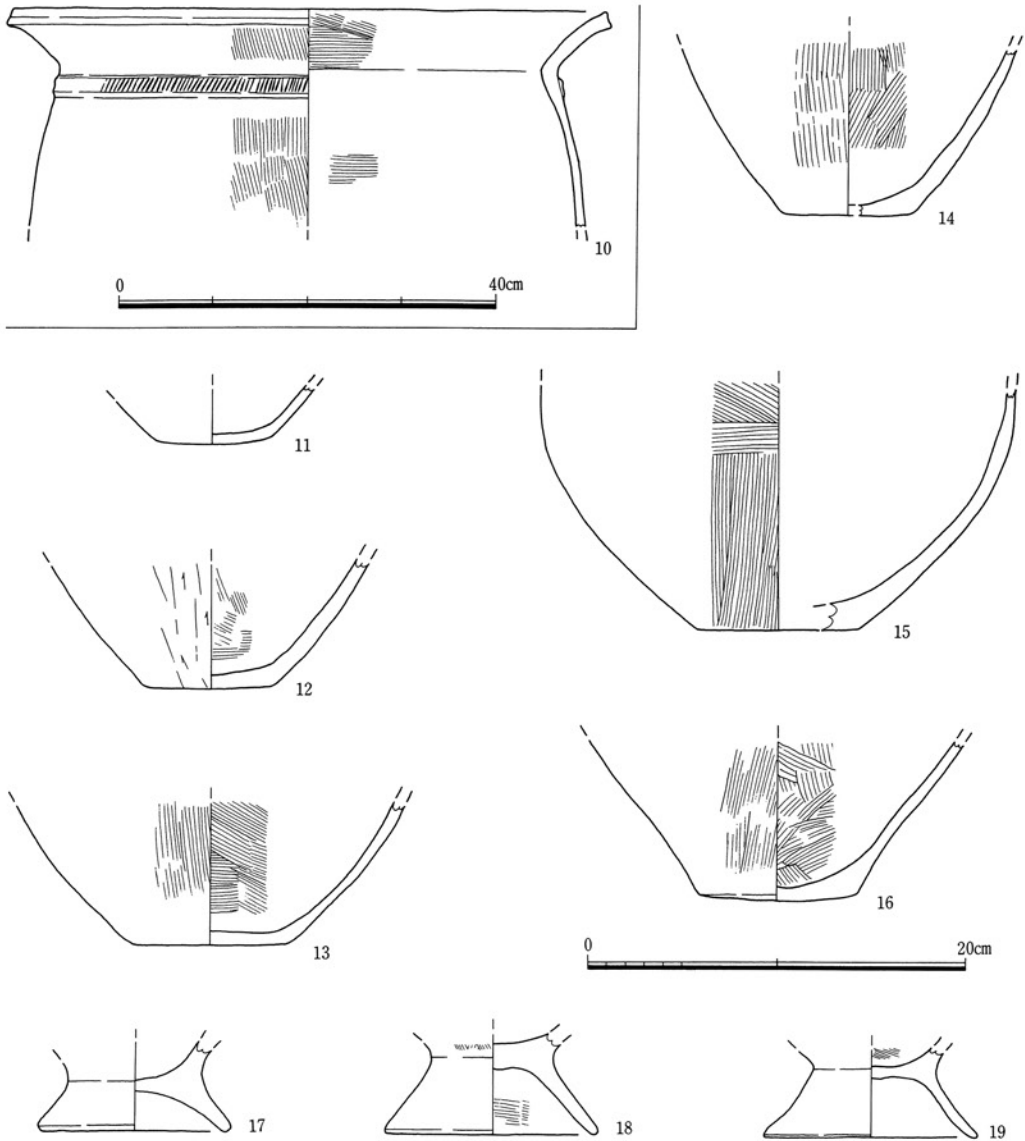


Fig.14 包含層出土遺物実測図② (1/4・1/8)

められる。暗橙褐色。23は袋状口縁壺。復元口径18.1cm。内外面横ナデ調整。淡褐色。24は複合口縁壺。復元口径23.6cm。内外面横ナデ調整。明褐色。25は胴部破片。外面ハケ目、内面ナデ調整。外面下半に黒斑が認められる。淡褐色。26は直口壺。復元口径9.4cm、底径6.3cm、器高13.8cm。外面ハケ目、内面ナデ調整で、胴部外面下半には黒斑が認められる。褐色。

鉢 (27~33) 27は復元口径23.7cm、底径8.4cm、器高16.4cm。口縁部横ナデ、内外面ハケ目調整。胴部下端から外底にかけて黒斑が認められる。淡褐色。28は復元口径24.0cm。口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面ハケ目後ナデ調整。外面に黒斑が認められる。淡褐色。29は復

IV. 調査の記録（1区）

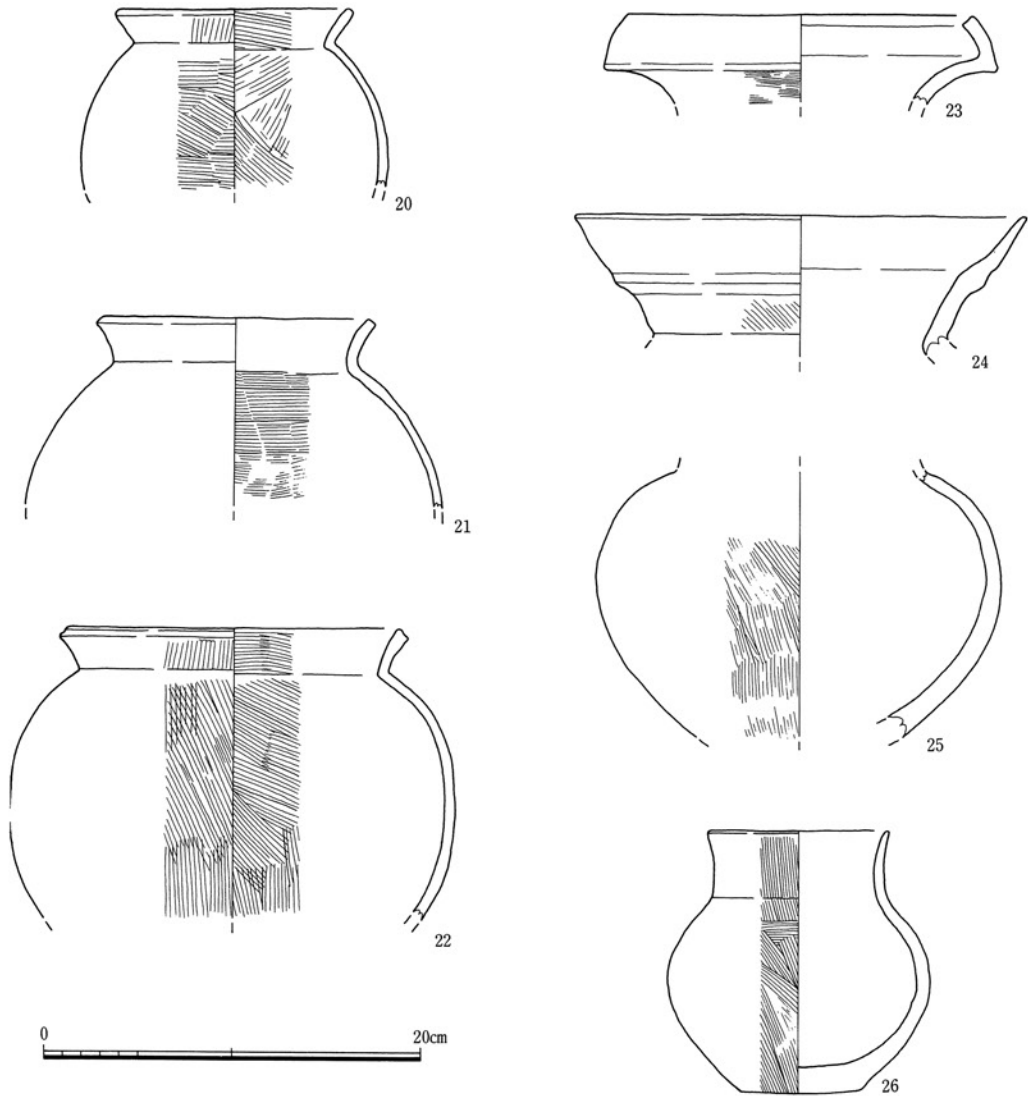


Fig.15 包含層出土遺物実測図③（1/4）

元口径19.0cm。口縁部横ナデ、胴部内外面ハケ目調整。淡褐色。30は復元口径16.7cm。口縁部横ナデ、外面調整不明瞭、内面ヘラミガキ調整。外面には黒斑が認められる。淡褐色。31は復元口径17.2cm。口縁部横ナデ、胴部内外面ハケ目調整。胴部外面下半に黒斑が認められる。暗褐色。32は復元口径18.0cm。口縁部横ナデ、内面ハケ目、外面工具によるナデ調整。外面には黒斑が認められる。暗褐色。33は手づくね土器で、口径6.7cm、器高3.7cm。外面には黒斑が認められる。暗褐色。

高坏（34～37） 34は坏部破片。復元口径32.6cm。口縁端部横ナデ、他はハケ目調整。口縁部外面に黒斑が認められる。赤褐色。35～37は脚部破片。35は外面縦方向のヘラミガキ調整。内

4. 谷部包含層の層序と出土遺物

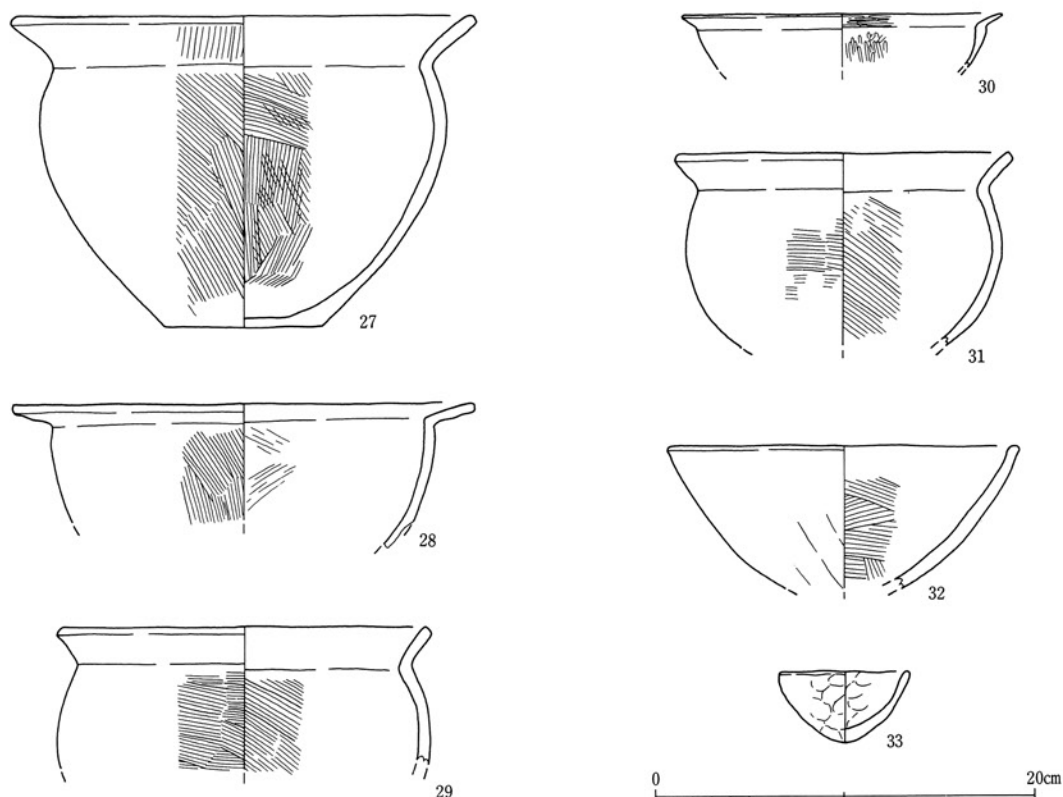


Fig.16 包含層出土遺物実測図④ (1/4)

面には絞り痕が認められる。暗黄褐色。36は外面縦方向のヘラミガキ調整。内面には絞り痕が認められる。赤褐色。37は外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。穿孔は3箇所認められる。赤褐色。

器台 (38~41) 38は受部破片。復元受部径14.0cm。口縁端部横ナデ、外面縦方向のハケ目、口縁部内面横方向のハケ目、内面は指ナデ調整。淡赤褐色。39~41は裾部破片。39は復元裾部径12.0cm。外面縦方向のヘラミガキ、内面工具によるナデ調整。淡橙褐色。40は復元裾部径19.4cm。外面縦方向のヘラミガキ、内面ハケ目後ナデ調整。外面淡褐色、内面暗褐色。41は裾部径9.3cm。内外面ハケ目調整。淡赤褐色。

蓋 (42・43) いずれも須恵器の坏蓋。42は復元口径13.8cm。口縁部から天井内面にかけて横ナデ、天井外面回転ヘラ削り調整。灰色。43は外面にヘラ記号が認められる。天井内面横ナデ、同外面回転ヘラ削り調整。暗灰色。

石器 (44~48) 44~47はサヌカイト製の石鏃。44は残存長2.9cm、残存幅1.3cm、重量0.9g。45は完存品で、最大長2.55cm、最大幅1.55cm、重量1.8g。46は完存品で、最大長2.6cm、最大幅1.7cm、重量1.4g。47は最大長2.7cm、残存幅1.8cm、重量1.9g。48はサヌカイト製の尖頭

IV. 調査の記録（1区）

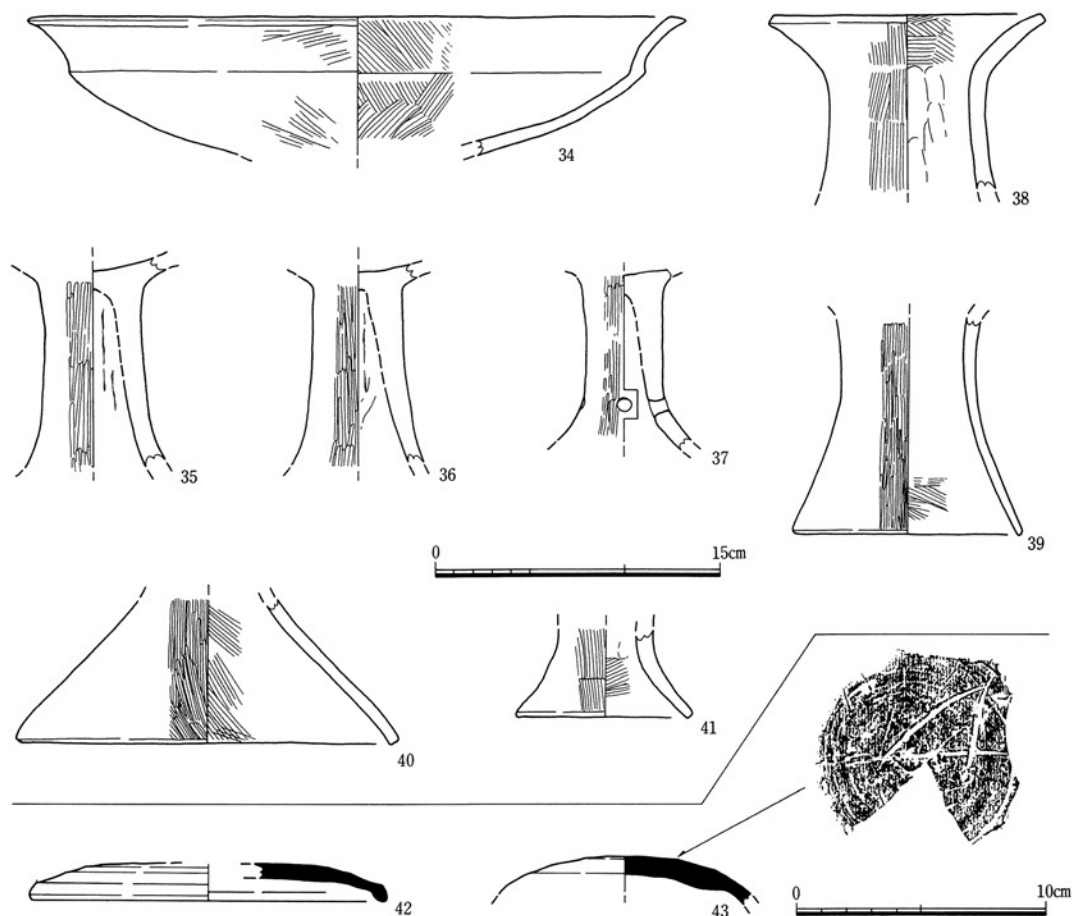


Fig.17 包含層出土遺物実測図⑤ (1/4・1/3)

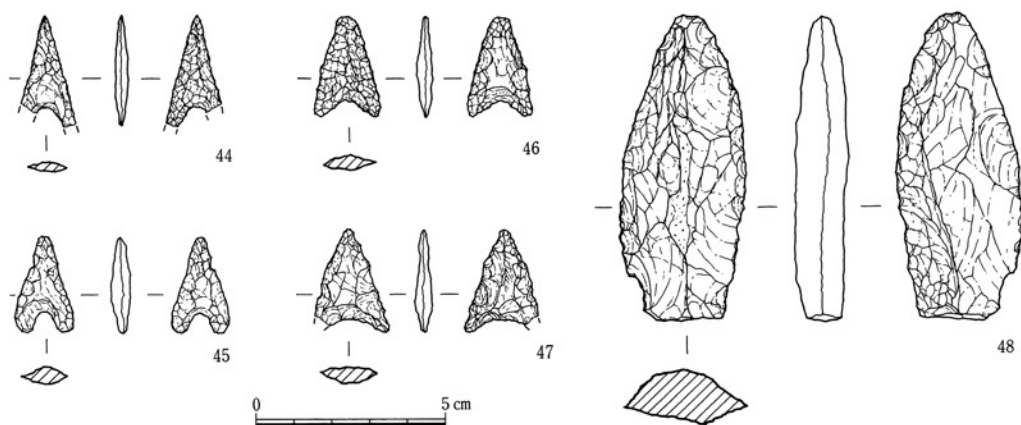


Fig.18 包含層出土遺物実測図⑥ (1/2)

器。完存品で、最大長8.15cm、最大幅3.3cm、重量38.4g。



Fig.19 大野原遺跡2区遺構配置図 (1/200)

V. 調査の記録 — 2区 —

2区は高畑部分にあたり、厚さ50cm程度の耕作土下に褐色の基盤面を検出している。遺構は弥生時代～中世にかけての竪穴住居31軒、掘立柱建物18棟、土壇8基、溝2条、土壇墓1基等を確認している。特に竪穴住居は床面積30㎡を超える大型のものが多く、さらに遺存状態が比較的良好なものも含まれていた。以下、時代別に報告する。

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

ほとんどの遺構がこの時期のもので、竪穴住居31軒、掘立柱建物18棟、その他土壇8基、溝1条、土壇墓1基を検出している。また各遺構から比較的多くの遺物が出土している。

(1) 竪穴住居

調査区の全域で31軒を検出している。そのうち床面積が30㎡を超えるものが11軒含まれていた。円形プランと長方形プランの2つに大別でき、特に長方形プランの住居は2本支柱で、そのほとんどがベット状遺構を有するものであった。また各住居からは比較的多くの遺物が出土している。

S H201竪穴住居 (Fig.20)

BA・BB-18・19で検出した。検出面の標高は10.5m。北東隅を攪乱によって削られる。平面形は長軸6.52m、短軸4.68m、床面積30.5㎡程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約25cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間約2.7mの2本柱で、柱穴の深さは0.3～0.45m程度である。住居のほぼ中央には約8cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベット状遺構は西壁沿いと東壁から北壁（東半）沿いに設けられ、内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで貼床と同じように黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成している。床面からの高さは15cm程である。またベット状遺構がない部分（南壁、北壁の一部）には、径20cm、深さ10cm程度のピット群を壁沿いに並んだように検出している。さらに南壁沿いの中央部分には深さ0.3m程の小型の壁際土壇が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器・石器・鉄器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.21～23) 2・3・6～15・17・20・23・25は床面直上、18は壁際土壇、その他は埋土出土。

甕 (1～6) 1は復元口径26.8cm、器高40.3cm。外面上半平行タタキ、同下半縦方向のカキ削り、内面ハケ目調整、口縁部は前期調整の後横ナデ調整。胴部外面に黒斑が認められる。淡褐色。2は復元口径22.2cm。外面平行タタキ、内面ハケ目、口縁部外面はタタキ後横ナデ調

V. 調査の記録（2区）

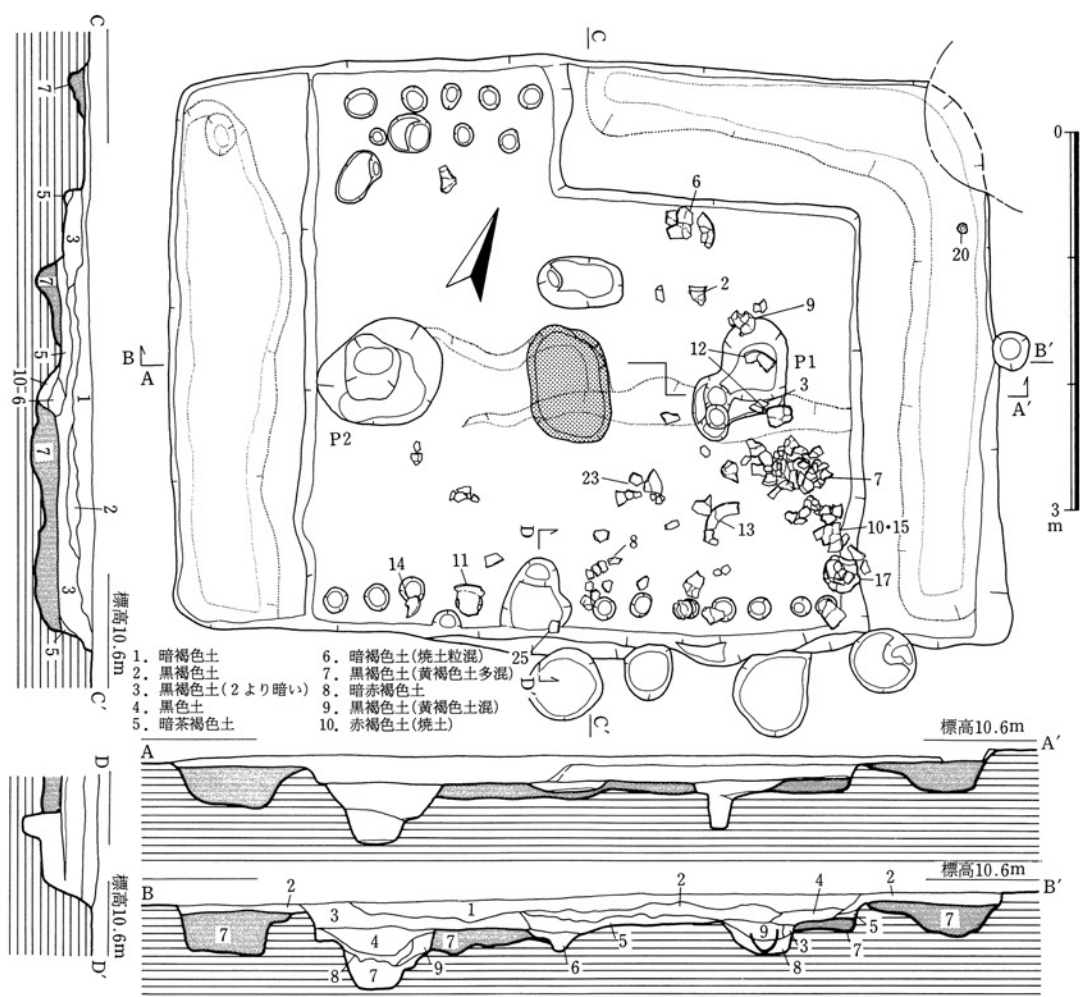


Fig.20 SH201堅穴住居実測図 (1/60)

整。胴部外面から口縁部外面にかけて黒斑が認められる。淡褐色。3は復元口径17.2cm。外面平行タタキ、内面工具によるナデ、口縁部タタキ後横ナデ調整。淡褐色。4は復元口径11.4cm。口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケ目、同内面横・斜方向のハケ目調整。口縁部外面から胴部上端外面には炭化物が付着する。褐色。5は復元口径10.4cm。口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケ目、同内面横・斜方向のハケ目調整。口縁部外面下端から胴部外面上端にかけて炭化物が付着する。褐色。6は底部破片で、外面縦方向のカキ削り、内面ハケ目調整。褐色。

壺（7～9） 7は復元口径16.5cm。口縁端部横ナデ、外面上半タタキ後縦方向のハケ目調整、同下半縦方向のカキ削り、内面不定方向のハケ目調整。口縁部と胴部の境にはへらによる斜線文が施される。胴部外面下半に黒斑が認められる。淡褐色。8は復元口径17.6cm。外面タタキ後縦方向のハケ目（口縁部外面はハケ目のみ）、内面不定方向のハケ目、口縁部内面はハケ

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

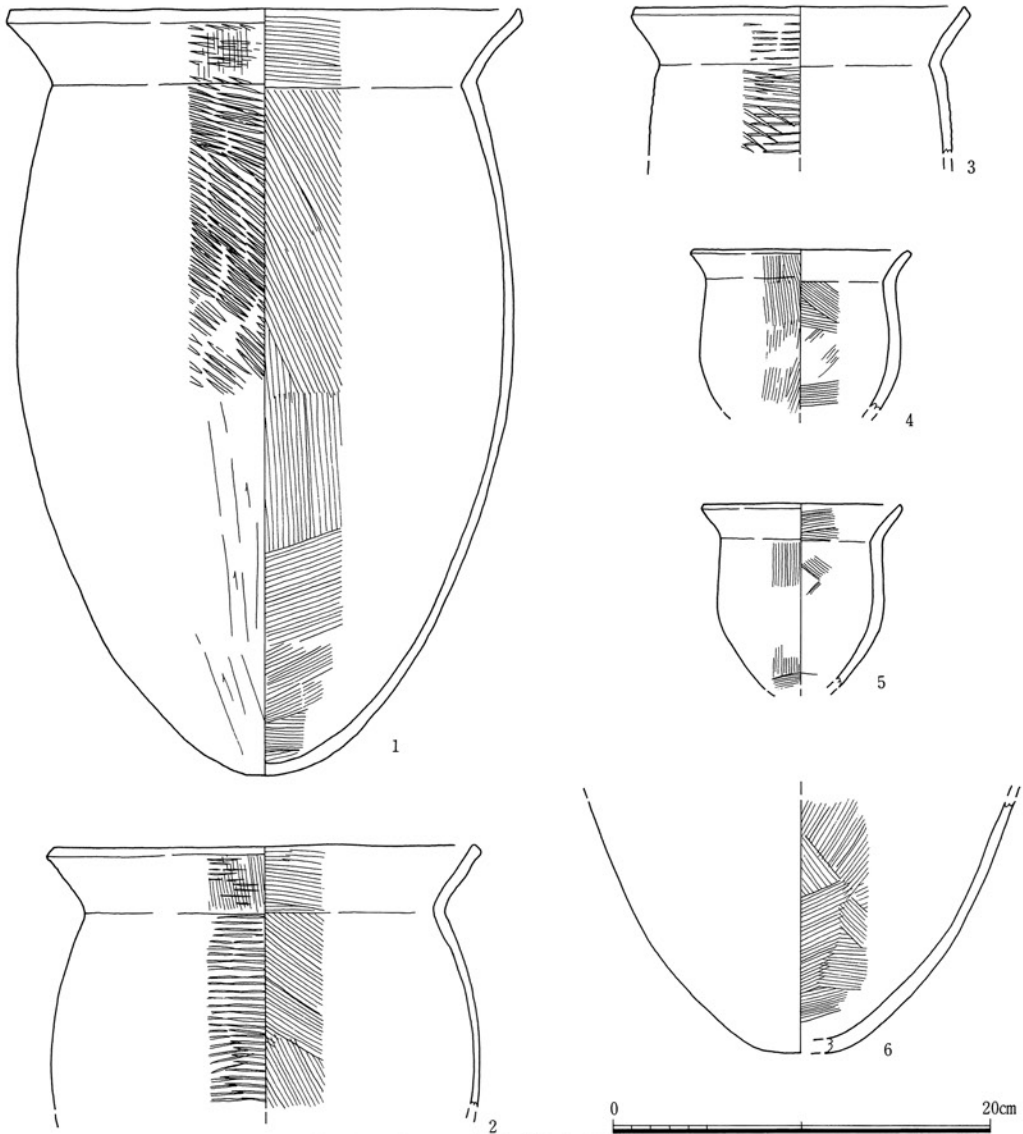


Fig.21 SH201出土遺物実測図① (1/4)

目後横ナデ調整。胴部外面中位には黒斑が認められる。淡褐色。9は口径12.1cm、器高13.9cm。内外面ハケ目調整、口縁部外面はハケ目後横ナデ調整。胴部中位には黒斑が認められる。淡褐色。

鉢 (10~18) 10・11は基本的に外面平行タタキ後下半のみ横方向のカキ削り、内面ハケ目、口縁端部横ナデ調整を行う。10は復元口径25.0cm、器高11.0cm。淡褐色。11は復元口径27.7cm、器高12.0cm。淡褐色。12は口径30.5cm、器高13.4cm。外面上半平行タタキ、同下半ハケ目調整、内面ハケ目調整。明褐色。13~18は基本的に外面タタキ後工具によるナデ(カキ削り)、内面ハ

V. 調査の記録 (2区)

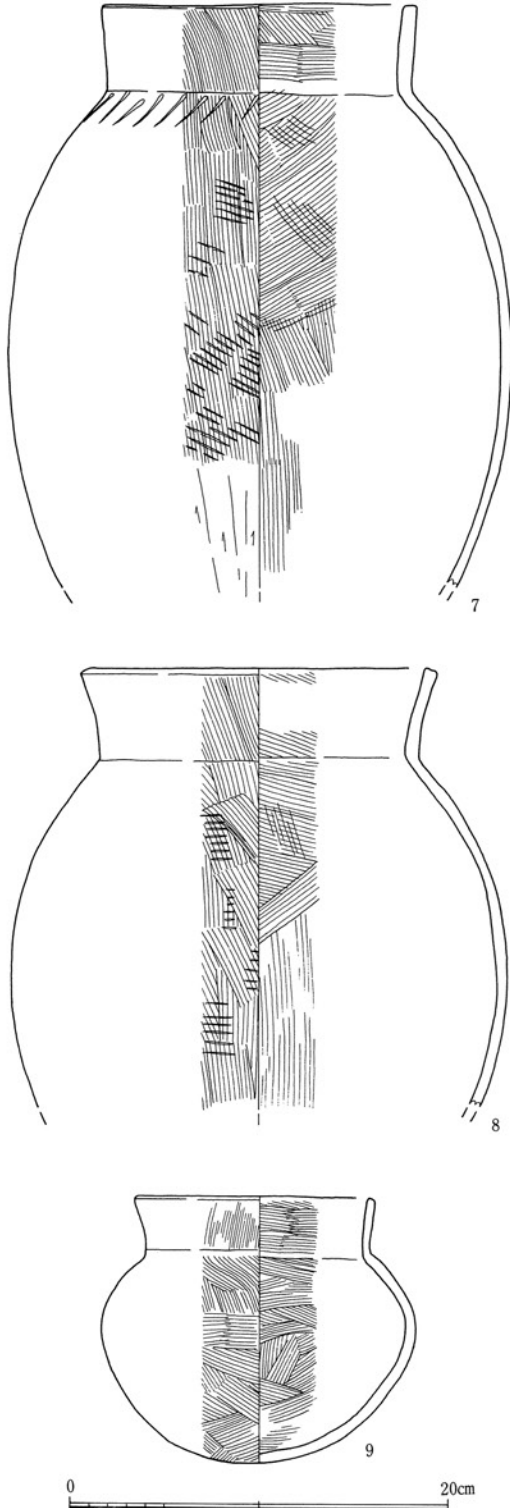


Fig.22 SH201出土遺物実測図② (1/4)

ケ目もしくはハケ目後ナデ調整を行う。13は復元口径20.6cm。淡赤褐色。14は復元口径19.2cm。明褐色。15は口径17.9cm、器高5.8cm。内面から外面上半かけて黒斑が認められる。淡橙褐色。16は復元口径17.1cm。口縁部に黒斑が認められる。褐色。17は復元口径16.7cm、器高5.1cm。外面上半に黒斑が認められる。淡褐色。18は復元口径12.4cm、器高5.6cm。淡褐色。

手づくね土器 (19~22) いずれも基本的に内外面指ナデ調整。19は復元口径7.2cm。淡褐色。20は復元口径7.7cm、器高3.7cm。褐色。21は完存品で、口径2.6cm、器高2.3cm。淡褐色。22も完存品で、口径2.9cm、器高2.0cm。淡褐色。

高坏 (23) 坏部破片で、復元口径32.8cm。外面ハケ目、内面横ナデ調整。淡赤褐色。

石器 (24) サヌカイト製の削器。完存品で最大長6.5cm、最大幅4.0cm、重量40.2g。

鉄器 (25) 鋤先で最大長6.0cm、最大幅12.0cm。

SH202竪穴住居 (Fig. 24)

BC・BD-19~21グリッドで検出した。検出面の標高は10.4~10.5m。南壁部分を攪乱によって削られ、南西隅をSD264に切られる。平面形は長軸8.1m、短軸5.58m程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約30cmである。床面積は45.2㎡と今回検出した竪穴住居の中で最も大型のものであった。床面には部分的ではあるが黒褐色土

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

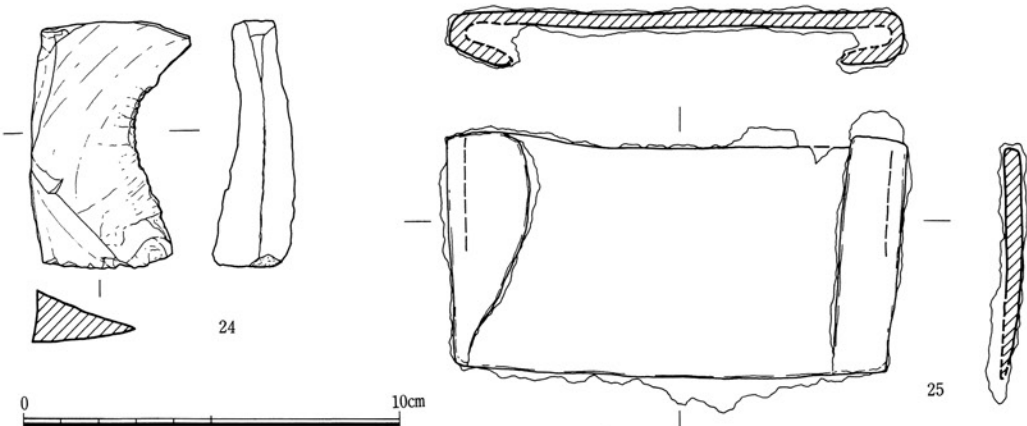
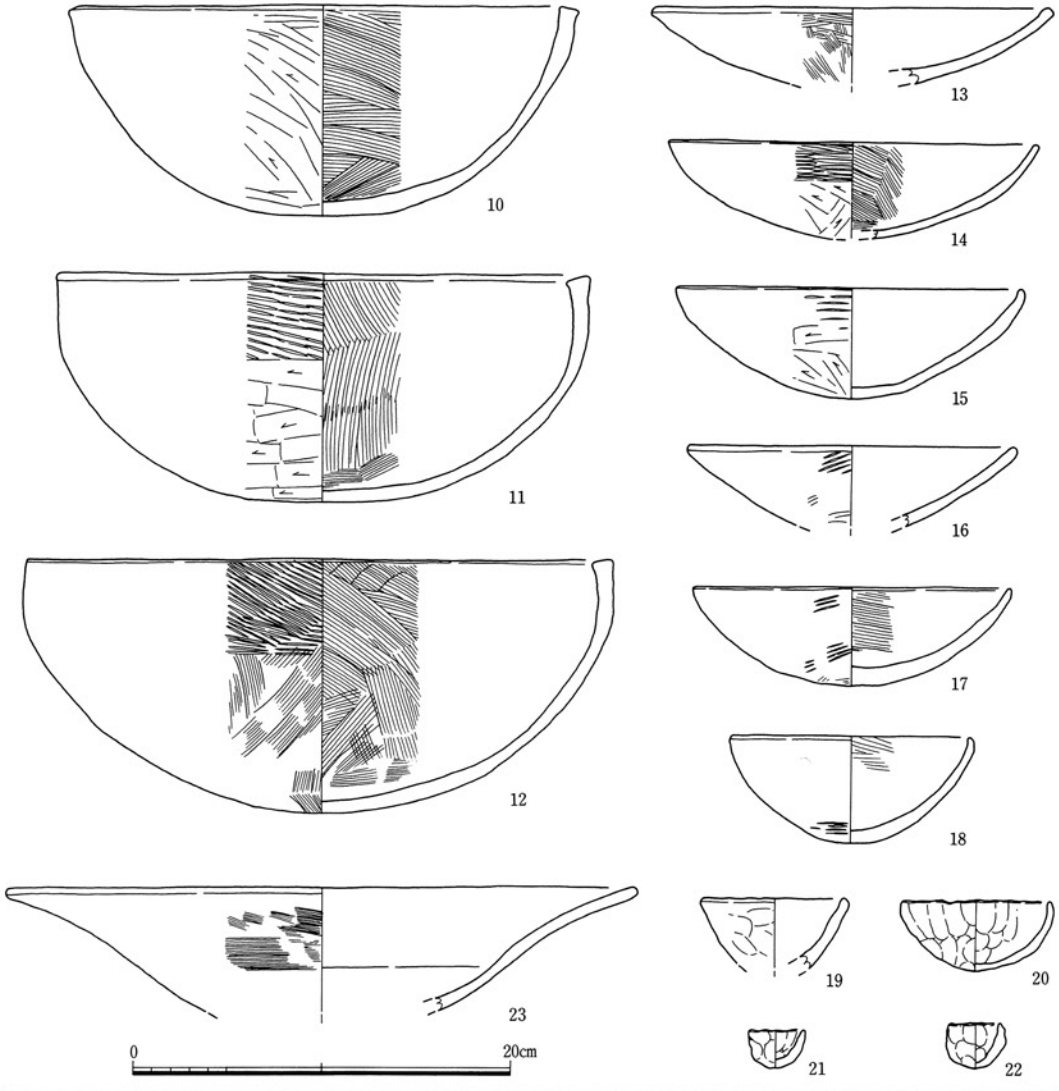
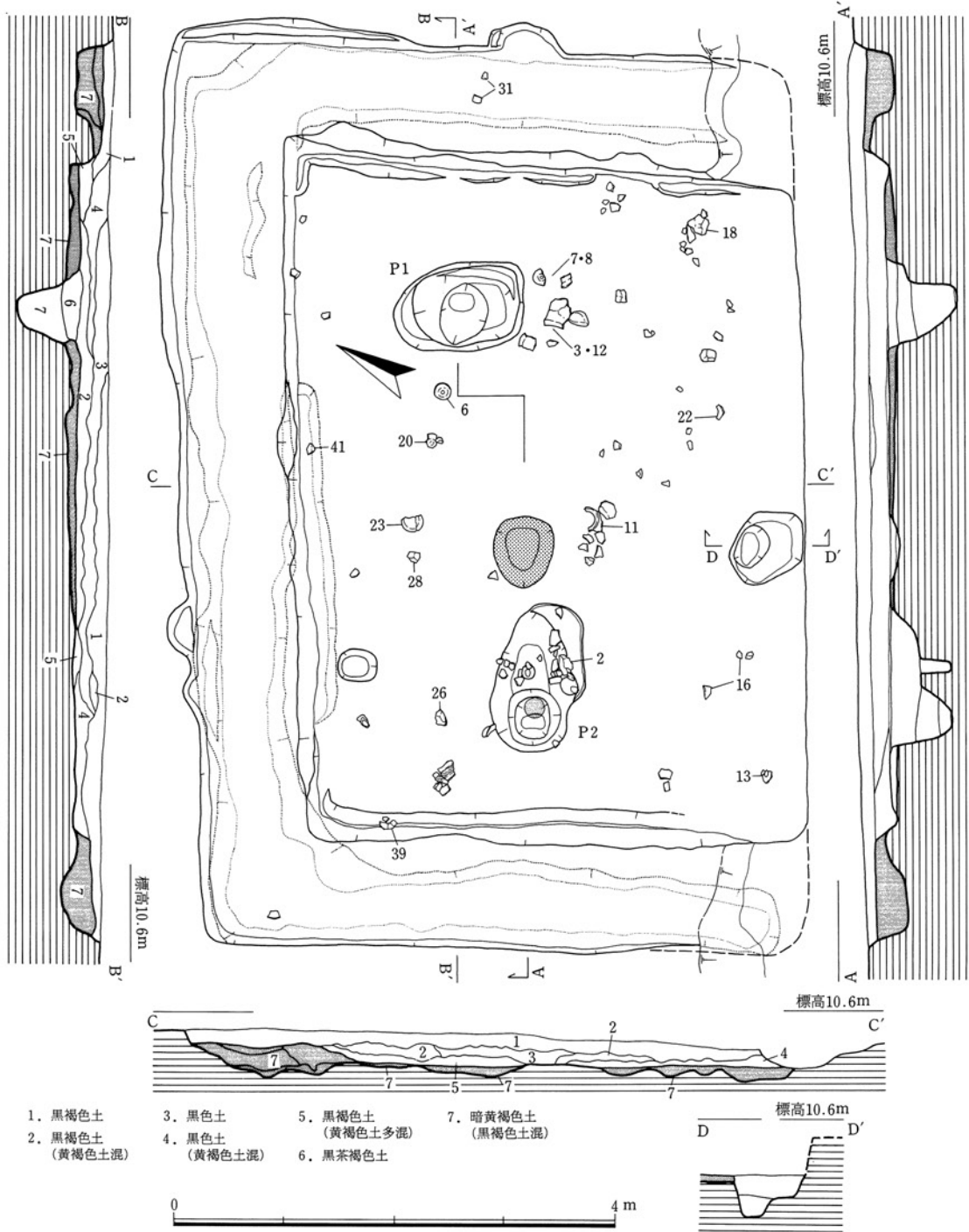


Fig.23 201出土遺物実測図③ (1/4・1/2)

V. 調査の記録（2区）



と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。主柱は柱間約3.9mの2本柱で、主柱の深さは0.54~0.62 m程度である。住居の中央よりやや西寄りには8 cm程掘り込まれた炉が設けられている。ペッ

ド状遺構は東壁から北壁・西壁沿いにコの字形に設けられ、東・西壁沿いは内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで貼床と同じように黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成し、北壁沿いは地山を削り出さずにそのまま貼り付けのみで形成している。床面からの高さは20cm程である。またベッド状遺構の壁沿いには部分的に壁溝が認められる。壁際土壌は深さ0.36mの2段掘り状を呈し、南壁沿いの中央よりやや西側、ちょうど炉と同じ軸上に存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.25~27) 2・3・6~8・11~14・16・18・20・22・23・26・28・31・39・41は床面直上、1・9・10は炉、19・21・25は壁際土壌、4・17はP2、他は埋土出土。

甕 (1~5) 基本的に外面平行タタキ後縦方向のハケ目、外面下半は縦方向のカキ削り、内面は口縁部横方向のハケ目、胴部縦・斜方向のハケ目、口縁端部横ナデ調整を行う。1は復元口径14.3cm。淡褐色。2は復元口径17.4cm。内面ヘラ削り調整。褐色。3は復元口径20.7cm。暗赤褐色。4は復元口径20.8cm。淡褐色。5は復元口径23.8cm。口縁部に黒斑が認められる。淡褐色。

脚台 (6~8) いずれも台付甕の脚台と思われる。基本的に内外面ハケ目、裾端部横ナデ調整を行う。6は裾部径15.5cm。淡褐色。7は裾部径14.6cm。淡褐色。8は裾部径13.2cm。淡褐色。

壺 (9~12) いずれも広口壺で基本的に口縁部内外面ハケ目、胴部外面平行タタキ、同内面横方向のハケ目調整を行う。9は復元口径34.0cm。口縁端部に刻目を施す。淡褐色。10は復元口径27.9cm。口縁端部に刻目を施す。淡褐色。11は復元口径21.3cm。頸部に断面三角形の突帯を1条巡らす。淡褐色。12は復元口径19.4cm。淡褐色。

鉢 (13~35) 13は復元口径16.8cm、器高8.5cm。口縁部横ナデ外面ハケ目後ナデ、内面ナデ調整。淡黄褐色。14は復元口径23.8cm。内外面ハケ目調整。淡黄褐色。15~19は基本的に外面平行タタキ後下半のみカキ削り、内面ハケ目調整を行う。15は復元口径28.1cm。口縁部上面に刻目を施す。淡褐色。16は復元口径25.2cm。体部下半に黒斑有り。淡褐色。17は復元口径22.2cm。外面全面横方向のカキ削り調整。淡赤褐色。18は底部破片。褐色。19は復元口径15.6cm。褐色。20は復元口径15.0cm、器高8.5cm。外面タタキ後ハケ目、内面ハケ目後ナデ調整。褐色。21は外面タタキ後ナデ、内面ナデ調整。外底に黒斑有り。暗赤褐色。22~30は基本的に外面ハケ目及び工具によるナデ(カキ削り)、内面ナデ調整を行う。22は復元口径18.0cm。暗褐色。23は復元口径19.8cm。淡褐色。24は復元口径18.8cm。淡褐色。25は復元口径19.3cm。内面に黒斑有り。褐色。26は復元口径17.6cm。淡褐色。27は復元口径16.2cm。淡褐色。28は復元口径15.8cm。内面ヘラ状工具によるナデ調整。淡赤褐色。29は復元口径14.2cm。暗褐色。30は復元口径13.8cm。内面ヘラミガキ調整。淡赤褐色。31・32は外面タタキ後ナデ、内面ナデ調整。31は復元口径8.6cm。淡褐色。32は復元口径10.0cm。器高5.5cm。33は復元口径11.0cm。器高5.3cm。口

V. 調査の記録 (2区)

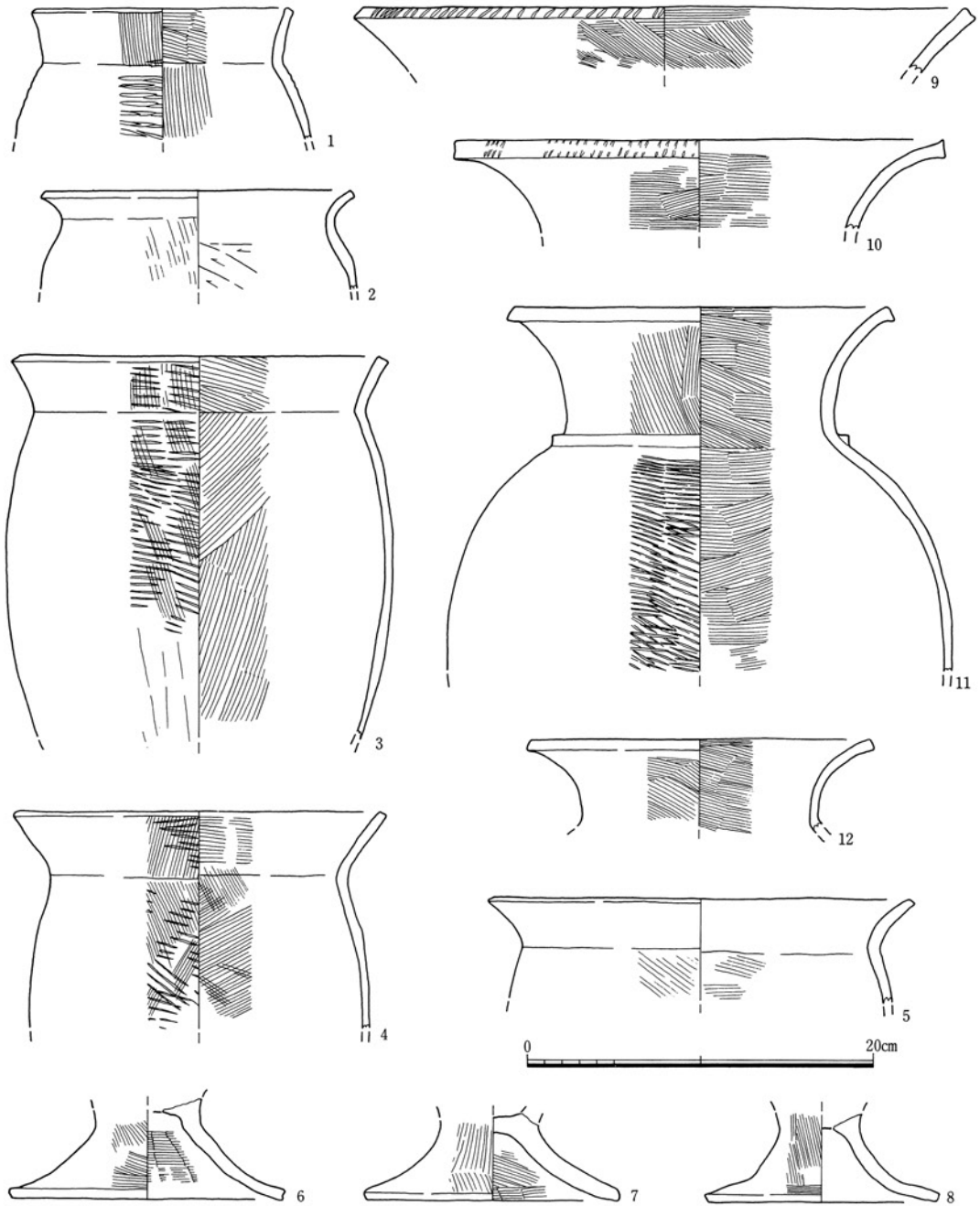


Fig.25 S H202出土遺物実測図① (1/4)

縁部横ナデ、外面タタキ後ナデ、内面ハケ目調整。淡赤褐色。34・35は基本的に内外 面ナデ調整。34は復元口径10.2cm。器高8.0cm。明褐色。35は復元口径10.9cm。口縁部に指頭圧痕を残す。暗褐色。

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

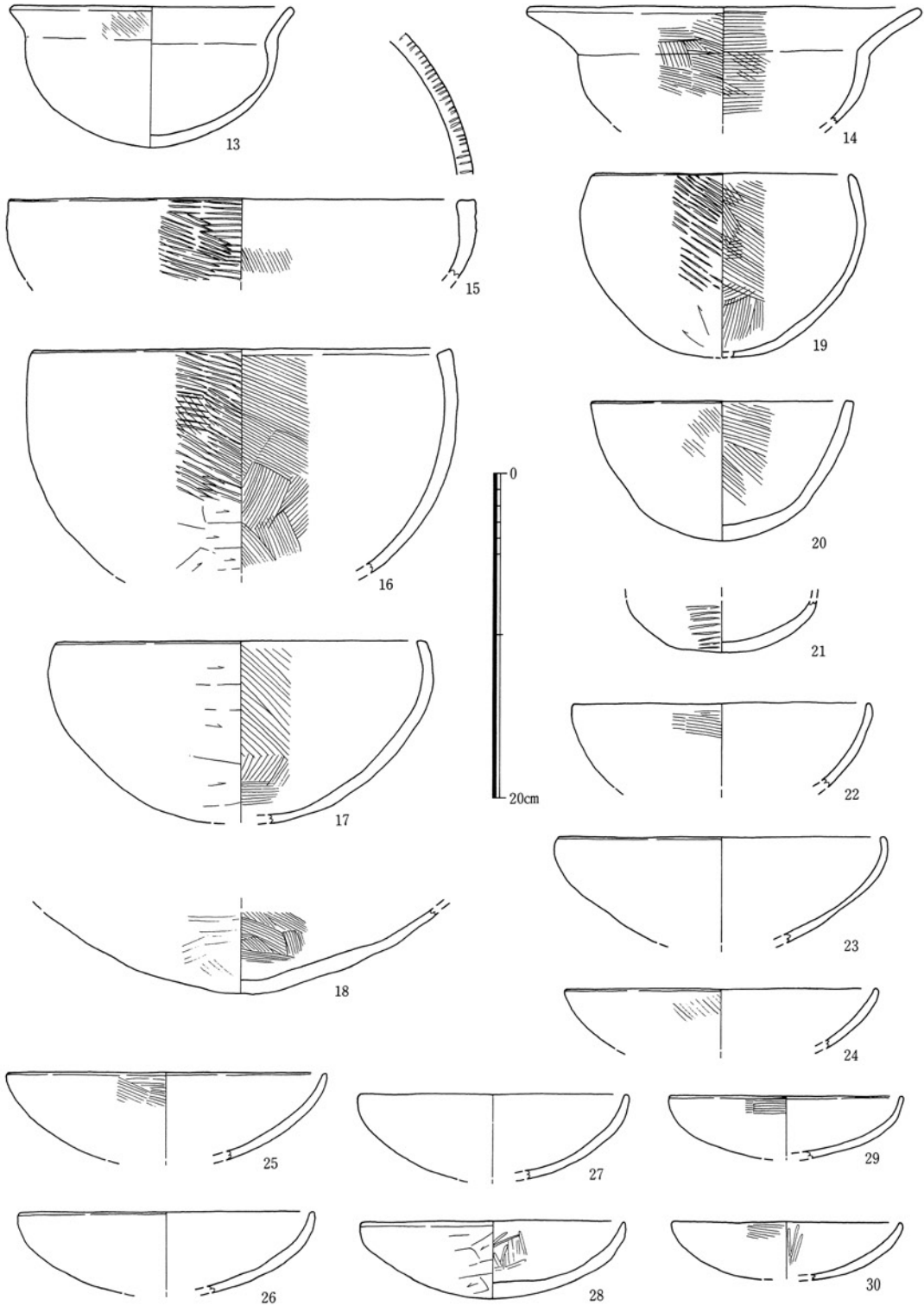


Fig.26 S H202出土遺物実測図② (1/4)

V. 調査の記録 (2区)

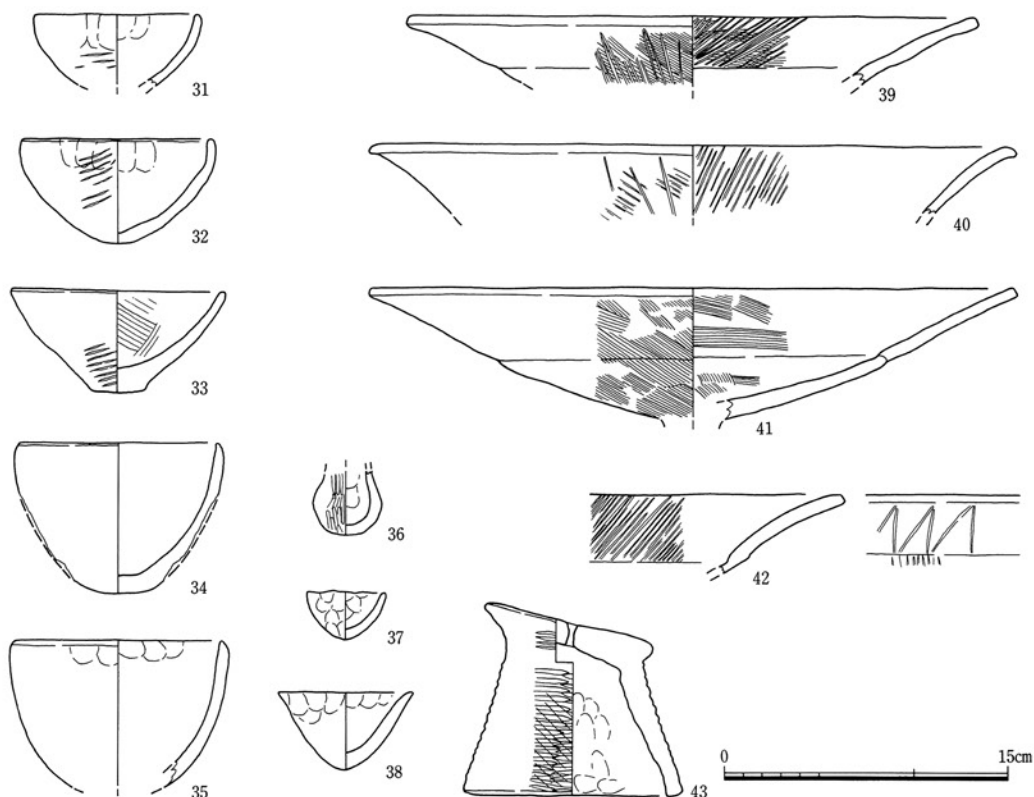


Fig.27 S H202出土遺物実測図③ (1/4)

手づくね土器 (36~38) 36は壺を模倣したものか。外面ヘラナデ、内面指ナデ調整。37は口径4.1cm、器高2.5cm。内外面指ナデ調整。明褐色。38は復元口径7.0cm、器高4.0cm。内外面指ナデ調整。淡褐色。

高坏 (39~42) いずれも坏部口縁部破片で、基本的に内外面ハケ目調整。39・40はハケ目調整後内面放射状のヘラミガキ調整。外面には鋸歯文状の暗文を施す。39は復元口径29.4cm。赤黄褐色。40は復元口径33.0cm。淡赤褐色。41は復元口径33.4cm。淡黄褐色。42は内面放射状のヘラミガキ調整。外面には鋸歯文状の暗文を施す。淡赤褐色。

支脚 (43) 受部径9.1cm、復元裾部径11.5cm、器高9.1cm。外面タタキ、内面ナデ調整。褐色。

S H203 竪穴住居 (Fig.28)

BD~BF-19~21グリッドで検出した。検出面の標高は10.3~10.4m。S B254、S D263・264に切られる。平面形は長軸7.3m、短軸5.7m、床面積42.2m²程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約15cmである。床面には部分的に黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

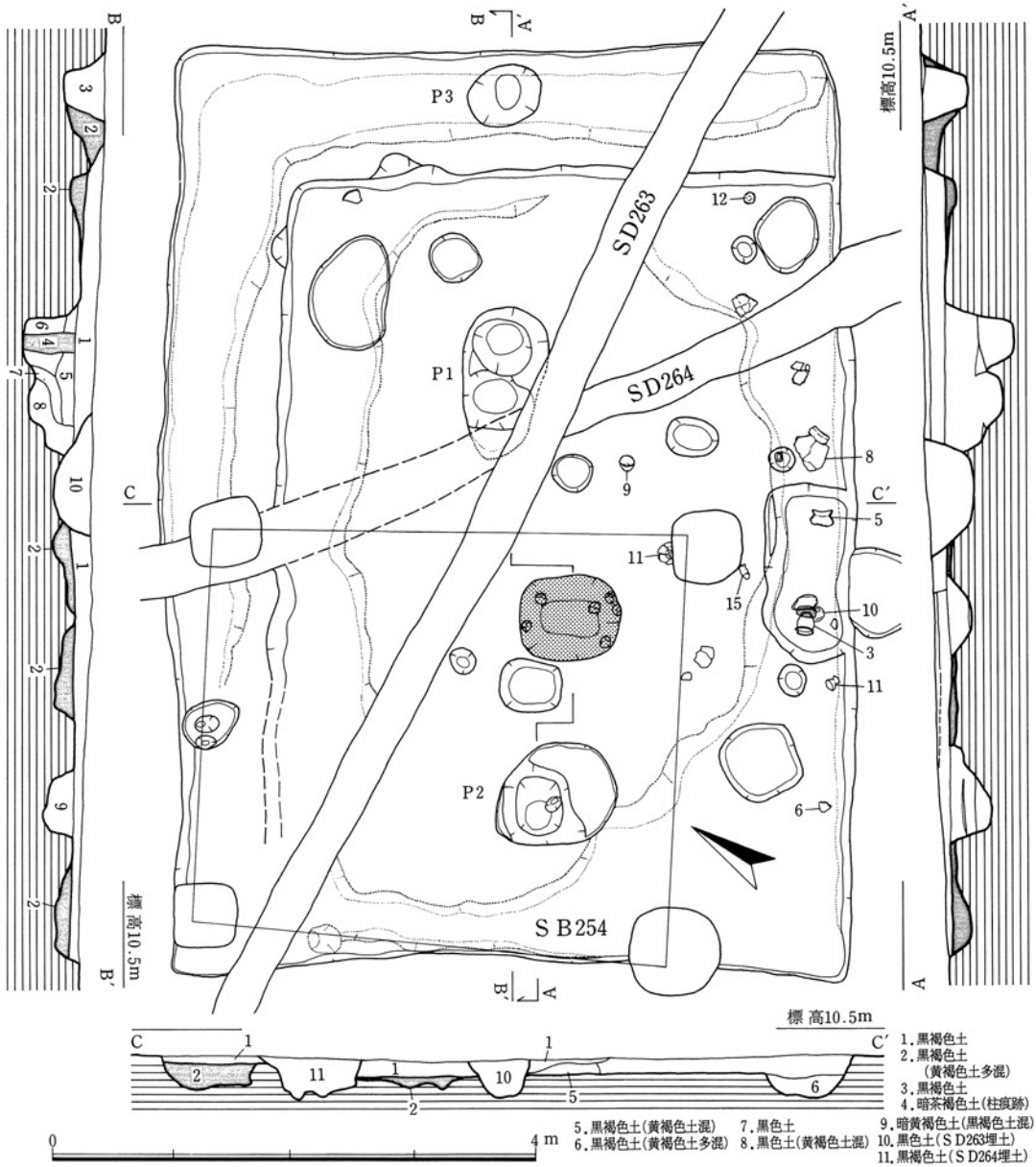


Fig.28 SH203竪穴住居実測図 (1/60)

床面下層は周壁沿いに掘り込みが行なわれる。支柱は柱間約3.9mの2本柱で、柱穴の深さは0.32~0.57m程度である。住居の中央よりやや南西寄りには18cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は東壁から北壁沿いに確認できるが、西壁沿いは削平を受けているためどのような構造になるのかは不明。ベッド内側をやや低く削り出し、外側を溝状に掘り込んでその上部に黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成している。床面からの高さは12cm程である。また南壁沿いの中央よりやや西寄りに深さ約0.25mの壁際土壌が存在する。土壌内からは弥生土

V. 調査の記録（2区）

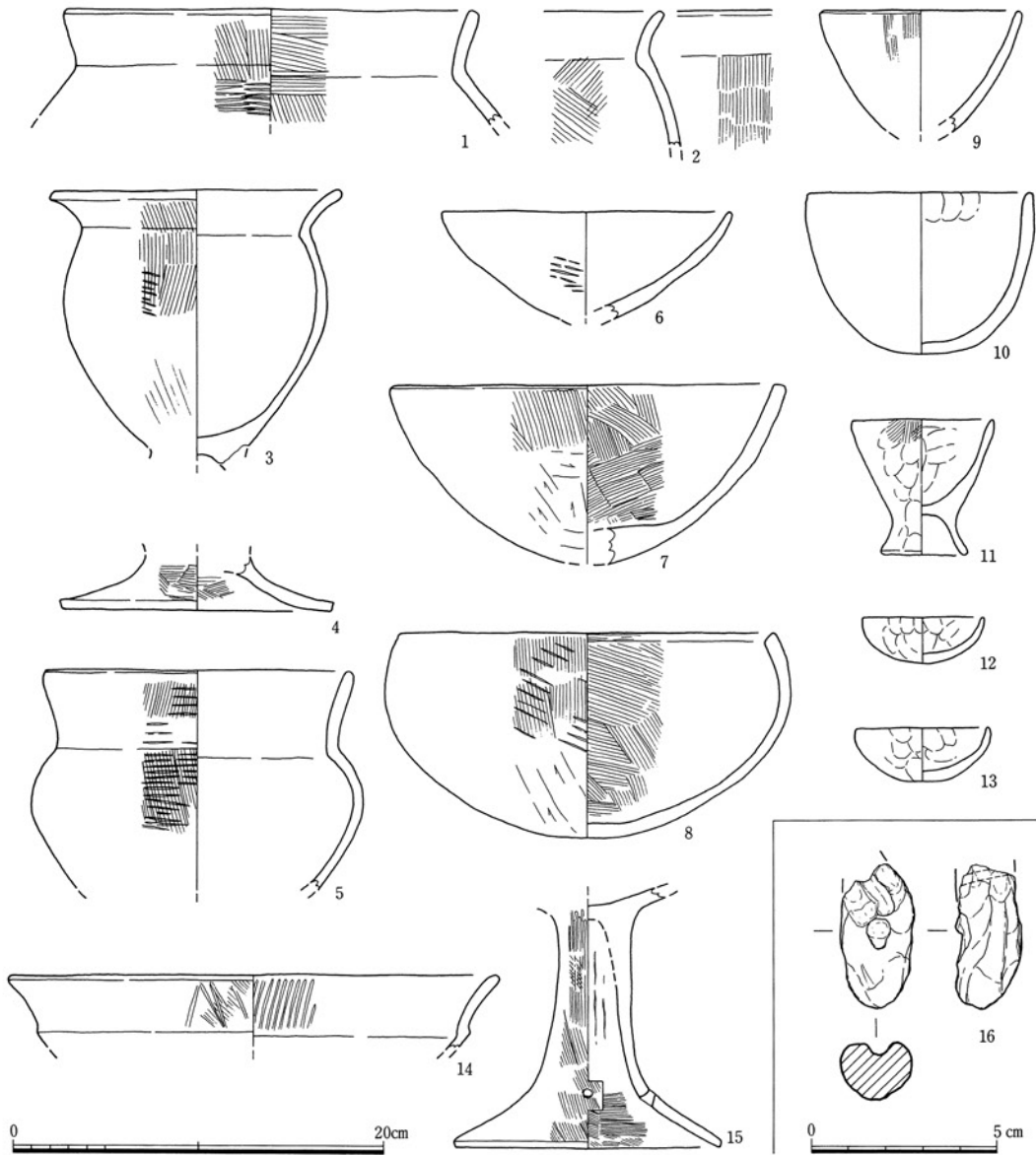


Fig.29 S H203出土遺物実測図 (1/4・1/2)

器鉢（10）の上に弥生土器甕（3）及び板石が載せられ、さらに粘土で固められていたかのように出土している。埋納されたものか。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.29) 4～6・8・9・11・12・15は床面直上、14はP2、1はP3、2・3・10は壁際土壌、13は貼床、他は埋土出土。

甕（1～3） 1は復元口径21.6cm。口縁部内面横方向のハケ目、同外面縦方向のハケ目、

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

胴部内面縦方向のハケ目、同外面タタキ調整。淡褐色。2は口縁部横ナデ、外面縦方向のハケ目、内面不定方向のハケ目調整。淡褐色。3は台付甕の台部欠損品。口径15.2cm。外面タタキ後ハケ目、下半はカキ削り、内面ナデ調整。胴部上半に黒斑有り。淡褐色。

脚台（4） 台付甕の台部と思われる。復元裾部径14.3cm。内外面ハケ目調整。褐色。

壺（5） 復元口径16.4cm。外面タタキ後縦方向のハケ目、下半はカキ削り、内面工具によるナデ調整。口縁部外面から胴部外面上半にかけて黒斑が認められる。淡褐色。

鉢（6～10） 6～8は基本的に外面タタキ後ハケ目、下半カキ削り、内面不定方向のハケ目調整。6は復元口径15.2cm。外面に黒斑有り。褐色。7は復元口径20.6cm、器高9.5cm。淡褐色。8は復元口径20.0cm、器高11.0cm。褐色。9は復元口径10.2cm。外面ハケ目、内面ナデ調整。淡赤褐色。10は完存品で、口径11.8cm、器高8.6cm。内外面ナデ調整で、口縁部内面に指頭圧痕が残る。外面に黒斑有り。淡褐色。

手づくね土器（11～13） いずれも基本的に指ナデ調整。11は台付鉢状で復元口径7.4cm、台部径4.4cm、器高7.2cm。明褐色。12は完存品で口径6.5cm、器高2.5cm。淡褐色。13は復元口径7.0cm、器高2.3cm。暗褐色。

高坏（14・15） 14は坏部口縁破片。復元口径26.0cm。内面放射状のヘラミガキ調整。外面にはハケ目後鋸歯文状の暗文を施す。淡赤褐色。15は脚部破片。裾部径14.1cm。外面から裾部内面にかけてハケ目調整。外面上半はハケ目後縦方向のヘラミガキ調整、内面には絞り痕が認められる。また裾部には3箇所穿孔が行なわれる。淡赤褐色。

土製品（16） 土製勾玉か。割れ口の部分に穿孔が認められる。また中央部に窪みが1箇所存在する。淡褐色。

S H204竪穴住居 (Fig.30)

BA・BB-21・22グリッドで検出した。検出面の標高は10.5m。SH210と切り合い関係にあり本住居が先行する。また東側を水田化によって削平される。平面形は長軸 $5.6+\alpha$ m、短軸5.2m程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約30cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は2本柱と思われるが削平されるため不明。住居の中央と思われる部分には15cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は北壁から西壁沿いに設けられ、内側を低く削り出し、外側を溝状に掘り込んで、その上部に比較的厚く黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成している。床面からの高さは20cm程である。またベッド状遺構の壁沿いに部分的に壁溝が認められる。さらにベッド状遺構がない南壁沿いには径20cm、深さ10cm程度のピット群（その下層には掘り込みが行なわれている）を並んだように検出している。壁際土壌は深さ0.3m程で、炉とほぼ同軸上の南壁沿いに存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がビニール6袋程度出土している。

V. 調査の記録（2区）

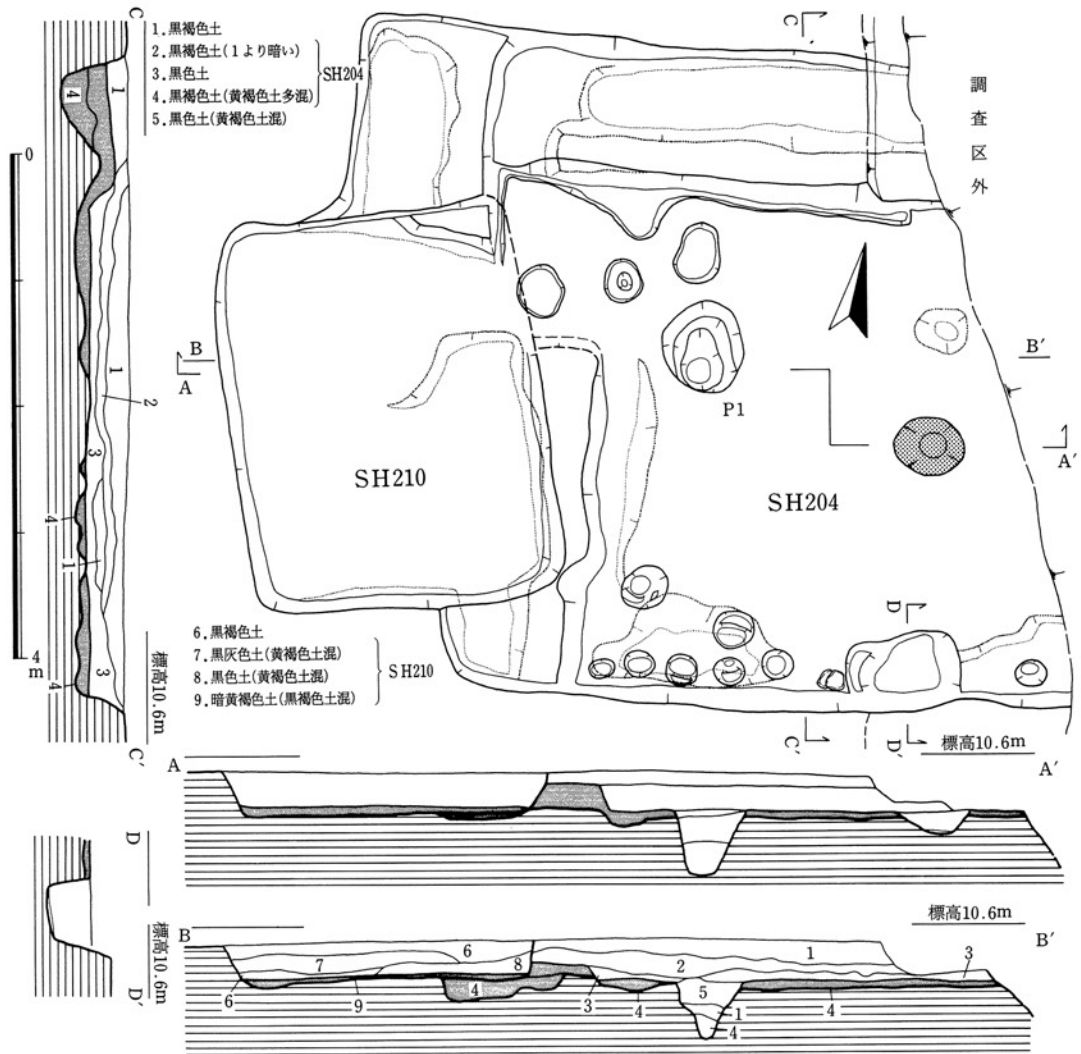


Fig.30 SH204・210堅穴住居実測図 (1/60)

出土遺物 (Fig.31) 2・4は床面直上、1・3は壁際土壌、5は埋土出土。

壺(1) 口径19.6cm、器高13.1cm。口縁部横ナデ、胴部外面上半縦方向のハケ目、同下半カキ削り、胴部内面横方向のハケ目調整。胴部外面下半に黒斑有り。淡褐色。

鉢(2~4) いずれも基本的の外面タタキ後工具によるナデ、口縁部付近ハケ目、内面ハケ目調整。2は口径18.6cm。外底付近に黒斑有り。淡褐色。3は復元口径18.5cm。淡褐色。4は復元口径16.4cm。黒褐色。

手づくね土器(5) 復元口径7.8cm、器高2.6cm。指ナデ調整で暗褐色を呈する。

S H210 竪穴住居 (Fig.30)

BA・BB-20・21グリッドで検出した。検出面の標高は10.5m。S H204と切り合い関係にあり本住居が後出する。平面形は長軸3.1m、短軸2.46m、床面積7.6㎡程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約30cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱及び炉の存在は不明。またベッド状遺構も存在しない。

遺物は埋土中より弥生土器片がビニール袋1袋程度出土しているが、図示できるものはなかった。

S H205 竪穴住居 (Fig.32)

BB・BC-21・22グリッドで検出した。検出面の標高は10.4~10.5m。遺構の大部分を攪乱によって削られる。平面形は長軸4.2m、短軸2.86+αm程度の長方形プランを呈するものと思われ、床面までの深さは5~6cm程と浅い。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間約3.6mの2本柱になると考えられ、柱穴の深さは0.18~0.3m程度である。

住居の中央より西寄りに径0.7m程のピットを検出しているが、特に焼土や炭が確認できていないため炉であるのかどうかは判断し難い。ベッド状遺構はない。

遺物は埋土中より弥生土器がビニール1袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.33) 埋土出土。

鉢 (1) 復元口径19.2cm。口縁部外面横ナデ、同内面横方向のハケ目、胴部

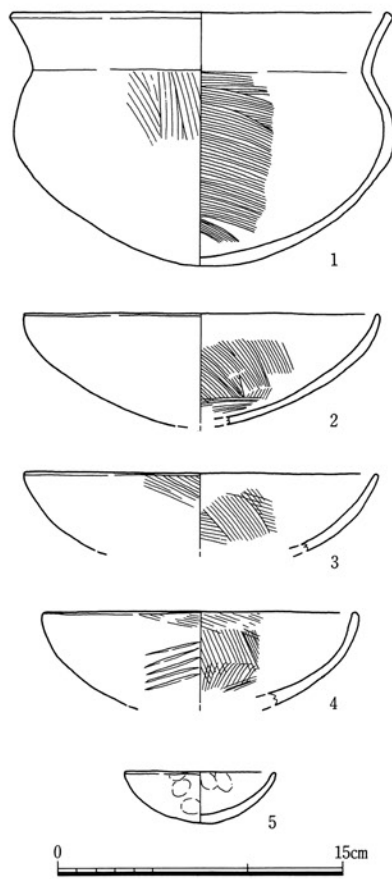


Fig.31 S H204出土遺物実測図 (1/4)

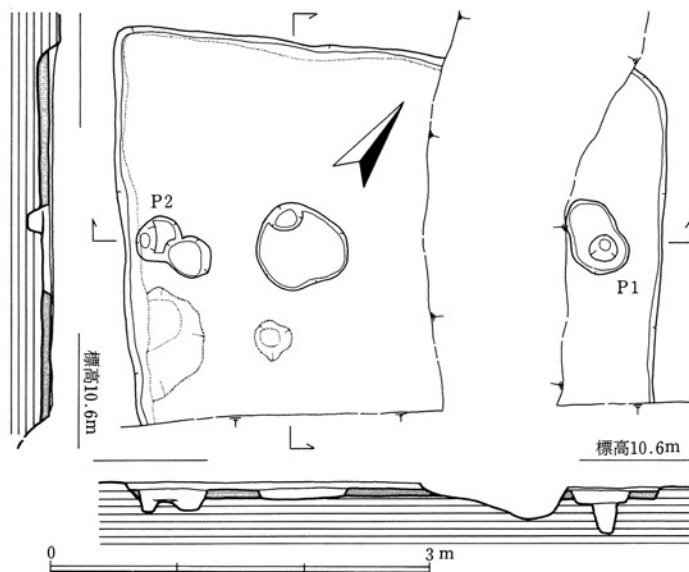


Fig.32 S H205 竪穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録（2区）

外面横方向のハケ目、同内面ナデ調整。淡赤褐色。

S H206 竪穴住居 (Fig. 34)

BD・BE-21・22グリッドで検出した。検出面の標高は10.3~10.4m。SK265と切り合うがその先後関係は不明。また遺構の東側を攪乱によって削られる。平面形は径5.6m、床面積24.8m²程度の円形プランを呈すると思われる。床面までの深さは約10~15cmで、簡単に整地する程度

で特に貼床は施していない。主柱は柱間1.8~2.1mの5本柱で、柱穴の深さは0.5~0.78m程度である。住居のほぼ中央には長軸0.95m、短軸0.8mの平面方形の土壌を検出している。土壌内には深さ0.3m程の2個のピットが存在するが、これは棟持柱の柱穴になるのか。また土壌内には炭が堆積していたが炉になるのか。こ

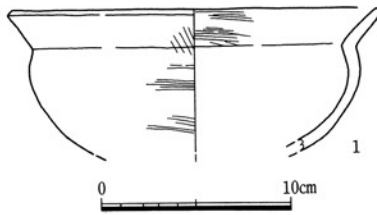


Fig. 33 S H205出土遺物実測図 (1/4)

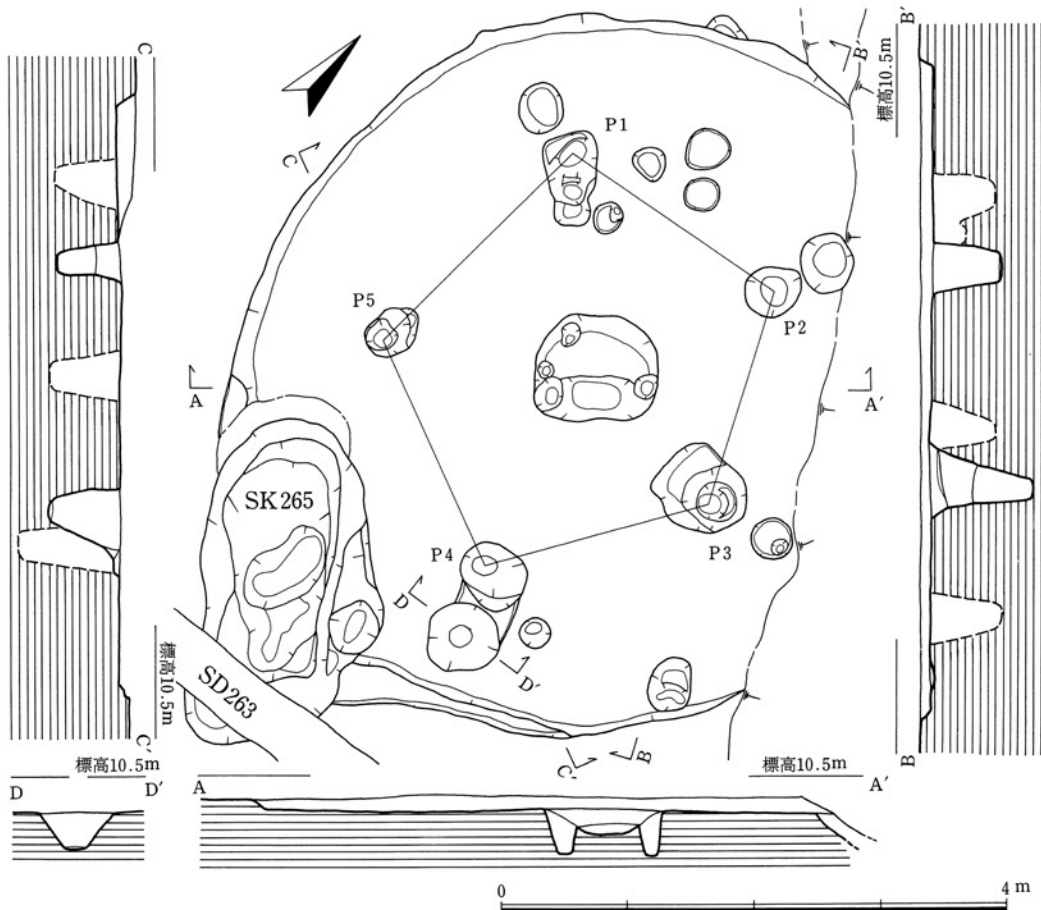


Fig. 34 S H206 竪穴住居実測図 (1/60)

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

の他P 4の側には径0.45m、深さ0.3m程度の屋内土壌が設けられている。

遺物は埋土及び柱穴より弥生土器、石器等がビニール3袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.35) いずれも埋土出土。

甕 (1) 口縁部破片で、端部に刻目を施した突帯を1条巡らす。復元口径20.2cm。内外面横ナデ調整。淡黒褐色。

石器 (2・3) 2は扁平片歯石斧で、体部上半を欠損する。残存長4.0cm、最大幅3.5cm、重量26.0g。3は砥石で全面が使用される。最大長6.5cm、最大幅2.1cm、重量24.9g。

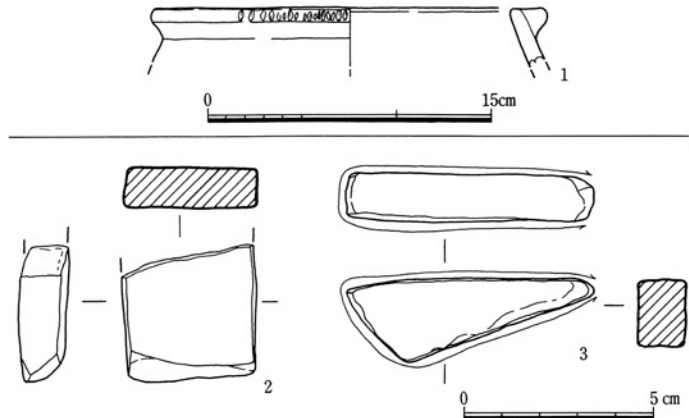


Fig.35 SH206出土遺物実測図 (1/4・1/2)

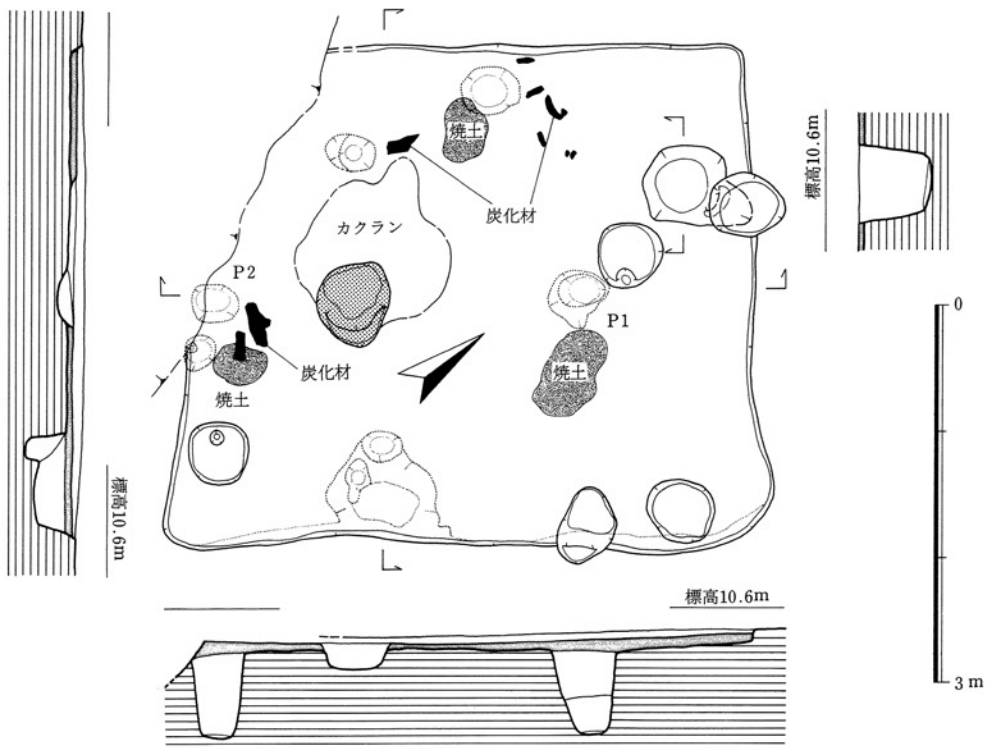


Fig.36 SH207竪穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録（2区）

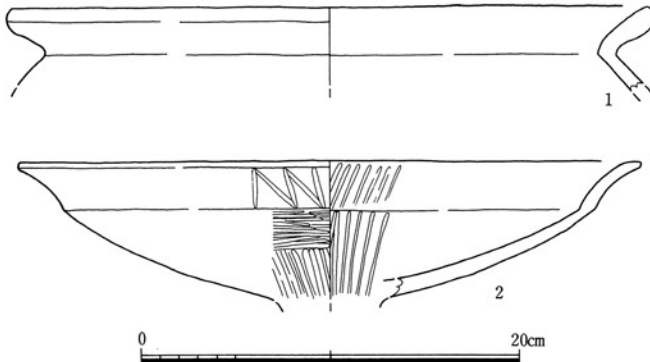


Fig.37 SH207出土遺物実測図 (1/4)

SH207竪穴住居 (Fig.36)

BC・BD-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は10.4m。遺構の東側隅を攪乱によって削られる。平面形は長軸4.4m、短軸3.9m、床面積17.2㎡の長方形プランを呈し、床面までの深さは4～5cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床

を施す。支柱は柱間3.0mの2本柱で、柱穴の深さは0.68m程度である。支柱等の配置より西側にベッド状遺構が存在する可能性があるが、攪乱に削られているために不明である。住居の中央より西寄りに約18cm掘り込まれた炉が設けられている。また炉とほぼ同軸上の南壁沿いに、深さ0.3mの2段掘り状の壁際土壌が存在する。この他P1の北側には径0.6m、深さ0.6m程度の屋内土壌がある。また床面において焼土及び炭化材を検出しており、本住居が焼失住居であった可能性がある。

遺物は埋土中より弥生土器等がビニール1袋程度出土している。

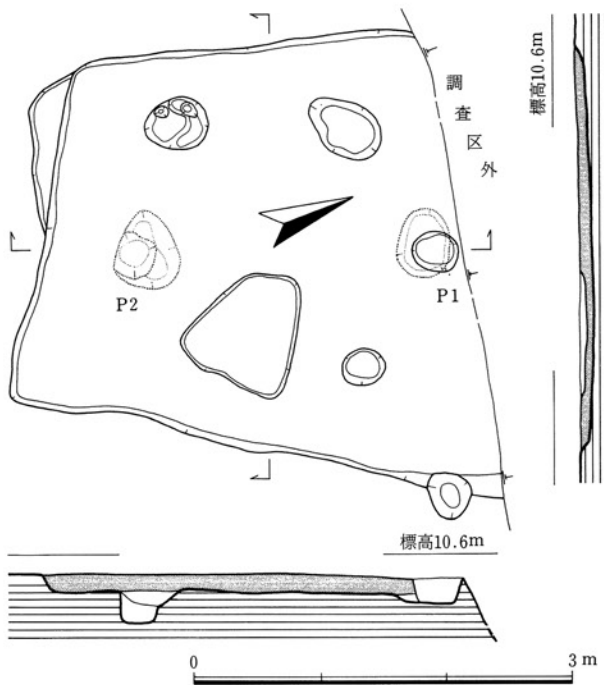


Fig.38 SH208竪穴住居実測図 (1/60)

出土遺物 (Fig.37) 1は貼床、2は埋土出土。

甕 (1) 口縁部破片で、復元口径33.4cm。内外面横ナデ調整で明褐色を呈する。

高坏 (2) 坏部破片で、復元口径32.2cm。基本的に内外面ヘラミガキ調整。口縁部外面には鋸歯文状の暗文を施す。淡赤褐色。

SH208竪穴住居 (Fig.38)

BC・BD-23・24グリッドで検出した。検出面の標高は10.4m。SH209と切り合い関係にあり本住居が後出する。また北側是水田化により削平される。平面形は長軸

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

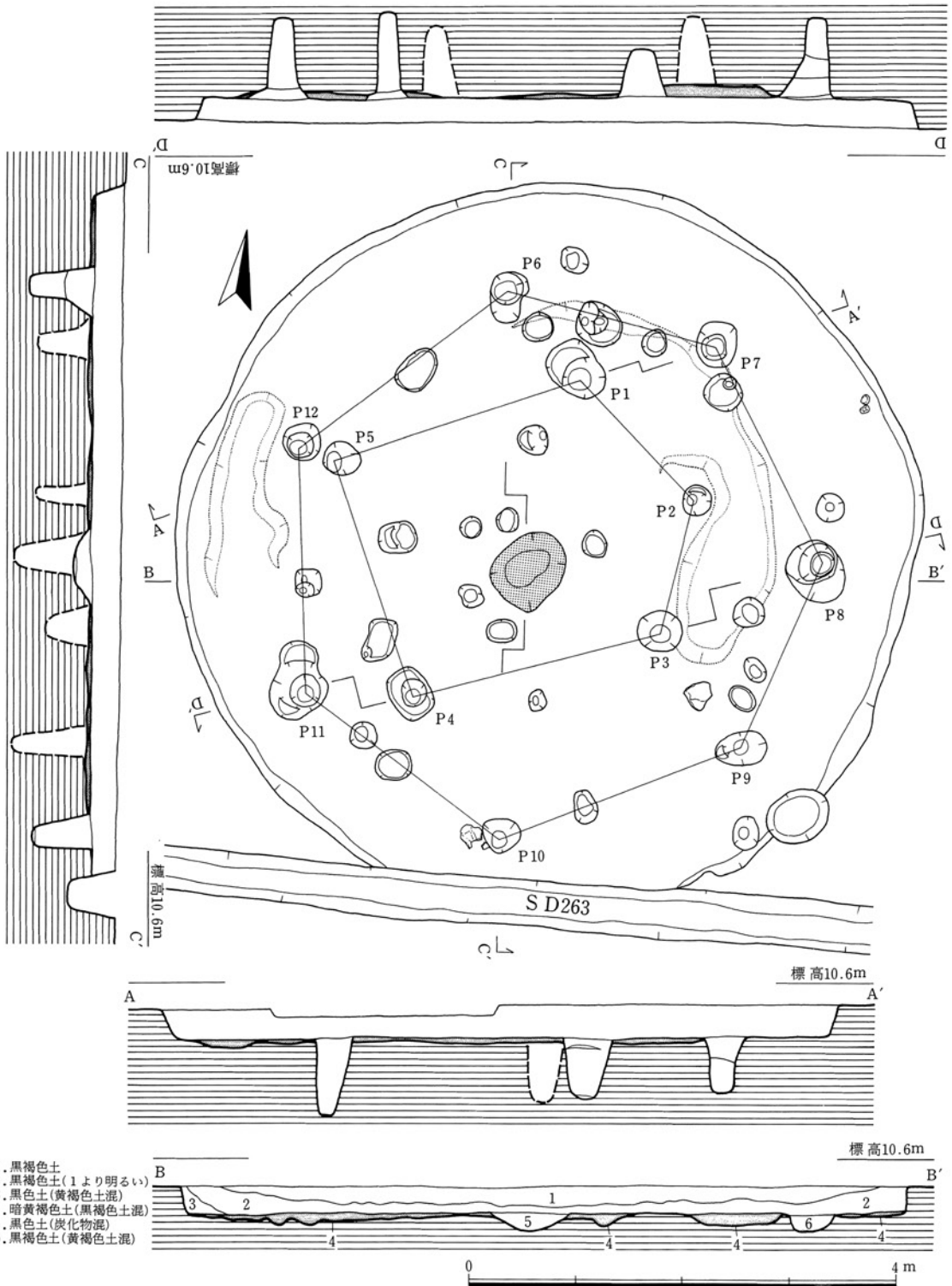


Fig.39 SH209竪穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録 (2区)

3.3+ α m、短軸3.28mの長方形プランを呈するものと思われる。床面まで削平されていた。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間2.4mの2本柱と思われ、柱穴の深さは0.2~0.3m程度である。炉及びベッド状遺構は確認していない。

遺物は貼床及び検出面より弥生土器がビニール1袋程度出土しているが、図示できるものはなかった。

S H209竪穴住居 (Fig.39)

BO・BE-23~25グリッドで検出した。検出面の標高は10.3~10.4m。SH208、SD263に切られる。平面形は径6.8m、床面積36.3m²の円形プランを呈し、床面までの深さは約28cmである。床面には部分的に薄く黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間1.5~2.4

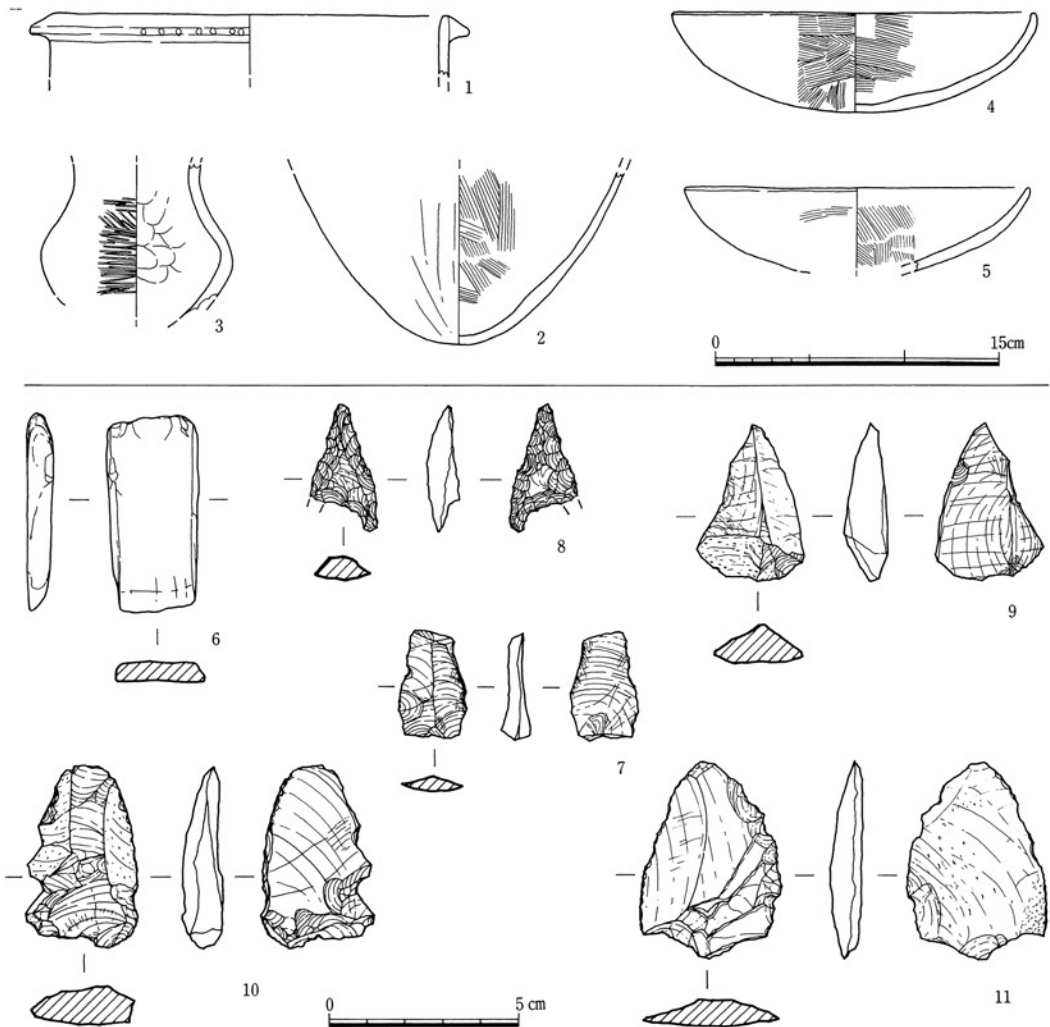


Fig.40 S H209出土遺物実測図 (1/4・1/2)

mの5本柱と7本柱の両方が考えられるが、立て替えが行なわれた可能性がある。柱穴の深さは0.45～0.75m程度である。住居のほぼ中央には約15cm掘り込まれた炉が設けられている。

遺物は埋土中及び床面直上より弥生土器、石器等がビニール3袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.40) すべて埋土中出土。

甕(1・2) 1は口縁部破片で刻目を施した突帯を1条巡らす。復元口径20.4cm。内外面横ナデ調整。褐色。2は底部破片。外面カキ削り、内面ハケ目調整。外面に黒斑あり。暗褐色。

壺(3) 胴部から頸部にかけての破片。外面横方向のヘラミガキ、内面指ナデ調整。褐色。

鉢(4・5) いずれも基本的に口縁部横ナデ、他はハケ目調整。4は口径19.0cm、器高5.2cm。外面に黒斑有り。褐色。5は復元口径18.1cm。外底付近に黒斑有り。褐色。

石器(6～11) 6は扁平片歯石斧。最大長5.3cm、最大幅2.4cm、重量15.2g。7は黒曜石製の削器。最大長2.8cm、最大幅1.8cm、重量2.1g。8は黒曜石製の石鏃。最大長3.4cm、最大幅1.7cm、重量2.8g。9～11は尖頭器。9は黒曜石製で最大長4.2cm、最大幅2.8cm、重量7.4g。10は黒曜石製で最大長4.8cm、最大幅2.9cm、重量14.0g。11はサヌカイト製で有舌。最大長5.2cm、最大幅3.4cm、重量13.1g。

S H211竪穴住居 (Fig.41)

BC・BD-25・26グリッドで検出した。検出面の標高は10.4m。遺構の北側は水田化のため削平される。焼失住居で、焼土及び炭化材と共に大量の土器が出土した。平面形は長軸4.6m、短軸2.64+ α mの長方形プランを呈すると思われるが、その全貌は知り得ない。床面までの深さは約30cmで、床面には暗褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。主柱は柱間2.7mの2本柱になると考えられ、柱穴の深さは0.4m程度である。主柱間には深さ15cm程のピットを検出しているが、位置的に炉になる可能性がある。ベッド状遺構は東壁、西壁沿いに設けられ、西壁沿いのベッドは内側を低く削り出し、外側を溝状に掘り込んでその上部に黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成しているのに対し、東壁沿いのベッドは貼り付けのみで形成している。また床面からの高さ(東側約10cm、西側15cm)にも若干の違いがあり、機能的に違いがあったのかもしれない。それは遺物の出土状況(東側ベッドには遺物がないのに対し西側ベッドには遺物が集中する)から西壁沿いのベッドが、土器等の設置場所として使用されていたと考えられることから推察できる。また炉の可能性があるピットと同軸上の南壁沿いには深さ15cm程の壁際土壌が存在する。

遺物はほとんどが床面直上の状態で弥生土器等がコンテナ3箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.42) 1～7・10～25・28～37・41～50は床面直上、他は埋土出土。

甕(1～20) 1～15は口縁部から胴部にかけての破片。基本的に口縁部外面から胴部外面上半にかけて平行タタキ後、縦方向のハケ目調整、胴部外面下半は縦方向のカキ削り、口縁部

V. 調査の記録（2区）

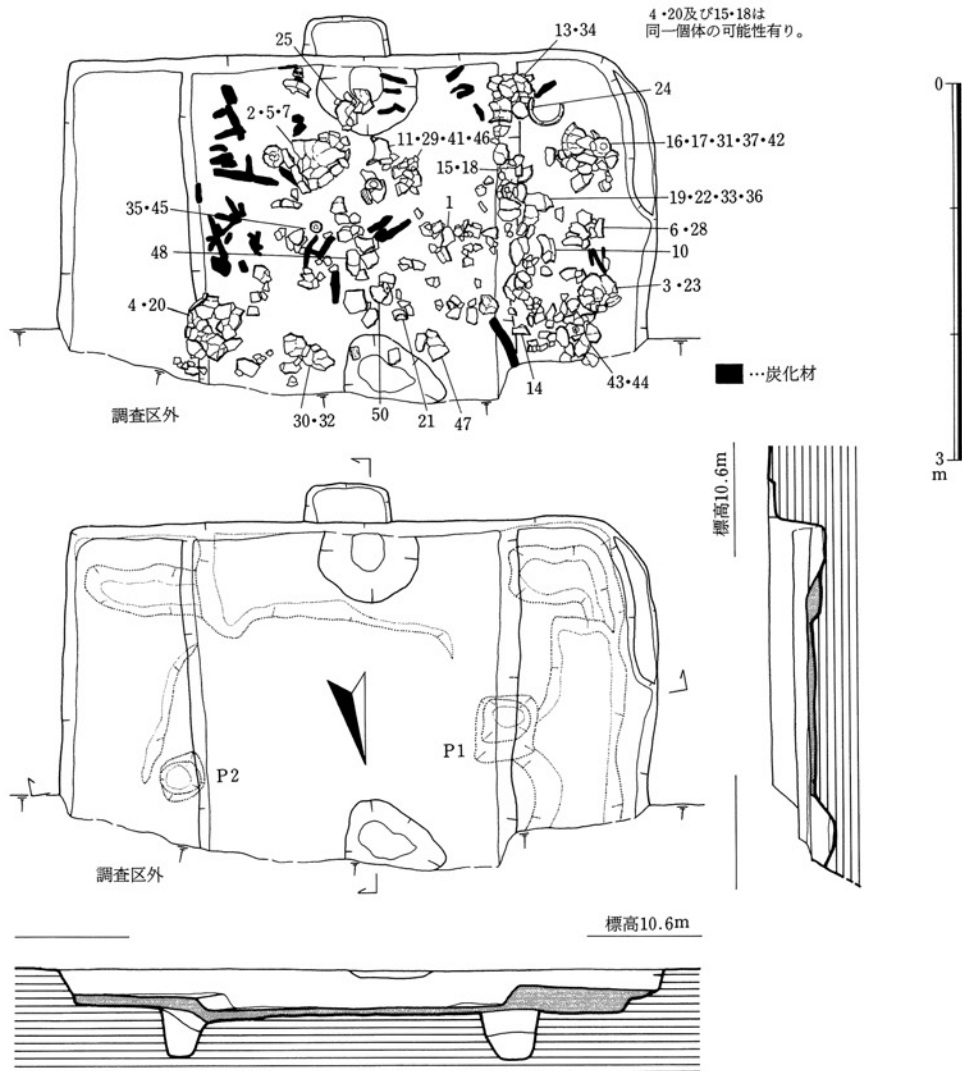


Fig.41 SH211竪穴住居実測図（1/60）

内面横方向のハケ目、胴部内面縦・斜方向のハケ目、もしくは工具による強いナデ調整を行う。1は復元口径28.4cm。茶褐色。2は口径27.0cm。淡黄褐色。3は口径26.3cm。褐色。4は口径25.3cm。淡茶褐色。外面に煤が付着する。5は復元口径27.0cm。外面に煤が付着する。淡黄褐色。6は復元口径25.2cm。茶褐色。7は口径22.6cm。淡褐色。8は復元口径23.4cm。外面に煤が付着する。褐色。9は復元口径23.4cm。淡褐色。10は復元口径21.1cm。外面に黒斑有り。淡褐色。11は口径19.4cm。茶褐色。12は口径17.7cm。外面はハケ目後ナデ調整。胴部中位に黒斑有り。褐色。13は口縁部と胴部の境に刻目を施した突帯を1条巡らす。復元口径33.0cm。淡褐色。14は口縁端部に刻目を施す。復元口径27.2cm。淡褐色。15は口縁端部に刻目を施し、口縁

部と胴部の境に突帯を1条巡らす。口径27.0cm。淡褐色。
 16は台付甕の台部欠損品。口径17.4cm、残存器高17.5cm。口縁部横ナデ、胴部外面上半平行タタキ、同下半カキ削り、胴部内面工具による強いナデ調整。淡赤褐色。17~20は胴部から底部にかけての破片。基本的に胴部外面上半平行タタキ、同下半縦方向のカキ削り、胴部内面縦・斜方向のハケ目調整を行う。17は褐色。18は外面に煤が付着する。褐色。19は胴部外面に黒斑有り。褐色。20は淡橙褐色。

脚台 (21~23) いずれも外面ハケ目後横ナデ、内面工具によるナデ調整。21は裾部径12.1cm。淡褐色。22は裾部径13.8cm。淡褐色。23は裾部径14.2cm。褐色。

壺 (24~30) 24は口縁端部に刻目を施し、頸部に断面三角形の突帯を1条巡らす。口径21.5cm、器高37.7cm。外面は頸部から口縁部にかけてヘラナデ、胴部上半はタタキ後縦方向のハケ目、同下半縦方向のカキ削り調整。内面は工具によるナデ調整。外面に煤付着。淡橙褐色。25は頸部に断面三角形の突帯を1条巡

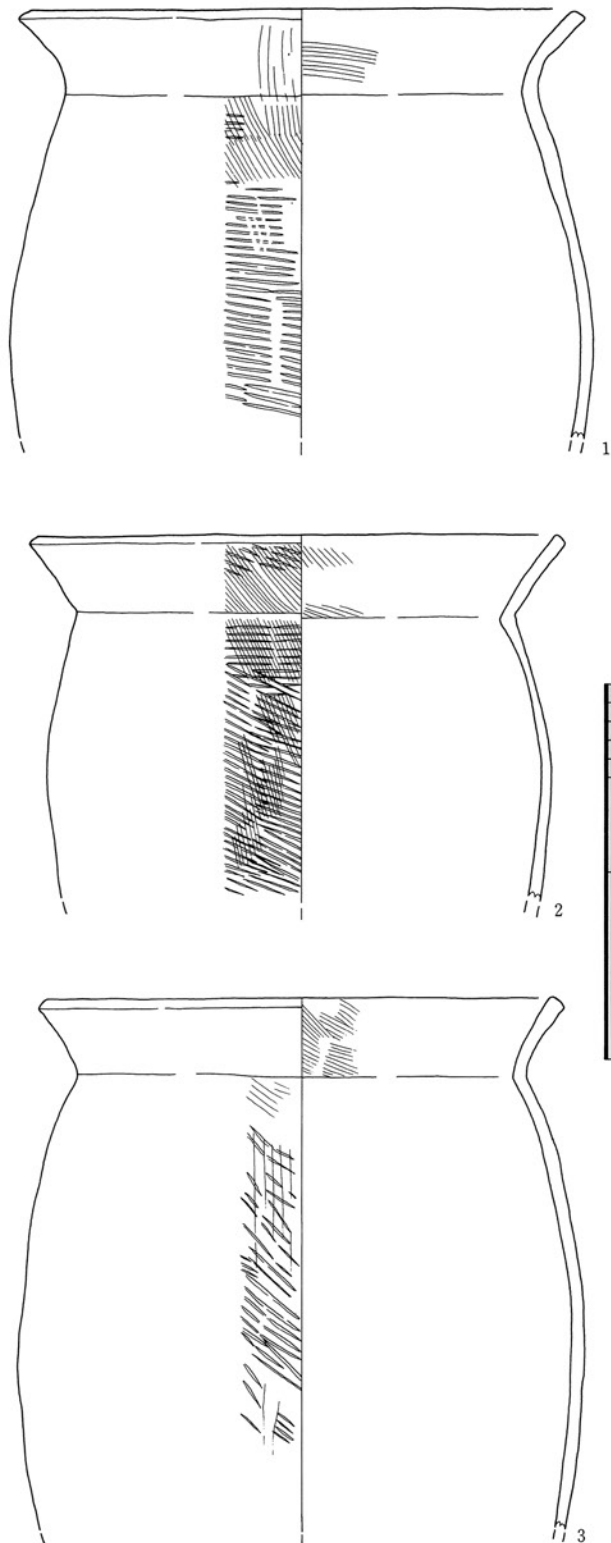


Fig.42 S H211出土遺物実測図① (1/4)

V. 調査の記録 (2区)

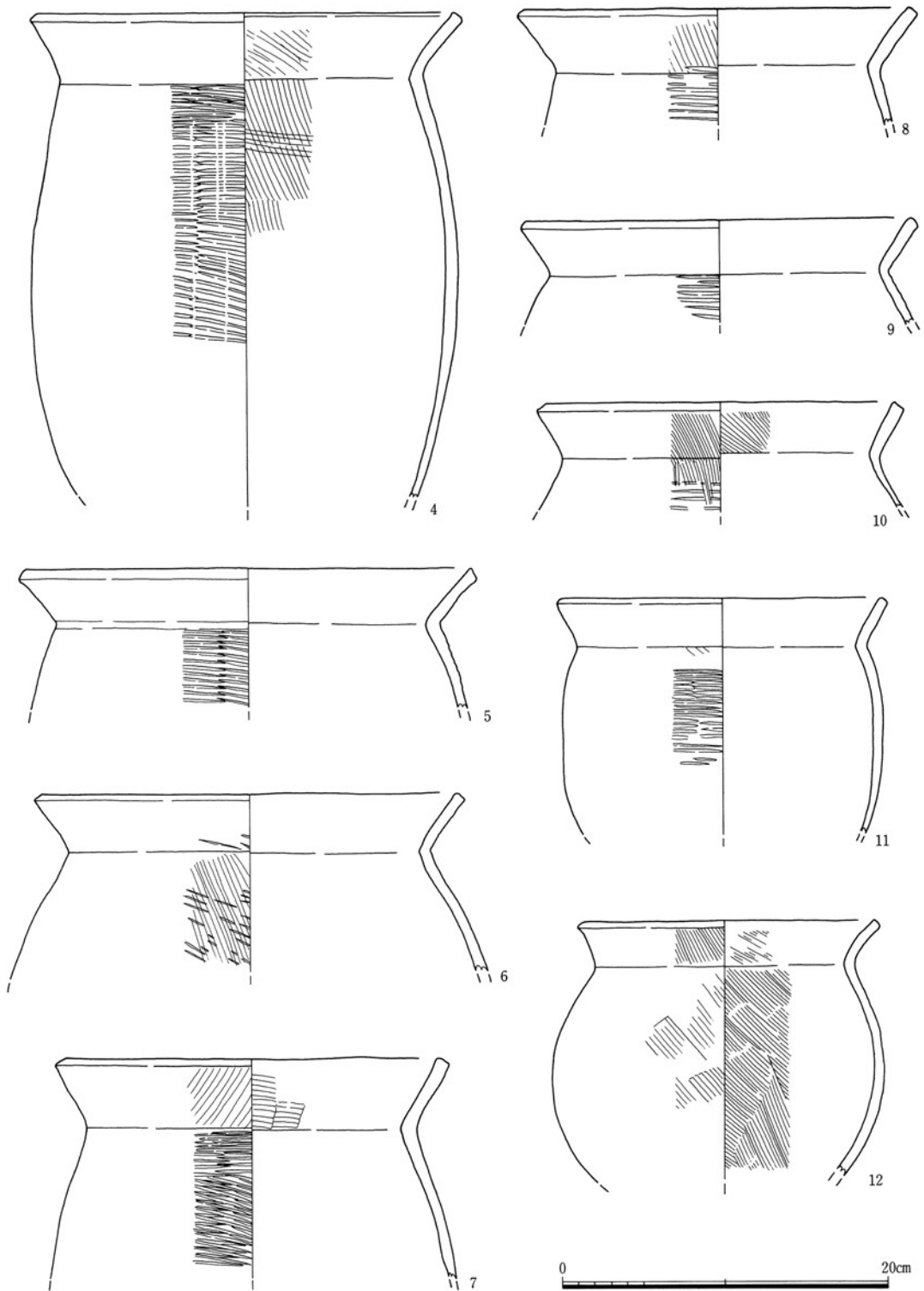


Fig.43 SH211出土遺物実測図② (1/4)

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

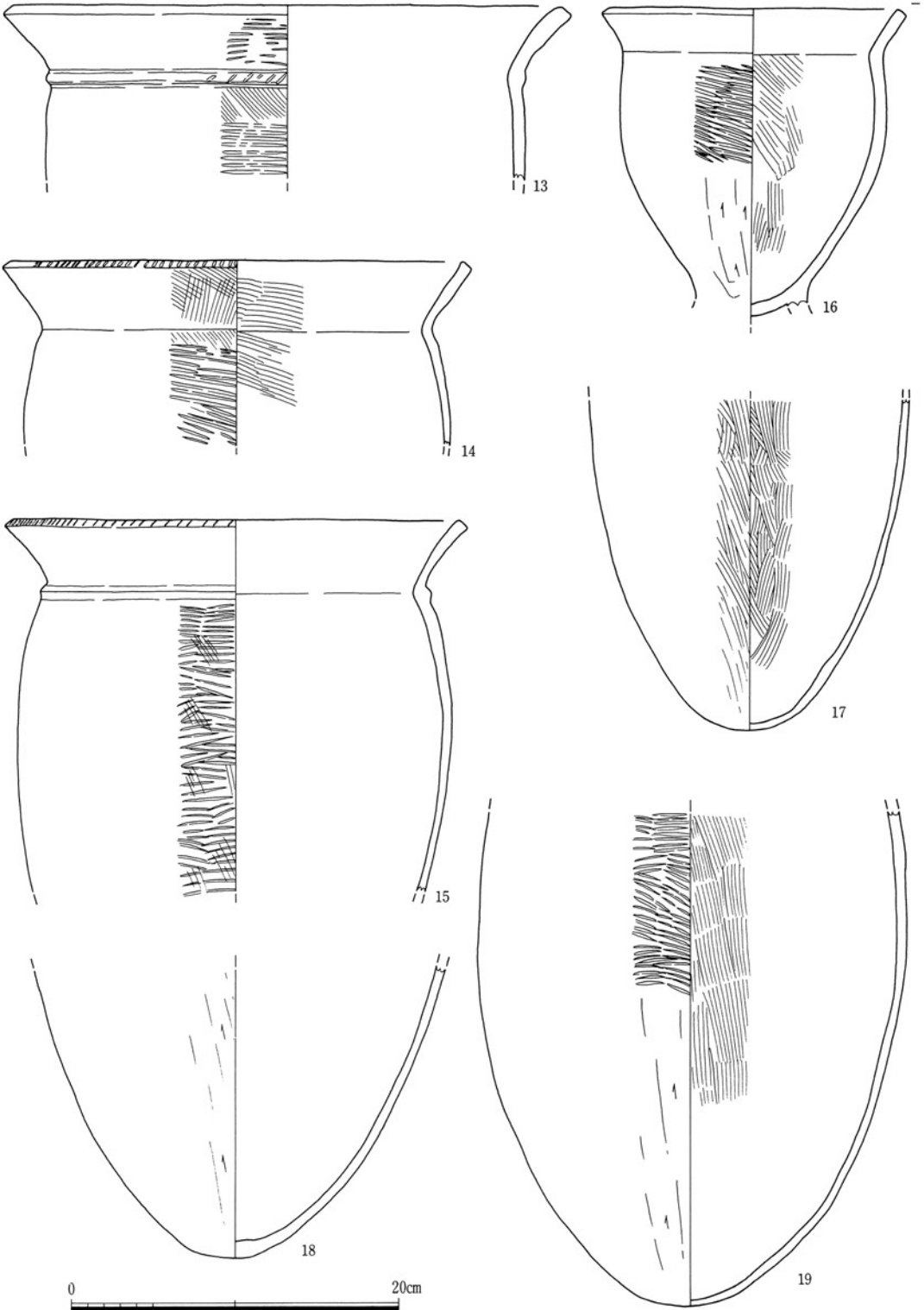


Fig.44 SH211出土遺物実測図③ (1/4)

V. 調査の記録 (2区)

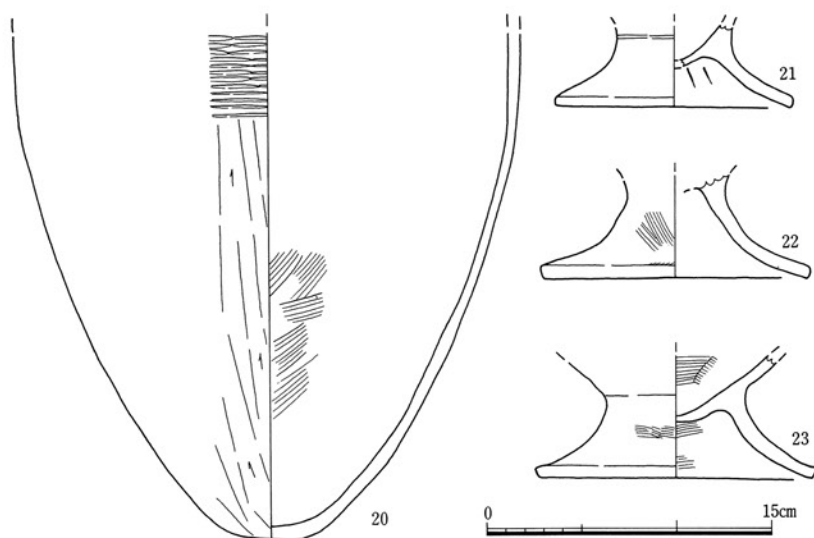


Fig.45 SH211出土遺物実測図④ (1/4)

らず。復元口径
22.8cm。外面は
口縁部ハケ目、
頸部ヘラ状工具
によるナデ、胴
部上半タタキ後
縦方向のハケ
目、同下半縦方
向のカキ削り調
整。内面は口縁
部から頸部にか
けて横方向のヘ
ラ状工具による
ナデ、胴部は縦・

斜方向のハケ目調整。胴部中に黒斑有り。褐色。26は口径13.4cm。口縁部横ナデ、胴部上半外面ハケ目、下半カキ削り、胴部内面ハケ目調整。外面に煤附着。褐色。27は復元口径13.2cm。内外面ハケ目調整。明褐色。28は口径16.1cm、器高31.8cm。外面は口縁部から頸部にかけてヘラナデ、胴部上半平行タタキ、同下半縦方向のカキ削り調整。内面は工具によるナデ調整。橙褐色。29は口縁端部に刻目を施し、頸部に刻目（ハケ目原体を使用したと思われる）を施した突帯を1状巡らす。復元口径23.8cm。外面は口縁部から頸部にかけてハケ目、胴部上半はタタキ後ハケ目調整。内面は口縁部から頸部にかけてハケ目、胴部は工具によるナデ調整。褐色。30は口径13.4cm。口縁部横ナデ、胴部外面上半タタキ後ハケ目、同下半縦方向のカキ削り、胴部内面工具による強いナデ調整。淡褐色。

鉢 (31~37) 31~35は基本的に外面上半タタキ、同下半カキ削り（一部上半まで及ぶ）、内面ハケ目調整を行う。31は口径22.0cm、器高14.7cm。褐色。32は復元口径26.0cm。褐色。33は復元口径31.6cm。外面に黒斑有り。褐色。34は復元口径17.0cm。外面に黒斑有り。淡橙褐色。35は復元口径19.9cm。外面に黒斑有り。淡黄褐色。36は復元口径18.4cm、器高8.3cm。内外面ナデ調整。褐色。37は復元口径15.1cm、器高8.3cm。内外面ナデ調整。褐色。

手づくね土器 (38~40) いずれも内外面指ナデ調整。38は口径8.4cm、器高4.4cm。外面に黒斑有り。茶褐色。39は口径8.1cm、器高3.3cm。褐色。40は口径8.0cm、器高3.3cm。外面に黒斑有り。淡褐色。

高坏 (41~45) 41~44は坏部破片で、基本的に内外面ハケ目調整を行う。41は復元口径30.0cm。内面に放射状の暗文を施す。外面に黒斑有り。淡橙褐色。42は復元口径33.6cm。内面放射

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

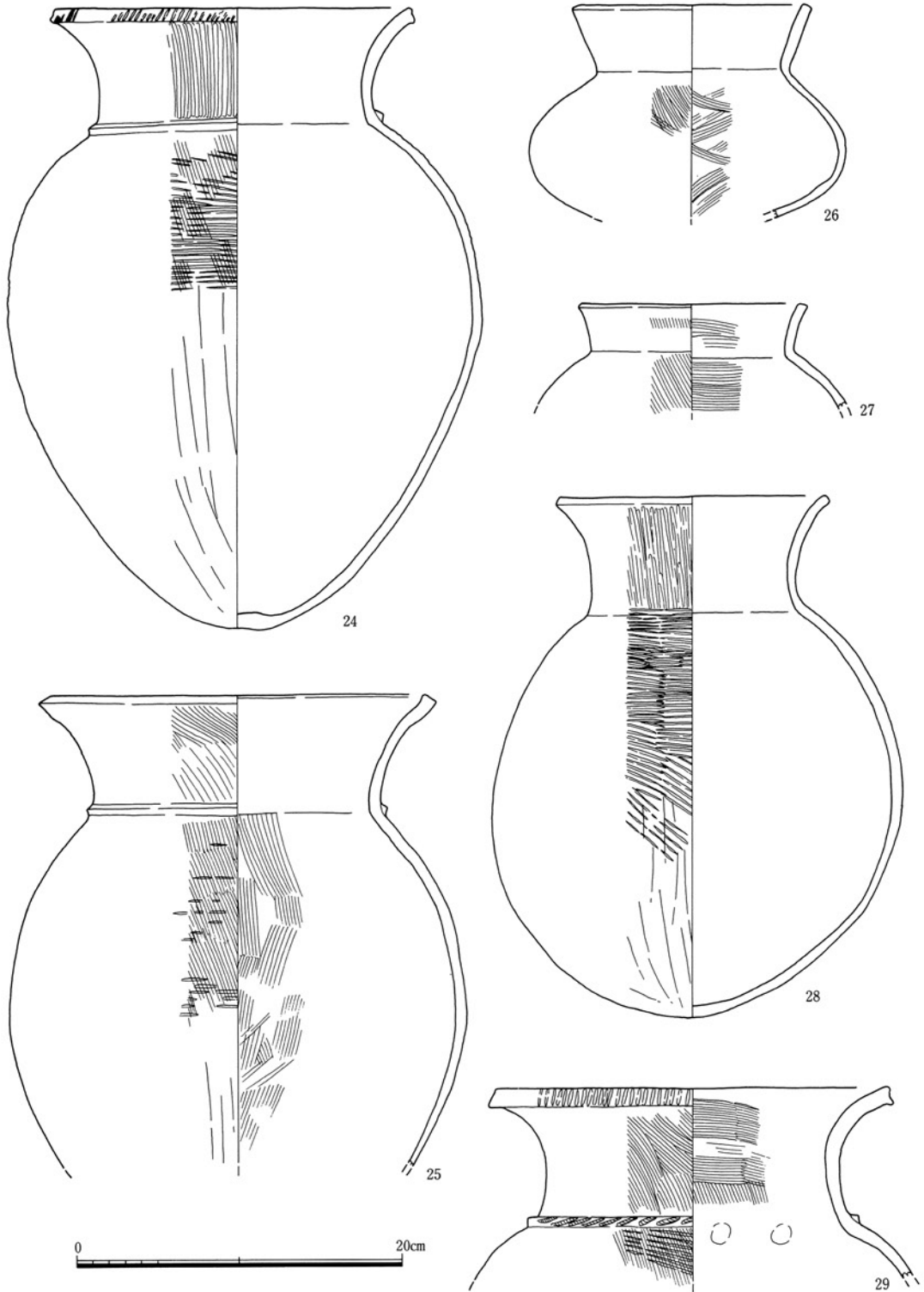


Fig.46 SH211出土遺物実測図⑤ (1/4)

V. 調査の記録 (2区)

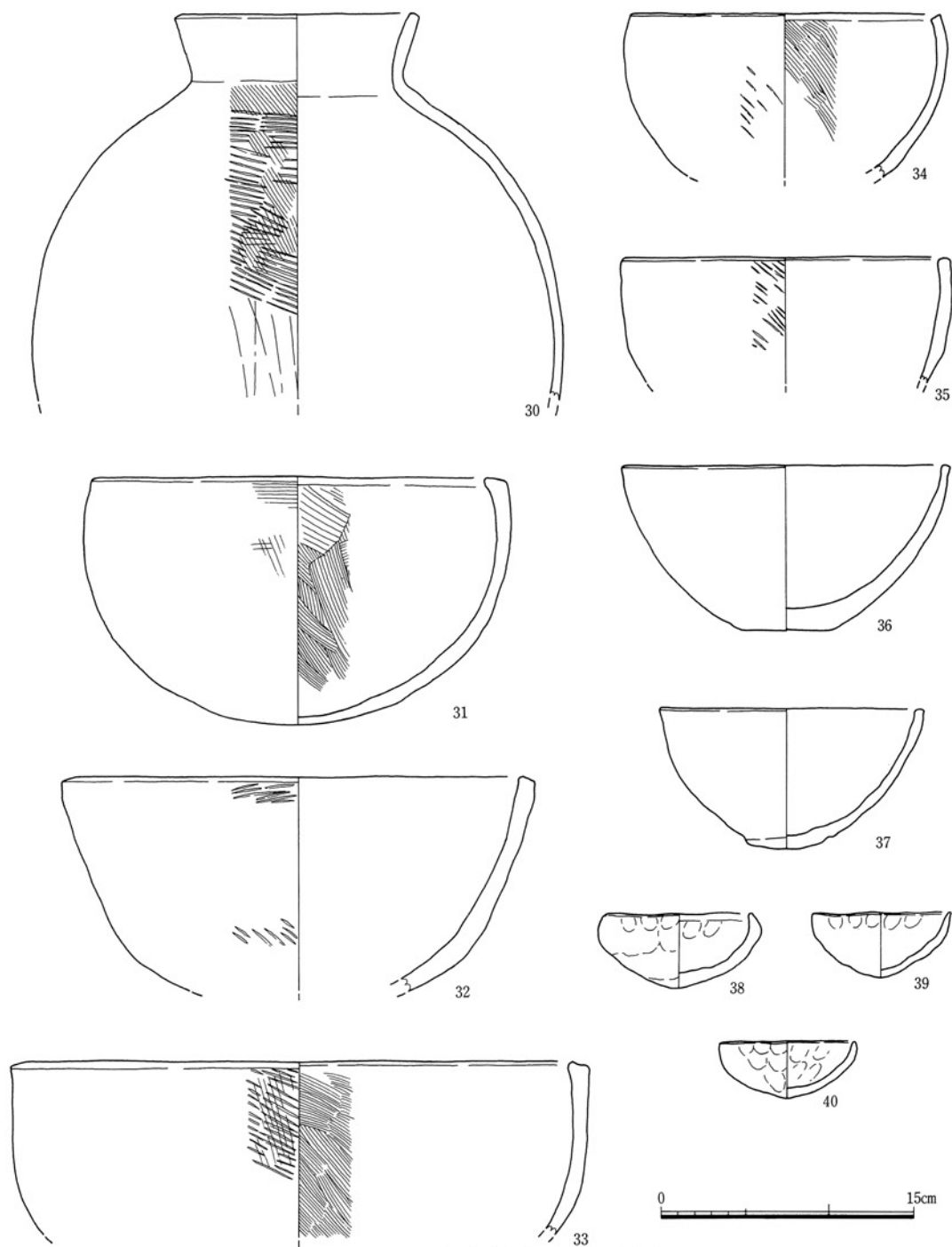


Fig.47 SH211出土遺物実測図⑥ (1/4)

状のヘラミガキ調整。口縁部外面に鋸歯文状の暗文を施す。淡赤褐色。43は復元口径35.6cm。
 淡橙褐色。44は内面放射状のヘラミガキ調整。口縁部外面に鋸歯文状の暗文を施す。淡赤褐色。

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

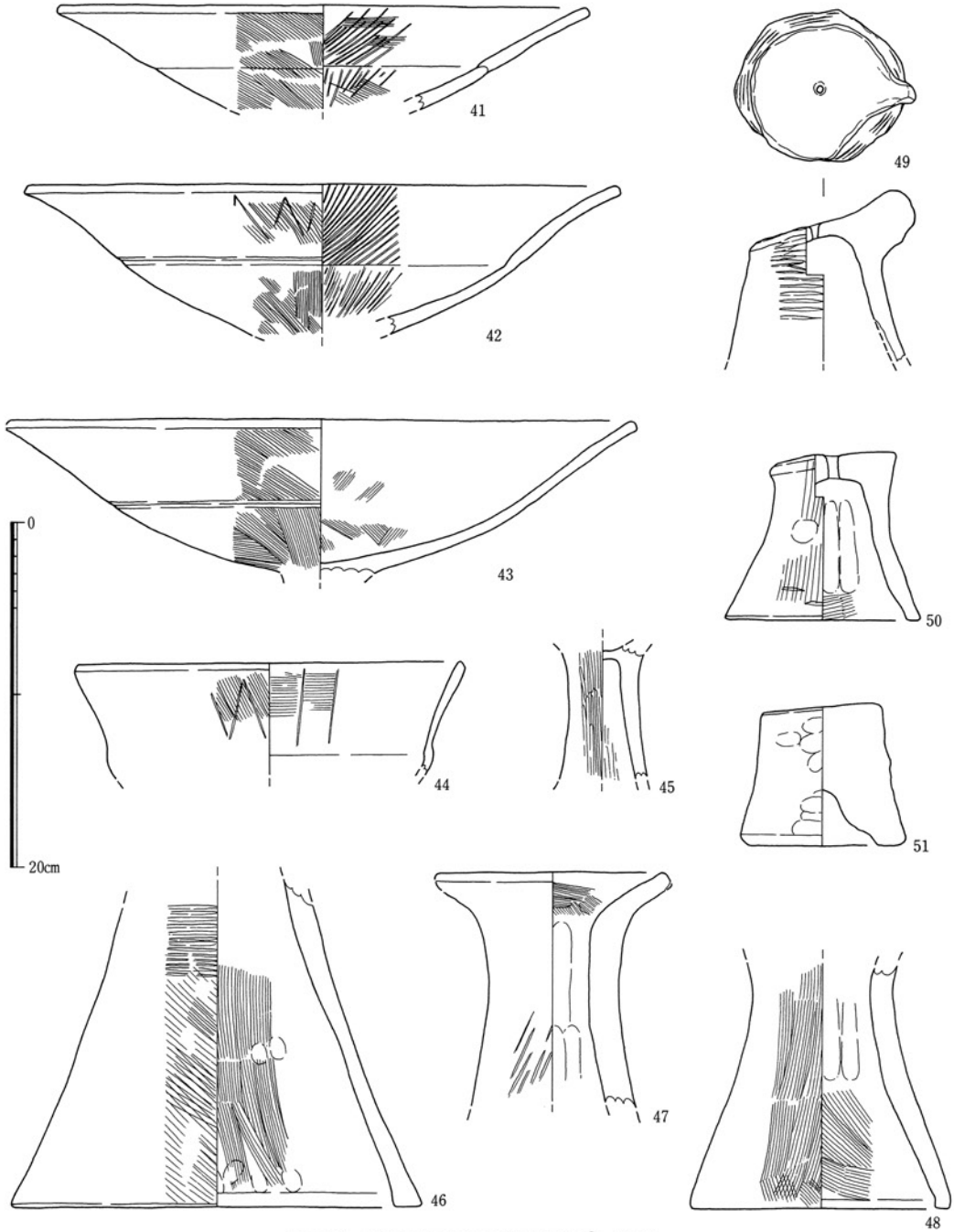


Fig.48 SH211出土遺物実測図㉗ (1/4)

45は脚部破片。外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。淡赤褐色。

器台 (46~48) 46は受部破片。復元受部径12.7cm。口縁部横ナデ及びハケ目、外面タタキ後ナデ、内面ナデ調整。褐色。47・48は裾部破片。47は復元裾部径23.4cm。外面タタキ後工具

V. 調査の記録（2区）

によるナデ、内面縦方向のハケ目調整。褐色。48は復元裾部径14.6cm。外面縦方向のハケ目、内面上半ナデ、同下半ハケ目調整。淡褐色。

支脚（49～51） 49は受部の一端をつまみあげるタイプで、受部径8.9cm。受部のほぼ中央に穿孔を施す。外面平行タタキ、内面ナデ、受部上面はタタキ後ナデ調整。褐色。50は完存品で受部中央に穿孔を施す。受部径7.2cm、裾部径11.1cm、器高9.4cm。外面50キ後縦方向のハケ目、内面ナデ調整。淡橙褐色。51は完存品で受部径6.7cm、裾部径8.5cm、器高7.9cm。内外面指ナデ調整。淡褐色。

S H212竪穴住居（Fig.49）

B G・B H-23～25グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。S K266・267、S H222 と切り合い関係にありいずれも本住居が後出する。平面形は長軸8.24m、短軸4.94m、床面積40.7 m²程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約20cmである。床面には部分的にはあるが黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間3.8mの2本柱で、柱穴の深さは0.6～0.7 m程度である。住居の中央よりやや西寄りには約8cm掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は東壁から北壁にかけてと西壁から北壁にかけて、北壁の中央部が1.8m程空く程度にそれぞれL字形に設けられる。基本的に内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで貼床と同じように黒褐色土と黄褐色土を叩きしめて形成している。床面からの高さは15cm程である。ベッド状遺構の壁沿いには壁溝が認められる。また南壁沿いには径20cm、深さ10cm程度のピット群（床面下層に掘り込みが行なわれる）を壁沿いに並んだように検出している。さらに炉と同じ軸上の南壁沿いには深さ0.25m程の壁際土壌が存在する。この他、P 2と炉の北側に床面下層において、平面形が長軸2.1m、短軸1.6mの隅丸長方形の土壌状の掘り込みを確認している。これは本住居に切られる別遺構とも考えられるが、軸がほぼ同一で、住居の掘方を意識しているようにもとれる。現段階では判断し難いが、住居を構築するにあたって、何らかの意味をもって掘られた土壌であるのかもしれない。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器、石器等がコンテナ2箱程度出土している。

出土遺物（Fig.50～54） 1・2・5・10～14・16・17・20・23～26・33～35は床面直上、3・19は壁際土壌、他は埋土出土。

甕（1～9） いずれも基本的に外面上半タタキ後ハケ目、同下半縦方向のカキ削り、内面ハケ目調整を行う。1は復元口径26.0cm。内面暗褐色、外面褐色。2は口径26.0cm。褐色。3は口径24.2cm、器高37.9cm。内面工具によるナデ調整。褐色。4は復元口径22.6cm。褐色。5は復元口径17.2cm。外面に黒斑有り。淡褐色。6は復元口径16.2cm。外面に黒斑有り。内面淡褐色、外面暗褐色。7は口縁端部に刻目を施し、口縁部と胴部の境に突帯を1条巡らす。復元口径35.2cm。内面ナデ調整。淡褐色。8は内面工具によるナデ調整。外面に煤付着。褐色。9

V. 調査の記録（2区）

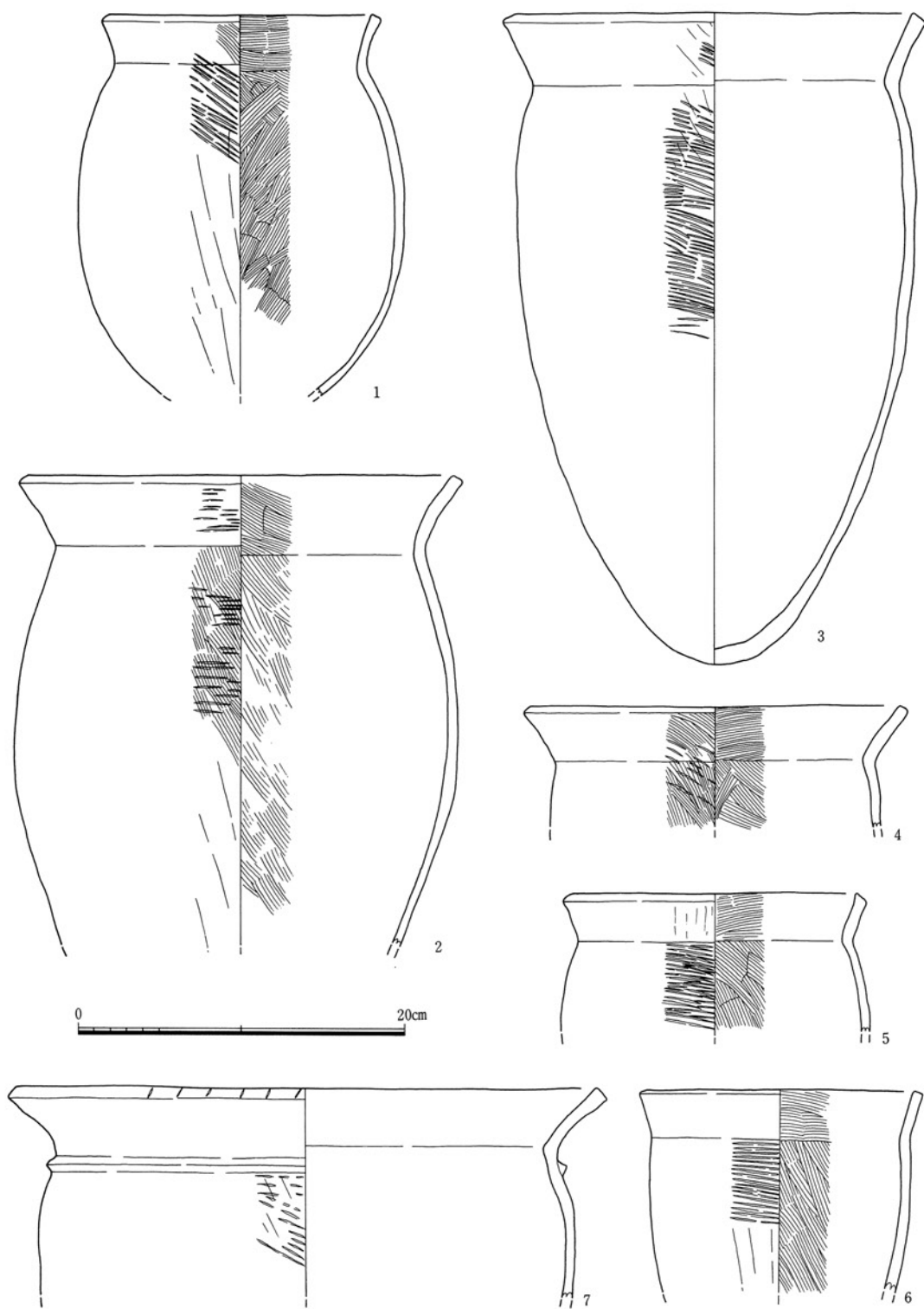


Fig.50 SH212出土遺物実測図① (1/4)

は内面工具によるナデ調整。胴が張り壺になる可能性がある。淡褐色。

脚台 (10) 台付甕の台部と思われる。裾部径13.7cm。内外面ハケ目調整。淡褐色。

壺 (11~18) 11・12は口縁部から胴部上半にかけての破片。基本的に口縁部横ナデ、胴部外面タタキ後部分的にカキ削り、内面ハケ目調整を行う。11は復元口径16.1cm。淡褐色。12は復元口径14.6cm。胴部外面に黒斑有り。明褐色。13は広口壺の口縁部破片で、復元口径20.8cm。口縁部内面横ナデ、同外面縦方向のハケ目調整で上半のみナデ消す。淡褐色。14は復元口径13.2cm、器高13.8cm。胴部外面上半平行タタキ、同下半縦方向のカキ削り、胴部内面工具による強いナデ調整。胴部外面から外底にかけて黒斑有り。淡褐色。15は復元口径13.4cm。口縁部横ナデ、胴部外面上半ハケ目、同下半横方向のヘラミガキ、胴部内面工具によるナデ調整。淡褐色。16は復元口径17.2cm。口縁部ハケ目、胴部外面タタキ後ハケ目、同内面工具による強いナデ調整。淡褐色。17は復元口径17.0cm。口縁部横ナデ、他は工具によるナデ調整。淡褐色。18は胴部破片。胴部外面上半ハケ目、同下半ヘラ状工具によるナデ、胴部内面上半ナデ、同下半ハケ目調整。胴部外面下位に黒斑有り。赤褐色。

鉢 (19~27) 19は復元口径25.3cm。内外面ハケ目調整。淡褐色。20は復元口径26.8cm。外面タタキ後工具によるナデ、内面ハケ目調整。茶褐色。21は復元口径17.0cm。外面タタキ後工具によるナデ、内面ハケ目調整。外面に黒斑有り。褐色。22は復元口径15.2cm。内外面ハケ目調整。明褐色。23はほぼ完存品で口径14.2cm、底径4.4cm、器高8.1cm。外面タタキ後ナデ、内面ナデ調整。褐色。24は口径10.8cm、器高6.9cm。口縁部横ナデ、他はハケ目後ナデ調整。明褐色。25は復元口径14.1cm。内外面指ナデ調整。褐色。26は復元口径10.2cm、器高4.6cm。内外面指ナデ調整。褐色。27はほぼ完形で口径9.0cm、器高5.2cm。外面タタキ後指ナデ、内面指ナデ

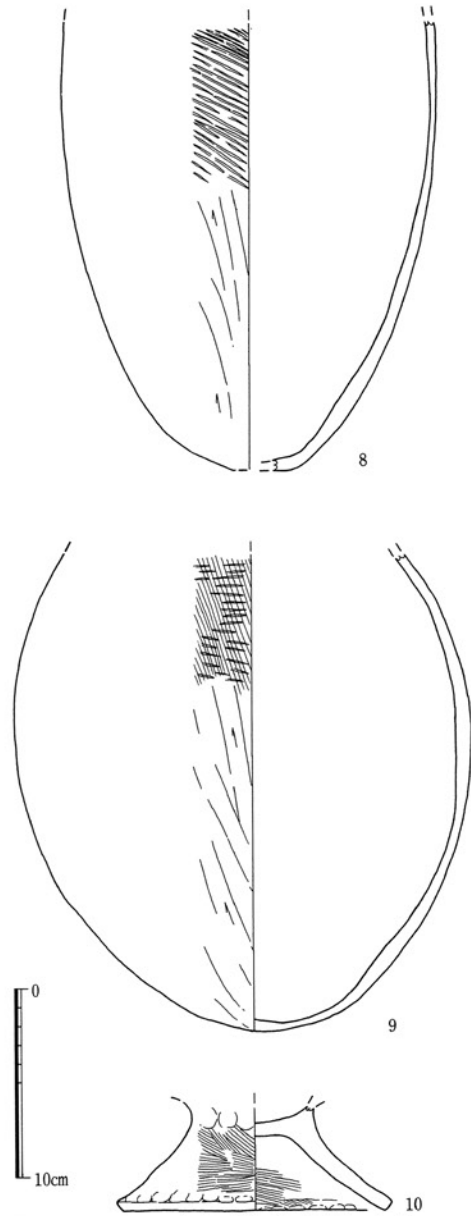


Fig.51 S H212出土遺物実測図② (1/4)

V. 調査の記録（2区）

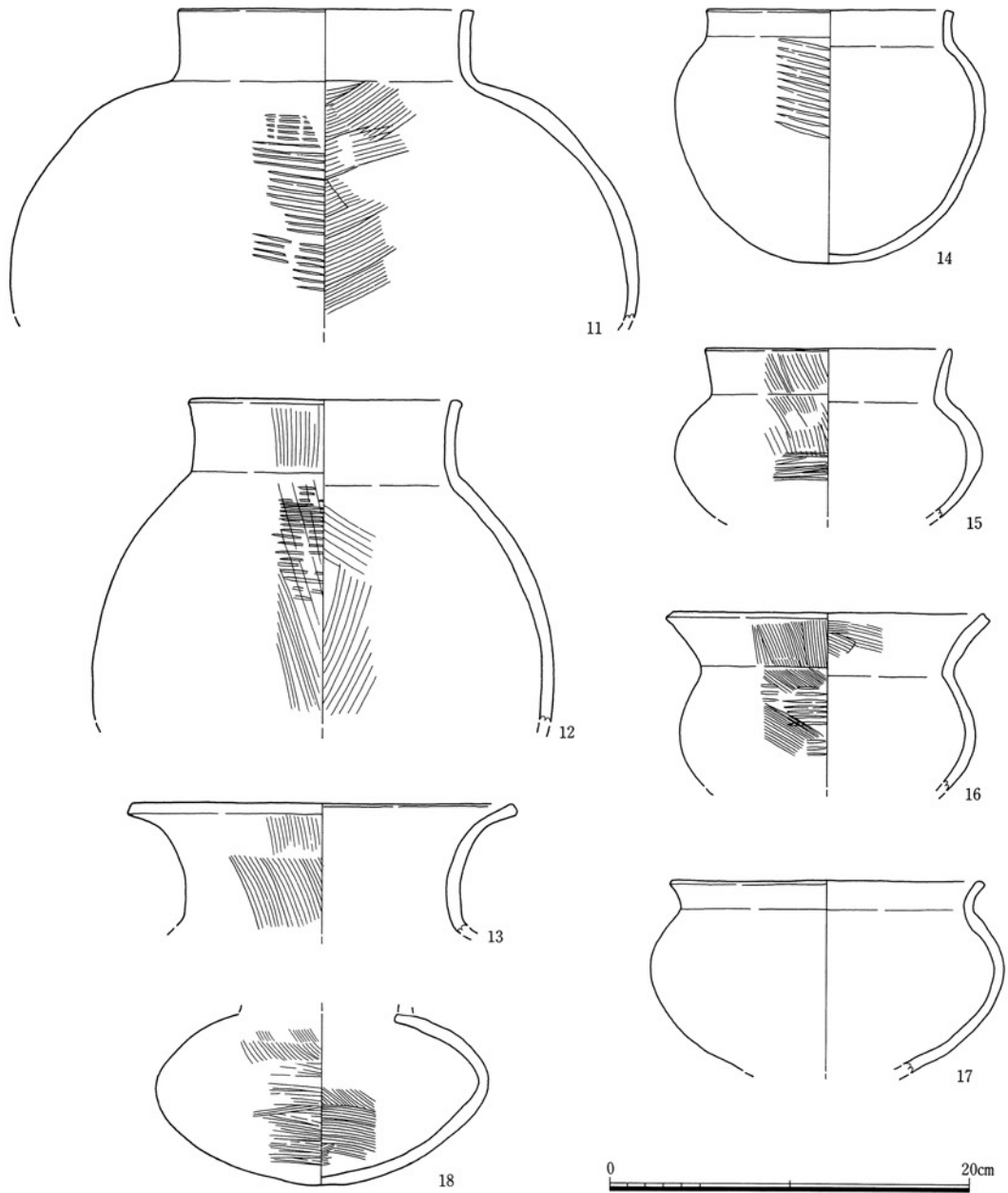


Fig.52 SH212出土遺物実測図③ (1/4)

調整。外面に黒斑有り。褐色。

手づくね土器 (28) 口径4.6cm、器高3.7cm。内外面指ナデ調整で淡褐色を呈する。

高坏 (29~36) 29~32は坏部破片。基本的に内外面ハケ目調整を行う。29は復元口径36.0cm。内面放射状のヘラミガキ調整。口縁部外面に鋸歯文状の暗文を施す。淡橙褐色。30は復元

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

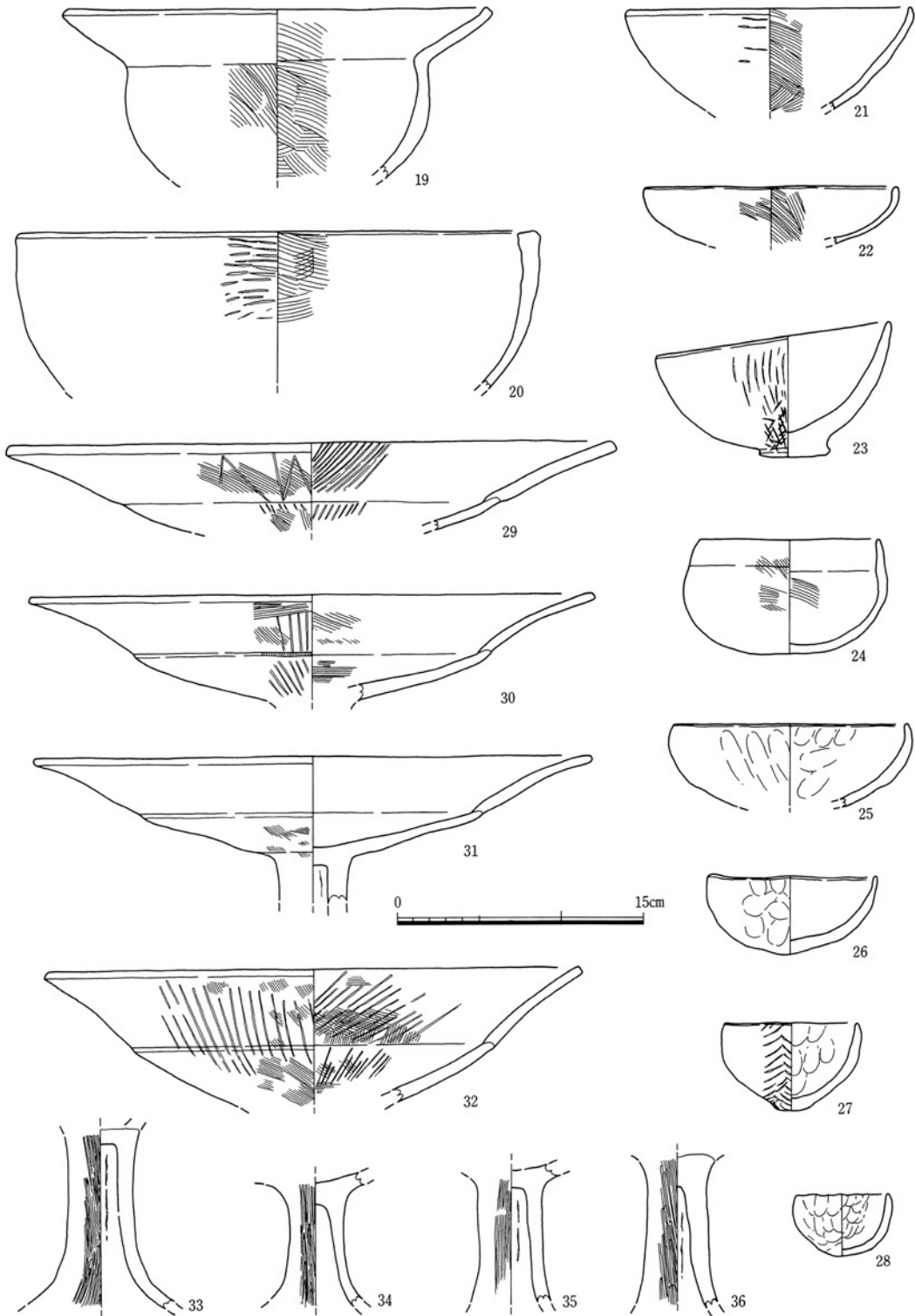


Fig.53 SH212出土遺物実測図④ (1/4)

V. 調査の記録（2区）

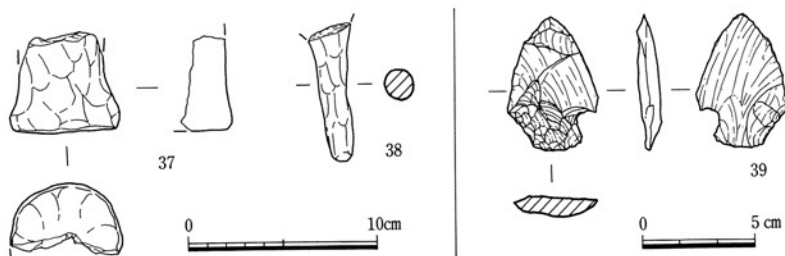


Fig.54 S H212出土遺物実測図⑤ (1/4・1/2)

口径33.8cm。外面に暗文が施された痕跡が認められる。淡赤褐色。31は復元口径33.3cm。全体的に調整不明瞭。淡橙褐色。

32は復元口径31.8cm。内外面放射状のヘラミガキ調整。淡赤褐色。33～36は脚部破片。基本的に外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ（絞り痕有り）調整を行う。33は外面下位に黒斑有り。淡赤褐色。34は淡橙褐色。35は外面縦方向のハケ目調整。淡赤褐色。36は外面に黒斑有り。褐色。

支脚（37） 底部破片。指ナデ調整で暗赤褐色を呈する。

脚（38） 残存長7.2cm、断面径1.6cm。指ナデ調整で淡褐色を呈する。

石器（39） 黒曜石製の石鏃で、ほぼ完存。最大長3.6cm、最大幅2.4cm、重量3.9g。

S H213竪穴住居（Fig.55）

B I-24・25グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。S B251・252に切られ、さらに遺構の南東隅は調査区外にある。平面形は長軸6.92m、短軸4.5m、床面積31.1m²程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約45cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間3.5mの2本柱で、柱穴の深さは0.6～0.7m程度である。土層断面により径10～12cm程の柱痕跡を検出している。住居の中央よりやや西寄りには一辺0.9m、深さ4～5cm程度の方形に掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は東壁から北壁、西壁までちょうどコの字形に設けられ、内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで貼床と同様に黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成している。床面からの高さは25cm程である。また南壁沿いには径20cm、深さ5～6cm程度のピット群を壁沿いに並んだように検出している。さらにほぼ炉と同軸上の南壁沿いに2段掘り状の壁際土壌（深さ約0.5m）が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器、石器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物（Fig.56） 1・3～5は床面直上、他は埋土出土。

甕（1・2） いずれも底部破片。1は外面カキ削り、内面ナデ調整。外面に黒斑有り。暗褐色。2は底径7.0cm。外面ナデ、内面工具によるナデ調整。黒褐色。

鉢（3～8） 3は口径22.2cm。外面上半ハケ目、同下半カキ削り、内面ハケ目調整後暗文状のヘラミガキを施す。4は復元口径20.0cm、器高14.1cm。底部に穿孔有り。外面上半タタキ

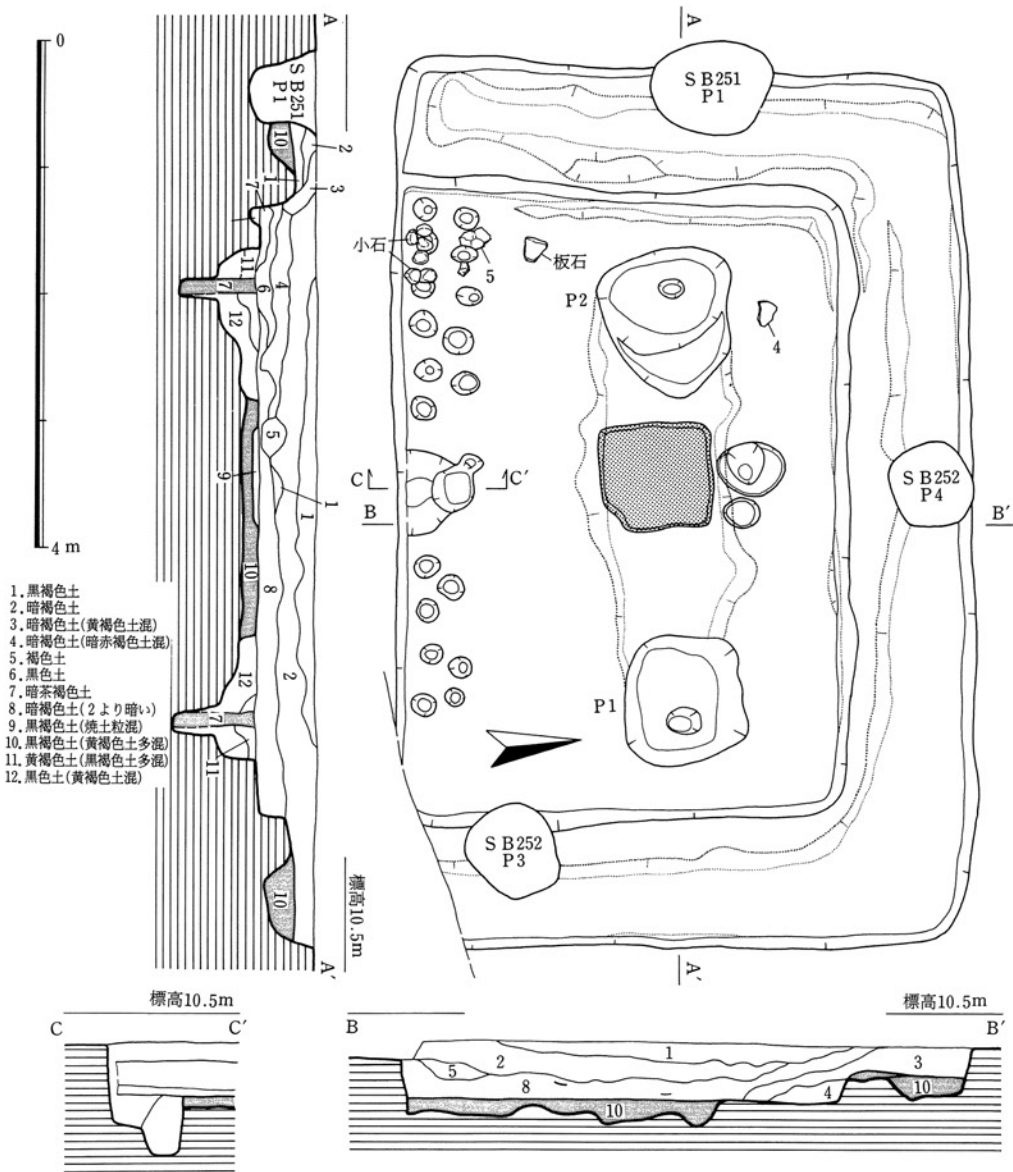


Fig.55 SH213竪穴住居実測図 (1/60)

後縦方向のハケ目、同下半縦方向のカキ削り、内面ハケ目調整。褐色。5は口径19.3cm、器高7.6cm。外面ナデ、外底付近カキ削り、内面ハケ目調整。外底付近に黒斑有り。淡褐色。6は復元口径15.6cm、器高5.0cm。口縁部横ナデ、外面ナデ、外底付近ハケ目、内面工具による強いナデ調整。褐色。7は復元口径11.4cm、器高4.0cm。外面タタキ後工具によるナデ、内面ハケ目調整。外面に黒斑有り。褐色。8は口径11.2cm。外面上半から内面にかけてナデ、外面下半カキ削り調整。外面に黒斑有り。淡褐色。

V. 調査の記録 (2区)

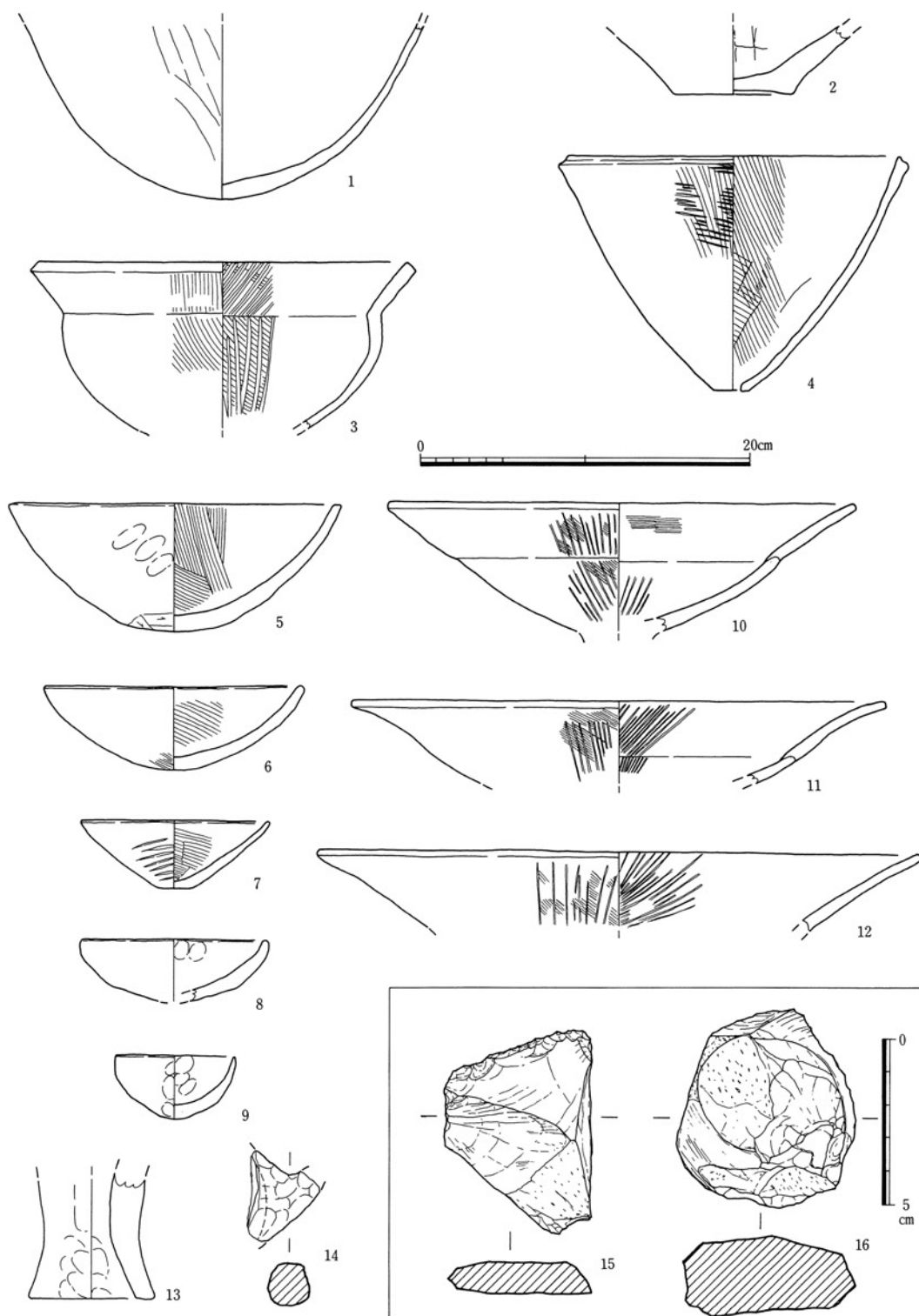


Fig.56 SH213出土遺物実測図 (1/4・1/2)

手づくね土器（9） 口径7.2cm、器高3.8cm。内外面指ナデ調整で褐色を呈する。

高坏（10～12） いずれも坏部破片で、基本的に内外面ハケ目調整後放射状の暗文を施す。

10は口径27.8cm。淡橙褐色。11は復元口径31.7cm。淡橙褐色。12は復元口径35.8cm。淡橙褐色。

支脚（13） 裾部破片で復元裾部径7.3cm。内外面ナデ調整で褐色を呈する。

把手（14） 断面径2.5cm。指ナデ調整で淡褐色を呈する。

石器（15・16） いずれもサヌカイト製。15は削器で最大長6.1cm、最大幅4.5cm、重量33.5g。16は石核で最大長5.9cm、最大幅5.3cm、重量87.5g。

S H214 竪穴住居 (Fig.57)

B G・B H-21・22グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.3m。S H219、S B250、S D264に切られ、S B266と切り合うがその先後関係は不明。平面形は長軸5.24m、短軸4.22m、床面積22.1m²程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約35～40cmである。床面は軽

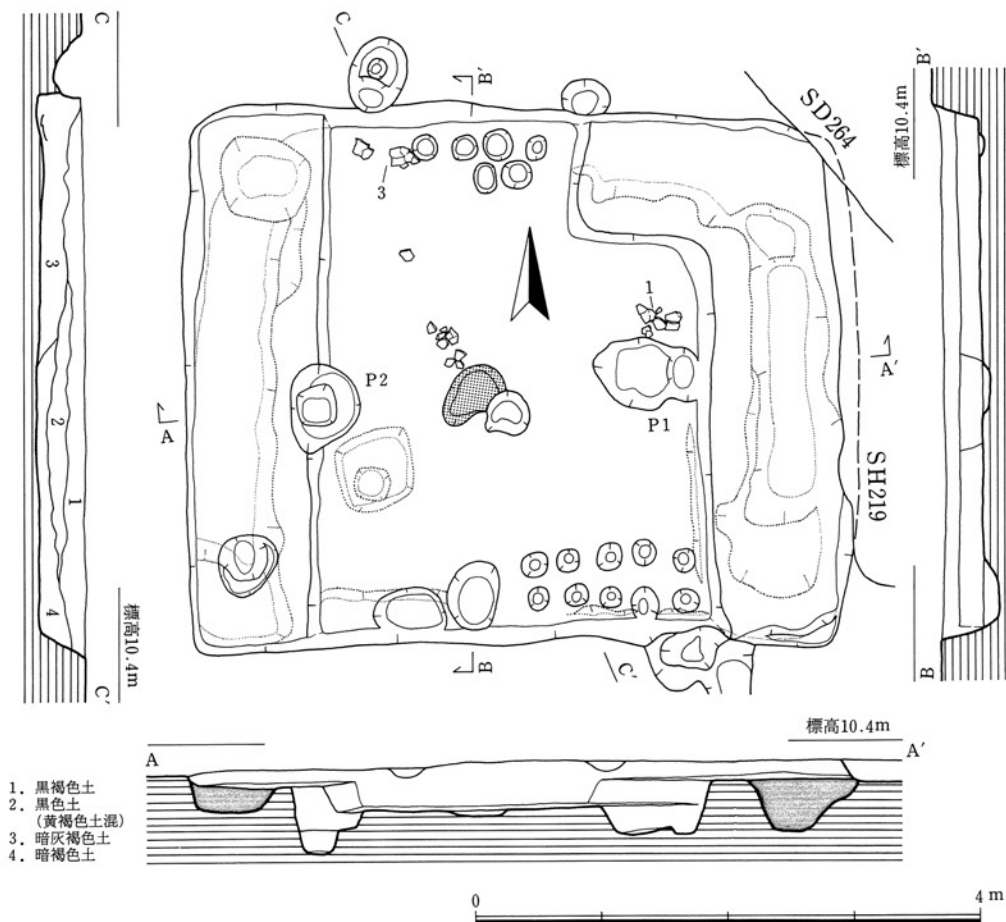


Fig.57 S H214 竪穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録 (2区)

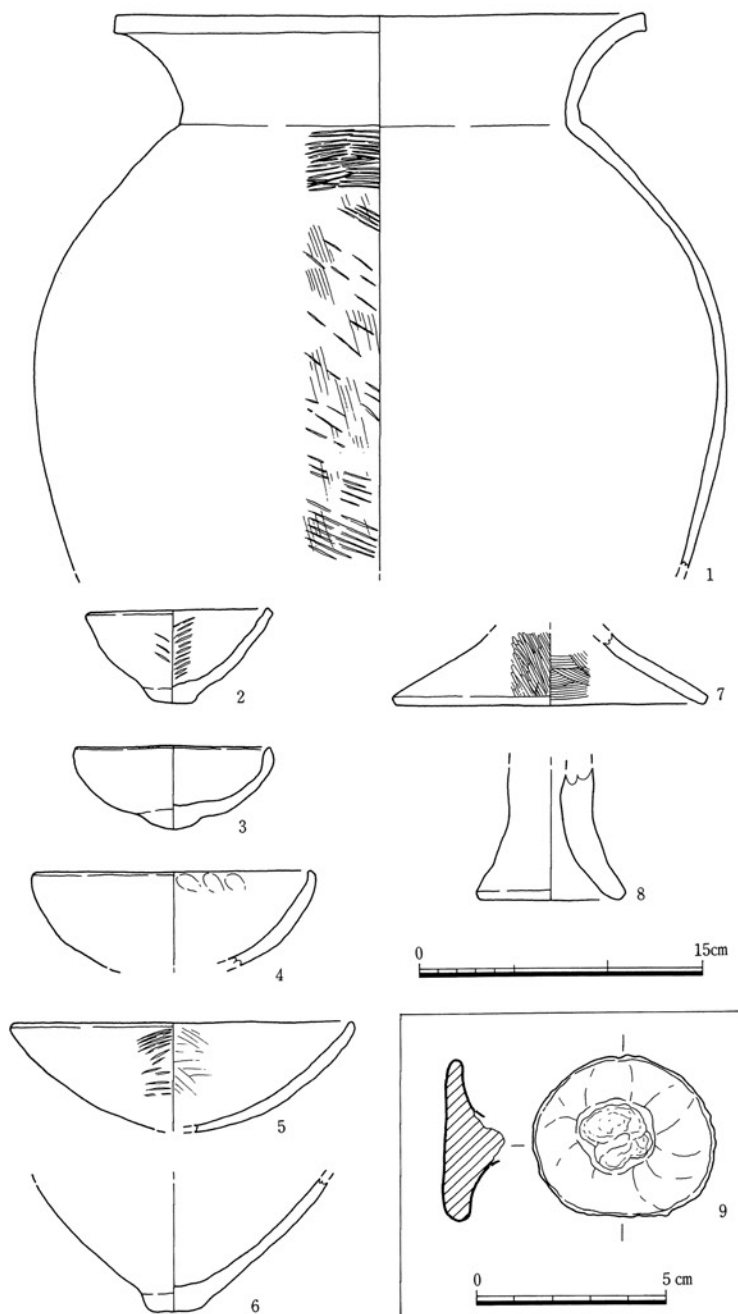


Fig.58 SH214出土遺物実測図 (1/4・1/2)

く整地する程度で特に貼床は施さない。主柱は柱間2.9mの2本柱で、柱穴の深さは0.25~0.35m程度である。住居の中央よりやや西寄りには約4cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は西壁沿いと東壁から北壁(東側の一部)沿いに設けられ、内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成している。床面からの高さは20cm程である。またベッド状遺構がない部分(南壁、北壁の一部)には、径20cm、深さ5~6cm程度のピット群を壁沿いに並んだように検出している。さらに炉とほぼ同軸上の南壁沿いには深さ12cm程度の小型の壁際土壌が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器、土

製鏡等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.58) 1・3は床面直上、他は埋土出土。

壺(1) 広口壺で復元口径28.0cm。口縁部外面から胴部内面にかけて工具によるナデ、胴部外面タタキ後ハケ目調整。外面に黒斑有り。褐色。

鉢(2～6) 2は復元口径9.3cm、器高5.0cm。内外面タタキ後ナデ調整。褐色。3は完形品で口径10.2cm、器高4.9cm。内外面ナデ調整。褐色。4は復元口径14.4cm。内外面ナデ調整。褐色。5は口径18.8cm。外面タタキ後ナデ、内面工具によるナデ調整。褐色。6は外面タタキ後ナデ、内面工具によるナデ調整。褐色。

高坏(7) 裾部破片で復元裾部径16.2cm。外面ヘラミガキ、内面ハケ目調整。明褐色。

支脚(8) 裾部破片で裾部径7.4cm。内外面ナデ調整で褐色を呈する。

土製品(9) 土製鏡と思われる。鈕の一部を欠損する。径約4.5cm程度。暗褐色。

S H215 竪穴住居 (Fig.59)

B F・B G-21・22グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.3m。S B253、S D264と切り合い関係にありいずれも本住居が先行する。平面形は径6.36m、床面積31.8㎡程度の円形プランを呈し、床面までの深さは約25～30cmである。床面下層は周壁沿いに掘り込みが行なわれ、そこに黒褐色土と黄褐色土を叩き締め床を整地している。主柱は柱間1.25～1.7mの9本柱で、柱穴の深さは0.6～0.8m程度である。住居のほぼ中央には長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.4mのピット(P14、ピット内には炭が堆積しており炉になる可能性がある。)が存在するが、この中には9～12(Fig.61)の砥石が投棄されていた。またこのP14の両脇に深さ0.3～0.5m程度のピットがあるが、これは棟持柱の柱穴になるのか。さらに北壁沿いに深さ0.45～0.55m程のピットを検出しているが、位置的に判断して出入口に伴うものである可能性がある。この他、南壁沿いに一辺0.65m、深さ0.2m程の壁際土壌?(ただし床面下層の掘り込みと重複するため明確な掘方ラインは検出できていない。)が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器、石器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.60・61) 2～4・8は床面直上、9～12はP14、他は埋土出土。

甕(1・2) 1は復元外口径32.3cm、同内口径26.8cm。胴部上位に突帯を1状巡らす。内外面ナデ調整。淡褐色。2は口縁端部に刻目を施し、胴部上位に突帯を巡らす。復元外口径30.0cm、同内口径24.4cm、底径8.9cm、器高28.1cm。内外面ヘラミガキ調整。胴部内外面中位に黒斑が認められる。淡赤褐色。

壺(3) 口縁部を欠く。底径5.4cm。内外面ヘラミガキ調整。胴部外面下半から外底にかけて黒斑が認められる。淡橙褐色。

鉢(4) 復元口径24.0cm、底径5.6cm、器高15.9cm。口縁部横ナデ、内外面ヘラナデ調整。暗褐色。

V. 調査の記録 (2区)

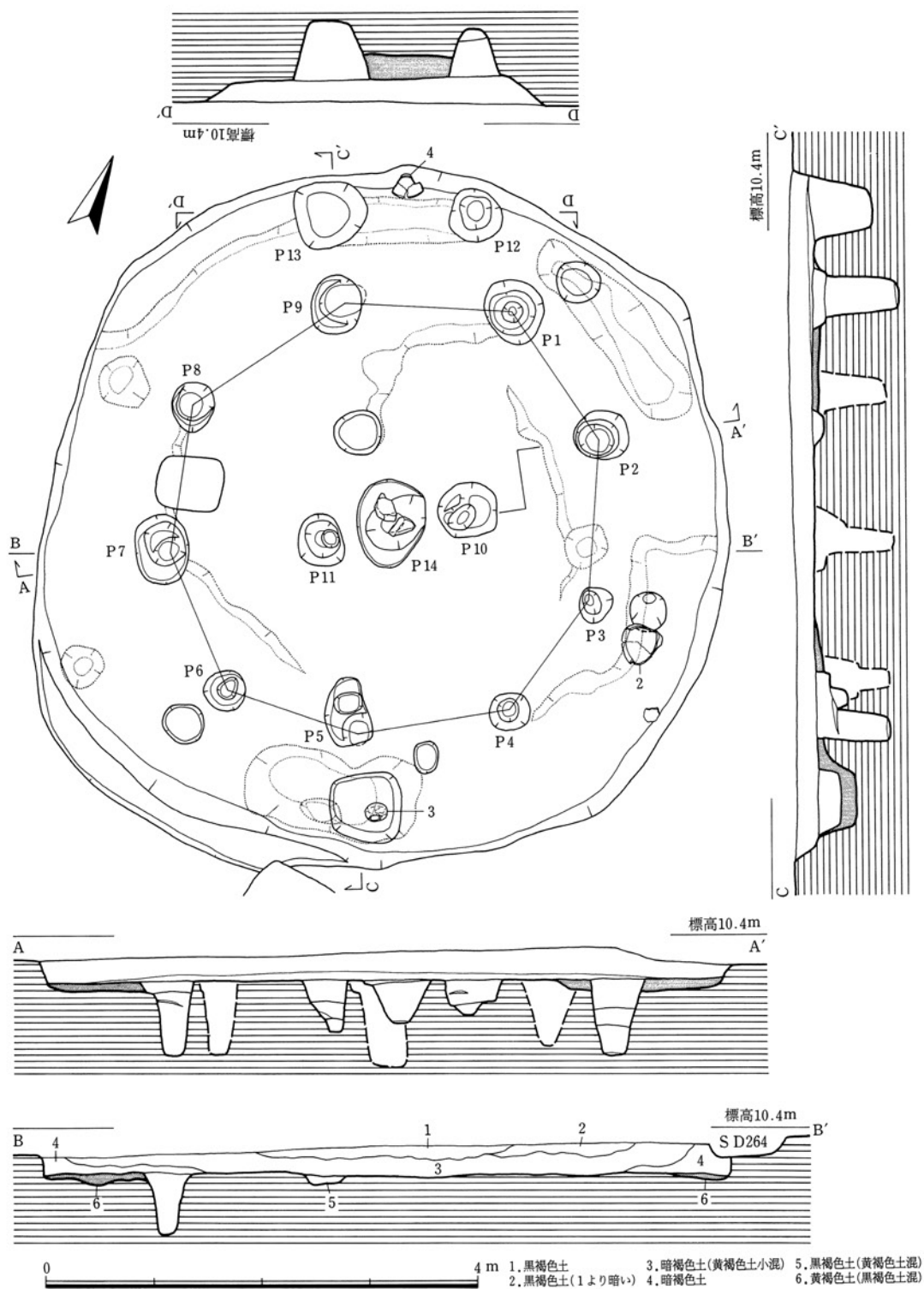


Fig.59 SH215竖穴住居実測図 (1/60)

土製品 (5) 完存の丸玉で最大径2.4cm。ほぼ中央を穿孔が貫通する。暗褐色。

石器 (6~12) 6・7は扁平片歯石斧。6は体部上半を欠損し残存長5.2cm、最大幅3.2cm、重量37.4g。7は刃部の一部を欠損し最大長6.9cm、最大幅3.2cm、重量46.9g。両者ともよく研磨される。8~12は砥石。いずれも砂岩系と思われる。8は欠損部以外の全面を使用し、1箇所研ぎ痕を残す。残存長5.8cm、最大幅4.0cm、重量146g。9は最大長19.7cm、最大幅6.1cm、重量1.77kg。3面が使用される。10は残存長5.8cm、最大幅4.0cm、重量845g。ほぼ全面が使用される。11は残存長14.3cm、最大幅9.2cm、重量1.5kg。2箇所に研ぎ痕を残す。全面が使用される。12は残存長13.1cm、最大幅6.5cm、重量655g。4面が使用される。

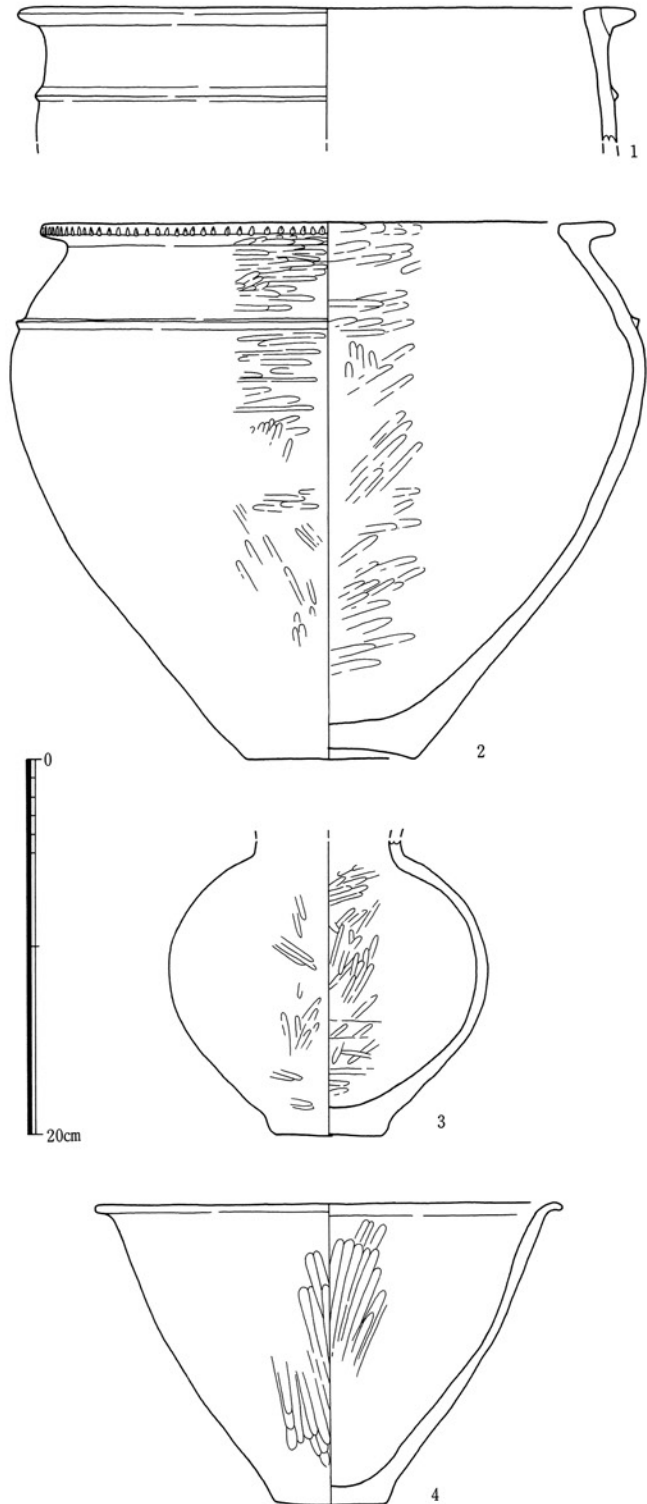


Fig.60 SH215出土遺物実測図① (1/4)

V. 調査の記録（2区）

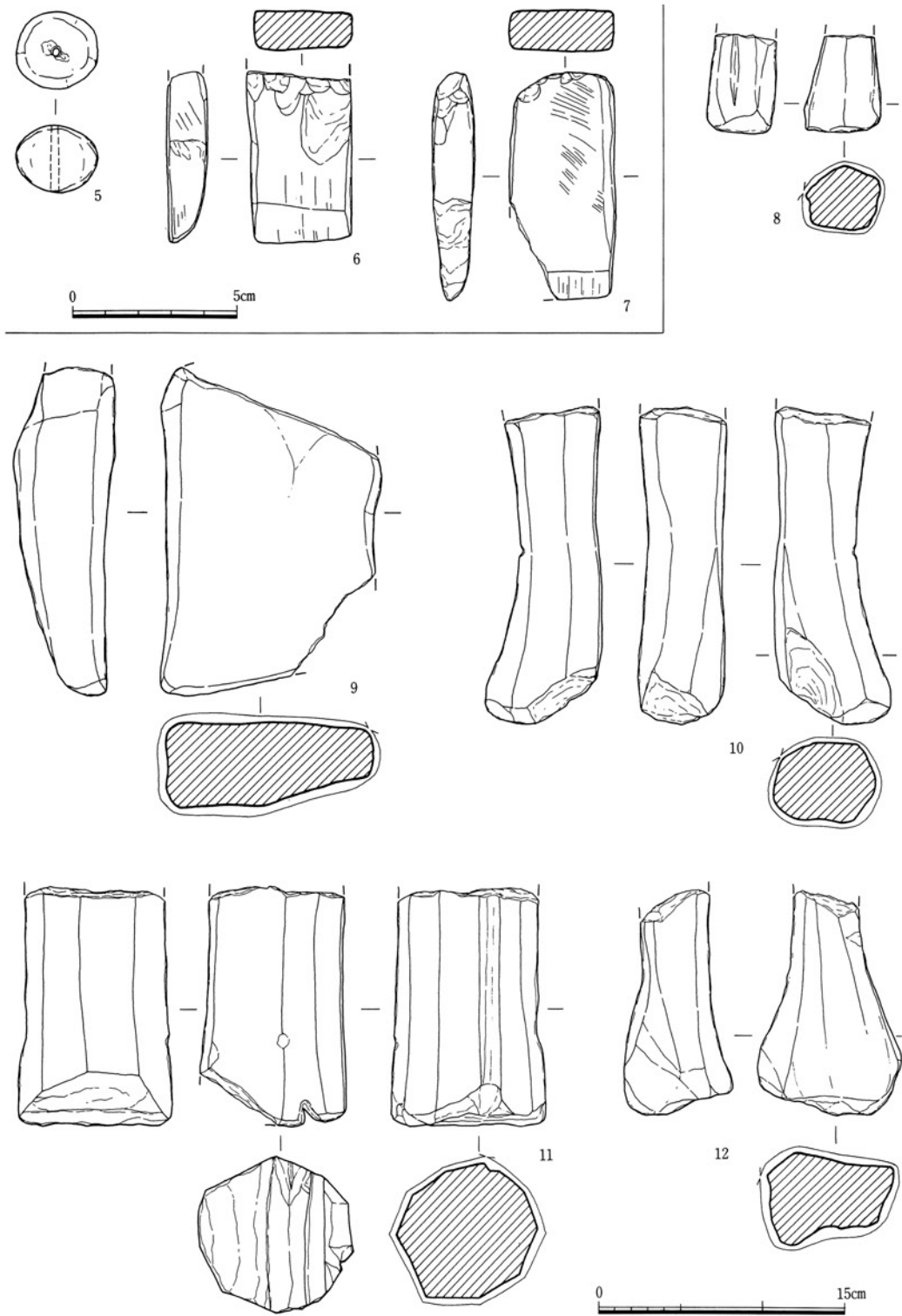


Fig.61 S H215出土遺物実測図② (1/2・1/4)

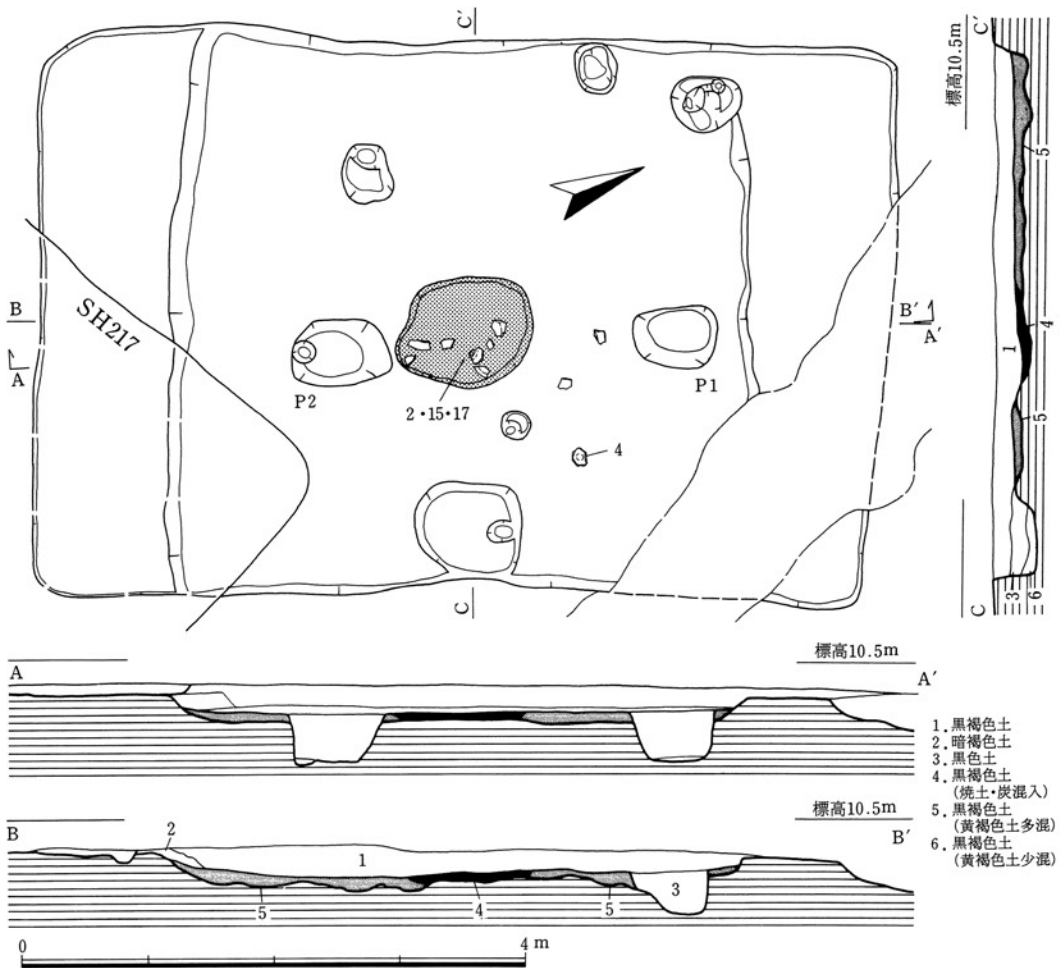


Fig.62 SH216竪穴住居実測図 (1/60)

S H216竪穴住居 (Fig.62)

BE・BF-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。SH217と切り合い関係にあり本住居が先行する。また遺構の北東部分を攪乱によって削られる。平面形は長軸6.74m、短軸4.5m、床面積30.3m²程度の長方形プランを呈し、床面までの深さは約20cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間3.0mの2本柱で、柱穴の深さは0.4m程度である。住居のほぼ中央には約5cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は南西壁沿いと北東壁沿いの設けられ、削り出しによって形成される。床面からの高さは10cm程である。また南壁沿いのほぼ中央には深さ0.2m程の壁際土壌が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がビニール5袋程度出土している。

V. 調査の記録 (2区)

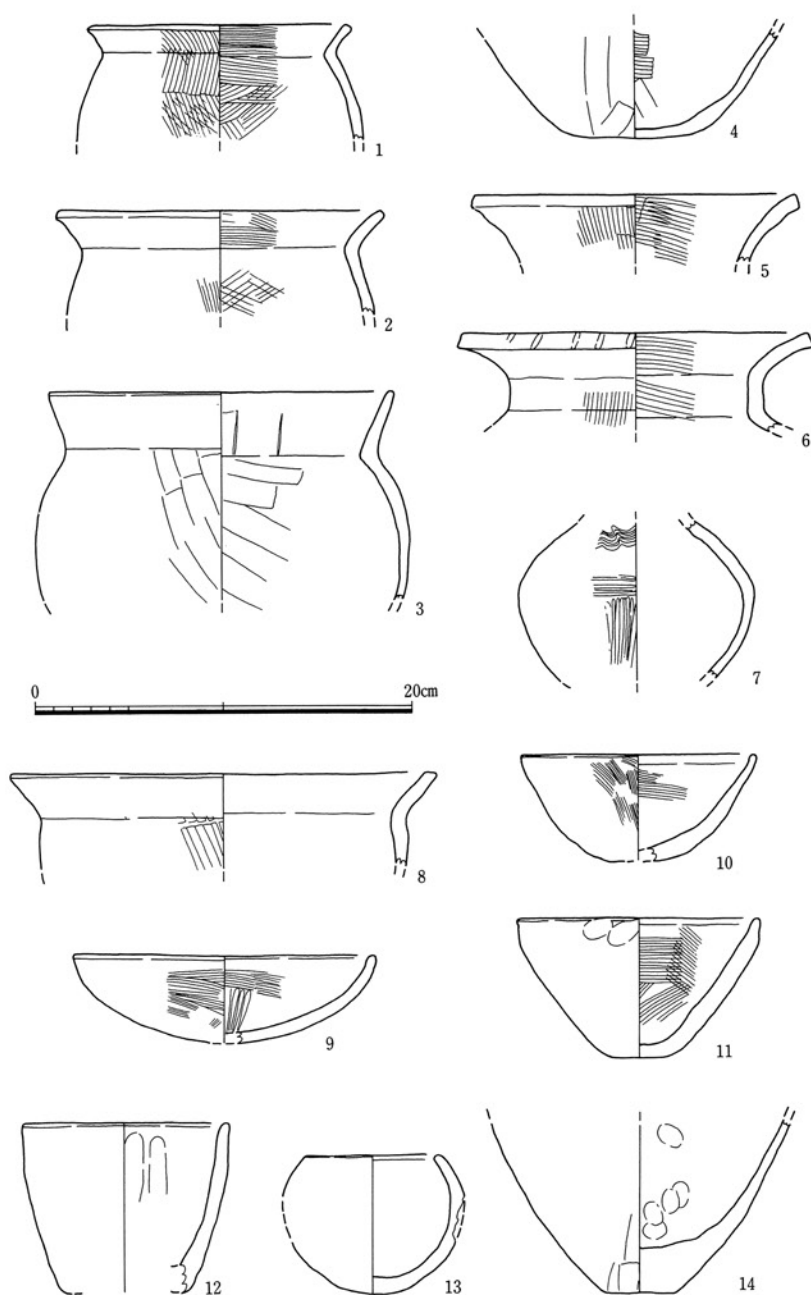


Fig.63 SH216出土遺物実測図① (1/4)

出土遺物

(Fig.63・64)

2・4・15・

17は床面直上、
11は貼床、他は
埋土出土。

甕 (1~4)

1~3は口縁部
破片。1は復元
口径13.2cm。内
外面ハケ目調
整。淡褐色。2
は復元口径16.8
cm。内外面ハケ
目調整。茶褐色。
3は復元口径
17.8cm。口縁部
横ナデ、他はへ
ラ状工具による
ナデ調整。外面
には煤が付着す
る。暗褐色。4
は底部破片。外
面へラ状工具に
よるナデ、内面
ハケ目調整。外
底に煤付着。褐
色。

壺 (5~7)

5・6は広口壺の口縁部破片。5は復元口径16.8cm。内外面ハケ目調整。褐色。6は口縁端部に刻目を施す。復元口径18.2cm。内外面ハケ目調整。明茶褐色。7は胴部破片。胴部上位に楡描波状文を施し、中位は横方向のへラミガキ、下位は縦方向のへラミガキ調整、内面はへラ状工具によるナデ調整。外面に丹塗りをを行う。暗赤褐色。

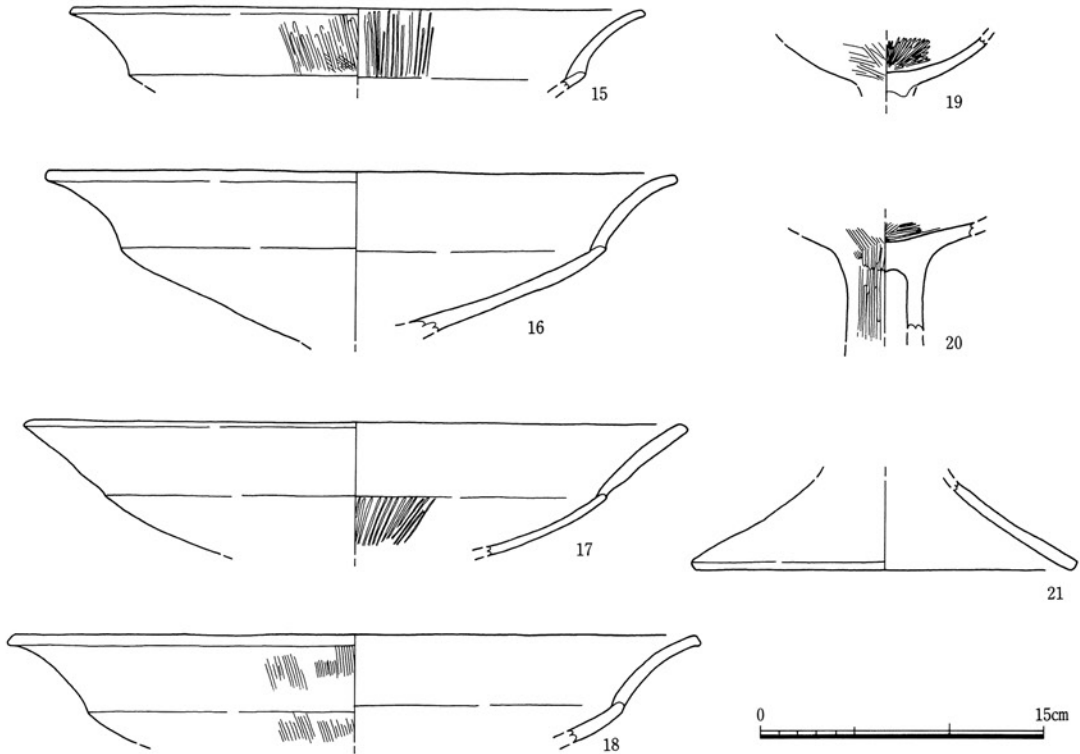


Fig.64 SH216出土遺物実測図② (1/4)

鉢 (8~14) 8は復元口径22.0cm。口縁部横ナデ、他はヘラ状工具によるナデ調整。口縁部付近に煤が付着する。暗褐色。9は復元口径16.0cm。口縁部横ナデ、内外面ハケ目、内底付近はヘラミガキ調整。外面に黒斑有り。淡赤褐色。10は復元口径12.2cm。内外面ハケ目、内底付近はナデ調整。明褐色。11は復元口径12.6cm、器高7.3cm。外面ヘラ状工具によるナデ、内面ハケ目調整。淡褐色。12は復元口径10.7cm。口縁部横ナデ、他は工具によるナデ調整。淡褐色。13は復元口径7.0cm、器高7.3cm。口縁部横ナデ、他は工具によるナデ調整。淡褐色。14は外面工具によるナデ、内面ナデ調整。褐色。

高坏 (15~21) 15~19は坏部破片。全体的に調整不明瞭だが、基本的に内外面ヘラミガキ調整を行うようである。15は復元口径29.7cm。淡橙褐色。16は口径32.6cm。淡橙褐色。17は復元口径33.8cm。口縁部外面に黒斑有り。淡橙褐色。18は復元口径35.4cm。淡橙褐色。19は外面工具によるナデ、内面ヘラミガキ調整。淡褐色。20・21は脚部破片。20は縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。褐色。21は復元裾部径19.8cm。内外面ナデ調整。淡橙褐色。

V. 調査の記録（2区）

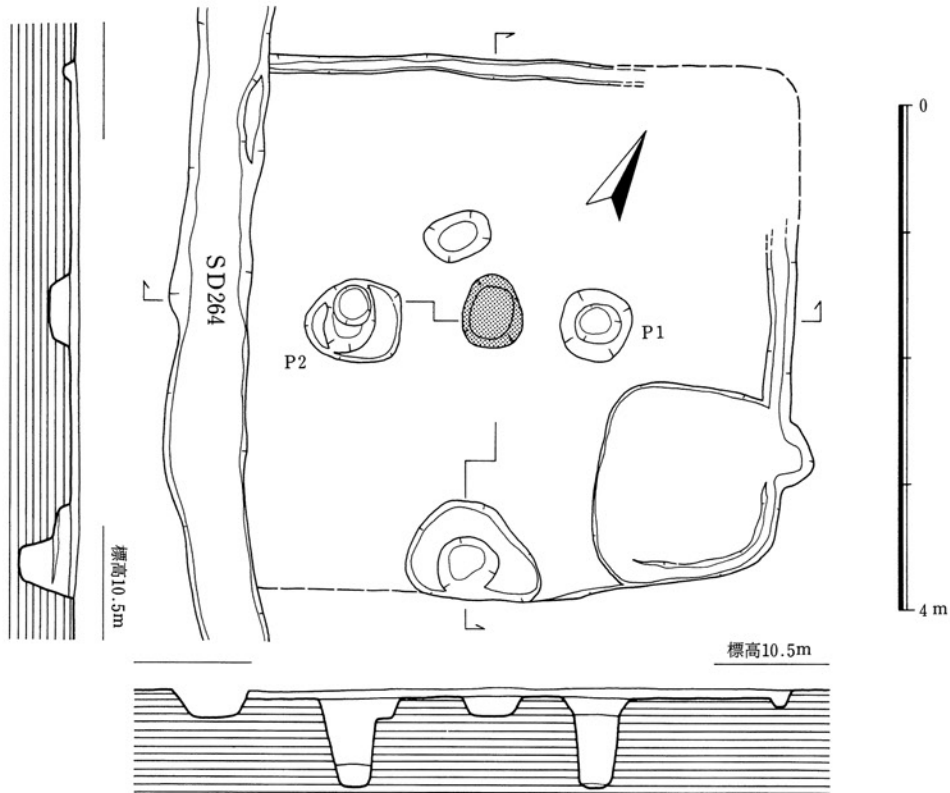


Fig.65 SH217竪穴住居実測図 (1/60)

SH217竪穴住居 (Fig.65)

BF・BG-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。SH216・219を切り、SD264に切られる。平面形は長軸 $4.26 + \alpha$ m、短軸4.26m程度の方形プランを呈するものと考えられる。床面までの深さは約8cmで、特に貼床等を施した痕跡は認められない。支柱は柱間1.9mの2本柱で、柱穴の深さは0.7m前後である。住居のほぼ中央には15cm程掘り込まれた炉が設けられている。また南壁沿いのほぼ中央には深さ約0.45mの2段掘り状を呈する壁際土壌が存在する。この他、住居の南東隅には一辺1.5m、深さ10cm弱の掘り込みが行なわれ、周壁沿いには壁溝が巡らされていたようである。

遺物は埋土及び壁際土壌より土師器等がビニール2袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.66) 2・3は壁際土壌、他は埋土出土。

甕 (1・2) 1は復元口径14.8cm。口縁部横ナデ、内面横方向のヘラ削り、外面調整不明瞭。外面に煤付着。褐色。2は口径10.2cm、器高10.1cm。内外面ナデ調整。外底付近に黒斑有り。褐色。

壺 (3) 口縁端部に刻目を施し、頸部に2重の刻目を施した突帯を1条巡らす。また突帯

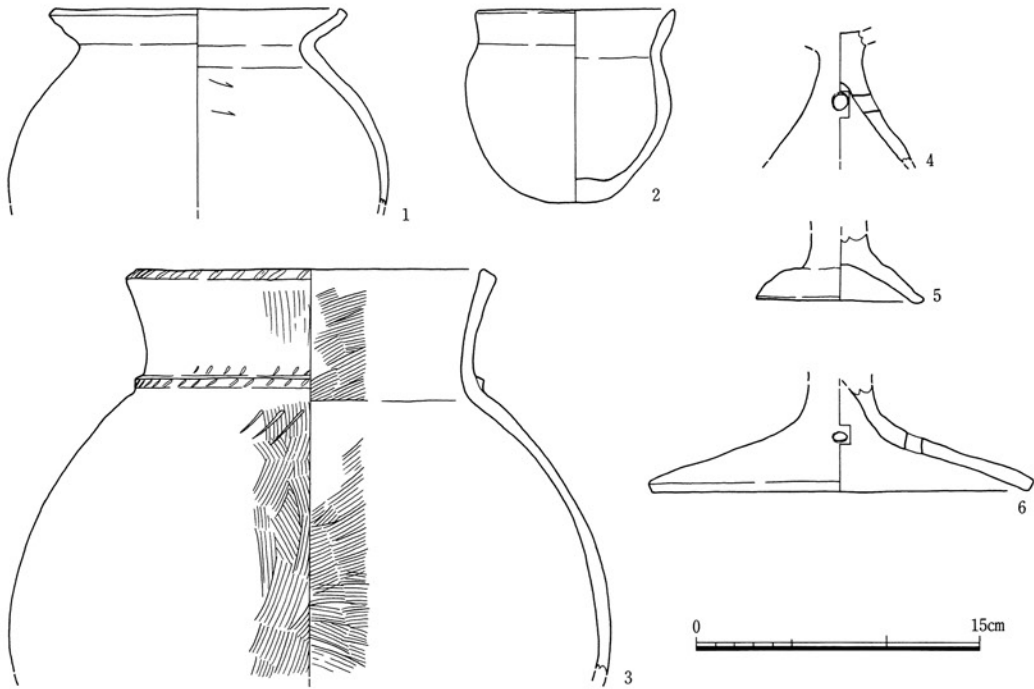


Fig.66 SH217出土遺物実測図 (1/4)

下部に斜線文を施す。復元口径16.0cm。内外面ハケ目調整。褐色。

器台（4・5） いずれも脚部破片。4は3箇所穿孔が認められる。内外面ナデ調整。赤褐色。5は裾部径8.8cm。内外面ナデ調整。暗褐色。

脚台（6） 2箇所穿孔が認められる。裾部径19.8cm。内外面工具によるナデ調整。明褐色。

SH219竪穴住居 (Fig.67)

BG・BH-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。SH217、SB250、SD264に切られ、SH214を切る。平面形は長軸4.26m、短軸2.7m、床面積11.5㎡の長方形プランを呈し、床面までの深さは約10～15cmである。床面は簡単に整地する程度で、貼床などは施していない。主柱は2本柱と考えられるが、P1～4の4個を確認しており立て替えが行なわれた可能性がある。柱穴の深さは0.25～0.5m程度である。住居の中央よりやや北寄りに深さ約10cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は南壁沿い（南東隅までは及ばない）と北東隅に設けられ、削り出しのみによって形成される。床面からの高さは8cm程である。また床面下層において、北壁沿いから北東隅のベッド状遺構の壁沿いにかけて溝状の掘り込みが行なわれている。

V. 調査の記録（2区）

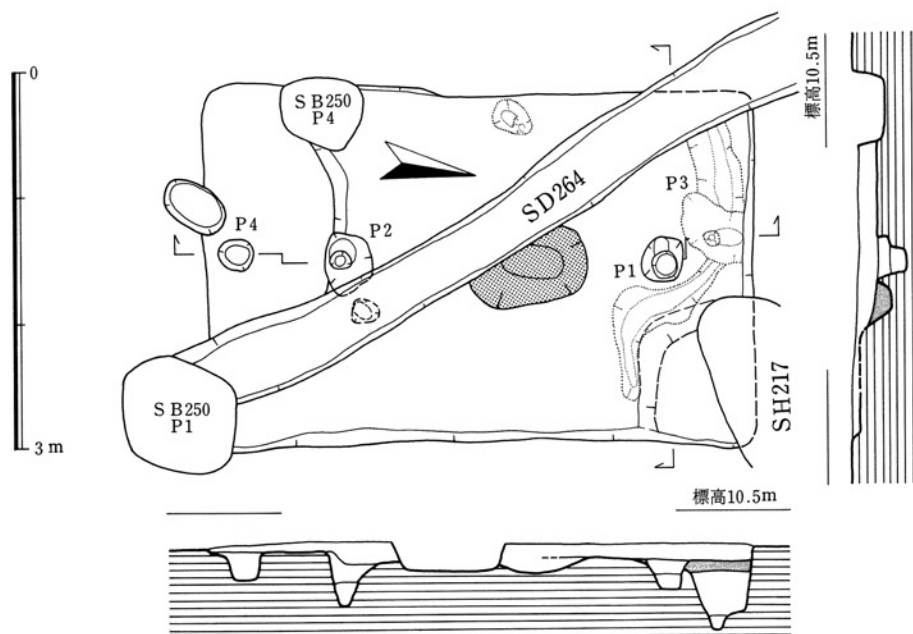


Fig.67 SH219竪穴住居実測図 (1/60)

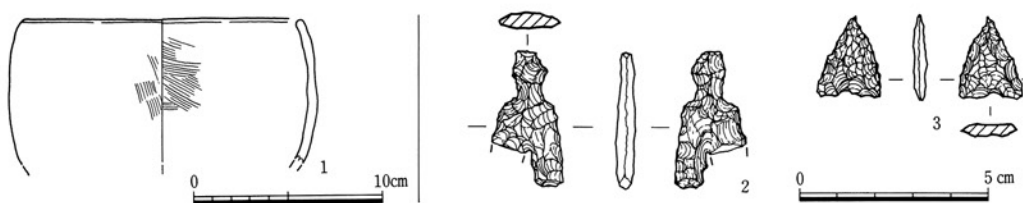


Fig.68 SH219出土遺物実測図 (1/4・1/2)

遺物は埋土中より弥生土器、石器等がビニール1袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.68) いずれも埋土出土。

鉢 (1) 復元口径14.6cm。口縁部横ナデ、他はハケ目後ナデ調整。明褐色。

石器 (2・3) いずれも黒曜石製の石鏃。2は残存長3.1cm、最大幅1.8cm、重量2.7g。3は最大長2.2cm、最大幅1.7cm、重量1.2g。

SH220竪穴住居 (Fig.69)

BN-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は9.8~10.0m。遺構の西隅を水田化のため削平される。平面形は長軸3.14m、短軸2.68m、床面積8.42㎡の長方形プランを呈し、床面までの深さは約20cmである。床面は黒褐色土と黄褐色土の整地層が薄く広がる。支柱は柱間2.8mの2本柱で、柱穴の深さは0.3m程度である。住居の中央より南西寄りにピットを検出しているが、これが炉になるかどうかは不明。また南壁沿いの中央よりやや南西寄りに深さ15cm程の壁

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

際土壌?が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器、石器等がビニール1袋程度出土し、さらにP2からは根固めのような状態で弥生土器甕が出土している。

出土遺物 (Fig.70) 5・6は床面よりやや浮いた状態で、1はP2、他は埋土出土。

甕 (1~6) 1~4は口縁部破片で口縁端部に刻目を施し、胴部上位に刻目突帯を1は2条、他は1条巡らす。また基本的に内外面ナデ調整を行う。

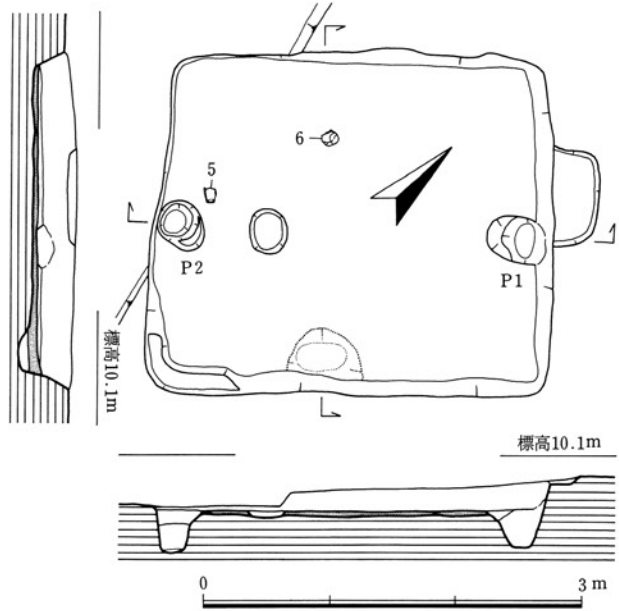


Fig.69 SH220竪穴住居実測図 (1/60)

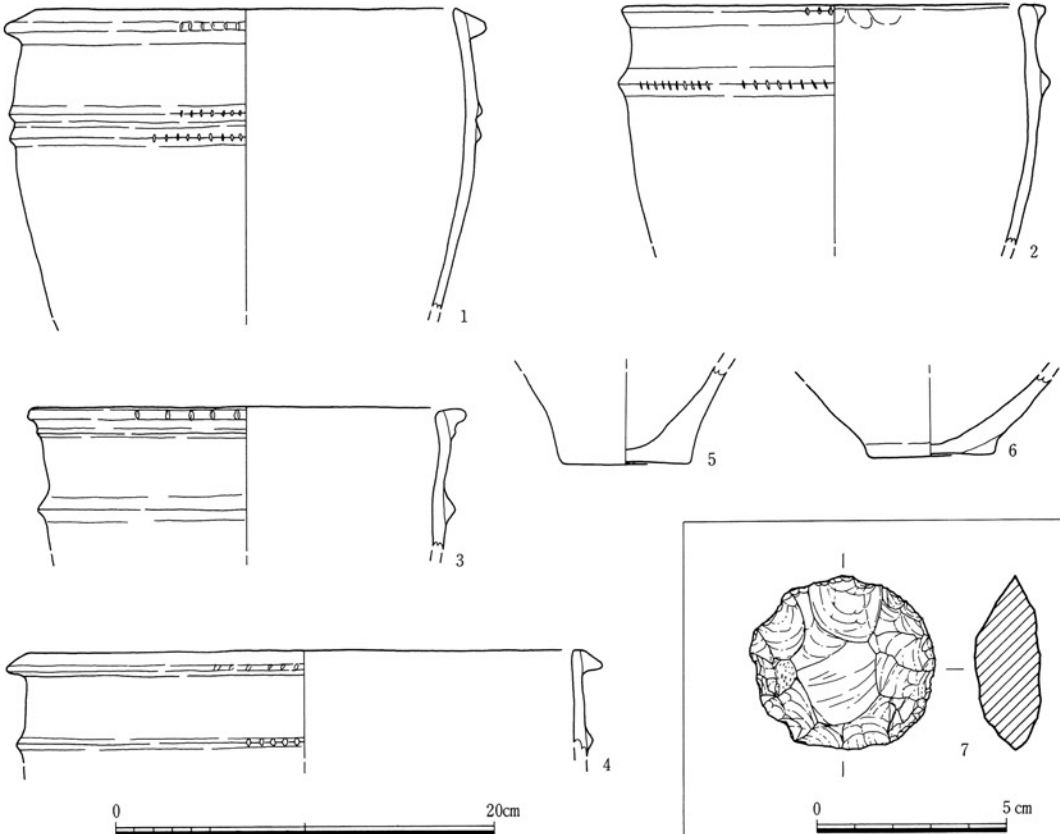


Fig.70 SH220出土遺物実測図 (1/4・1/2)

V. 調査の記録（2区）

1は復元口径22.0cm。淡褐色。2は復元口径19.6cm。口縁部内面に指頭圧痕を残す。暗褐色。
3は復元口径19.6cm。褐色。4は復元口径28.0cm。淡褐色。5・6は底部破片。5は復元底径6.6cm。内外面ナデ調整。淡褐色。

壺（6） 底部破片で復元底径6.4cm。内外面ナデ調整。外面に黒斑有り。淡褐色。

石器（7） サヌカイト製の円形搔器で最大長4.8cm、最大幅4.6cm、重量41.5g。

SH221竪穴住居（Fig.71）

BF・BG-23~25グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。SH222（円形住居）を切り、遺構の東側から北側にかけて攪乱に削られる。平面形は長軸 $7.3+\alpha$ m、短軸 $4.52+\alpha$ mの長方形プランを呈するものと思われる。床面までの深さは約10cmと浅く、ベッド状遺構の上面まで削平されていた。貼床等は確認できていない。主柱は柱間4.0m前後の2本柱で、柱穴の深さは0.5~0.7m程度である。住居の中央よりやや西寄りには炉の痕跡と思われる焼土の広がりを確認している。ベッド状遺構は恐らくSH212と同じような感じで、東壁、北壁（中央部分には及ばない）、西壁沿いに設けられていたと考えられ、ベッド状遺構の壁沿いに巡っていたと思われる壁溝のみが残存する。このベッドも他と同様に内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで、黒褐色土と黄褐色土で叩き締めて形成されたものと考えられる。また炉とほぼ同軸上の南壁沿いに2段掘り状の壁際土壌（深さ約0.3m）が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がビニール4袋程度出土している。

出土遺物（Fig.72） 3・4は床面直上出土、10は壁際土壌、他は埋土出土。

甕（1・2） いずれも口縁部破片。1は復元口径21.8cm。口縁部工具によるナデ、胴部外面タタキ後縦方向のハケ目、同内面縦方向のハケ目調整。淡褐色。2は復元口径24.7cm。口縁部外面ハケ目、胴部外面平行タタキ、内面は工具によるナデ調整。淡褐色。

壺（3） 復元口径14.0cm。外面ハケ目、内面工具によるナデ調整。淡褐色。

鉢（4~6） 4は復元口径17.4cm、器高8.0cm。外面タタキ後工具によるナデ、内面工具によるナデ調整。内面に黒斑有り。淡褐色。5は復元口径11.8cm、器高8.4cm。外面上半はタタキ後ハケ目、下半はカキ削り、内面はナデ調整。淡褐色。6は復元口径13.8cm。内外面工具によるナデ調整。外面に黒斑有り。淡褐色。

手づくね土器（7） 復元口径5.6cm、器高3.0cm。内外面指ナデ調整で褐色を呈する。

高坏（8） 坏部破片で復元口径32.2cm。内外面ハケ目調整後暗文状のヘラミガキを施す。淡赤褐色。

土製品（9・10） 9は丸玉で中央に穿孔を貫通させる。径2.2cm程度で淡褐色を呈する。10は不明土製品で方柱状を呈する。比較的丁寧に仕上げる。褐色。

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

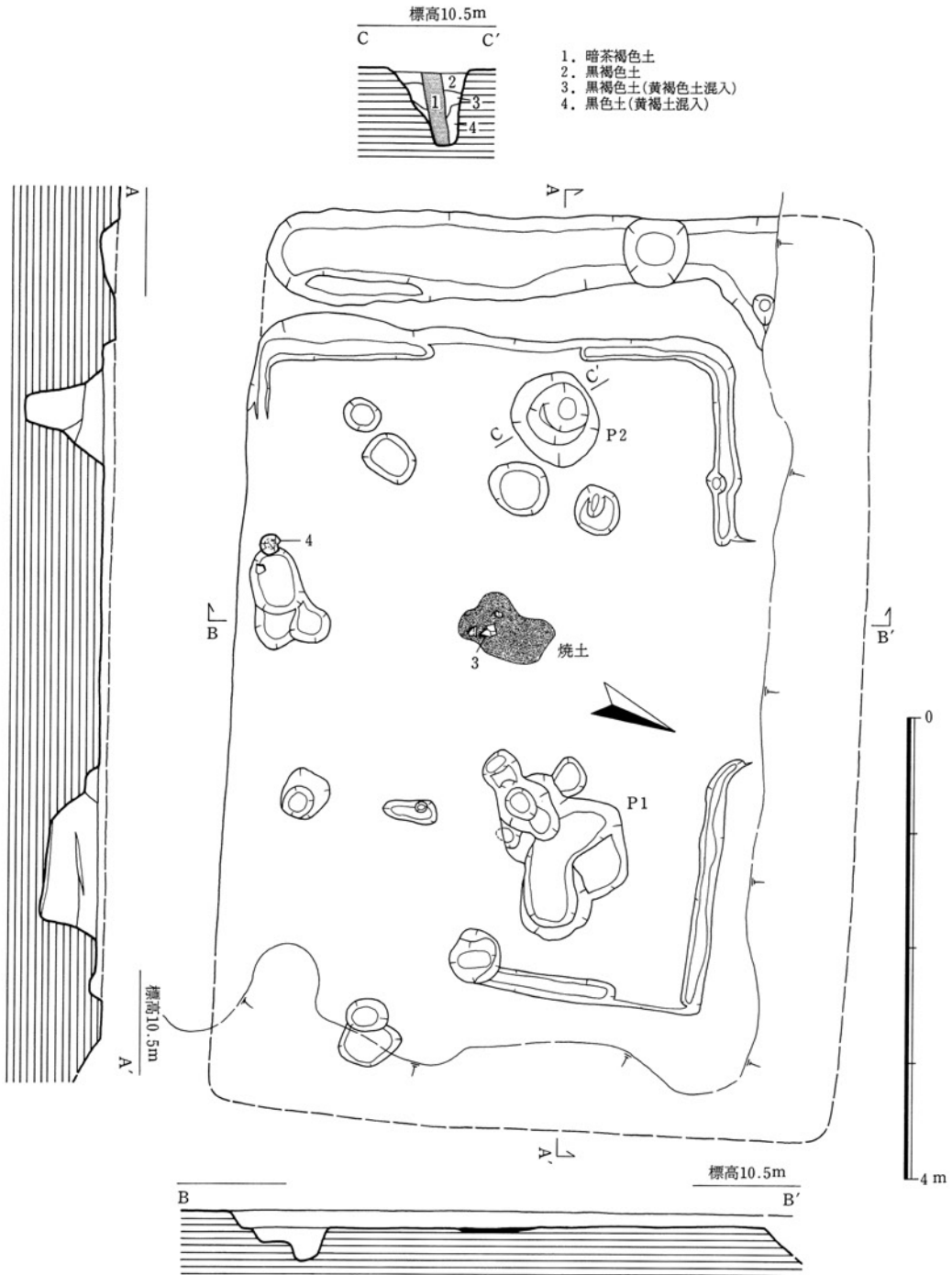


Fig.71 SH221竖穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録（2区）

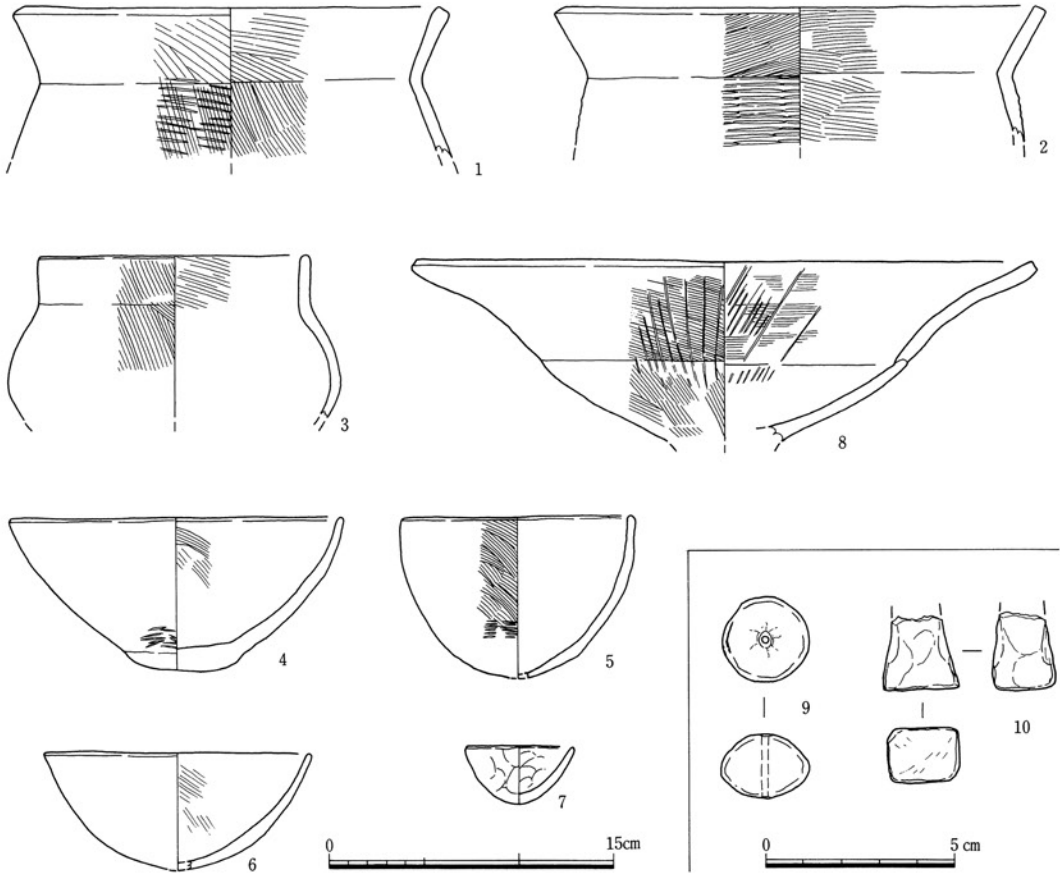


Fig.72 SH221出土遺物実測図（1/4・1/2）

SH222竪穴住居（Fig.73）

BF・BG-24・25グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。SH212・221に切れ、さらに東側を攪乱によって削られる。平面形は円形プランを呈すると思われるが、切り合いが激しいためその規模は不明。床面までの深さは約15cmを測る。床面は貼床を施したような痕跡はなく、簡単に整地した程度である。支柱は柱間1.4~2.1mの5本柱で、柱穴の深さは0.6~0.8m程度である。柱穴の配置より立て替えが行なわれた可能性がある。住居のほぼ中央に深さ0.3m程の土壌が存在し、その両端に深さ0.5mピットがあるが、これは棟持柱の柱穴になるのか。また土壌内には炭が堆積しており炉になる可能性がある。

遺物は埋土中及び柱穴よりわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

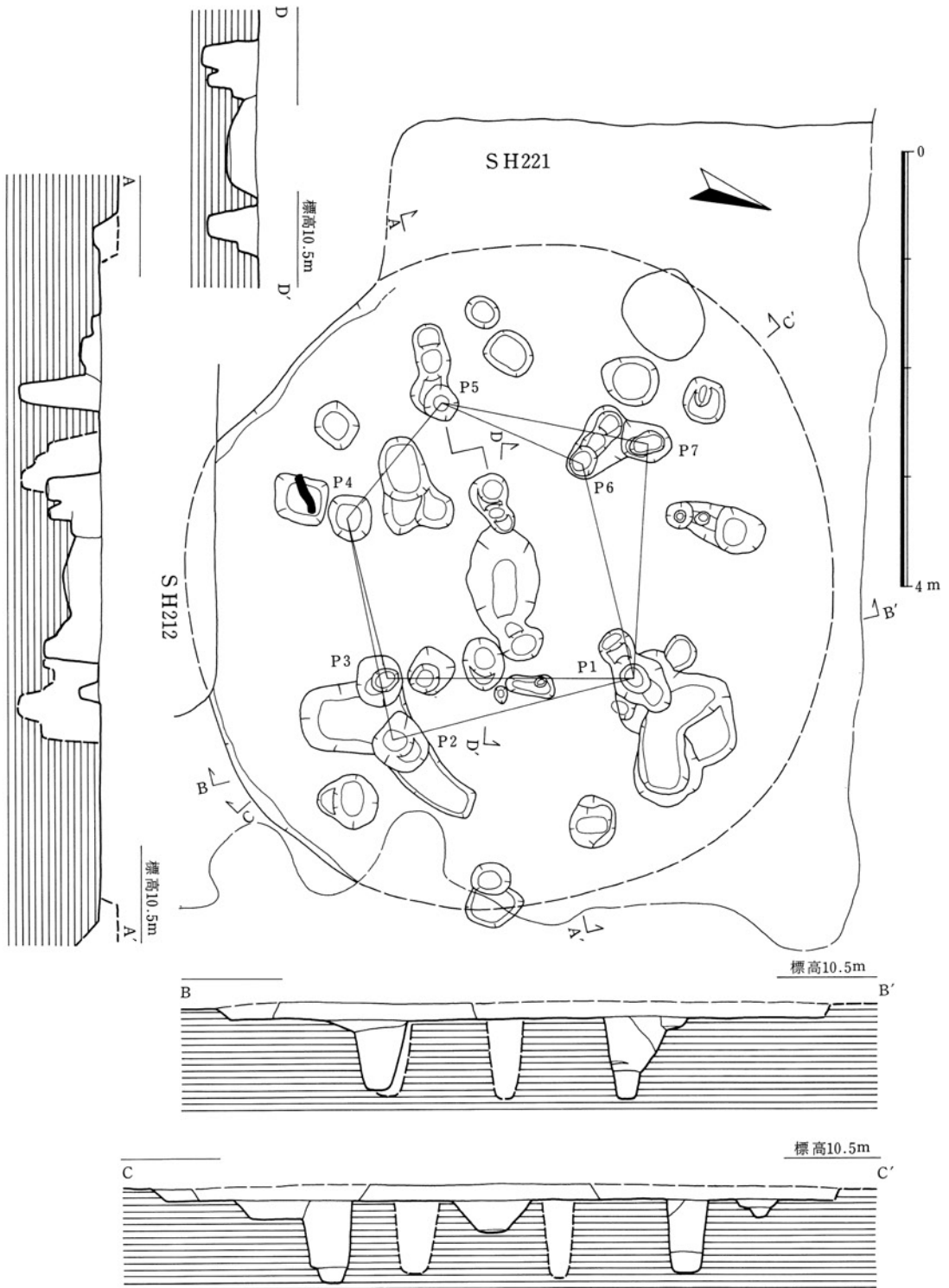


Fig.73 SH222竪穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録 (2区)

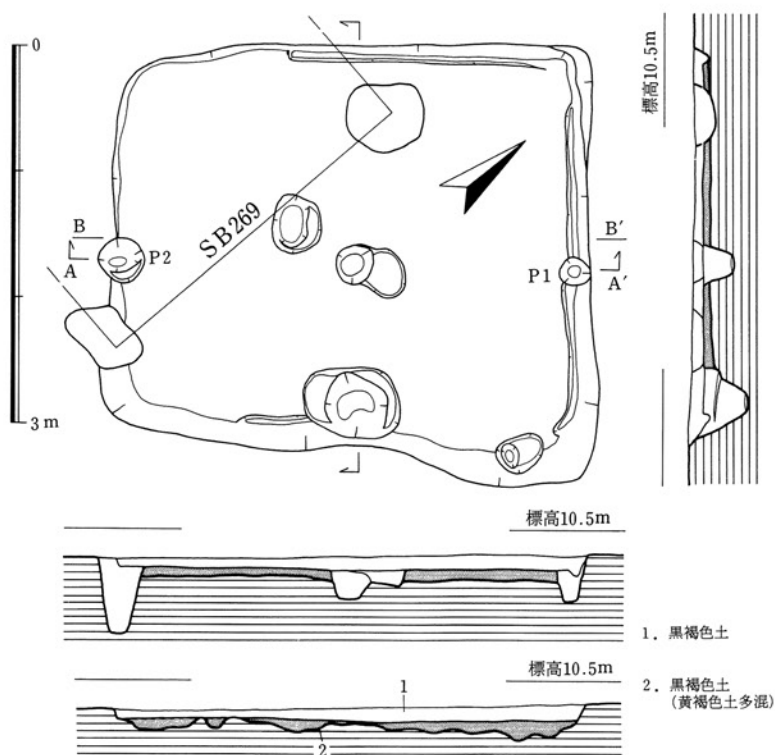


Fig.74 SH223竪穴住居実測図 (1/60)

SH223竪穴住居

(Fig.74)

BF・BG-26・27グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。SB269と切り合い関係にあり本住居が先行する。平面形は長軸3.68m、短軸3.16mの長方形プランを呈し、床面までの深さは約10cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱は柱間3.6mの2本柱で、柱穴の深さは0.3~0.5m程度

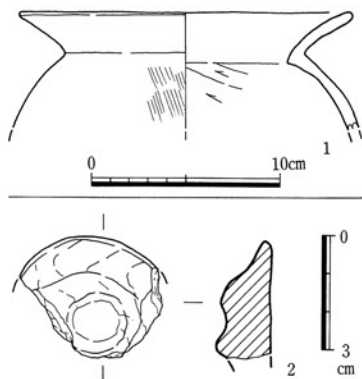


Fig.75 SH223出土遺物実測図

(1/4・1/2)

度である。住居のほぼ中央には深さ約0.2mのピットを検出しているが、当初は炉と考えていたが、深さから判断すると棟持柱の支柱になる可能性もある。またこのピットと同軸上の南壁沿いには2段掘り状の壁際土壇(深さ0.35m)が存在する。さらに周壁沿いには壁溝が巡っていたらしく部分的にその痕跡が認められる。

遺物は埋土中より土師器等がビニール2袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.75) 1は埋土、2は貼床出土。

甕(1) 口縁部破片で復元口径17.6cm。口縁部横ナデ、外面ハケ目、内面横方向のヘラ削り調整。褐色。

土製品(2) 土製鏡かと思われる。欠損品で褐色を呈する。

SH224竪穴住居 (Fig.76)

BG~BI-25~27グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。SH225(円形住居)

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

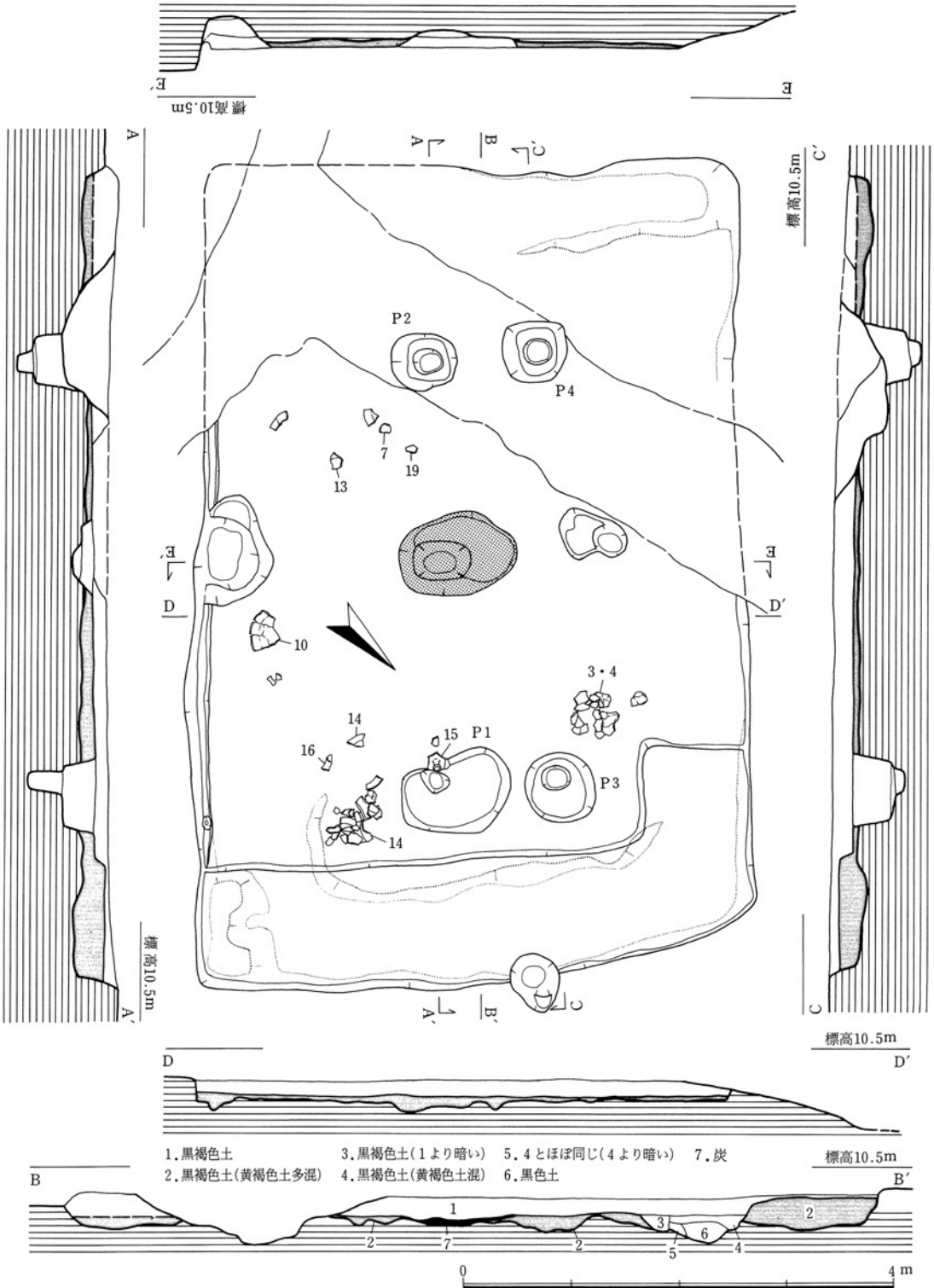


Fig.76 SH224竪穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録（2区）

を切り、さらに遺構の西側を攪乱で削られる。平面形は長軸7.48m、短軸5.04m、床面積37.7㎡の長方形プランを呈し、床面までの深さは約20cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。主柱は柱間3.9～4.0mの2本柱で、柱穴の深さは0.5～0.6m程度である。柱穴の配置より立て替え（P1-P2、P3-P4）が行なわれた可能性が高い。住居のほぼ中央には15cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は現状では北東壁から北西壁の一部にL字形に確認できる。また攪乱で削平されてはいるが床面下層の掘り込みの状態より、もともと南西壁沿いにも存在していた可能性が高い。それはほとんど貼り付けのみで形成され、貼床を施すのと同時に整形されている。床面からの高さは10～15cm程である。また南壁沿いには壁溝が存在し、ほぼ中央にはそれに連結するかのよう壁際土壇（深さ約0.3m）が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器、石器等がコンテナ1箱程度が出土している。

出土遺物 (Fig.77・78) 3・4・7・10・13～16・19は床面直上、1はP1、20はP4、2・22は壁際土壇、他は埋土出土。

甕（1～4） 1は復元口径13.7cm、器高25.4cm。口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のヘラナデ、同内面工具によるナデ調整。胴部外面下半に黒斑有り。淡赤褐色。2～4は底部破片。2は外面カキ削り、内面ハケ目調整。暗褐色。3は外面ハケ目、内面ナデ調整。淡褐色。4は外面カキ削り、内面ハケ目調整。褐色。

壺（5・6） 5は広口壺の口縁部破片。復元口径23.0cm。口縁端部に刻目を施す。内外面ハケ目調整。淡褐色。6は復元口径12.6cm。口縁部内外面横方向のヘラミガキ、胴部外面上半縦・斜方向のハケ目、同下半カキ削り、胴部内面横方向のハケ目調整。胴部外面に黒斑有り。淡橙褐色。

鉢（7～11） 7は復元口径14.4cm、器高4.6cm。口縁部横ナデ、外面カキ削り、内面ハケ目調整。外底付近に黒斑有り。淡橙褐色。8は口縁部横ナデ、外面カキ削り、内面ナデ調整。淡褐色。9は復元口径11.7cm、器高5.8cm。口縁部横ナデ、他は工具によるナデ調整。暗褐色。10は復元口径32.0cm。外面上半タタキ後ハケ目、同下半カキ削り、内面ハケ目調整。外底付近に黒斑有り。淡褐色。11は復元口径23.3cm。内外面粗いヘラミガキ調整。内面暗褐色、外面淡褐色。

高坏（12～17） 12～14は坏部破片。基本的の内外面ヘラミガキ調整で、口縁部外面に鋸歯文状の暗文を施す。12は復元口径32.8cm。橙褐色。13は復元口径31.6cm。淡橙褐色。14は復元口径34.3cm。淡橙褐色。15～17は脚部破片。外面縦方向のヘラミガキ調整、内面には絞り痕が認められる。橙褐色。16は外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。淡橙褐色。17は外面縦方向のヘラミガキ、内面ハケ目及びナデ調整。淡橙褐色。

器台（18～20） 18は復元受部径14.6cm。口縁部横ナデ、外面タタキ後工具によるナデ、内

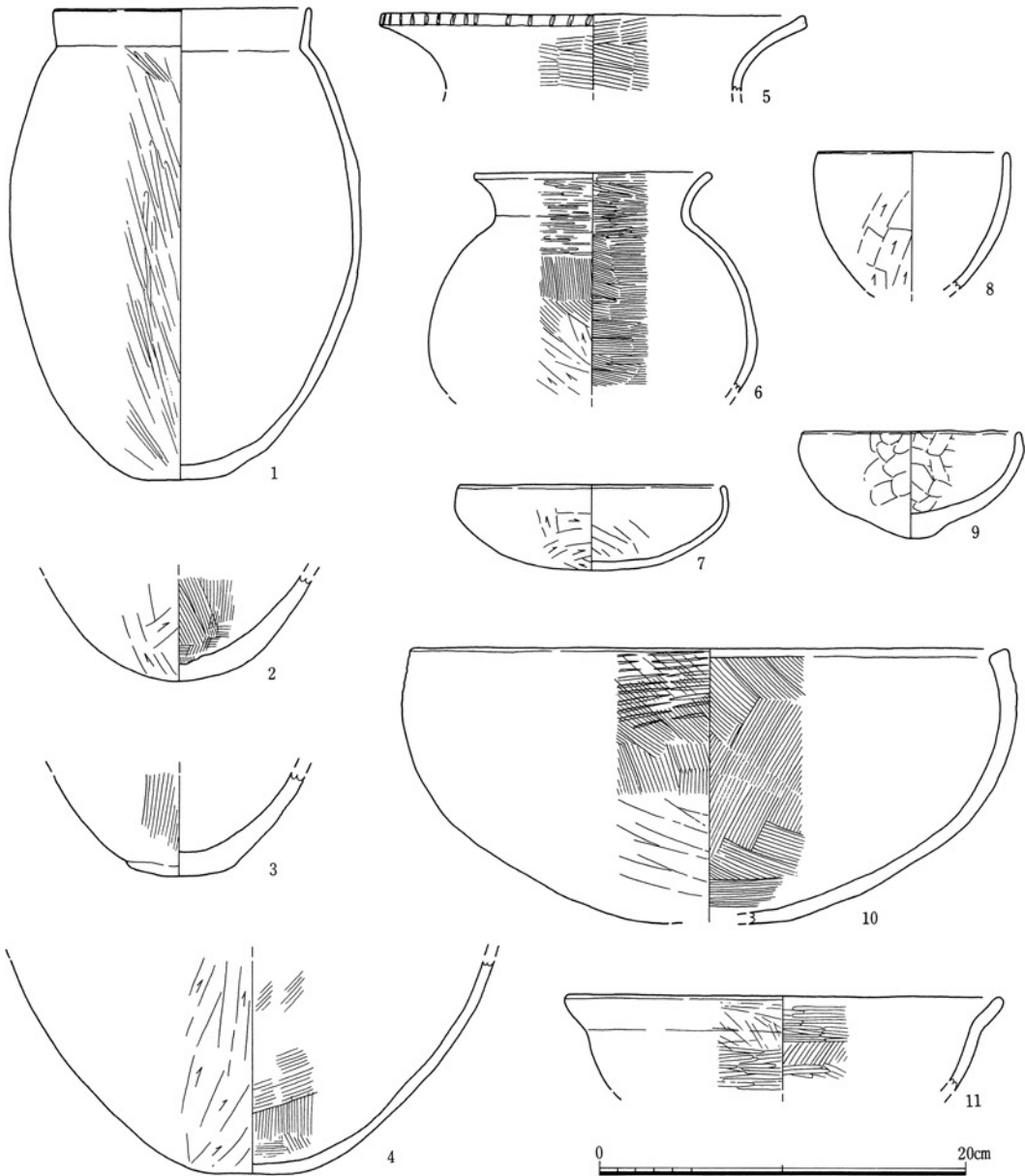


Fig.77 SH224出土遺物実測図① (1/4)

面工具による強いナデ調整。淡褐色。19は復元裾部径15.0cm。内外面ともナデ調整。褐色。20は2箇所の方形の透かしが認められる。またその透かしの間には3条の沈線を巡らし、さらに縦位の沈線を加え格子状をなす。内外面ヘラミガキ調整。淡褐色。

石器 (21・22) 21は不明品で残存長7.2cm、最大幅3.8cm、重量90.5g。22は砥石。残存長13.0cm、最大幅7.6cm、重量230g。全面を使用する。

V. 調査の記録 (2区)

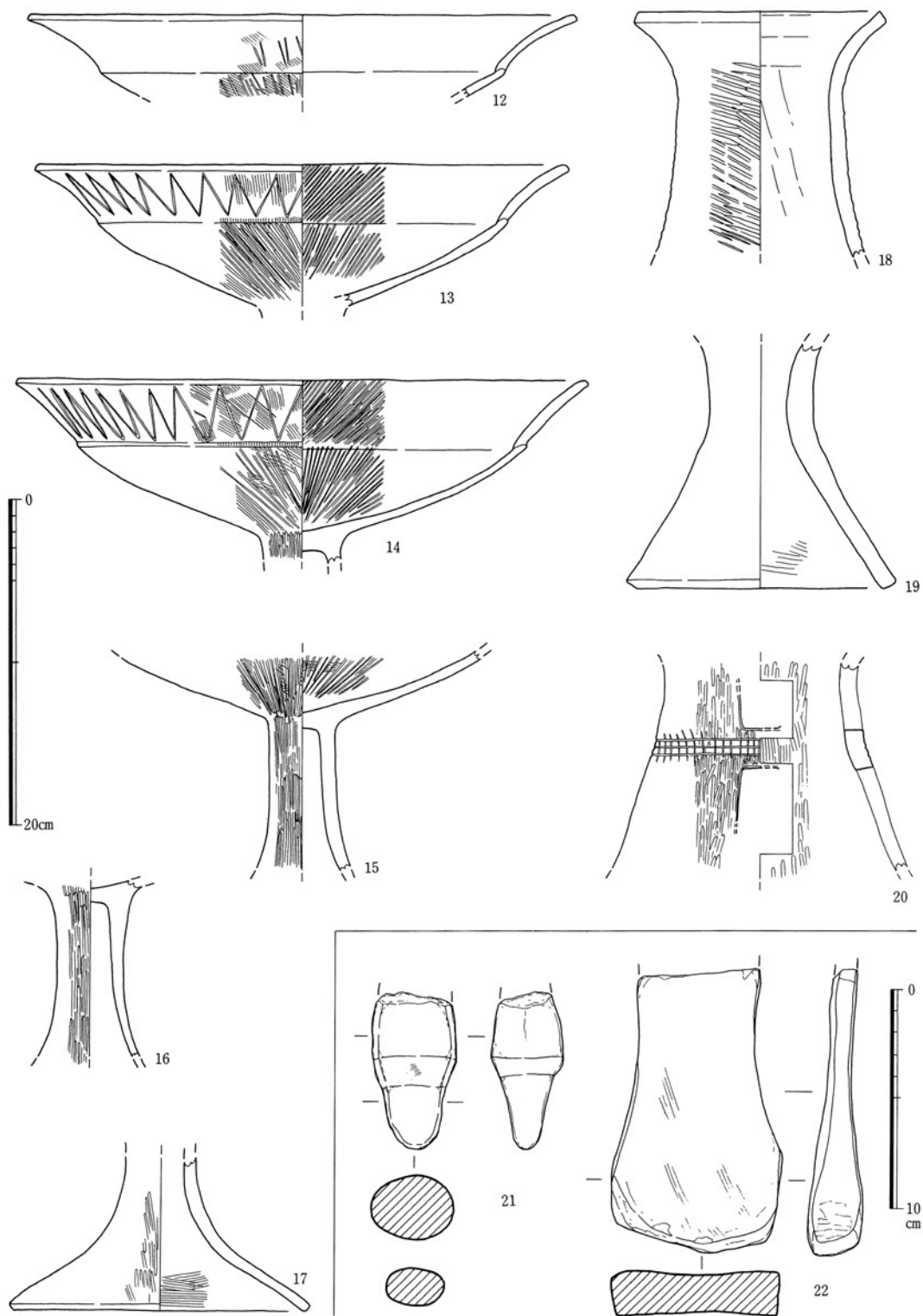


Fig.78 SH224出土遺物実測図② (1/4・1/3)

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

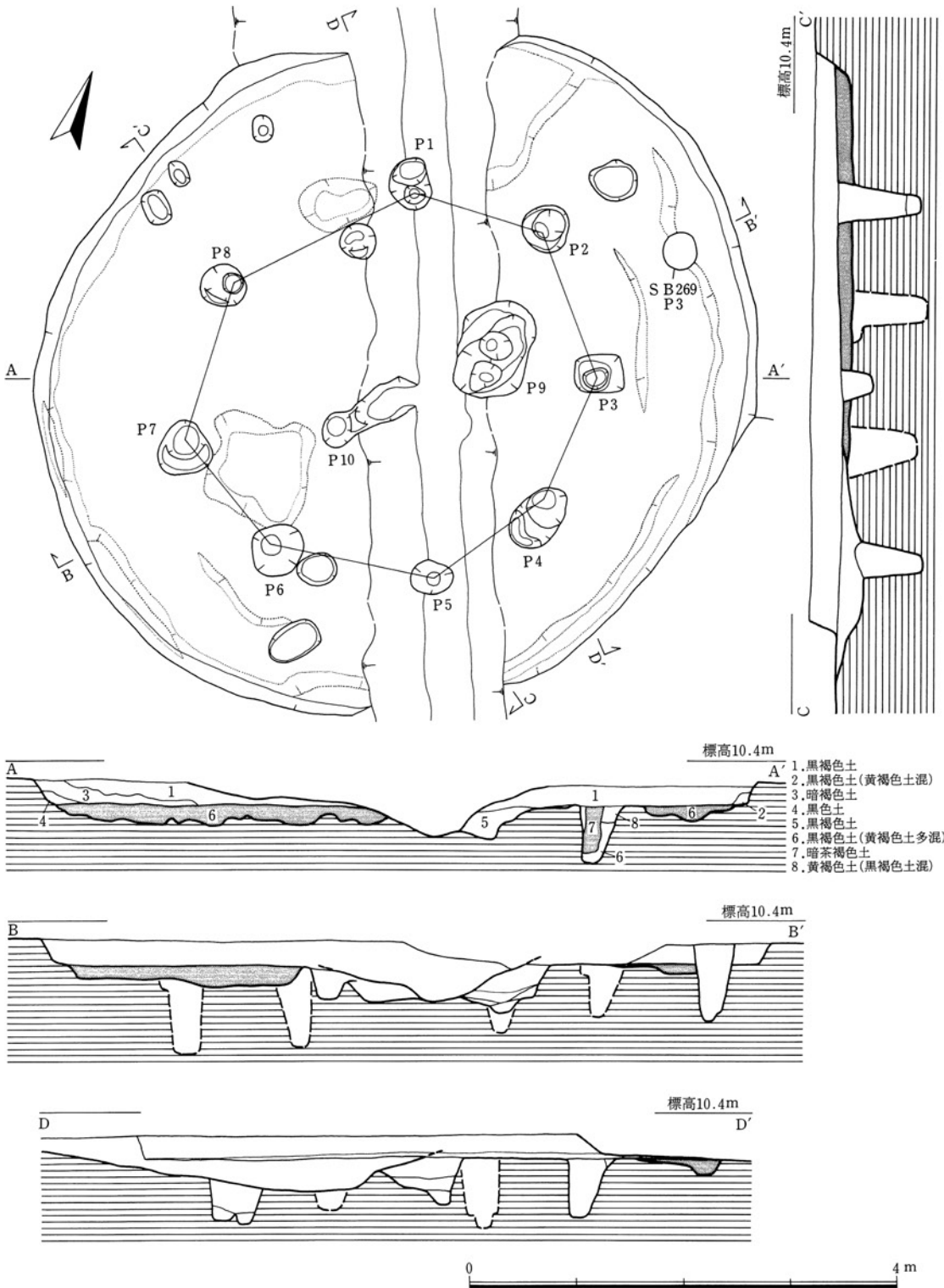


Fig.79 SH225竖穴住居実測図 (1/60)

V. 調査の記録（2区）

S H225 竪穴住居（Fig.79）

B G・B H-25・26グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。S H224、S B269に切られ、さらに遺構の中央を攪乱に削られる。またS H226と切り合うがその先後関係は不明。平面形は径6.7m、床面積35.2m²程度の円形プランを呈し、床面までの深さは約20~25cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。また床面下層は基本的に周壁沿いが深く掘り込まれている。支柱は柱間1.25~1.9mの8本柱で、柱穴の深さは0.5~0.7m程度である。P 8-P 9間が他と比べて若干柱間が大きいのが、これは出入口を意識したものであろうか。さらにP 3の土層断面において径15cm程の柱痕跡を検出している。住居の中央部は攪乱に削られるものの深さ約0.3mの土壇（炉になるか。）が確認でき、その両脇に深さ0.3~0.4mのピットが存在している。このピットは棟持柱の柱穴になるのか。

遺物は埋土中より弥生土器、石器等がビニール2袋程度出土している。

出土遺物（Fig.80） 3はP10、2は貼床、他は埋土出土。

甕（1・2） 1は口縁部破片。口縁部及び胴部上位に刻目を施した突帯を巡らす。復元口径16.0cm。内外面ナデ調整。外面に煤付着。暗褐色。2は底部破片。復元底径7.4cm。内外面ナデ調整。褐色。

壺（3） 底部破片で復元底径6.3cm。外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。外面に丹塗りの痕跡が認められる。橙褐色。

石器（4・5） いずれも砥石。4は4面が使用され、各面が使用によりU字形に窪む。残存長6.9cm、最大幅6.8cm、重量155g。砂岩系。5は5面が使用され残存長7.1cm、最大幅3.0cm、重量104g。砂岩系。

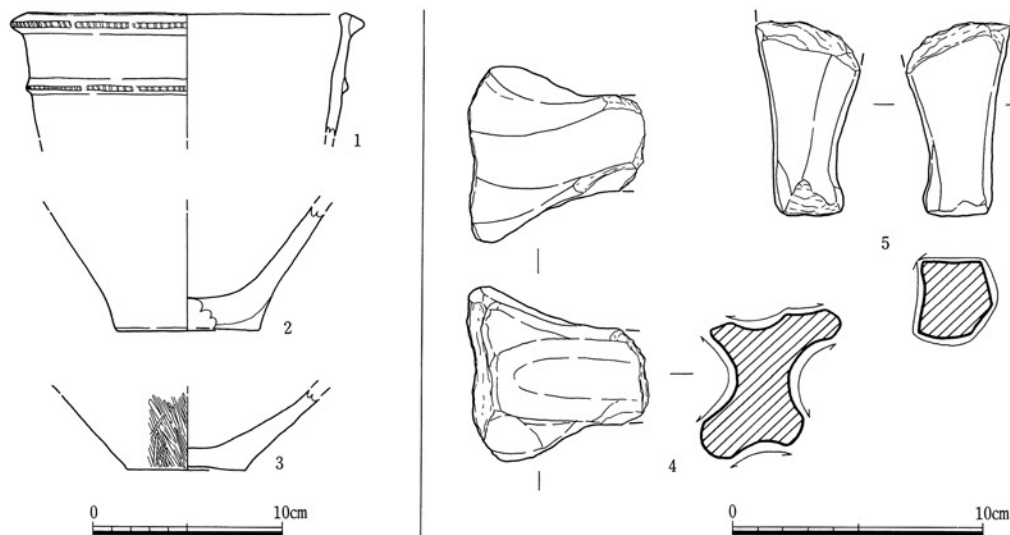


Fig.80 S H225出土遺物実測図（1/4・1/3）

S H226竪穴住居 (Fig.81)

B G-25・26グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。遺構の西側を攪乱で削られ、S H225と切り合い関係にあるがその先後関係は不明。またS H227を切り、S B269と重複関係にあるがその先後関係も不明。平面形は長軸 $3.36 + \alpha$ m、短軸2.48mの長方形プランを呈するものと思われる。床面までの深さは約8 cmで、床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱及び炉の存在は不明。

遺物は埋土中よりわずかに出土したが、図示できるものはなかった。

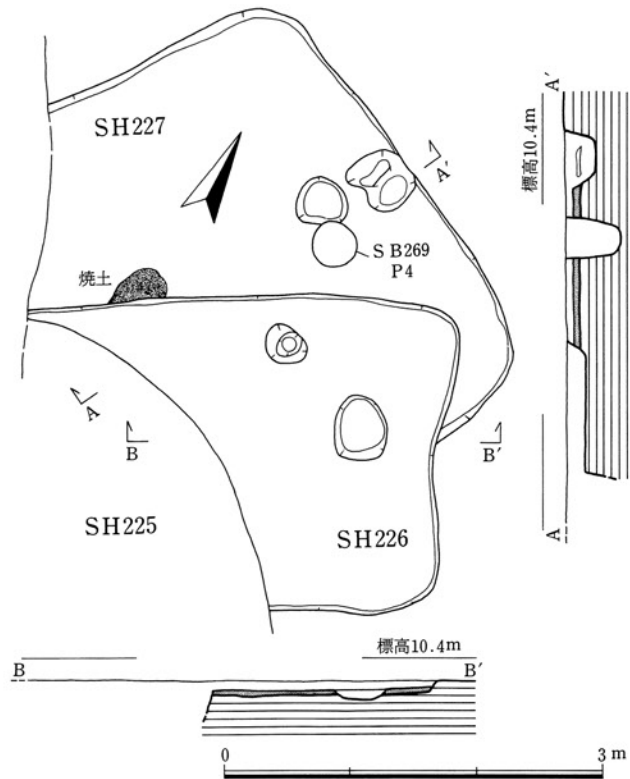


Fig.81 S H226・227竪穴住居実測図 (1/60)

S H227竪穴住居 (Fig.81)

B F・B G-25・26グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。S H226、S B269に切られ、さらに遺構の西側を攪乱によって削られる。平面形は現状では判断し難いが、恐らく長方形もしくは方形プランを呈するものと思われる。床面までの深さは約6 cmで、床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。支柱に関しては不明。住居のほぼ中心かと思われる位置に広がる焼土が炉の痕跡と考えられる。

遺物は埋土中よりわずかに出土したが、図示できるものはなかった。

S H228竪穴住居 (Fig.82)

B D・B E-25~27グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。S H228を切り、S K270、S D263に切られる。さらに遺構の東側は水田化により削平されている。平面形は長軸7.12m、短軸4.7m、床面積33.5m²程度の長方形プランを呈するものと思われる。北壁の中央部に張り出しがあるが出入口を示唆するものか。床面までの深さは約20cmで、床面には黒褐色土と黄褐色

V. 調査の記録 (2区)

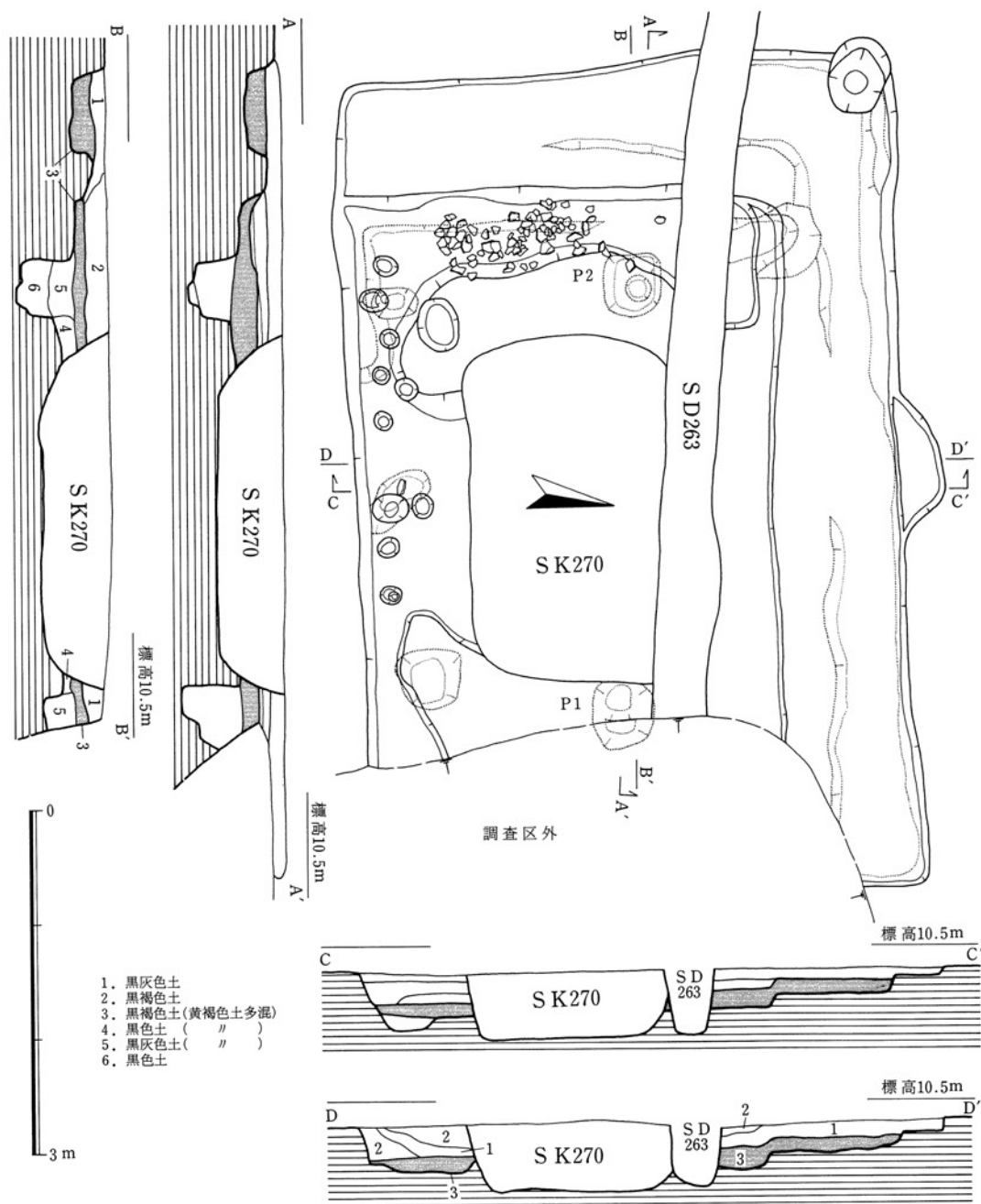


Fig.82 SH228竪穴住居実測図 (1/60)

土を叩き締めた貼床を施す。主柱は柱間3.5mの2本柱で、柱穴の深さは0.4~0.5m程度である。住居の中央部分をSK270に削られているため炉の存在は不明。ベッド状遺構は西壁から北壁沿いに設けられ、基本的に内側を削り出し、外側を溝状に掘り込んで貼床と同じように黒褐色土

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

と黄褐色土を叩き締めて形成している。ただ北壁沿いの中央部分は段状に削り出した上に黒褐色土と黄褐色土を叩き締め、貼床を施すのと同時に整形している。床面からの高さは10cm程である。また西壁沿いのベッド状遺構の内側は3～4cm窪み、そこに土器片が集中しているため

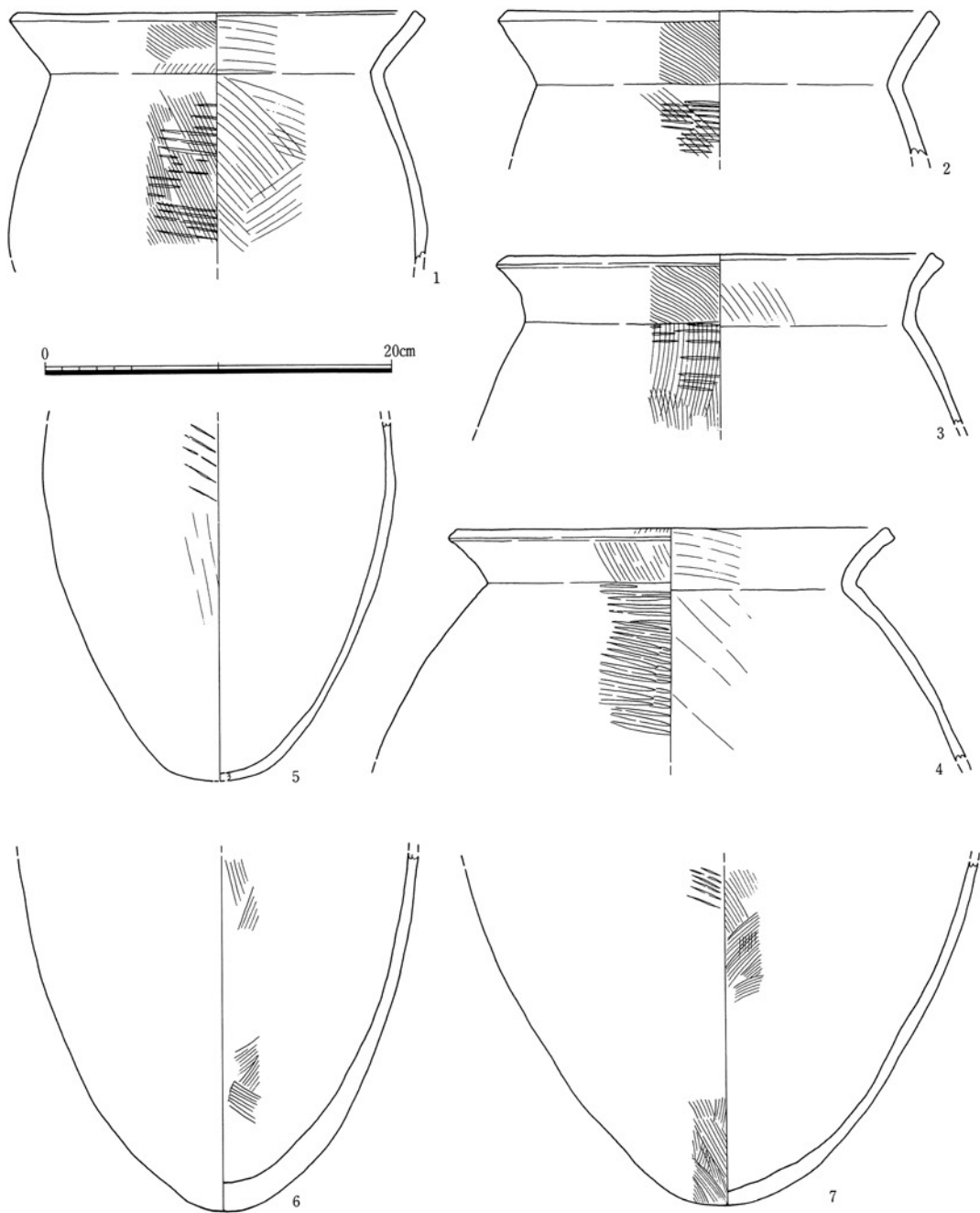


Fig.83 SH228出土遺物実測図① (1/4)

V. 調査の記録（2区）

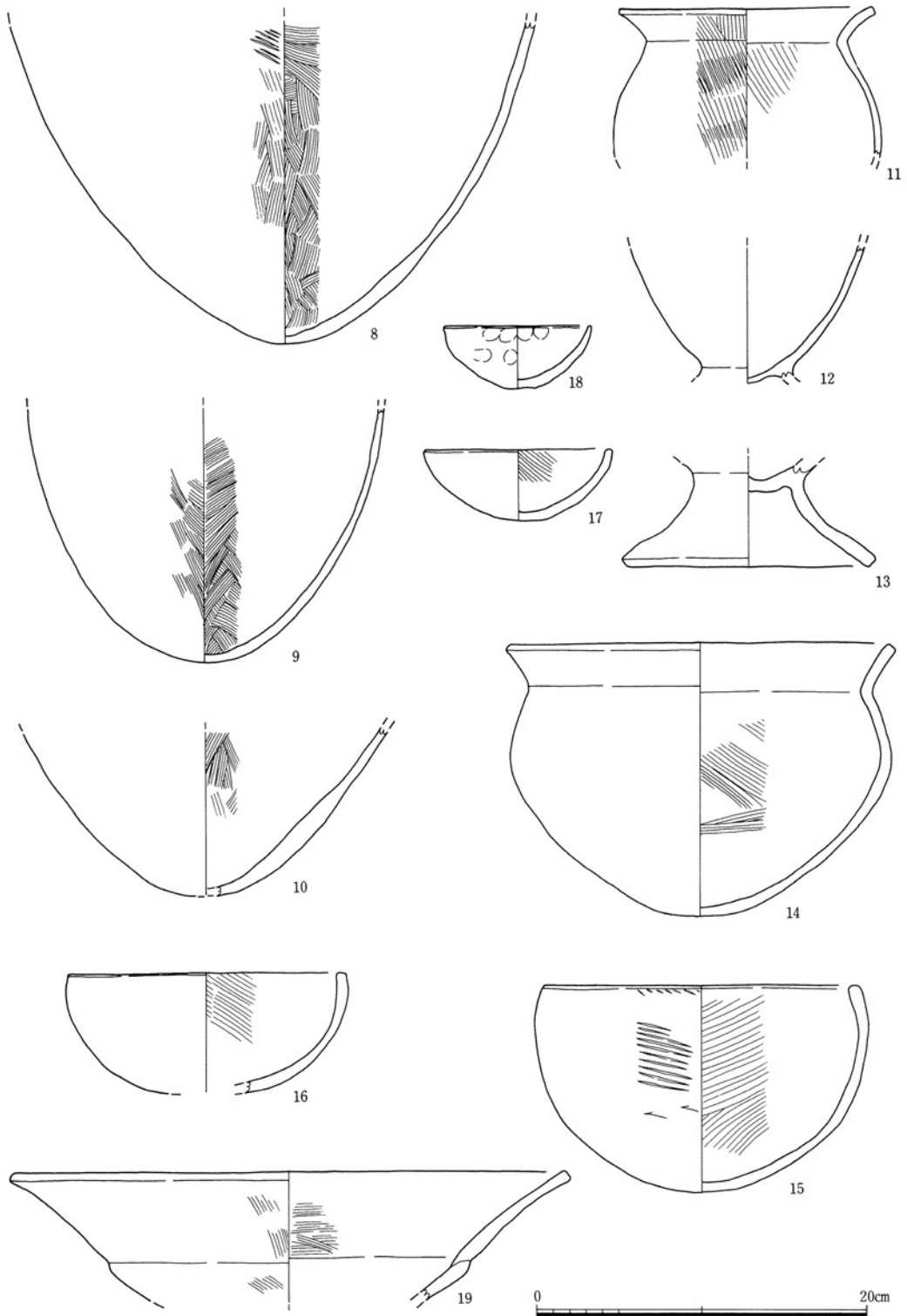


Fig.84 SH228出土遺物実測図② (1/4)

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

土器設置部分を確保してあったことが考えられる。この他、南壁沿いには径20cm、深さ10cm程のピット群を検出し、さらにほぼ中央には深さ10cm程の壁際土壌（大きさからするとピットであるが、他の住居の例から考えて壁際土壌の一種と判断する）が存在する。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig. 83~85) 1・2・4・5・7~10・12・14・15・17・19・20は床面直上、他は埋土出土。

甕 (1~12) 1~4は口縁部破片。基本的に口縁部外面ハケ目、胴部外面上半タタキ後ハケ目、内面は工具によるナデ調整。1は復元口径22.8cm。淡黄褐色。2は復元口径24.2cm。橙褐色。3は復元口径24.2cm。淡黄褐色。4は復元口径24.4cm。淡黄褐色。5~10は胴部から底部にかけての破片。基本的に外面カキ削り、内面ハケ目もしくは工具によるナデ調整。5は褐色。6は褐色。7は外底付近ハケ目調整。褐色。8は明褐色。9は外面ハケ目調整。淡橙褐色。10は淡褐色。11は口縁部破片。復元口径15.0cm。外面縦方向のハケ目、内面工具によるナデ調整。淡黄褐色。12は台付甕の台部欠損品。外面工具によるナデ、内面ナデ調整。外面に煤付着。茶褐色。

脚台 (13) 台付甕の台部と思われる。裾部径14.4cm。内外面ナデ調整。淡褐色。

鉢 (14~17) 14は復元口径23.4cm、器高16.5cm。口縁部横ナデ、他は工具によるナデ調整。胴部外面下半に黒斑有り。淡褐色。15は復元口径18.8cm、器高12.3cm。口縁端部横ナデ、外面上半タタキ後ナデ、下半カキ削り、内面ヘラ状工具によるナデ調整。淡褐色。16は復元口径16.8cm。口縁端部横ナデ、外面タタキ後ナデ、内面ヘラ状工具によるナデ調整。淡褐色。17は口径11.2cm、器高4.3cm。基本的にナデ調整で、口縁部内面のみハケ目調整。口縁部から内面にかけて黒斑有り。淡黄褐色。

手づくね土器 (18) ほぼ完形で口径8.7cm、器高3.8cm。内外面指ナデ調整。淡黄褐色。

高坏 (19) 坏部破片で復元口径33.0cm。内外面ハケ目調整。明褐色。

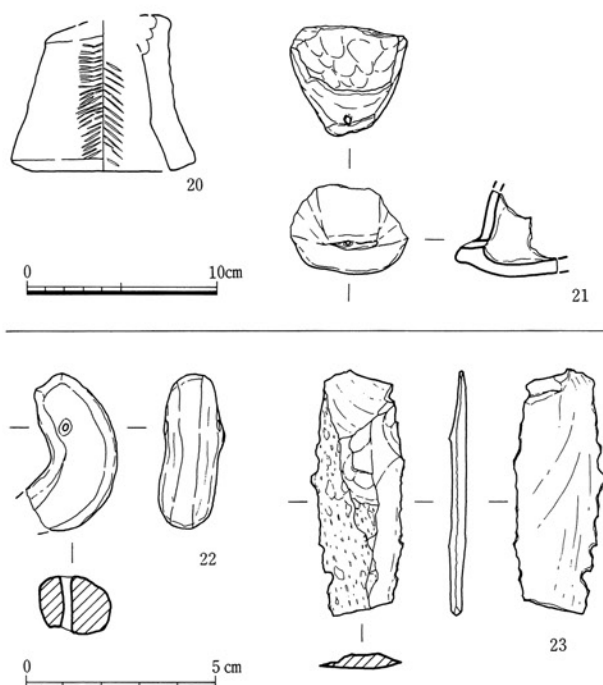


Fig. 85 S H228出土遺物実測図③ (1/4・1/2)

V. 調査の記録（2区）

支脚（20） 復元受部径6.6cm、器高9.6cm。内外面タキ調整。褐色。

土製品（21・22） 21は不明品で、張り出した部分に穿孔を有する。指ナデ調整で褐色を呈する。土製勾玉で残存長4.1cm、最大幅1.9cm。穿孔1を有する。褐色。

石器（23） サヌカイト製の削器。最大長7.0cm、最大幅2.4cm、重量7.4g。

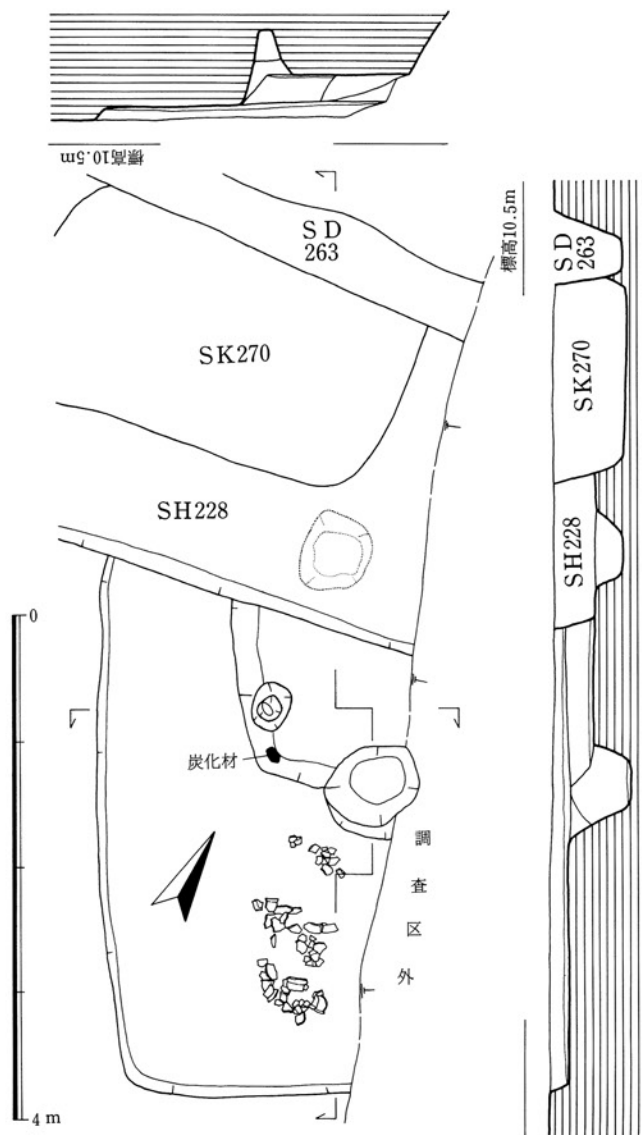


Fig.86 SH229竪穴住居実測図（1/60）

SH229竪穴住居（Fig.86）

BE・BF-26・27グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。SH228に切られ、遺構の大部分を水田化によって削平される。残存状態が悪いため平面形は不明。長方形もしくは方形プランか。支柱は明らかでないが、柱間1.8mの2本柱になる可能性がある。床面は簡単に整地する程度で貼床は施さない。床面までの深さは約30cmである。南壁から西壁沿いに削り出しの高台部分が存在するが、これがベッド状遺構になるのか。遺物の多くはこの高台部分から出土している。

遺物は埋土及び床面直上より弥生土器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物（Fig.87）

3～6・8・10・11は高台部直上、他は埋土出土。

甕（1～4） 1は復元口径23.5cm、遺構30.0cm。口縁部横ナデ、胴部外面上半縦方向のハケ目、同下半縦方向の

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

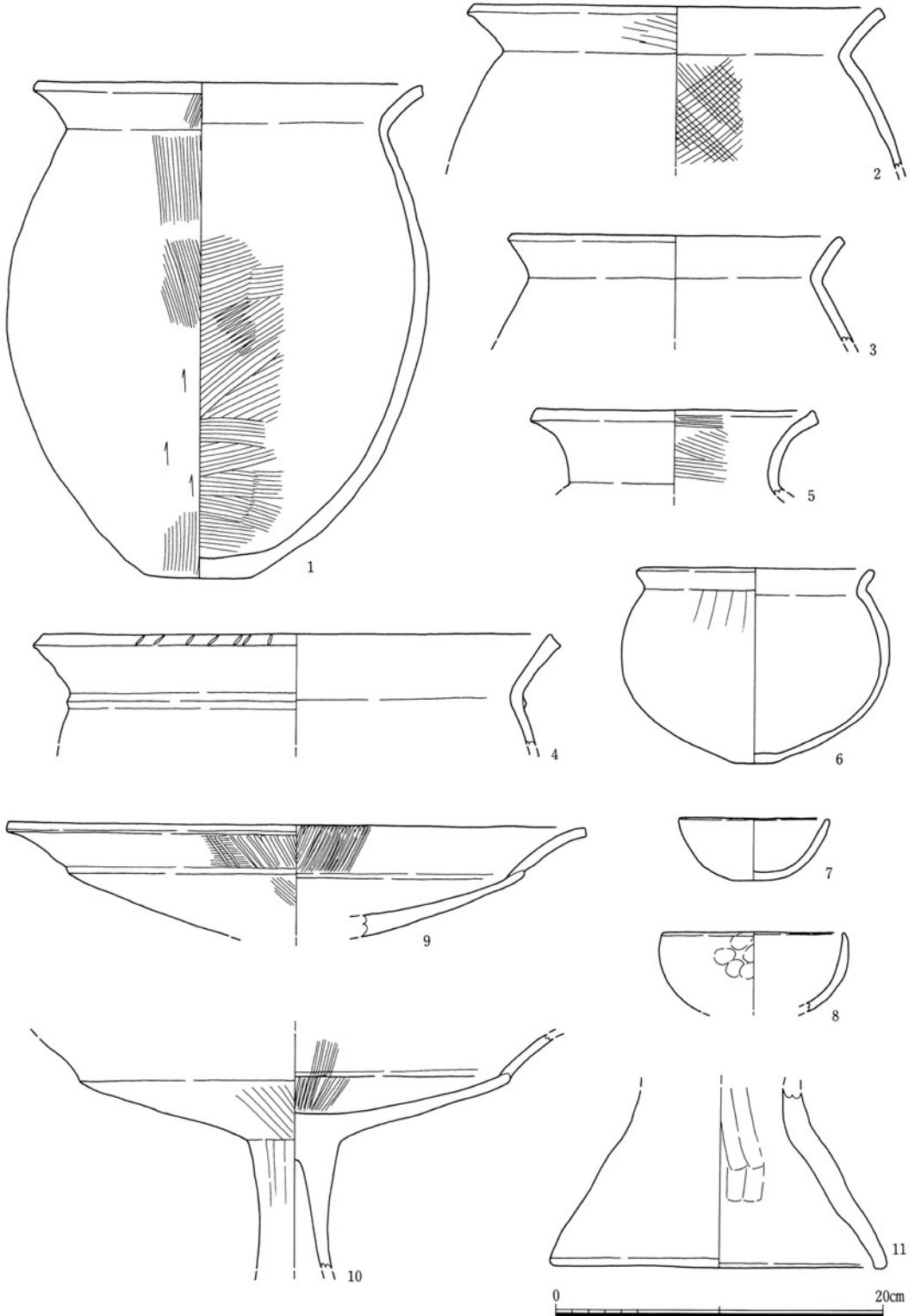


Fig.87 SH229出土遺物実測図 (1/4)

V. 調査の記録（2区）

カキ削り、胴部内面横・斜方向のハケ目調整。胴部上端外面に黒斑有り。褐色。2～4は口縁部破片。2は復元口径24.4cm。口縁部横ナデ、内面ハケ目調整の他は調整不明瞭。外面に黒斑有り。3は復元口径19.8cm。全体に磨耗のため調整不明瞭。赤褐色。淡橙褐色。4は口縁端部に刻目を施し、口縁部と胴部の境に突帯を1条巡らす。復元口径30.6cm。内外面横ナデ調整。淡橙褐色。

壺（5・6） 5は口縁部破片で復元口径17.0cm。口縁部外面横ナデ、同内面横方向のハケ目調整。暗茶褐色。6は口径13.9cm、器高11.9cm。口縁部横ナデ、胴部外面ヘラ状工具によるナデ、同内面ナデ調整。胴部外面上半から内面上半にかけて黒斑有り。淡褐色。

鉢（7・8） 7は復元口径9.0cm、器高3.7cm。内外面ナデ調整。淡褐色。8は復元口径11.0

cm。内外面ナデ調整。淡褐色。

高坏（9・10） 基本的の内外面ヘラミガキ調整。9は復元口径37.4cm。口縁部外面に黒斑有り。橙褐色。10は橙褐色。

器台（11） 裾部破片で復元裾部径20.0cm。外面ナデ、内面工具によるナデ調整。裾部内面に黒斑有り。淡黄褐色。

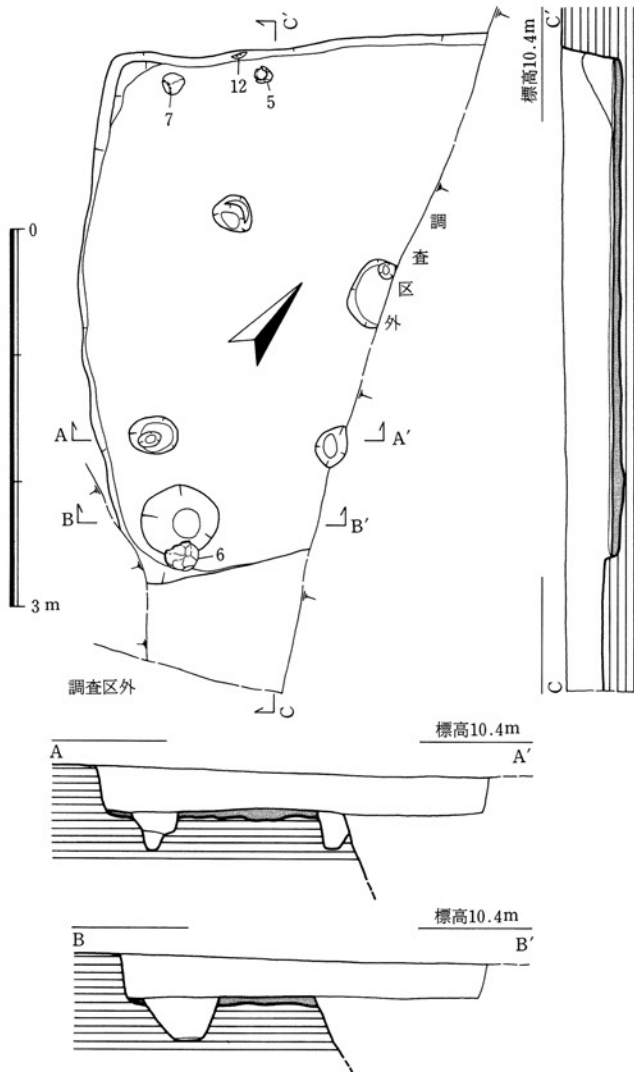


Fig.88 SH230竪穴住居実測図 (1/60)

S H230竪穴住居 (Fig.88)

BG・BH-27・28グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.3m。SK232を切り、遺構の大部分を水田化のために削平される。平面形は方形もしくは長方形プランを呈すると思われるが、残存状態が悪いため不明。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。床面までの深さは約40cmである。主柱及び炉に関しては不明。南壁部分には削り出しの高さ約5cmの高台部分があるが、これが

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

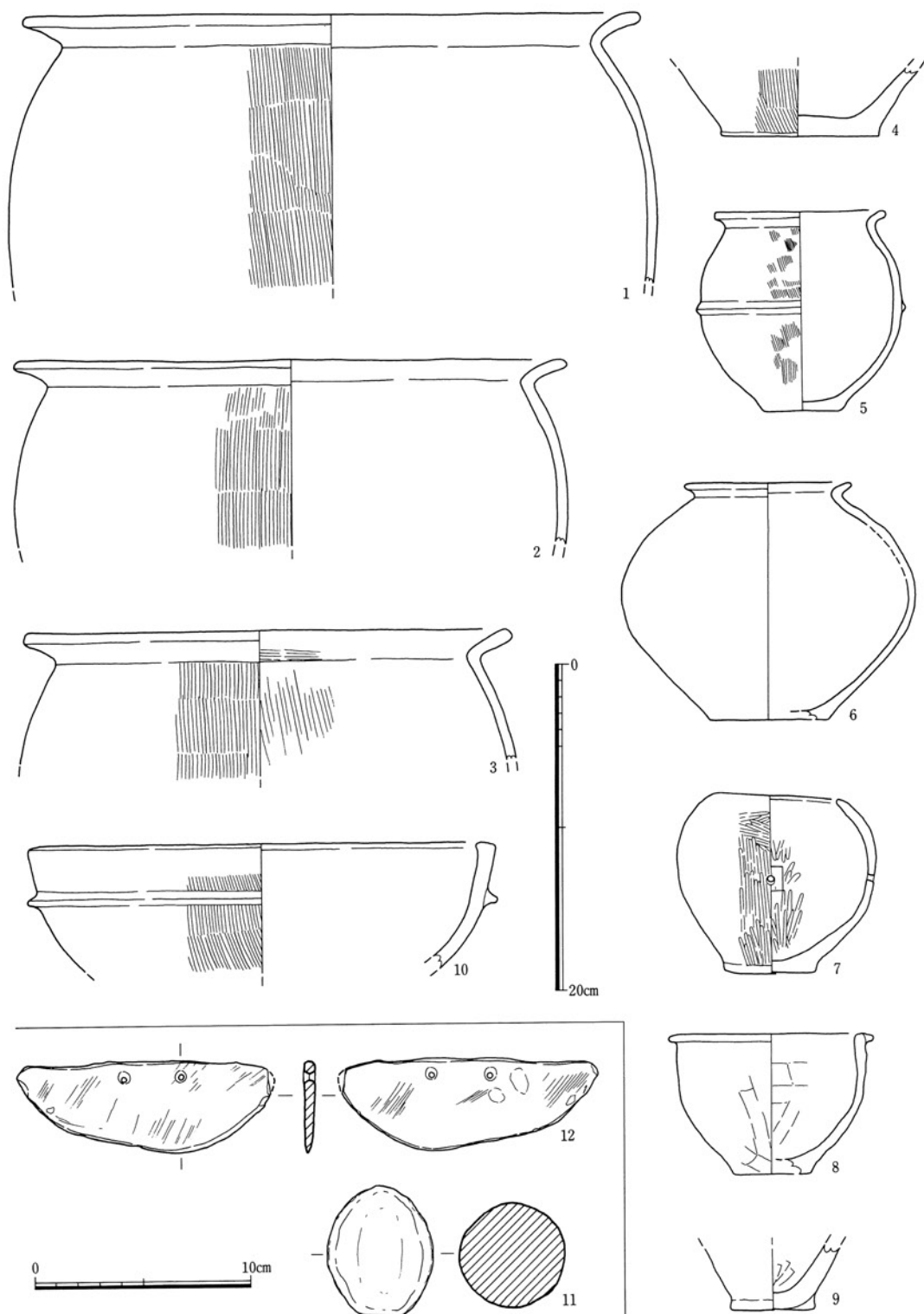


Fig.89 SH230出土遺物実測図 (1/4・1/3)

V. 調査の記録（2区）

ベッド状遺構になるかどうかは現状では判断し難い。また南西隅には径0.6m、深さ0.35m程度の屋内土壇が設けられている。

遺物は埋土及び床面直上から弥生土器、石器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.89) 5～7・12は床面直上、他は埋土出土。

甕（1～5） 1～3は口縁部破片で、基本的に口縁部横ナデ、外面縦方向のハケ目、内面ナデ調整。1は復元口径36.6cm。淡褐色。2は復元口径32.6cm。淡橙褐色。3は復元口径29.9cm。内面工具によるナデ調整。橙褐色。4は底部破片。底径9.5cm。外面縦方向のハケ目、内面ナデ調整。淡褐色。5は小型の甕で胴部中位に1条の突帯を巡らす。復元口径10.2cm、底径4.6cm、器高12.2cm。口縁部横ナデ、外面ハケ目後ナデ、内面ナデ調整。暗褐色。

壺（6・7） 6は復元口径14.1cm、同底径7.2cm、器高11.1cm。口縁部横ナデ、他はナデ調整。暗褐色。7はほぼ完存品で口径7.1cm、底径5.5cm、器高10.8cm。胴部中位に穿孔（1箇所）有り。口縁部横ナデ、胴部内外面縦方向のヘラミガキ調整。暗褐色。

鉢（8・9） 8は復元口径11.4cm、同底径4.7cm、器高8.5cm。口縁部横ナデ、胴部内外面工具によるナデ調整。褐色。9は底部破片で復元底径4.7cm。内外面工具によるナデ調整。淡褐色。

高坏（10） 坏の口縁部破片で復元口径26.0cm。体部中位に突帯を1条巡らす。口縁部横ナデ、外面縦方向のハケ目、内面ナデ調整。淡橙褐色。

土製品（11） 土弾か。最大長5.9cm、径4.8cm。褐色。

石器（12） ほぼ完存品の石包丁で、残存長11.5cm、最大幅4.2cm、重量35.4g。穿孔は両面からで2箇所に設ける。比較的丁寧に研磨される。粘板岩系。

S H231 竪穴住居 (Fig.90)

BH-24・25グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.3m。SH213、SB252と切り合い関係にありいずれも本住居が先行する。平面形は長方形もしくは方形プランを呈すると思われるがその全貌は知り得ない。床面にわずかに整地層が残る程度まで削平されていた。主柱に関しては不明。住居の中央より南西寄りに炉の痕跡と考えられる焼土を検出している。また北西壁の中央には2段掘り状の土壇（壁際土壇の一種か。）が存在する。

遺物は整地層より微量出土しているが、図示できるものはなかった。

S H233 竪穴住居 (Fig.90)

AZ-20グリッドで検出した。検出面の標高は10.4～10.5m。平面形は長軸2.96m、短軸2.46m、床面積7.3m²の小型の長方形プランを呈し、ほとんど床面下まで削平されていた。主柱及び炉に関しては不明。周壁沿いには壁溝が巡っていたようで部分的にその痕跡が認められる。ま

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

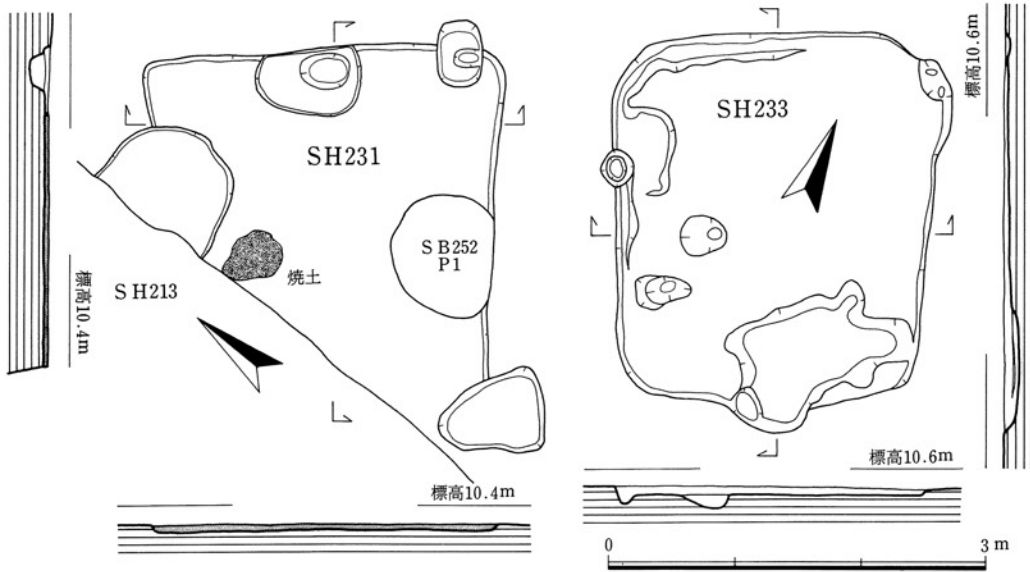


Fig.90 SH231・233竪穴住居実測図 (1/60)

た南壁沿いには不定形の掘り込みが行なわれている。

遺物は全く出土していない。

(2) 掘立柱建物 (Fig.91)

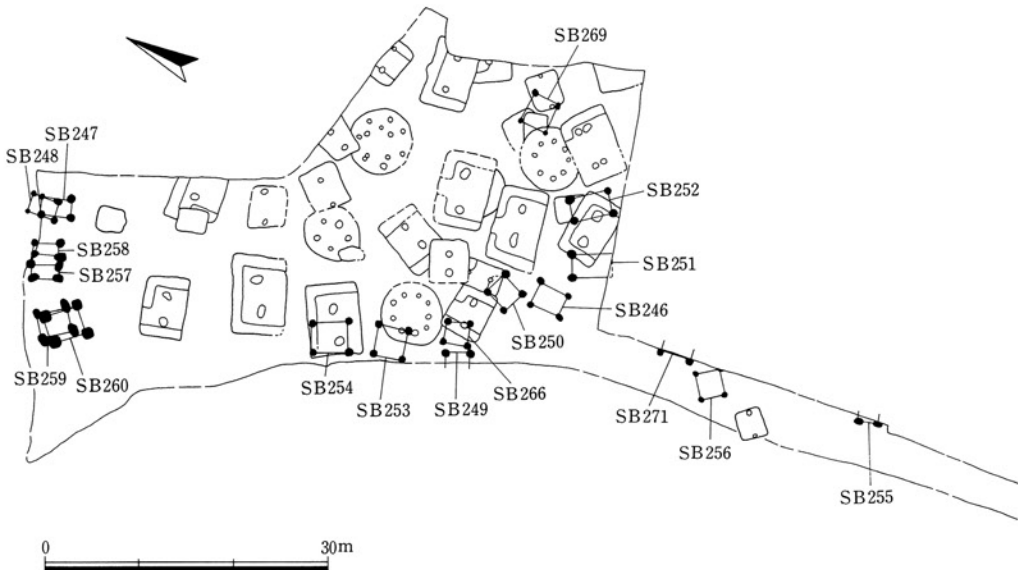
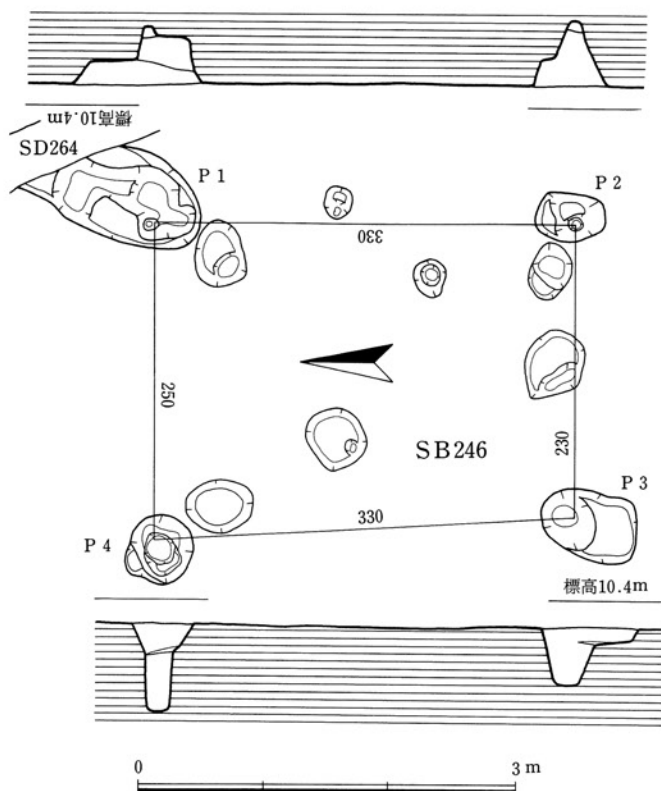


Fig.91 掘立柱建物群配置図 (1/800)

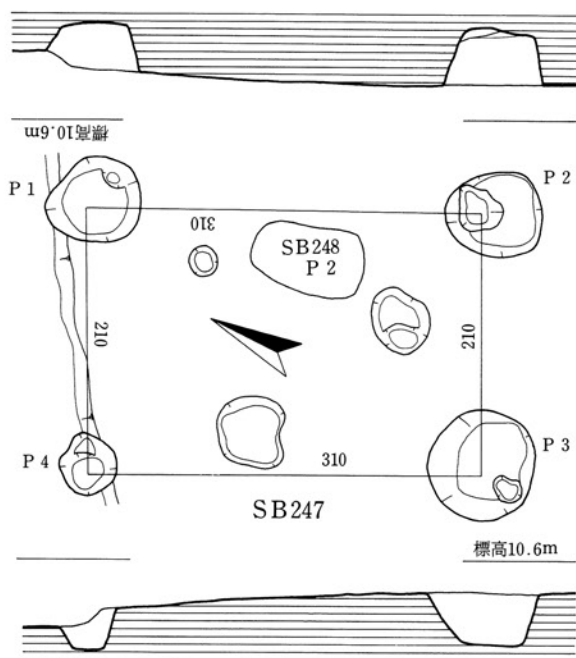
V. 調査の記録（2区）



1 × 1 間の規模と考えられる建物を全体で18棟検出している。その多くは竪穴住居が集中する部分の周辺で検出しており、倉庫的機能を有していた可能性が高い。中でも S B 247・248、S B 257・258、S B 259・260はそれぞれ1回ずつの立て替えが考えられ興味深い。全体に出土遺物が少なく大部分の建物の時期が限定できていない。さらに調査区の狭小さもあって、どの掘立柱建物がどの竪穴住居と有機的な関連をもつのかは明確ではない。ここでは検出状況の良好な15棟について報告する。

S B 246掘立柱建物

(Fig.92)

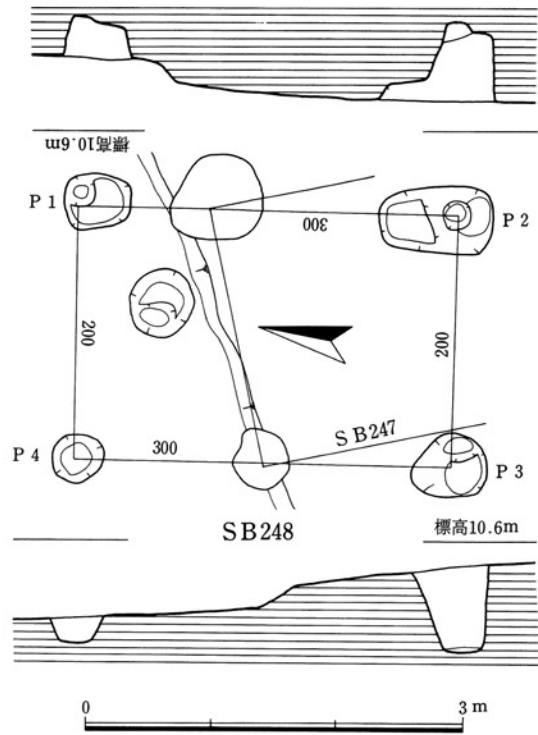


B I - 22・23グリッドで検出した。検出面の標高は10.2 m。S D 264と切り合い関係にあり本建物が先行する。1 × 1 間の建物で、桁行3.3m、梁行2.3~2.5m、床面積7.9m²の規模を有する。桁行をほぼ真北にとる。柱穴掘方は円形~楕円形で、その規模は長軸0.6~0.8m、深さ0.5~0.7m程度である。遺物は全く出土していない。

Fig.92 S B 246・247掘立柱建物実測図 (1/60)

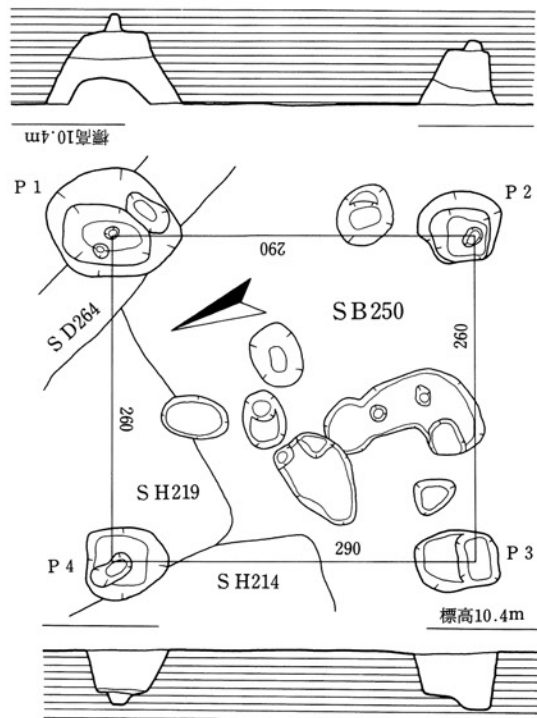
S B 247掘立柱建物 (Fig. 92)

A X・A Y-19・20グリッドで検出した。検出面の標高は10.0~10.3m。
S B 248と重複するがその先後関係は不明。S B 248とは立て替えの関係にあると思われる。1×1間の建物で、桁行3.1m、梁行2.1m、床面積6.5m²の規模を有する。桁行をN-23°-Wにとる。柱穴掘方は円形に近く、その規模は径0.45~0.9m、深さ0.4~0.5m程度である。遺物は柱穴埋土より微量出土しているが、図示できるものはなかった。



S B 248掘立柱建物 (Fig. 93)

A X・A Y-19・20グリッドで検出した。検出面の標高は10.0~10.3m。
S B 247と重複するがその先後関係は不明。S B 247とは立て替えの関係にあると思われる。1×1間の建物で、桁行3.0m、梁行2.0m、床面積6.0m²の規模を有する。桁行をN-10°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸長方形~円形に近く、その規模は長軸0.4~0.9m、深さ0.2~0.7m程度である。遺物は全く出土していない。



S B 250掘立柱建物 (Fig. 93)

B H-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。S H 219を切り、S D 264に切られる。1×1間の建物で、桁行2.9m、梁行2.6m、床面積7.5m²の規模を有する。桁行をN-21°-Eにとる。柱穴掘方は隅丸方形~長

Fig. 93 S B 248・250掘立柱建物実測図 (1/60)

V. 調査の記録 (2区)

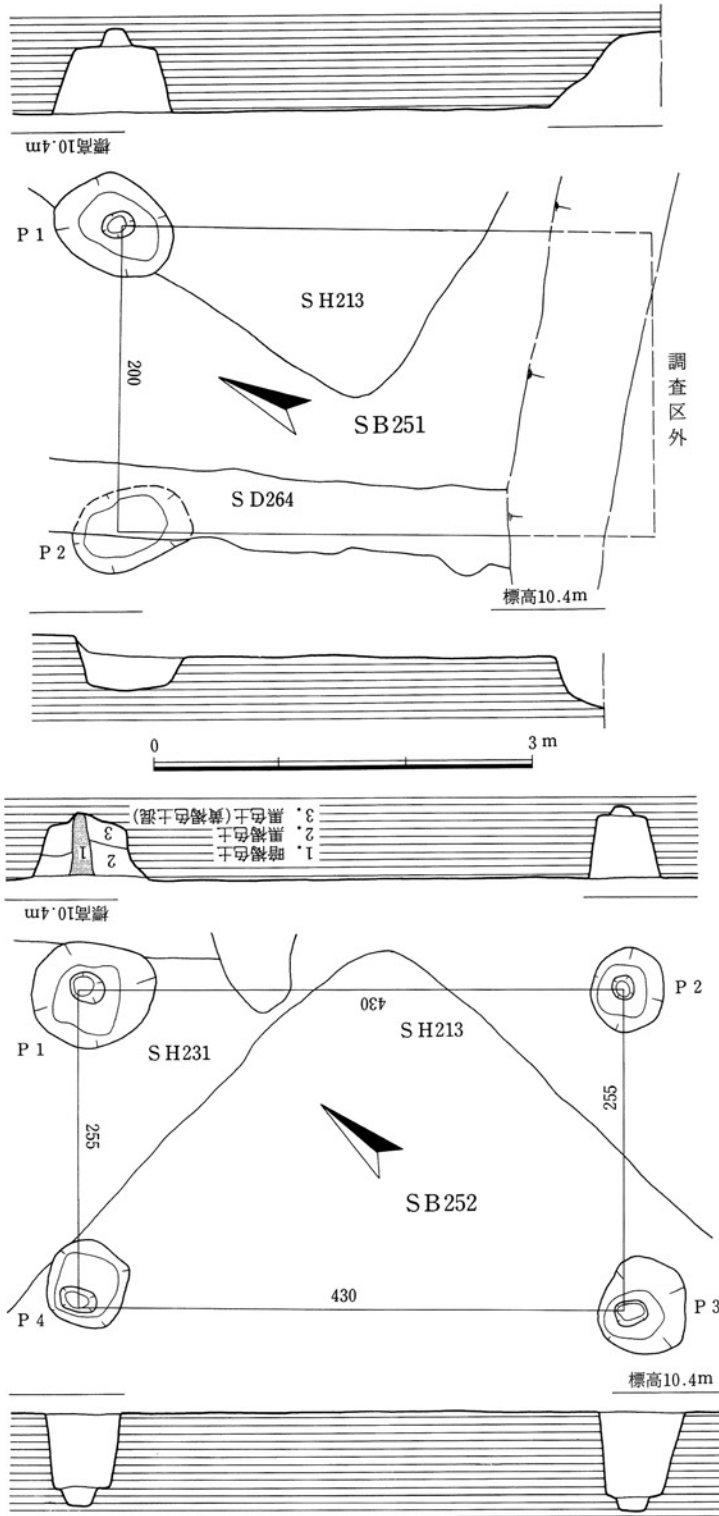


Fig.94 S B 251・252掘立柱建物実測図 (1/60)

方形に近く、その規模は長軸0.6~1.0m、深さ0.45~0.7m程度である。遺物は柱穴埋土より土師器甕等がわずかに出土している。

出土遺物 (Fig.95)

P 3 出土。

甕 (1) 口縁部破片で復元口径18.2cm。横ナデ調整。暗褐色。

S B 251掘立柱建物 (Fig.94)

B I・B J-23・24 グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。S H213を切り、S D264に切られる。また建物の南側は攪乱に削られており、その全貌は知り得ない。恐らく1×1間の建物になると考えられる。柱穴掘方は楕円形に近く、その規模は長軸0.9m、深さ0.4~0.6m前後である。遺物は全く出土していない。

S B 252掘立柱建物 (Fig.94)

B H・B I-24・25

グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.3m。SH 213・231と切り合い、いずれも本建物が後出する。1×1間の建物で、桁行4.3m、梁行2.55m、床面積11.0m²の規模

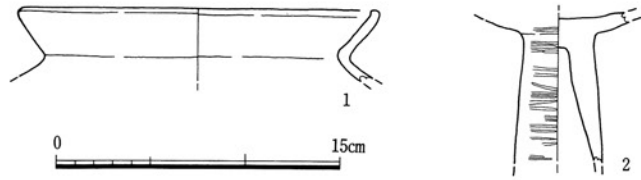


Fig.95 S B 250・252出土遺物実測図 (1/4)

を有する。桁行をN-40°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸方形～長方形に近く、その規模は長軸0.6～1.0m、深さ0.5～0.8m程度である。またP 1において径18cm程度の柱痕跡を検出している。遺物は柱穴埋土より土師器高坏等が少量出土している。

出土遺物 (Fig.95) P 3 出土。

高坏 (2) 脚部破片。外面横方向のヘラミガキ、内面ヘラ削り調整。淡橙褐色。

S B 253掘立柱建物 (Fig.96)

BF・BG-20・21グリッドで検出した。検出面の標高は9.9～10.2m。SH215と切り合い本建物が後出する。1×1間の建物で、桁行3.2～3.4m、梁行3.3～3.35m、床面積11.0m²の規模を有する。梁行をN-17°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸方形に近く、その規模は一辺が0.5～0.6m、深さ0.4～0.7m程度である。遺物は柱穴埋土よりわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

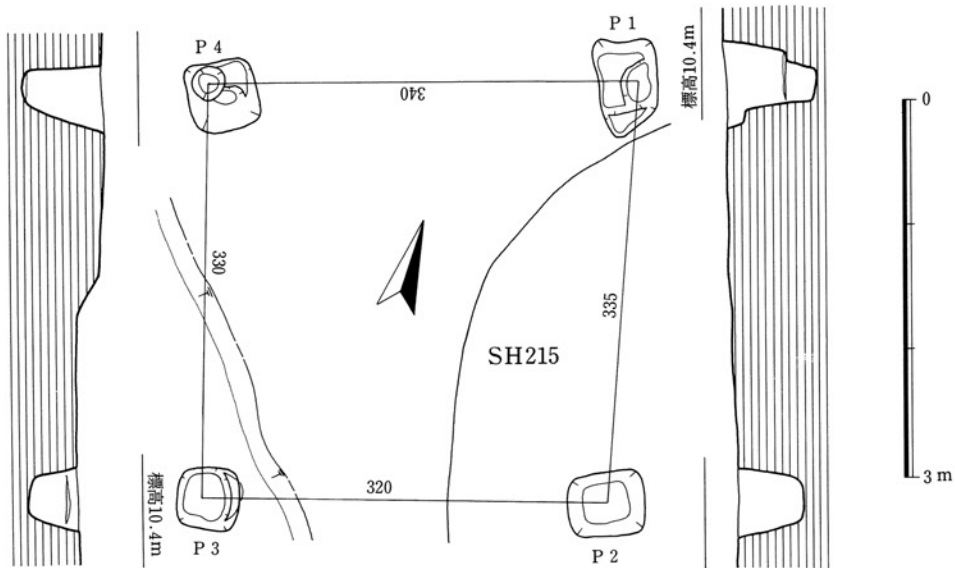
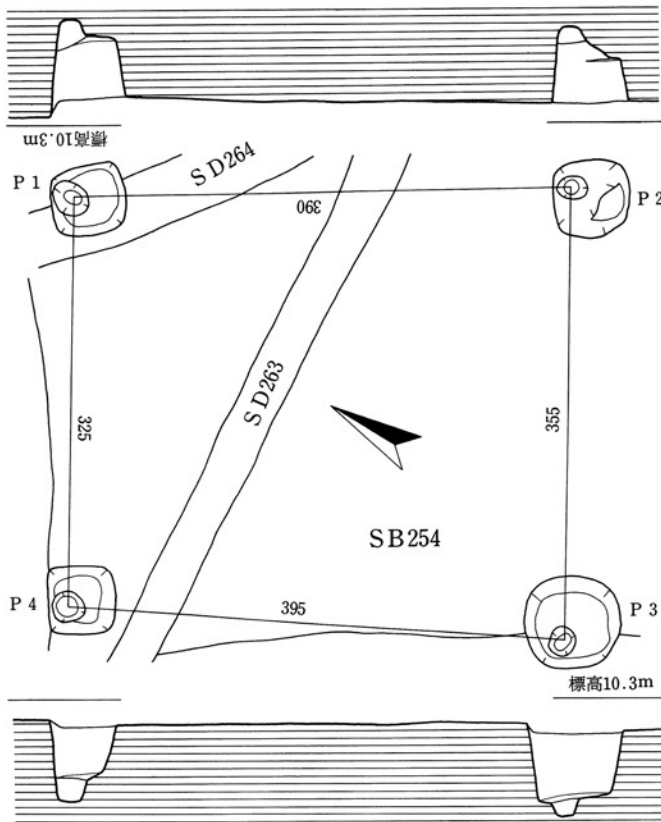


Fig.96 S B 253掘立柱建物実測図 (1/60)

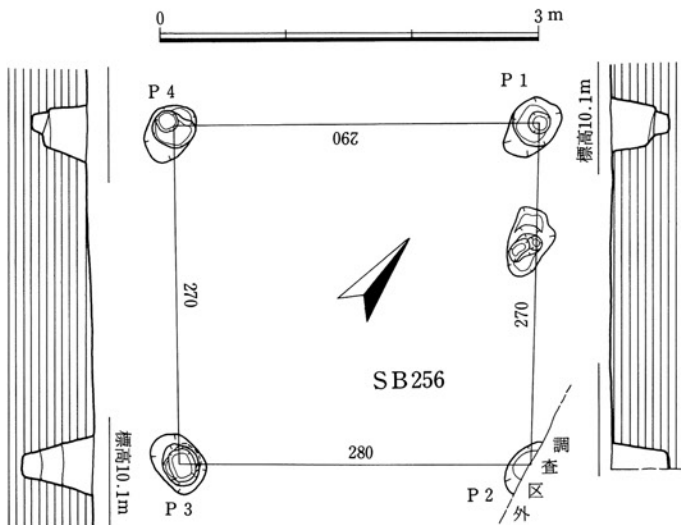
V. 調査の記録 (2区)



S B254掘立柱建物

(Fig.97)

BE・BF-19・20グリッドで検出した。検出面の標高は10.1~10.2m。SH203を切り、SD264に切られる。また中世のSD263と重複する。1×1間の建物で、桁行3.9~3.95m、梁行3.25~3.55m、床面積13.7㎡の規模を有する。桁行をN-32°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸方形に近く、その規模は一辺が0.5~0.7m、深さ0.6~0.8m程度である。遺物は柱穴埋土よりわずかに出土しているが図示できるものはなかった。



S B256掘立柱建物

(Fig.97)

BL・BM-22・23グリッドで検出した。検出面の標高は9.9~10.0m。他の遺構との切り合い関係は認められないが、P2の大部分は調査区外にある。1×1間の建物で、桁行2.8~2.9m、梁行2.7m、床面積7.7㎡の規模を有する。梁行をN-39°-Wにとる。柱穴掘方は楕円形に近く、そこに規模は長軸0.5m、深さ0.4~0.55m程度である。位置的にSH220と有機的関連があるか。遺物は柱穴埋土よりわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

Fig.97 S B254・256掘立柱建物実測図 (1/60)

は楕円形に近く、そこに規模は長軸0.5m、深さ0.4~0.55m程度である。位置的にSH220と有機的関連があるか。遺物は柱穴埋土よりわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

S B 257掘立柱建物 (Fig.98)

A Y・A Z-18・19グリッドで検出した。検出面の標高は10.0~10.4m。S B 258と立て替えの関係にあると思われるがその先後関係は不明。また建物の北側上面は水田化のため削平される。1×1間の建物で、桁行3.2m、梁行2.2~2.75m、床面積7.9m²の規模を有する。桁行をN-22°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸方形~長方形に近く、その規模は長軸0.6~1.1m、深さ0.5~0.7m程度である。またすべての柱穴において径18cm前後の柱痕跡を検出している。遺物は柱穴埋土より弥生土器高坏等が少量出土している。

出土遺物 (Fig.99) P 2 出土。

高坏 (1) 脚部破片。外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。淡橙褐色。

手づくね土器 (2) 完存品で口径7.2cm、器高4.4cm。内外面指ナデ調整。口縁部周辺に黒斑有り。淡褐色。

S B 258掘立柱建物 (Fig.98)

A Y-18・19グリッドで検出した。検出面の標高は10.0~10.5m。S B 257と立て替えの関係にあると思われるがその先後関係は不明。また建物の北側上面は水田化のため削平される。1×1間の建物で、

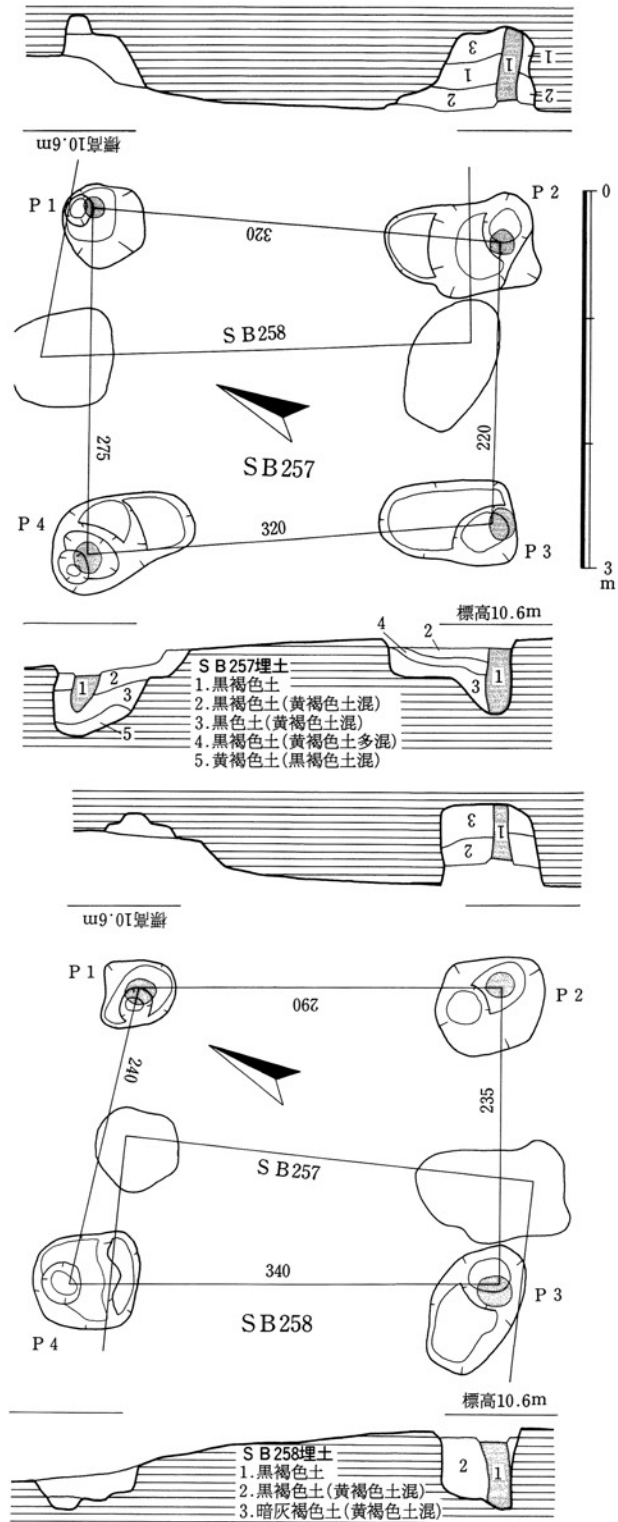


Fig.98 S B 257・258掘立柱建物実測図 (1/60)

V. 調査の記録（2区）

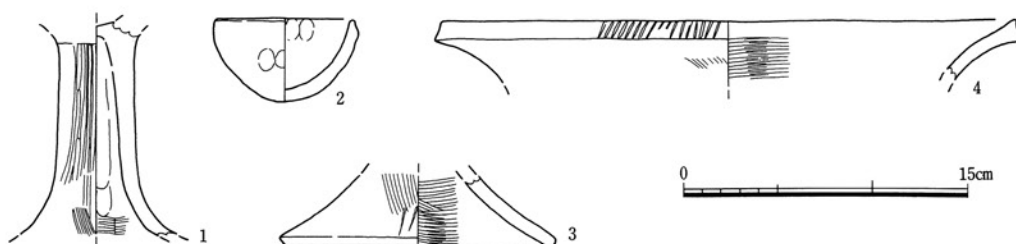


Fig.99 S B257・259・260出土遺物実測図（1/4）

桁行2.9～3.4m、梁行2.35～2.4m、床面積6.3m²の規模を有する。桁行をN-27°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸方形～長方形で、その規模は長軸0.5～1.0m、深さ0.2～0.6m程度である。またP1～3において径20cm前後の柱痕跡を検出している。遺物は柱穴埋土より微量出土しているが、図示できるものがなかった。

S B259掘立柱建物（Fig.100）

A Y・A Z-17・18グリッドで検出した。検出面の標高は10.4～10.5m。S B260と立て替えの関係にあると思われ、本建物の方が先行する。1×1間の建物で、桁行3.5m、梁行2.6m、床面積9.1m²の規模を有する。桁行をN-43°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸長方形に近く、その規模は長軸0.9～1.5m、深さ0.4～0.5m程度である。またすべての柱穴において径20cm前後の柱痕跡を検出している。遺物は柱穴埋土より弥生土器脚台等がわずかに出土している。

出土遺物（Fig.99） P 3 出土。

脚台（3） 台付甕の台部と思われる。裾部径14.0cm。内外面ハケ目調整。淡褐色。

S B260掘立柱建物（Fig.100）

A Z・B A-17・18グリッドで検出した。検出面の標高は10.4～10.5m。S B259と立て替えの関係にあると思われ、本建物の方が後出する。1×1間の建物で、桁行3.7～3.8m、梁行2.75～3.0m、床面積10.8m²の規模を有する。桁行をN-46°-Wにとる。柱穴掘方は大型で隅丸方形に近く、その規模は一辺が1.1～1.2m、深さ0.5～0.6m程度である。またすべての柱穴において径22cm前後の柱痕跡を検出している。遺物は柱穴埋土より弥生土器壺等が少量出土している。

出土遺物（Fig.99） P 4 出土。

壺（4） 広口壺の口縁部破片で、復元口径30.0cm。口縁端部に刻目を施す。内外面ハケ目調整で淡黄褐色を呈する。

S B266掘立柱建物（Fig.101）

B G・B H-21・22グリッドで検出した。検出面の標高は10.1～10.2m。S H214と切り合う

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

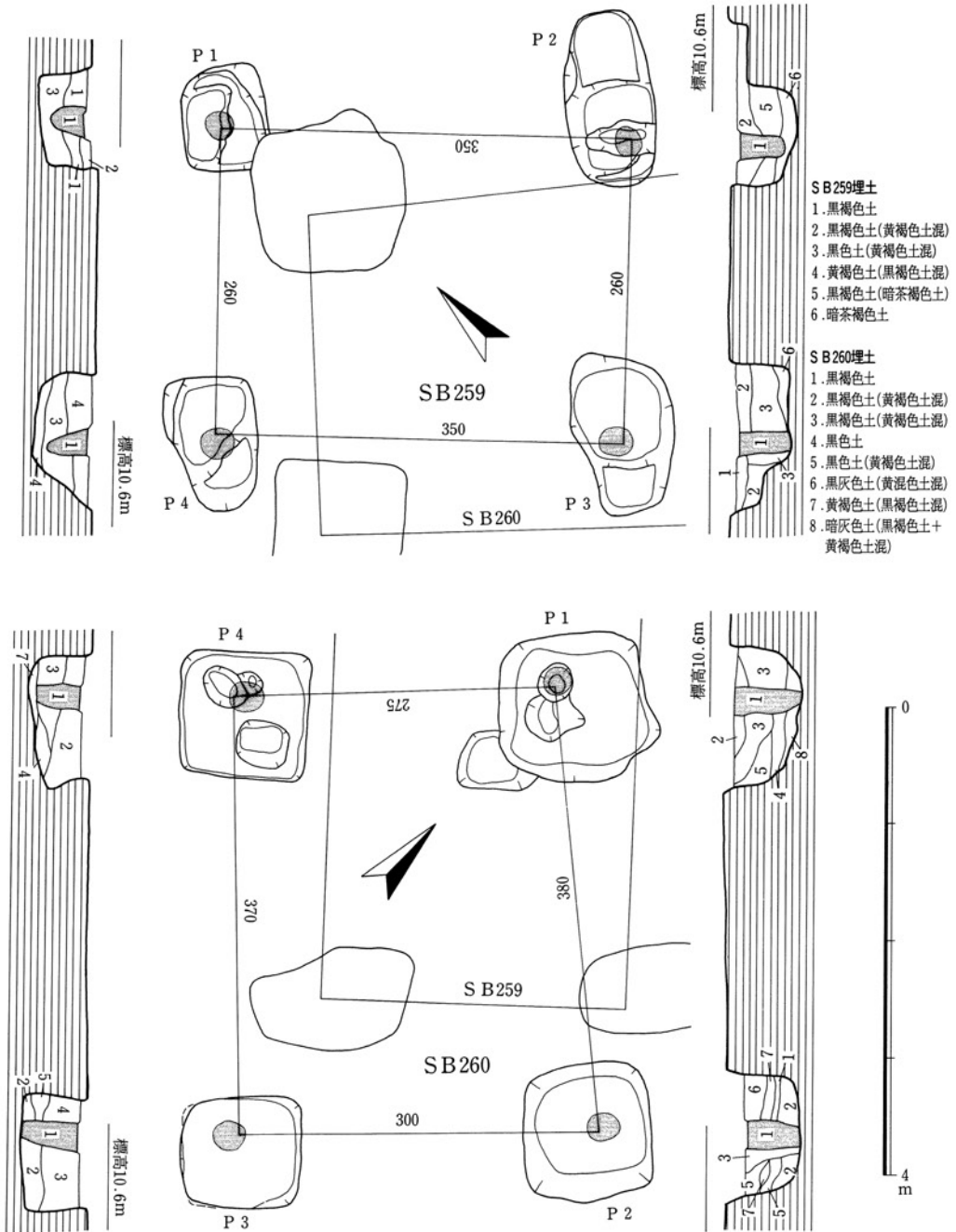


Fig.100 S B259・260掘立柱建物実測図 (1/60)

がその先後関係は不明。1×1間の建物で、桁行2.6m、梁行2.3m、床面積6.0m²の規模を有する。桁行をN-16°-Wにとる。柱穴掘方は隅丸方形～長方形で、その規模は長軸0.6m、深さ0.5～0.7m程度である。遺物は全く出土していない。

V. 調査の記録（2区）

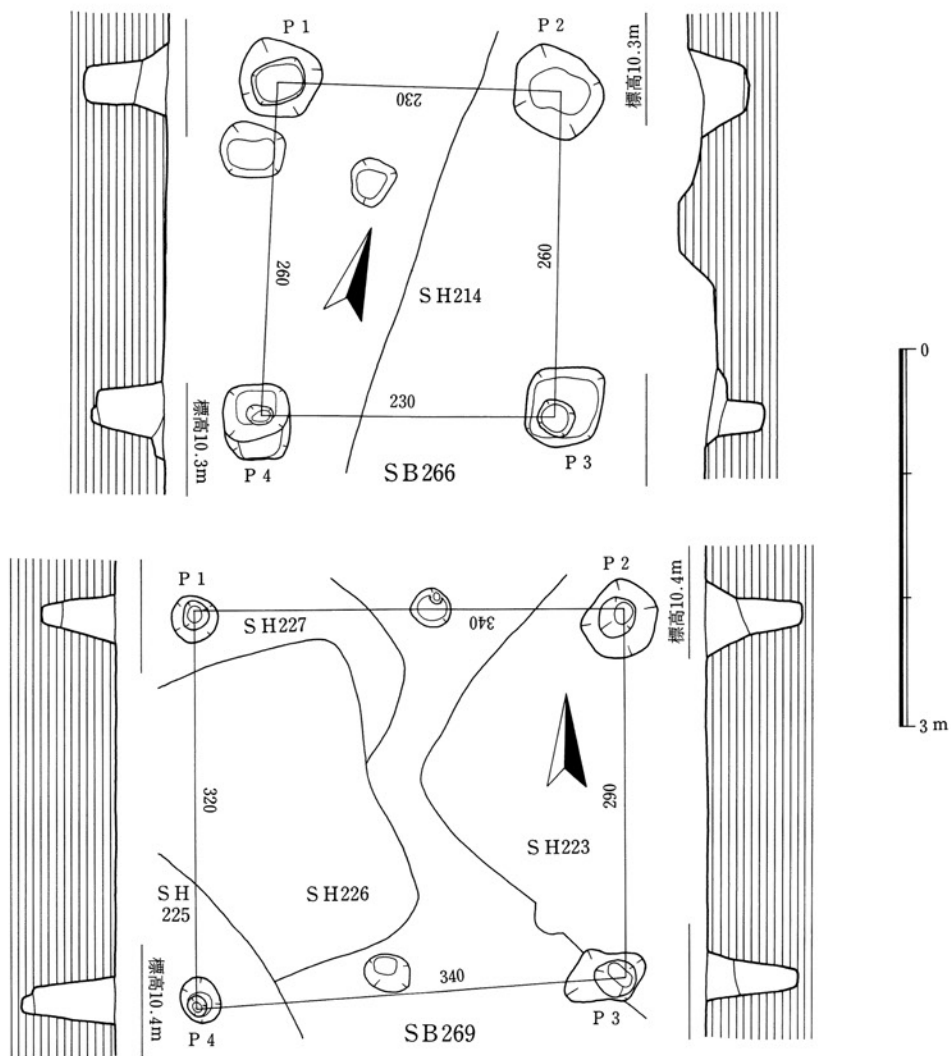


Fig.101 S B266・269掘立柱建物実測図（1/60）

S B269掘立柱建物（Fig.101）

B G-26グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。S H223・225・226と切り合いいずれも本建物が後出する。1×1間の建物で、その規模は桁行3.4m、梁行2.9~3.2m、床面積10.4m²の規模を有する。梁行をほぼ真北にとる。柱穴掘方は円形~楕円形に近く、その規模は長軸0.35~0.6m、深さ0.6~0.75m程度である。遺物は全く出土していない。

(3) 土 壙

全体で8基を検出している。ここでは紙数の関係もあり検出状況の良好な4基について報告する。

S K232土壙 (Fig.102)

B G・B H-27・28グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。S H230に切られ、さらに遺構の東側是水田化のために削平される。このような状況のため遺構の全貌は知り得ないが、検出できた部分の最大長は3.90m前後で、比較的大型の土壙である。底面は暗灰褐色土で固く締まり、浅いレンズ状を呈する。また深さ0.3m程の2段掘り状のピットが存在する。さらに床面直上の状態で比較的まとまった遺物が出土している。このような状況からこの土壙は貯蔵穴になる可能性がある。埋土は黒褐色土を基調としていた。遺物は埋土及び床面直上の状態で弥生土器、石器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.103~106) 6・7・15~17・22・23・25~28は底面直上、他は埋土出土。

甕(1~19)

基本的に外面縦方向のハケ目、内面ナデ調整を行う。1~5は口縁部破片。いずれも胴部位に1条の突帯を巡らす。

1は復元口径21.4cm。褐色。

2は復元口径28.4cm。茶褐色。

3は口径30.3cm。淡褐色。

4・5は口縁端部に刻目を施す。

4は復元口径25.0cm。外面

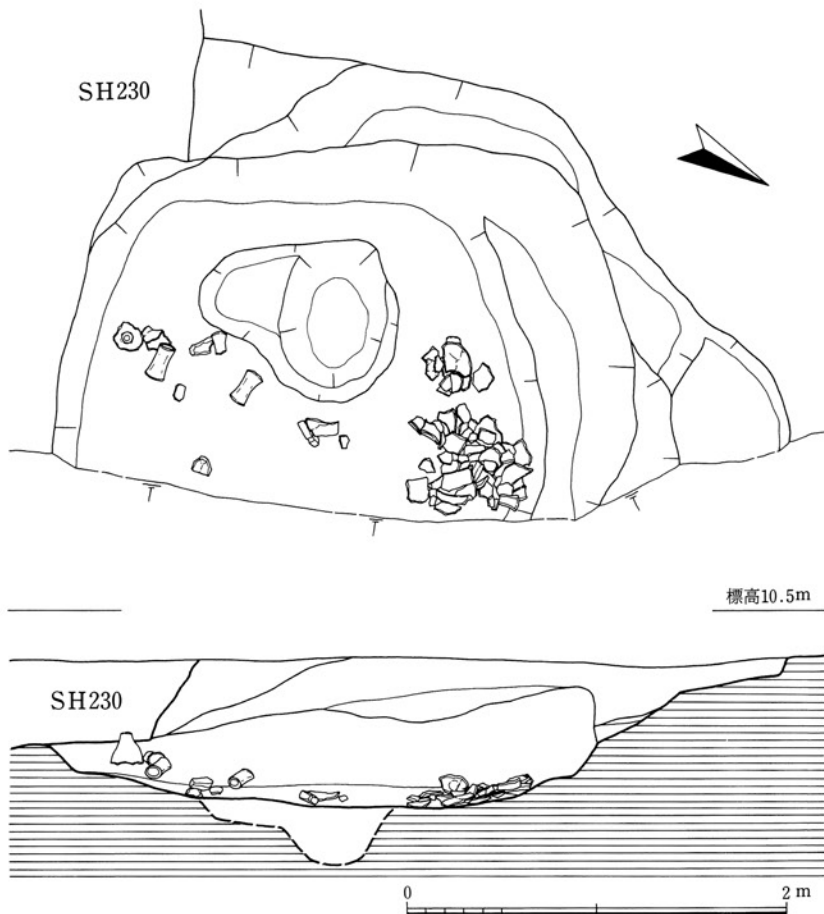


Fig.102 S K232土壙実測図 (1/40)

V. 調査の記録 (2区)

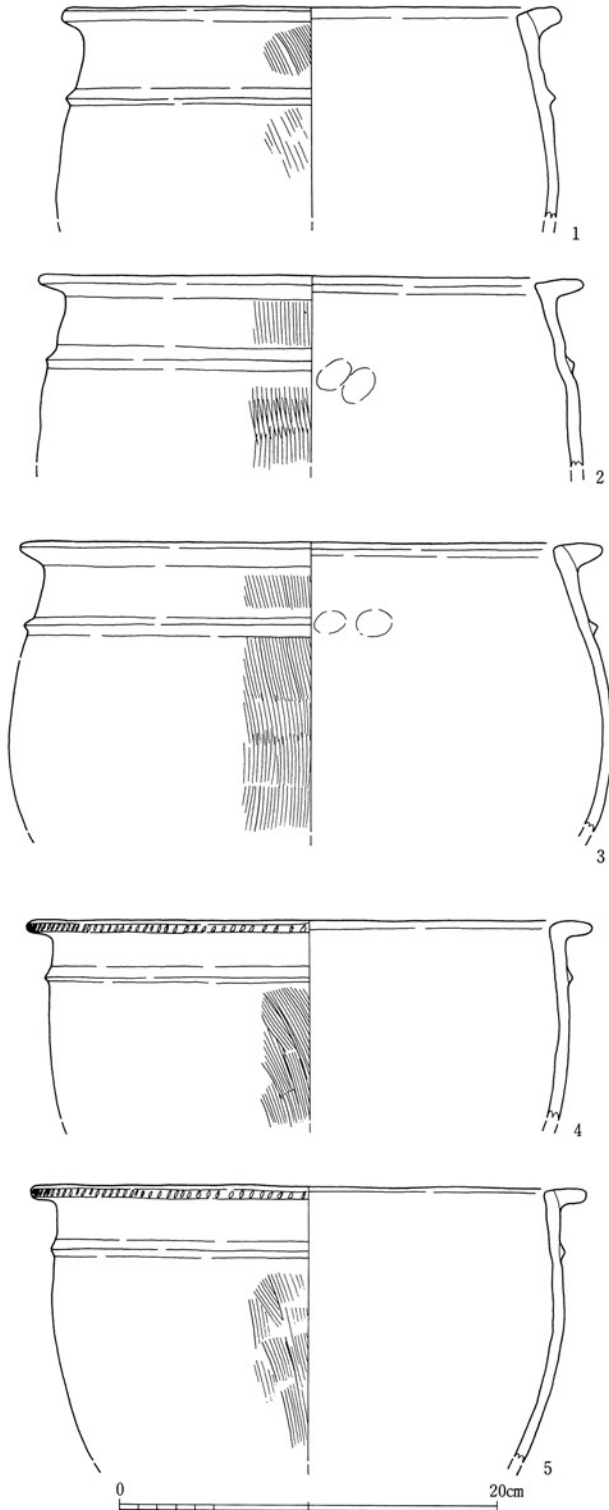


Fig.103 S K232出土遺物実測図① (1/4)

に煤付着。褐色。5は復元口径24.6cm。褐色。6は口縁端部に刻目を施し、胴部上位に1条の突帯を巡らす。口径28.0cm。褐色。7は口径26.6cm、底径6.4cm、器高28.4cm。胴部外面上半及び同内面下半に黒斑有り。褐色。8~14は口縁部破片。8は復元口径26.2cm。淡褐色。9は復元口径21.8cm。淡橙褐色。10は復元口径22.4cm。淡褐色。11は復元口径24.2cm。茶褐色。12は復元口径24.4cm。暗茶褐色。13は復元口径26.6cm。暗茶褐色。復元口径22.4cm。褐色。15~19は底部から胴部にかけての破片。15は底径7.3cm。褐色。16は底径6.1cm。褐色。17は底径5.8cm。褐色。18は底径6.3cm。褐色。19は底径6.0cm。暗褐色。

壺 (20~22) 20・21は広口壺の口縁部破片。20復元口径18.2cm。口縁部横ナデ、他はナデ調整。淡褐色。21は復元口径19.6cm。口縁部から頸部外面にかけて横ナデ、頸部内面工具によるナデ調整。さらに頸部外面には縦方向の暗文を施す。暗赤褐色。22は底部破片。底径5.7cm。外面縦方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。淡橙褐色。

器台 (23~26) いずれも基本的に外面縦方向のハケ目、内面ナデ調整を行う。23は復元受部径9.2cm、同裾部径10.6cm、器高15.4cm。

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

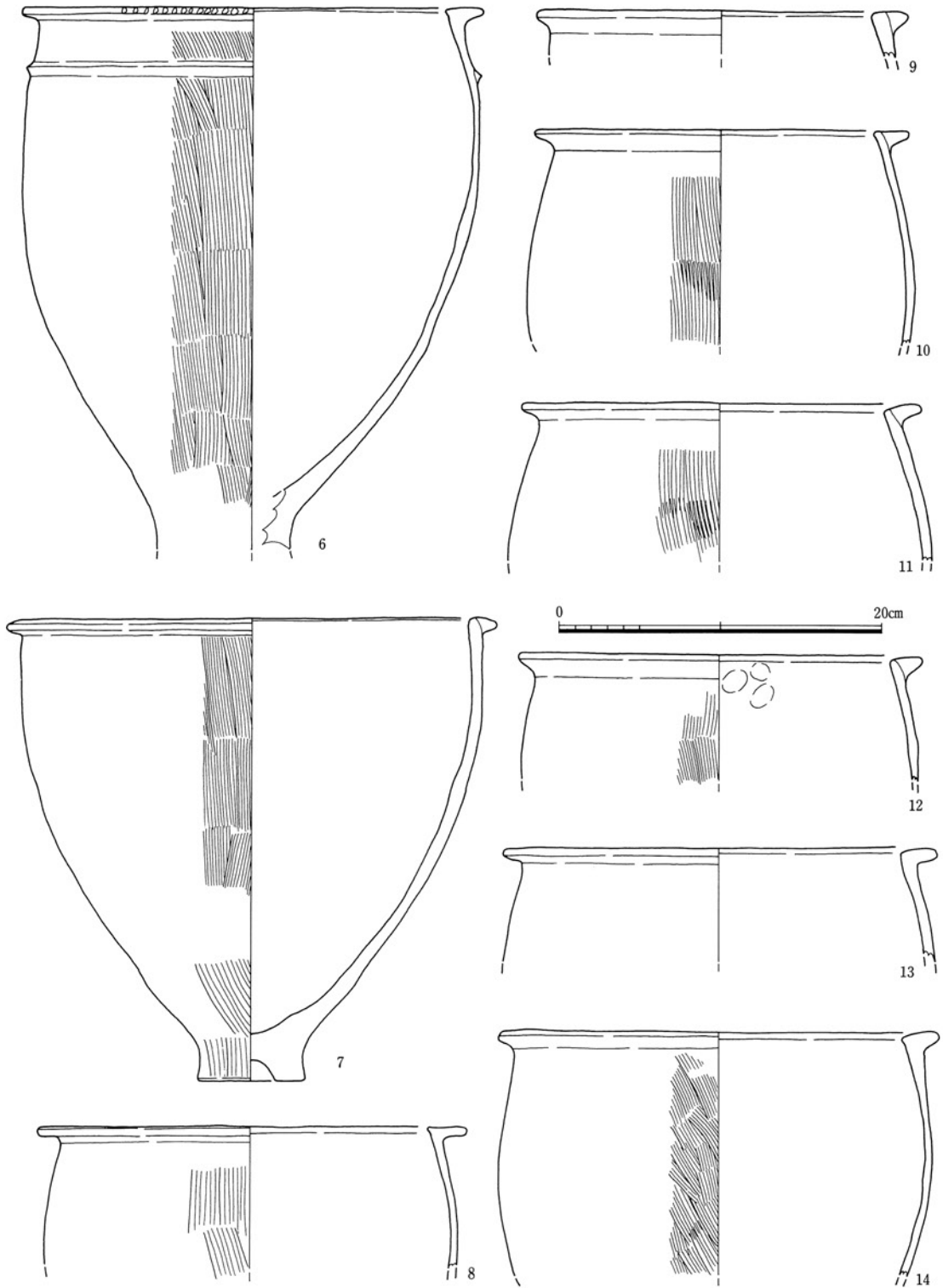


Fig.104 S K 232出土遺物実測図② (1/4)

V. 調査の記録（2区）

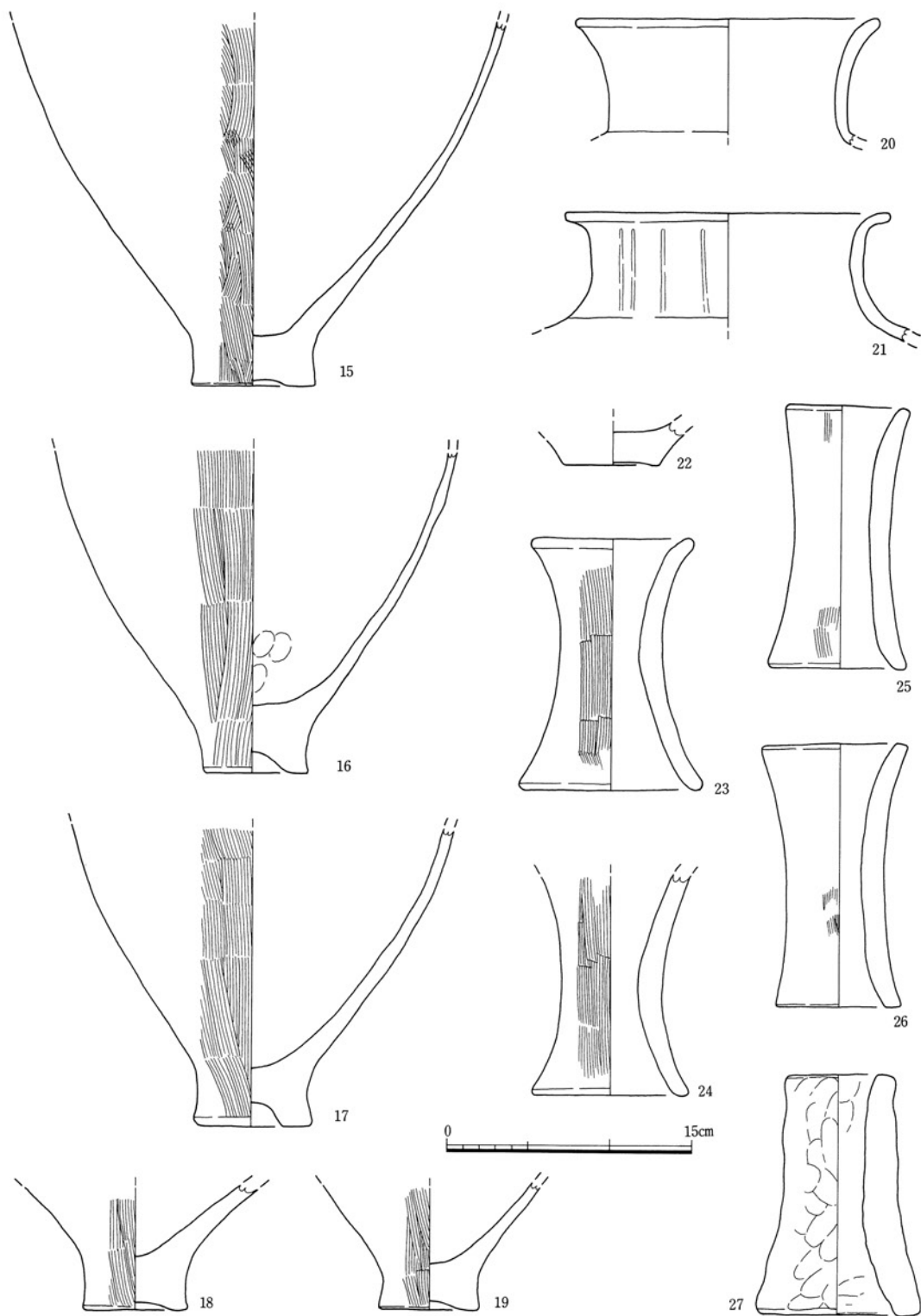


Fig.105 S K232出土遺物実測図③ (1/4)

1. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

褐色。24は復元裾部径9.0cm。淡褐色。25は完存品で受部径6.8cm、裾部径8.2cm、器高15.9cm。淡褐色。26も完存品で受部径8.1cm、裾部径7.3cm、器高15.9cm。淡橙褐色。

支脚 (27) ほぼ完形で受部径6.4cm、裾部径9.8cm、器高14.6cm。内外面指ナゲ調整。淡橙褐色。

石器 (28・29) 28は挟り入り方柱状片歯石斧で歯部を欠損する。残存長15.4cm、最大幅3.4cm、最大厚3.9cm、重量360g。両側面には工具痕が認められる。29は黒曜石製の石鏃。最大長3.7cm、最大幅2.3cm、重量4.1g。

S K 261土壌 (Fig.107)

B B-20グリッドで検出した。検出面の標高は10.5m。いくつかのピットと切り合う以外は、特に他遺構との切り合い関係は認められない。平面形は径1.6~1.7m前後の円形に近く、深さ0.45mを測る。

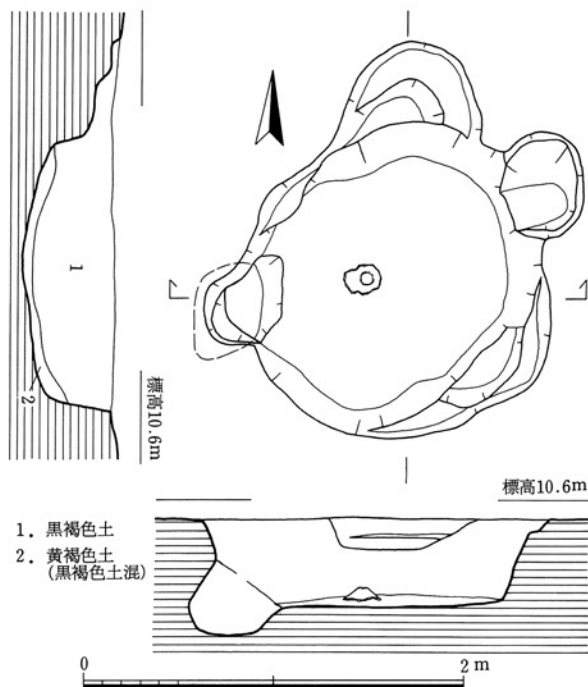


Fig.107 S K 261土壌及び出土遺物実測図 (1/40・1/4)

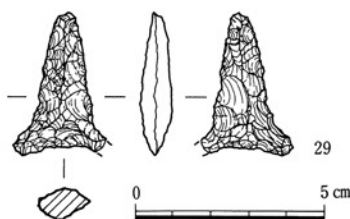
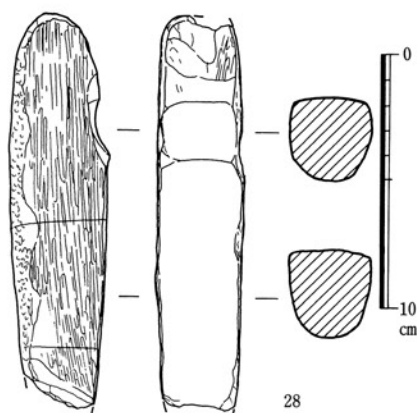
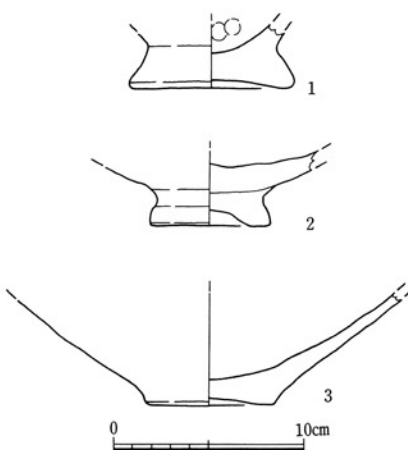


Fig.106 S K 232出土遺物実測図④ (1/3・1/2)



V. 調査の記録（2区）

底面は浅いレンズ状を呈し、壁面はきつく立ち上がる。また底面の西側には、壁面を挟り込んで設けられたピットが存在する。埋土は2層に大別でき、上層は黒褐色土、下層は黒褐色土が混入する黄褐色土であった。特に下層は床を貼ったような感じで、遺構の形状等も勘案するとこの土壌は貯蔵穴になる可能性がある。遺物は床面よりやや浮いた状態で弥生土器壺の底部破片が出土した他、埋土中より弥生土器等が少量出土している。

出土遺物 (Fig.107) 3は底面よりやや浮いた状態で、他は埋土出土。

甕（1・2） いずれも底部破片。1は底径8.2cm。内外面ナデ調整。淡橙褐色。2は復元底径6.0cm。外面工具によるナデ、内面ナデ調整。褐色。

壺（3） 底径6.4cm。磨耗のため調整不明瞭。淡橙褐色。

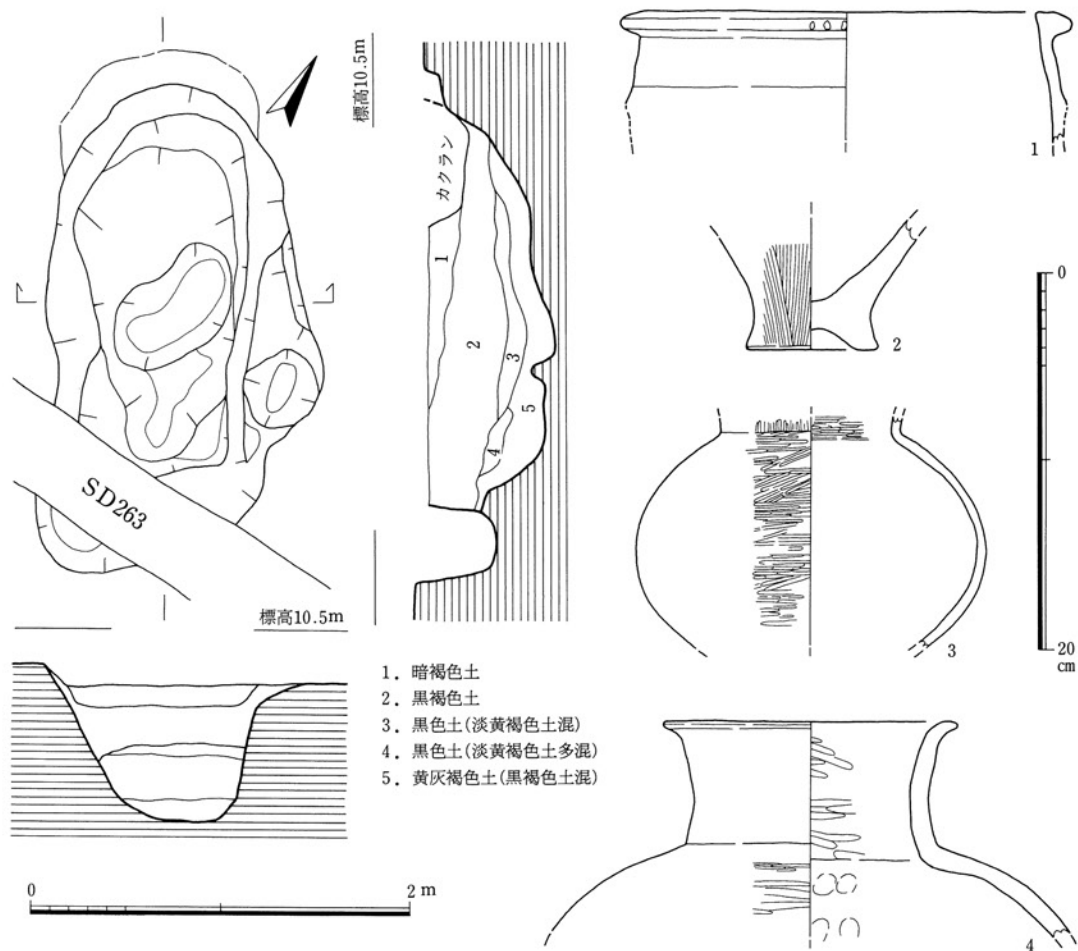


Fig.108 S K265土壌及び出土遺物実測図 (1/40・1/4)

S K 265土壌 (Fig.108)

BE-22グリッドで検出した。検出面の標高は10.2~10.3m。SH206と切り合いうがその先後関係は不明。また中世のSD263に切られる。平面形は長軸2.5m、短軸1.35m程度の長楕円形を呈し、深さ0.7mを測る。底面はやや起伏があり、壁面は角度をもって立ち上がる。埋土は5層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと判断される。遺物は埋土中より弥生土器等がビニール1袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.108)

甕 (1・2) 1は口縁部破片。口縁部に刻目を施した突帯を1条巡らし、さらに剝離しているため明確ではないが胴部上位に突帯を1条巡らすようである。内外面ナデ調整。淡黄褐色。2は底部破片で底径6.5cm。外面縦方向のハケ目、内面ナデ調整。淡橙褐色。

壺 (3・4) 3は胴部破片。外面横方向のヘラミガキ、内面工具によるナデ調整。淡橙褐色。4は口縁部破片で復元口径15.0cm。口縁部外面横ナデ、内面横方向のヘラミガキ、肩部外面横方向のヘラミガキ調整。肩部内面には指頭圧痕が残る。肩部外面に黒斑有り。暗褐色。

S K 270土壌 (Fig.109)

BE-26グリッドで検出した。検出面の標高は10.3m。SH228を切り、SD263に切られる。平面形は長軸2.8m、短軸1.55m程度の隅丸長方形を呈し、深さは0.6mを測る。底面は概ね平坦で、壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土は黒褐色土を基調としていた。底面より10cm程浮いた状態で完形

の土師器甕が出土している。埋没時に投棄されたものか。またSH228の軸とほぼ同一であり、住居の掘方を意識して掘削された可能性がある。遺物は埋土中より土師器等がビニール4

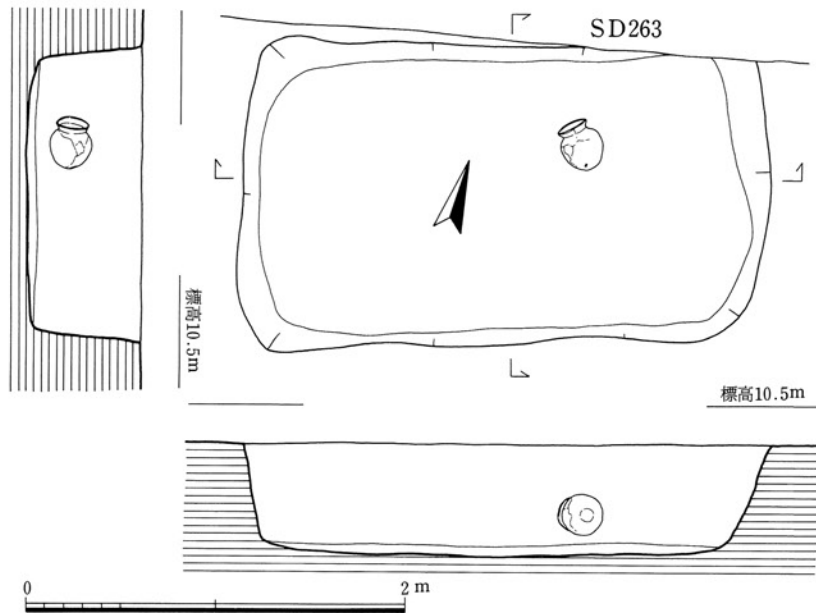


Fig.109 S K 270土壌実測図 (1/40)

V. 調査の記録（2区）

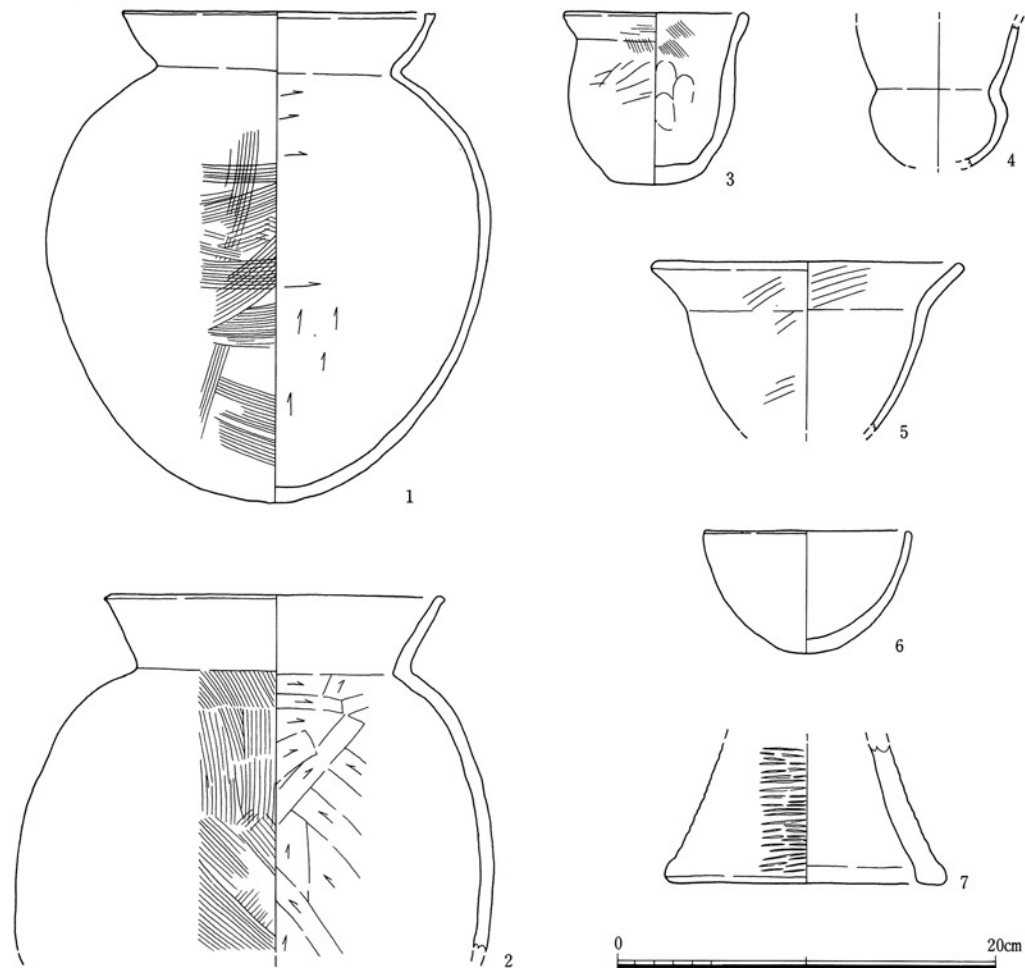


Fig.110 S K270出土遺物実測図（1/4）

袋程度出土している。

出土遺物（Fig.110）

甕（1～3） 1は完形で口径16.3cm、器高25.6cm。口縁部横ナデ、胴部外面不定方向のハケ目、同内面ヘラ削り調整。胴部外面中位から外底にかけて黒斑有り。淡褐色。2は口縁部から胴部にかけての破片で、口径17.2cm。口縁部横ナデ、胴部外面縦・斜方向のハケ目、同内面ヘラ削り調整。外面に黒斑有り。褐色。3は完形品。口径9.2cm、器高9.0cm。外面工具によるナデ、口縁部内面ハケ目、胴部内面から内底にかけてナデ調整。外面に黒斑有り。明橙褐色。

壺（4） 小型丸底壺。内外面横ナデ調整で褐色を呈する。

鉢（5・6） 5は復元口径15.8cm。外面タタキ後ナデ、内面工具によるナデ調整。暗褐色。6は復元口径10.6cm、器高6.4cm。外面タタキ後ナデ、内面工具によるナデ調整。淡褐色。

支脚（7） 復元裾部径14.6cm。外面タタキ、内面ナデ調整。淡褐色。

(4) 溝

調査区の西寄りに1条検出している。中世のS D 263に切られる他はすべての遺構を切っており、弥生・古墳時代より時期が下る可能性がある。しかし出土遺物がわずかで時期の限定が困難であったため、この場で報告しておく。

S D 264溝 (Fig. 19)

BC～BJ-17～24グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.4m。南北方向に検出し、その延長は調査区外にある。断面形は逆台形を呈し、幅0.4～0.5m、深さ0.2m程度である。埋土は黒褐色土の単層であった。遺物は埋土中よりわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

(5) 土 墳 墓

調査区の北端部で1基検出している。他には墓は検出しておらず、住居域と墓域との関係は明確ではない。

S P 262土墳墓 (Fig. 111)

AZ・BA-16・17グリッドで検出した。検出面の標高は10.4m。他遺構との切り合い関係は全くない。平面形は長軸2.2m、短軸1.3mの隅丸長方形を呈し、深さは最深で0.8mを測る。主軸をN-50°-Wにとる。断面形は2段掘り状を呈し、壁面は垂直に近く立ち上がる。さらに南壁の中位が0.2m程度掘り込まれている。埋土は1～6までが崩落土で、7が腐食土、8～10が版築状に突き固めた埋土が残存している部分と判断される。このような埋土の状況からこの遺構は木棺墓である可能性がある。遺物は埋土中より弥生土器甕が出土している。

出土遺物 (Fig. 111)

甕 (1) 口縁部破片で復元口径27.0cm。口縁部及び胴部上位に刻目を施した

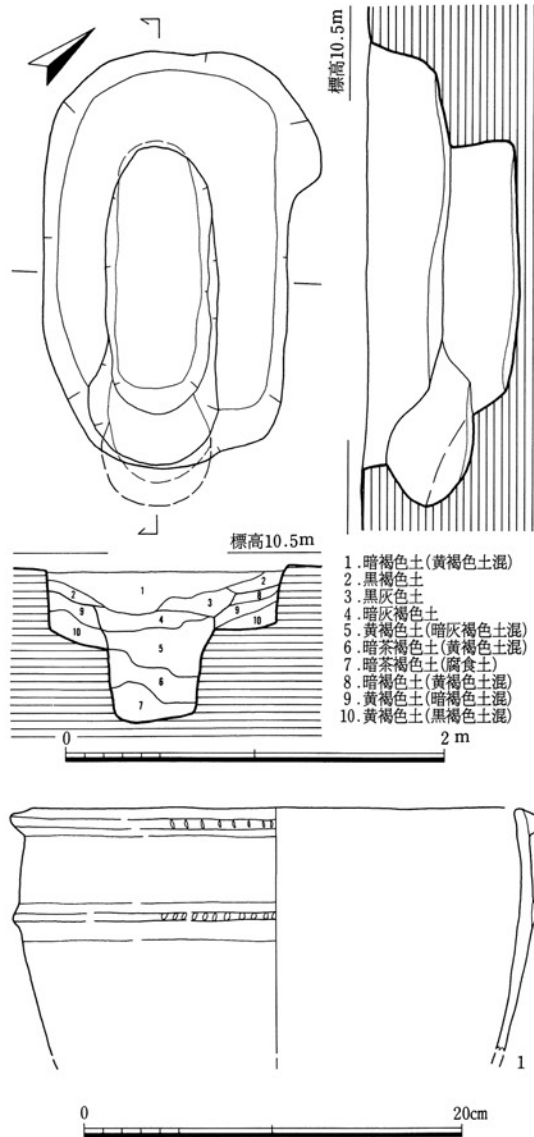


Fig. 111 S P 262土墳墓及び出土遺物実測図 (1/40・1/4)

V. 調査の記録（2区）

突帯をそれぞれ1条巡らす。内外面ナデ調整で淡褐色を呈する。

2. 中世の遺構と遺物

溝1条を検出したのみである。周辺には当該期の集落の存在が十分考えられる。

(1) 溝

調査区の中央部で1条検出している。

S D263溝 (Fig.112)

BE-19～26グリッドで検出した。検出面の標高は10.2～10.4m。弥生・古墳時代の遺構を切る。東西方向に検出し、その延長は調査区外にある。平均幅0.4m、深さ0.45m程度で、断面形はU字形に近い。埋土は2層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと判断される。遺物は埋土中より土師器小皿等が少量出土している。

出土遺物 (Fig.113)

小皿（1～3） いずれも底部糸切りで外面横ナデ、内底ナデ調整。1は復元底径6.6cm。淡褐色。2は底径7.1cm。淡黄褐色。3は底径7.8cm。淡黄褐色。

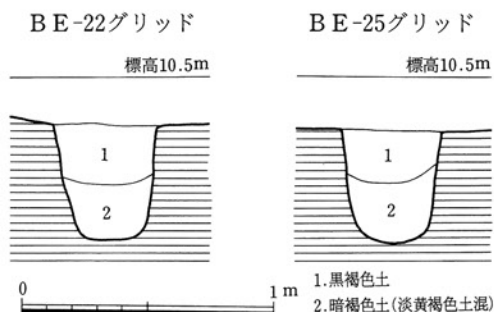


Fig.112 S D263土層断面図 (1/30)

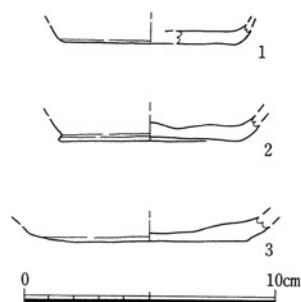


Fig.113 S D263出土遺物実測図 (1/4)

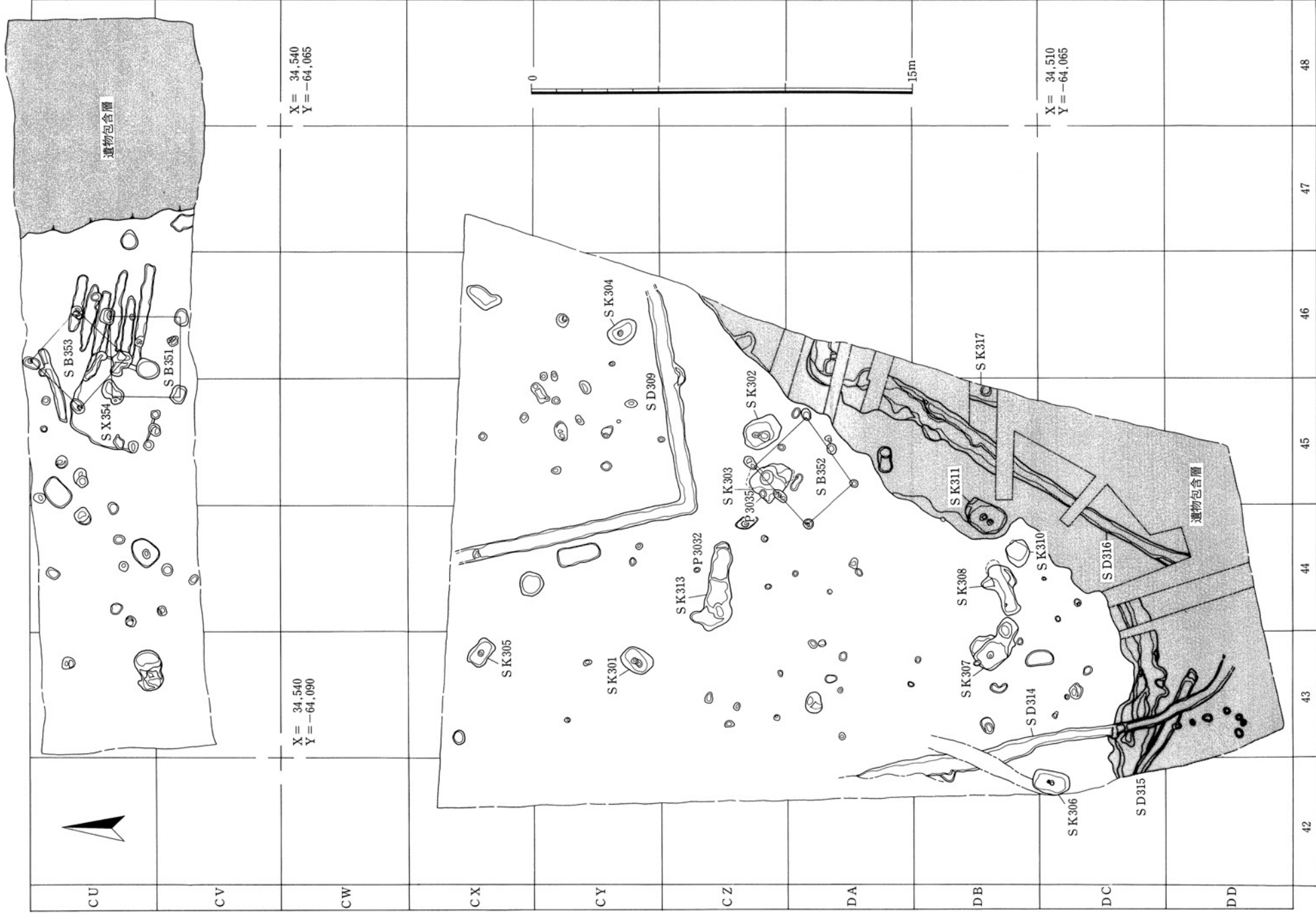


Fig.114 大野原遺跡 3 区遺構配置図 (1/200)

VI. 調査の記録 — 3区 —

3区は高畑部分にあたり、厚さ30~60cmの表土下に淡黄褐色~黄褐色の基盤面が存在する。地形的に舌状丘陵の先端部分にあたり、地形が落ち込む東側、西側及び南側には黒褐色の遺物包含層が堆積していた。遺構は縄文時代~古墳時代にかけての掘立柱建物3棟、土壇14基、溝4条、不明遺構1基等を検出した。以下、時代別に報告する。

1. 縄文時代の遺構と遺物

全体で11基の土壇を確認している。いずれも所謂落とし穴状遺構と考えられるもので、うち8基が底面に1ないし2個のピットを有するものであった。また遺物包含層からも当該期の遺物が若干出土している。

(1) 土壇

落とし穴状遺構と考えられる土壇を11基検出している。ここでは検出状況の良好な10基について報告する。

SK301土壇 (Fig.115)

CY-43グリッドで検出した。検出面の標高は8.6~8.7m。平面形は長軸1.3m、短軸0.95m程度の隅丸長方形を呈し、深さ1.0mを測る。底面は概ね平坦で、ほぼ中央に深さ5~25cm程の

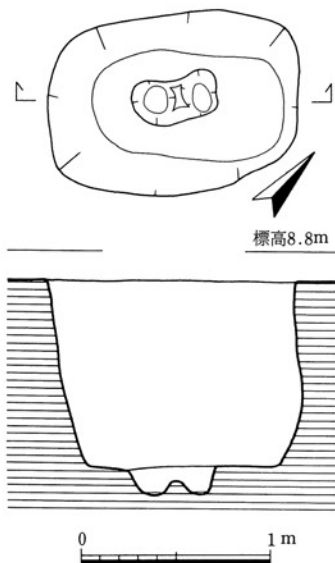


Fig.115 SK301土壇実測図 (1/40)

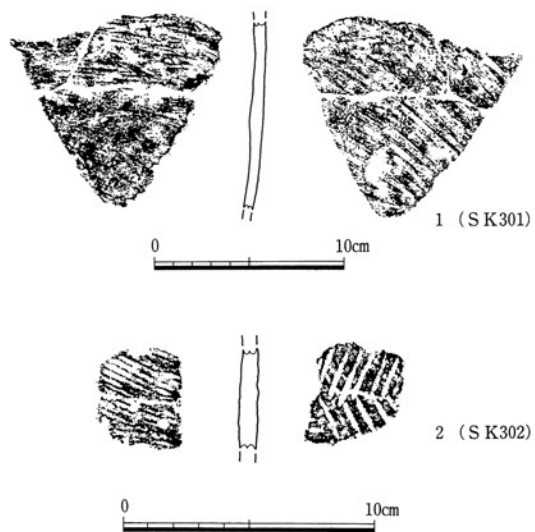


Fig.116 SK301・302出土遺物実測図 (1/4・1/3)

VI. 調査の記録（3区）

2個のピットを有する。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土は上層が黒褐色土、下層が暗褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より縄文土器等が微量出土している。

出土遺物（Fig.116）

縄文土器（1） 条痕文土器で、内外面に条痕を施す。褐色～暗褐色を呈し、煤の付着が認められる。

S K 302土壌（Fig.117）

C Z・D A-45グリッドで検出した。検出面の標高は8.5～8.6m。平面形は長軸1.5m、短軸1.15m程度の隅丸長方形を呈し、深さ0.7mを測る。底面は概ね平坦で、ほぼ中央には深さ25～40cm程の2個のピットを有する。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土は4層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと判断される。遺物は埋土中より縄文土器等が微量出土している。

出土遺物（Fig.116）

縄文土器（2） 曾畑式系土器で、外面に沈線による綾杉文、内面には条痕を施す。胎土に滑石を含まない。淡赤黄褐色を呈する。

S K 303土壌（Fig.117）

C Z・D A-45グリッドで検出した。検出面の標高は8.5～8.6m。S B352に切られる。平面形は長軸1.7m、短軸1.3m程度の不定形を呈し、深さは最深で1.2mを測る。底面には径0.5m、深さ0.3m程の窪みが存在し、壁面は内傾気味に立ち上がる。埋土は暗褐色土～黒褐色土を基調としていた。遺物は全く出土していない。

S K 304土壌（Fig.117）

C Y-46グリッドで検出した。検出面の標高は8.5～8.6m。平面形は長軸1.23m、短軸0.85m程度の長楕円形を呈し、深さ0.7mを測る。底面は概ね平坦で、ほぼ中央に深さ15cm程のピットを有する。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土は黒褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より微量出土しているが図示できるものはなかった。

S K 305土壌（Fig.117）

C X-43グリッドで検出した。検出面の標高は8.7m。平面形は長軸1.1m、短軸0.7m程度の隅丸長方形を呈し、深さ0.55mを測る。底面は概ね平坦で、ほぼ中央には深さ45cm程のピットを有する。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土は黒褐色土を基調としていた。遺物は全く出土していない。

1. 縄文時代の遺構と遺物

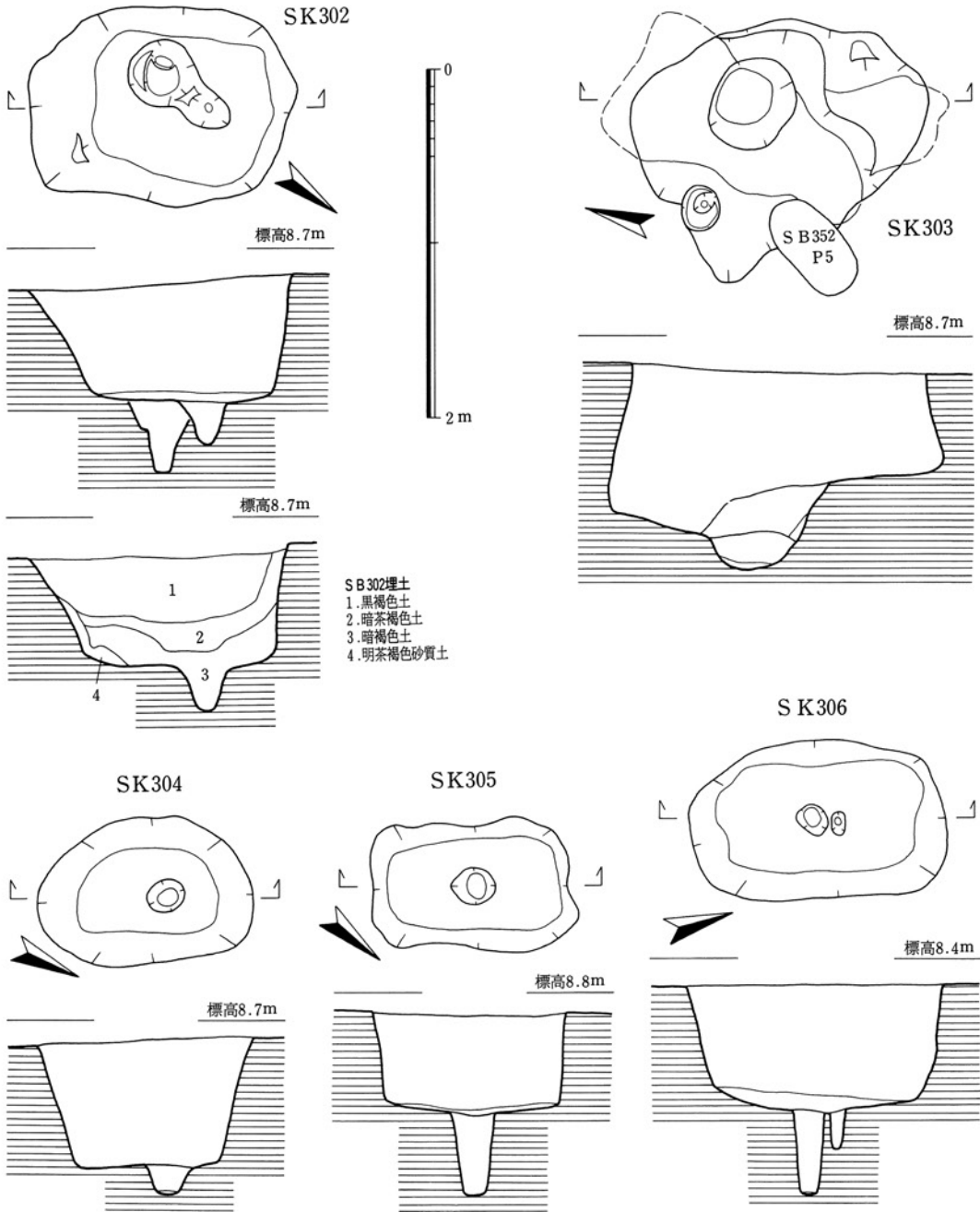


Fig.117 SK302~306土壌実測図 (1/40)

SK306土壌 (Fig.117)

DB・DC-42グリッドで検出した。検出面の標高は8.2~8.3m。平面形は長軸1.45m、短軸0.9m程度の隅丸長方形を呈し、深さ0.7mを測る。底面は概ね平坦で、ほぼ中央に深さ20~50

VI. 調査の記録（3区）

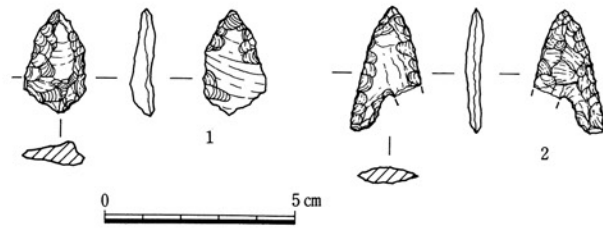


Fig.118 S K306・307出土遺物実測図（1/2）

cmの2個のピットを有する。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土は暗褐色土～黒褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より石鏃等が微量出土している。

出土遺物（Fig.118）

石器（1） 黒曜石製の石鏃。

最大長2.8cm、最大幅0.6cm、重量1.9g。

S K307土壌（Fig.119）

DB-43・44グリッドで検出した。検出面の標高は8.3～8.4m。平面形は長軸2.2m、短軸1.0m程度の隅丸長方形に近い形状を呈し、深さ0.6～0.75mを測る。その形態から2基の土壌が切り合っていると考えられるが、明確な切り合いを確認することができなかった。底面は南東側ですり鉢状を呈し、北西側はほぼ平坦で深さ40cm程のピットを有する。壁面は南東側でやや緩やかになるものの基本的に垂直に近く立ち上がる。埋土は暗褐色土～茶褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より石鏃等が微量出土している。

出土遺物（Fig.118）

石器（2） サヌカイト製の石鏃。最大長3.3cm、重量1.6g。

S K308土壌（Fig.119）

DB-44グリッドで検出した。検出面の標高は8.3～8.4m。平面形は長軸2.15m、短軸0.6mの長楕円形に近く、深さは最深で1.05mを測る。その形態から2基の土壌が切り合っている可能性があるが、明確な切り合いを確認することができなかった。底面は東にむかって緩やかに傾斜し、北西寄りに深さ10cm弱のピットを有する。壁面は東壁が内傾する他は垂直に近く立ち上がる。埋土は暗褐色土～茶褐色土を基調としていた。遺物は全く出土していない。

S K310土壌（Fig.119）

DB-44グリッドで検出した。検出面の標高は8.3～8.4m。平面形は一辺0.9m程度の隅丸方形を呈し、深さ0.65mを測る。底面は北東にむかってやや傾斜するものの概ね平坦で、壁面は内湾気味に立ち上がる。埋土は10層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと考えられる。遺物は全く出土していない。

1. 縄文時代の遺構と遺物

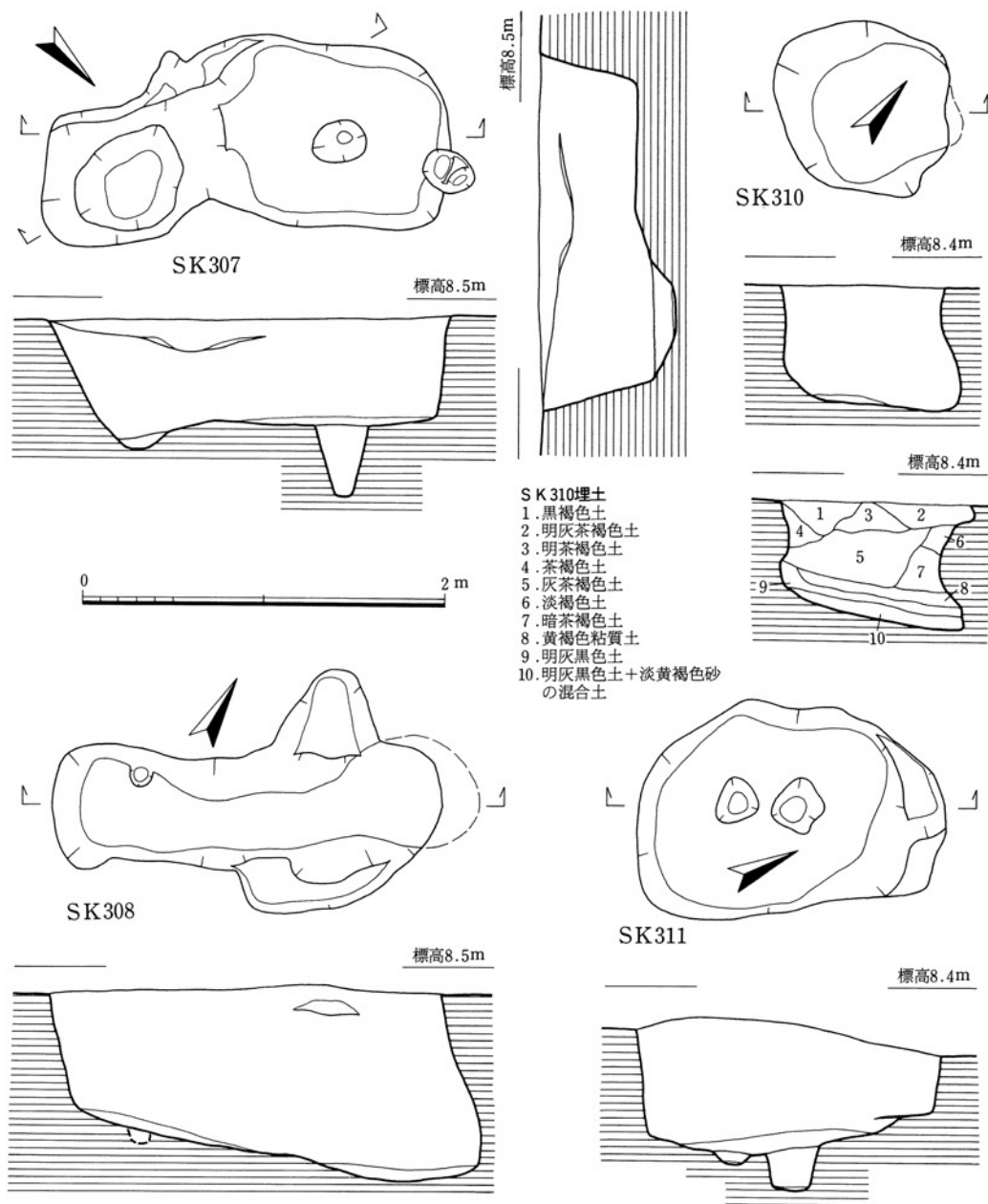


Fig.119 SK307・308・310・311土壌実測図 (1/40)

S K311土壌 (Fig.119)

DB-44・45グリッドで検出した。検出面の標高は8.0~8.2m。平面形は長軸1.7m、短軸1.15mの隅丸長方形に近く、深さ0.7mを測る。底面は浅いレンズ状を呈し、ほぼ中央に深さ5cm~25cmの2個のピットを有する。埋土は暗褐色土~黒褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より微量出土しているが、図示できるものはなかった。

VI. 調査の記録（3区）

2. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

掘立柱建物3棟、土壇1基、溝1条、不明遺構1基等を検出している。また遺物包含層からも当該期の遺物が若干出土している。

(1) 掘立柱建物

1×1間と2×1間の規模の建物を3棟検出している。遺物がほとんど出土していないため時期の限定が困難だが、2・4区で検出している集落の状況や包含層出土の遺物等から判断して、当該期の所産である可能性がある。

S B 351掘立柱建物 (Fig.120)

C U・C V-45・46グリッドで検出した。検出面の標高は8.8m。S X354と切り合い、S B 353と重複するがいずれもその先後関係は不明。1×1間の建物で、桁行3.1m、梁行2.8m、床面積8.7㎡の規模を有する。梁行をほぼ真北にとる。柱穴掘方は基本的に隅丸長方形に近く、その規模は長軸0.7~0.8m、深さ0.25~0.7m程度である。遺物は柱穴埋土よりわずかに出土しているが、図示できるものはなかった。

S B 352掘立柱建物 (Fig.120)

C Z・D A-44・45グリッドで検出した。検出面の標高は8.4~8.6m。縄文時代のS K303を切る。2×1間の建物で、桁行3.15~3.3m、梁行2.5~2.9m、床面積8.7㎡の規模を有する。桁行をN-45°-Eにとる。柱穴掘方は円形から楕円形を呈し、その規模は長軸0.3~0.6m、深さ0.3~0.5m程度である。遺物は全く出土していない。

S B 353掘立柱建物 (Fig.120)

C U-45・46グリッドで検出した。検出面の標高は8.8m。S X354と切り合い、S B351と重複するがいずれもその先後関係は不明。1×1間の建物で、桁行2.75m、梁行2.7m、床面積7.4㎡の規模を有する。梁行をN-43°-Eにとる。柱穴掘方は基本的に隅丸長方形に近く、その規模は長軸0.5~0.7m、深さ0.4~0.5m程度である。遺物は柱穴埋土中より手づくね土器等がわずかに出土している。

出土遺物 (Fig.120) P 1 出土。

手づくね土器 (1) 完存品で口径1.4cm、底径1.8cm、器高3.3cm。明褐色。

2. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

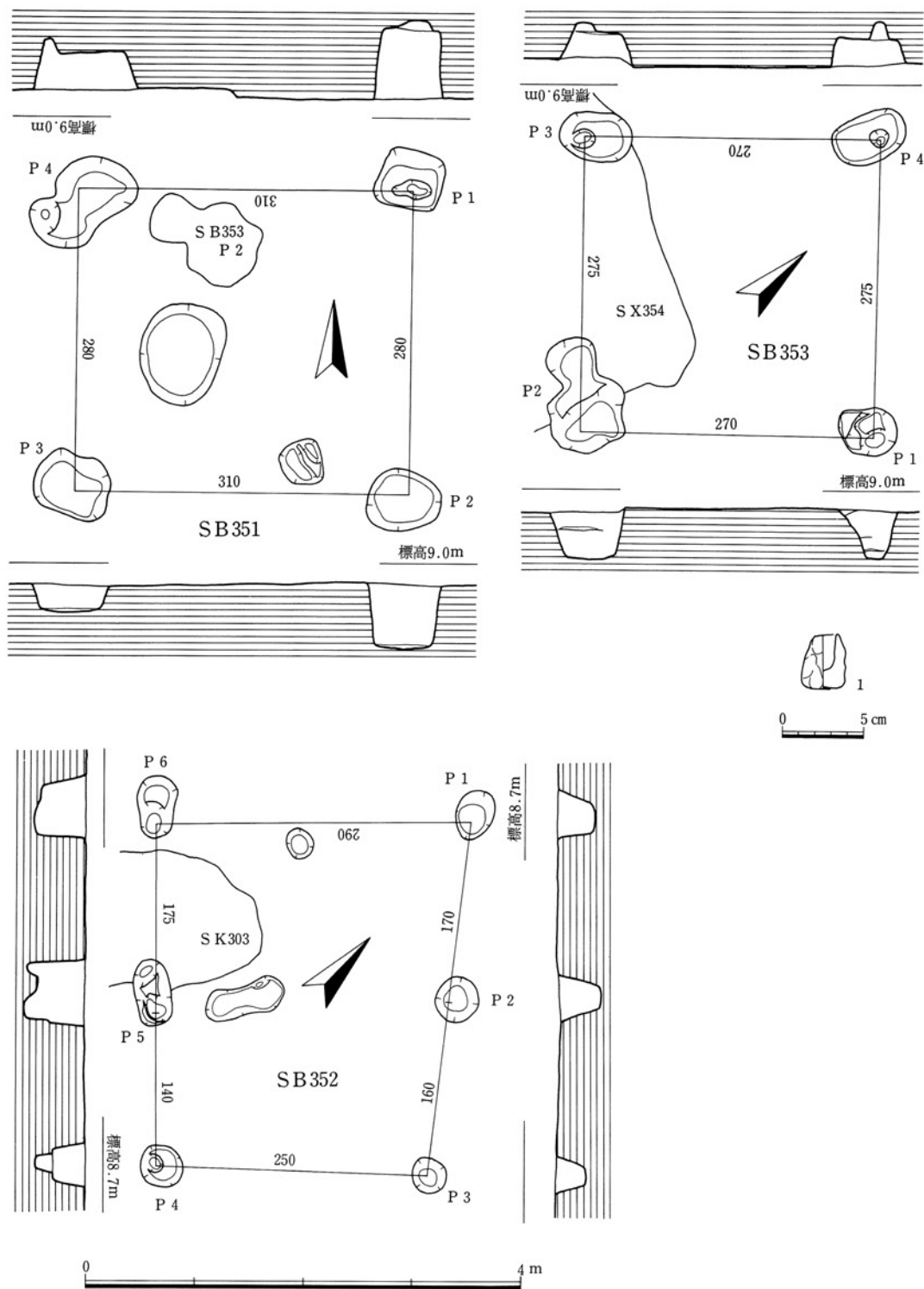


Fig.120 SB 351~353掘立柱建物及び出土遺物実測図 (1/60・1/4)

VI. 調査の記録（3区）

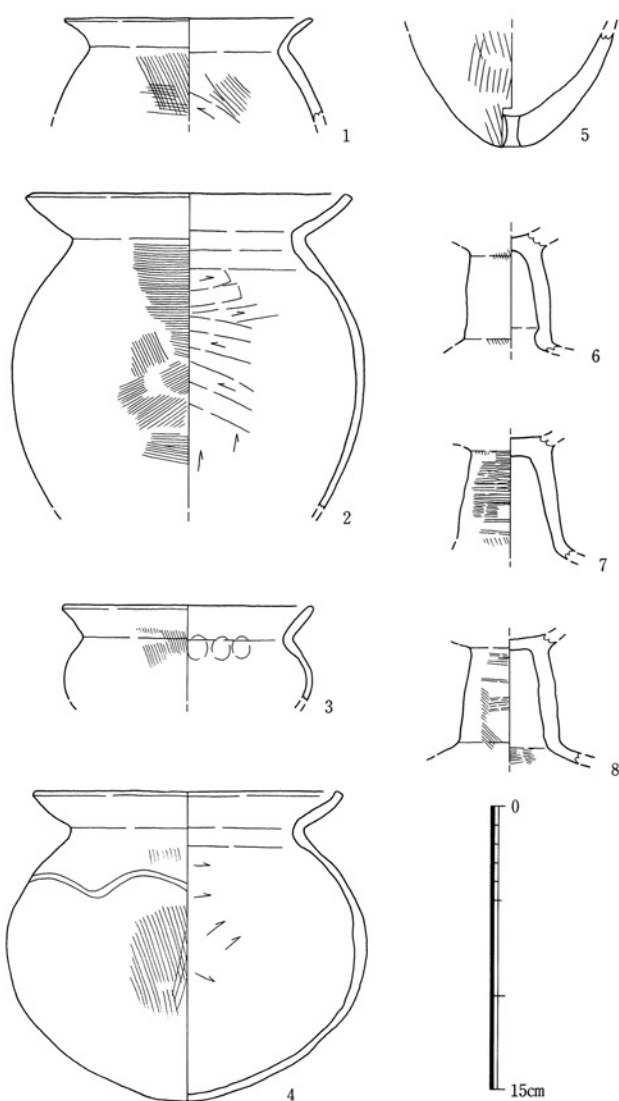
(2) 土 壙

S K 313土壙 (Fig.122)

C Z-44グリッドで検出した。検出面の標高は8.6m。平面径は長軸3.25m、短軸0.9mの歪な長楕円形を呈し、深さは最深で0.4mを測る。断面形は2～3段掘り状を呈し、壁面は角度をもって立ち上がる。埋土は黒褐色土の単層であった。遺物は埋土中より土師器等がビニール3袋程度出土している。

出土遺物 (Fig.121)

甕（1・2） いずれも基本的に口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面へら削り調整を行う。



1は復元口径12.8cm。淡橙褐色。2は復元口径16.3cm。外面に煤付着。暗褐色。

壺（3・4） 3は復元口径13.0cm。口縁部から胴部内面にかけてナデ、胴部外面ハケ目調整。外面に煤付着。淡橙褐色。4は口径16.0cm、器高16.2cm。肩部に沈線による波状文を巡らす。口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケ目、同内面へら削り調整。暗褐色。

鉢（5） 底部破片で穿孔を有する。外面ハケ目、内面へら削り調整。外底付近に黒斑有り。淡褐色。

高坏（6～8） いずれも脚部破片。6は外面ハケ目後ナデ調整、内面に絞り痕有り。7は外面横方向のへらミガキ、内面工具によるナデ調整。赤褐色。8は外面ハケ目後へらミガキ、内面工具によるナデ調整。淡橙褐色。

Fig.121 S K 313出土遺物実測図 (1/4)

2. 弥生・古墳時代の遺構と遺物

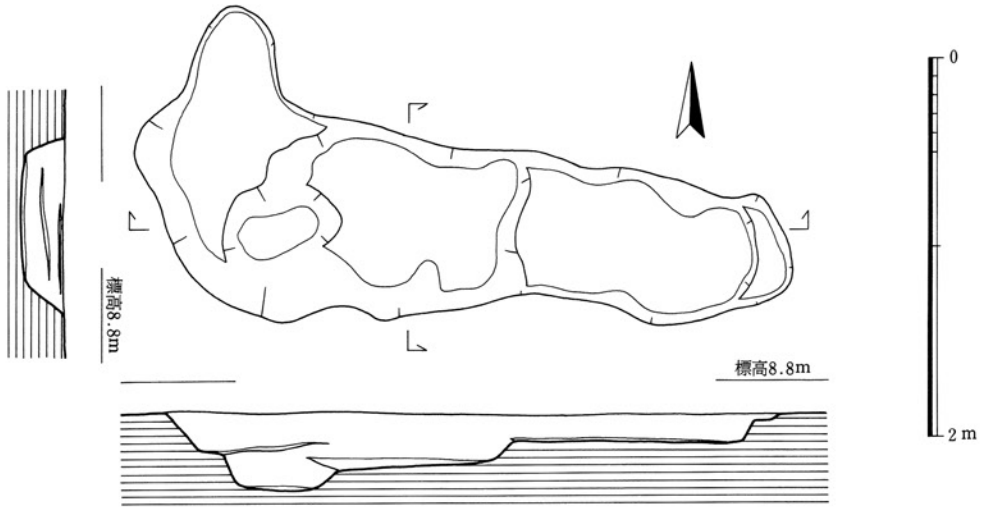


Fig.122 S K 313土壙実測図 (1/40)

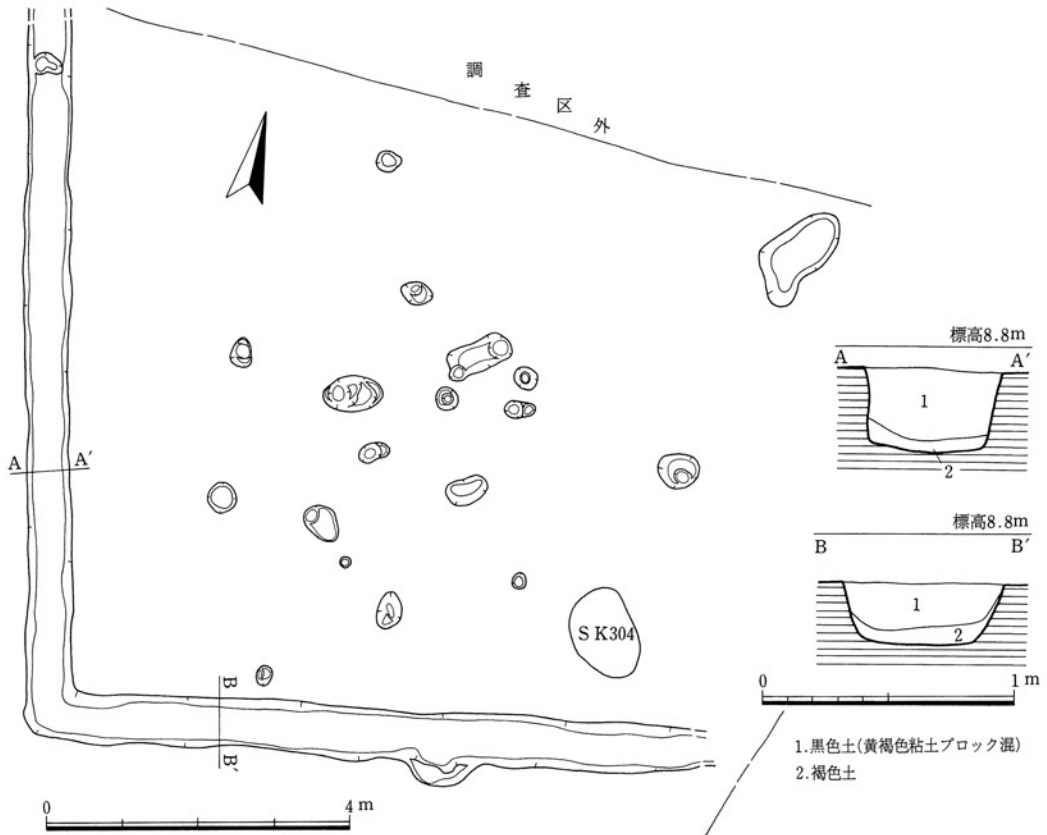


Fig.123 S D 309溝及び土層断面実測図 (1/100・1/30)

VI. 調査の記録 (3区)

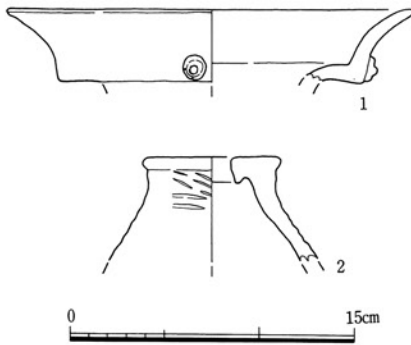


Fig.124 S D 309出土遺物実測図 (1/3)

(3) 溝

S D 309溝 (Fig.123)

C X～C Z-44～46グリッドで検出した。検出面の標高は8.5～8.7m。ちょうど直角に屈曲するコーナー部分を検出し、その延長は調査区外にある。そのため遺構の全貌は知り得ないが、現状から推察すると、方形に巡り何らかを区画するような溝になる可能性がある。ただ溝の内側には、明確に伴うような遺構を確認しておらず、遺構の性格については不明である。平均幅0.6m、深さ0.3m程度で、断面径

は逆台形に近い。埋土は2層に大別でき、上層が黒色土、下層が褐色土でいずれも自然堆積によるものと判断される。遺物は埋土中より土師器等が少量出土している。

出土遺物 (Fig.124)

壺(1) 二重口縁壺の口縁部破片で復元口径21.2cm。口縁部外面にボタン状の突起(1個)を貼り付ける。内外面横ナデ調整。淡橙褐色。

支脚(2) 復元受部径6.8cm。受部に穿孔を有する。外面タタキ、内面工具によるナデ調整。淡橙褐色。

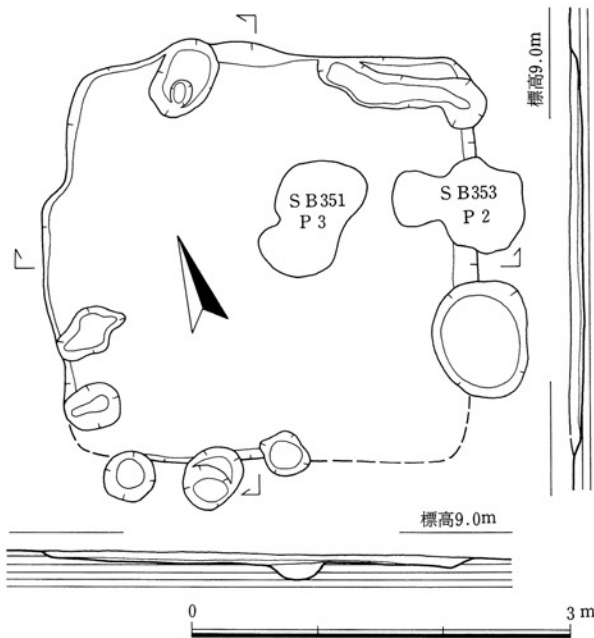


Fig.125 S X 354不明遺構実測図 (1/60)

(4) 不明遺構

1基検出している。形状から竪穴住居になる可能性があるが、明確にその判断ができなかったため、ここでは不明遺構として報告しておく。

S X 354不明遺構 (Fig.125)

C U-45・46グリッドで検出した。検出面の標高は8.8～8.9m。S B 351・353と切り合うがその先後関係は不明。平面形は南側が削平されるものの一辺3.3～3.5m程度の方形プランを呈し、深さは最深で10cm程である。底面は細かい起伏があるものの概ね平坦で、壁

面はきつく立ち上がる。埋土は黒褐色土の単層であった。形状から判断すると竪穴住居の可能性があるのだが、炉や支柱等が確認できておらず、また特に床を貼ったような痕跡も認められないことから不明遺構として報告しておきたい。遺物は全く出土していない。

3. 谷部包含層の層序と出土遺物

本調査区がちょうど舌状丘陵の先端部分にあたり、調査区の東側・西側及び南側にかけて検出している。調査については時間的な制約もありC Z～DD-42～46グリッドで検出した包含層についてのみ行なった。遺物の取り上げは平面的に包含層部分を北から1～4区に分け、基本的に上層・中層・下層の3層に大別して行なった。

(1) 層 序 (Fig.126)

包含層部分には黒褐色土を基調とした埋土が堆積していた。この包含層の下部でS K311・317(縄文時代・落し穴)、S D316(縄文晩期～古墳初頭の間に掘削された溝)等の遺構を検出した。また調査の過程において3箇所で土層図を作成した。まずA-A'土層断面であるが、5層下にS K317の埋土がある。出土土器から観察すると1～4層は弥生終末～古墳初頭以降に堆積し、5～7層は縄文晩期～弥生前期前葉に堆積した埋土と判断される。S K317は底面にピットが存在し、すでに報告した落し穴状遺構と考えられる。埋土中からは遺物は皆無であったが、周辺の土壌群とほぼ同時期と考えるならば縄文前期ということになる。基盤は黄褐色と黄白色の混合砂であった。B-B'土層断面はS D316の埋土を中心としたものである。出土土器から観察すると4・9層は縄文晩期～弥生前期前葉に堆積したものと考えられ、S D316はそれを掘削して築かれている。その上部には弥生終末～古墳初頭以降に堆積したと考えられる1～3層がある。S D316の埋土からは時期が判別できるような遺物が皆無であったため、この溝は縄文晩期～弥生前期前葉以降から弥生終末～古墳初頭以前に存在した遺構ということになる。基盤は黄褐色土であった。C-C'土層断面は最も深い位置まで達している。13層に大別され、最深部は褐色の砂層であった。1層はS D315の埋土で古墳時代初頭以降の所産と考えられる。出土土器から観察すると2・3層は弥生終末～古墳初頭以降に堆積した埋土、4～8層は縄文晩期～弥生前期前葉に堆積した埋土と判断される。9～13層は縄文早期から縄文晩期までに堆積した埋土と考えられ、13層(最下層)からは押型文土器が出土している。

A-A'の1～4層・B-B'の1～3層・C-C'2～3層は上層、A-A'の5～7層・B-B'の4～9層・C-C'4～8層は中層、C-C'9～13層は下層とし、それに対応する層の遺物の取り上げを行なった。

VI. 調査の記録 (3区)

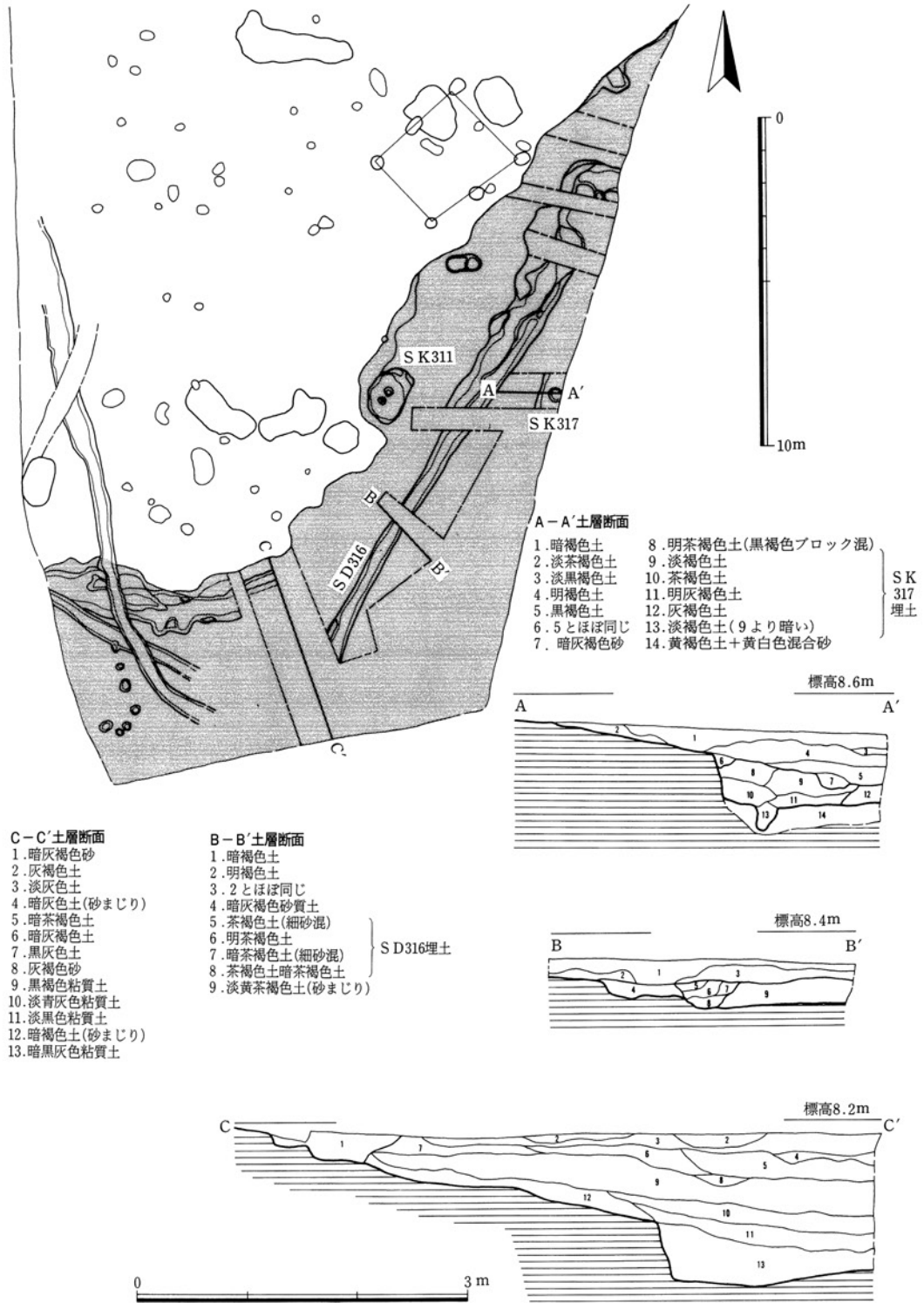


Fig.126 谷部包含層及び土層断面実測図 (1/100・1/60)

(2) 出土遺物 (Fig.127・128)

1～5は上層、6～11・14～16は中層、12・13・17は下層出土。

青磁(1) 碗の底部破片で復元高台径5.4cm。淡緑色の釉を施す。

土師器(2～5) 2は底部糸切りの小皿。底径4.0cmで内外面ナデ調整。淡褐色。3は壺で復元口径6.2cm、器高10.7cm。口縁部横ナデ、外面工具によるナデ、胴部内面指ナデ調整。淡褐色。4・5は高坏の脚部破片。4は外面ナデ、内面ヘラ削り調整。褐色。5は外面縦方向のヘラミガキ、内面工具によるナデ調整。明褐色。

縄文土器(6～13) 6～9は刻目突帯土器の甕の破片。6は口縁部破片で外面に条痕を施し、内面にはケズリ状擦過を残す。淡褐色。7は肩部の破片で外面にケズリ状擦過を残し、内面はナデ調整。褐色。8は口縁部破片で調整不明瞭。褐色。9は底部破片で復元底径7.4cm。外底には靱圧痕が認められる。褐色。10は壺の口縁部破片。磨耗のため調整不明瞭だが、内外

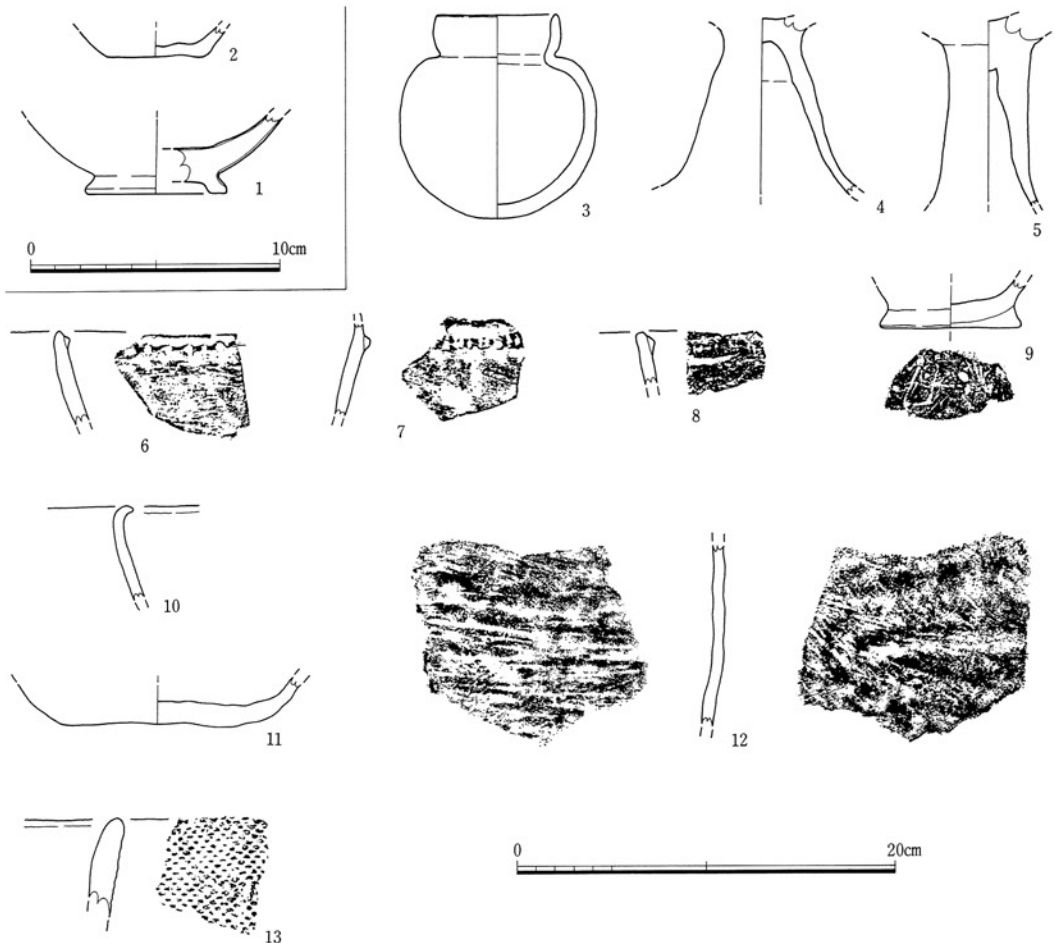


Fig.127 包含層出土遺物実測図① (1/3・1/4)

VI. 調査の記録（3区）

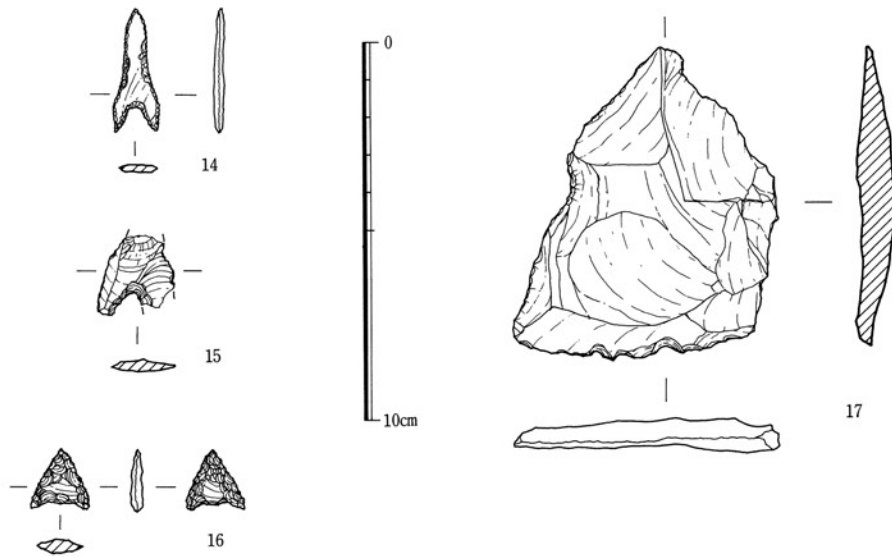


Fig.128 包含層出土遺物実測図②（1/2）

面に丹塗りの痕跡が認められる。赤褐色。11は壺の底部破片で内外面ナデ調整。淡褐色。12は条痕文土器の胴部破片で、内外面条痕を施す。暗褐色。13は押型文土器で外面に楕円文を施文する。内面には原体条痕を施さない。淡黄褐色。

石器（14～17） 14～16は黒曜石製の石鏃。14は最大長3.3cm、最大幅1.2cm、重量0.7g。15は欠損品で残存長2.1cm、残存幅1.9cm、重量1.3g。16は最大長1.7cm、最大幅1.5cm、重量0.7g。17はサヌカイト製の搔器（石匙になるか。）で最大長8.0cm、最大幅6.9cm、重量39.9g。

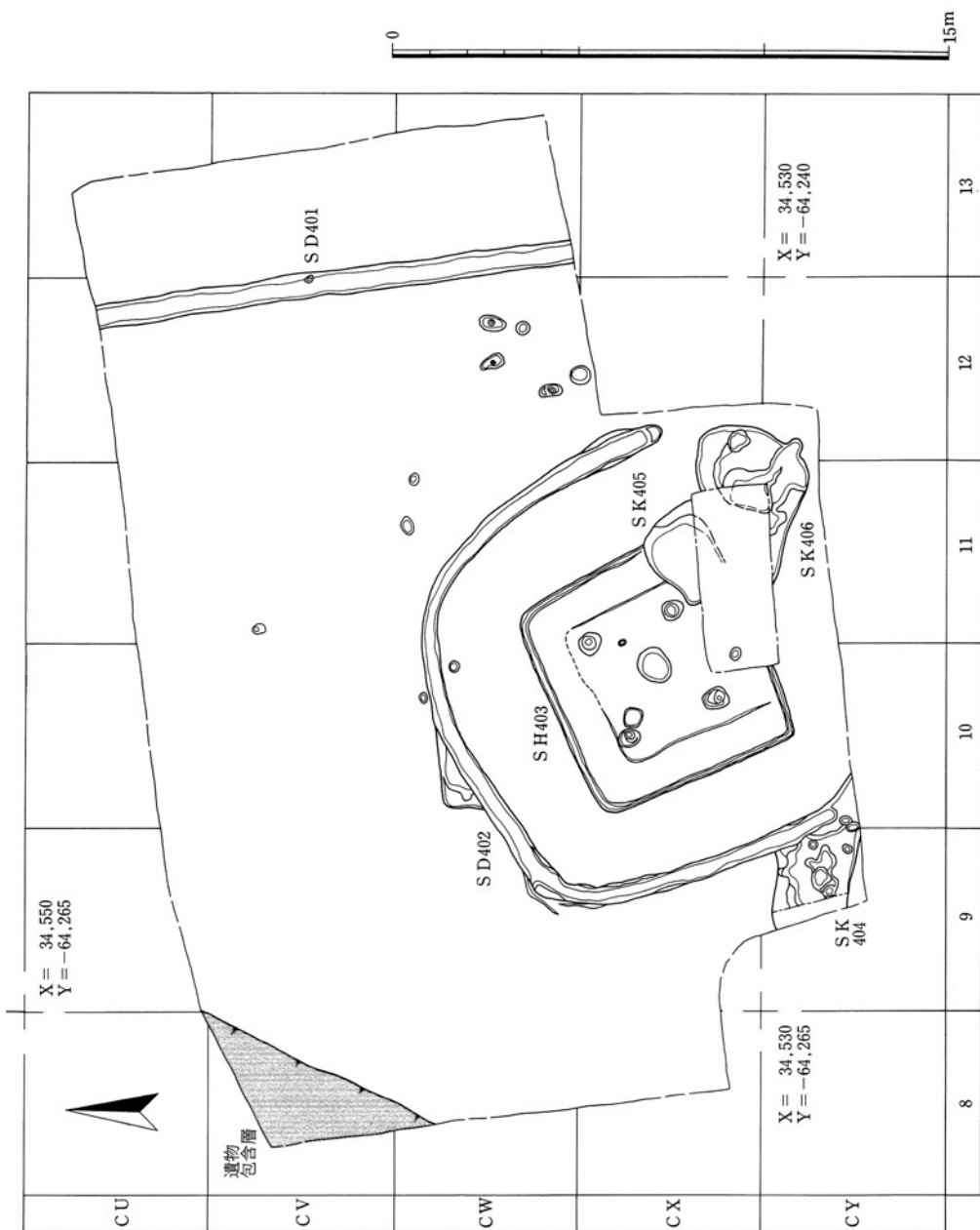


Fig.129 大野原遺跡4区遺構配置図 (1/200)

Ⅶ. 調査の記録 — ４区 —

高畑部分にあたり、厚さ40～50cmの表土下に淡黄褐色の基盤面が存在する。地形的には西にむかって緩やかに傾斜し、調査区の北西部分には黒褐色の遺物包含層が厚さ10cm程度堆積していた。遺構は古墳時代の所産と考えられる竪穴住居1軒、土壇3基、溝2条を確認しており、中でもSH403竪穴住居は周溝を巡らすものであった。

1. 古墳時代の遺構と遺物

検出した遺構はすべてこの時期の所産と考えられ、竪穴住居1軒、土壇3基、溝2条を確認している。竪穴住居及び土壇からは韃羽口や鉄滓等が出土しており、製鉄関連の遺構である可能性がある。

(1) 竪穴住居

周溝を巡らす住居を1軒検出している。この溝は明らかにSH403に伴うものであり、この項で報告しておく。

S D402溝 (Fig.130)

CV～CY-9～12グリッドで検出した。検出面の標高は8.8～8.9m。SK404に切られる。現況ではSH403をとり囲むように東側から北・西側にかけて検出しているが、これが南側まで及んでいるかどうかは調査区外に延びるために不明。断面形はU字形から逆台形に近く、その規模は幅0.4～0.8m、深さ0.4～0.6m程度である。埋土は2～4層に大別でき、いずれも自然堆積によるものと判断される。SH403の掘方ラインより2.0～2.5mの間隔を空けて巡っており、この住居に伴った溝であることはほぼ間違いない。それは土師器鉢(11)がSH403P3と接合関係にあり、両遺構がほぼ同時期に存在していたことよりも裏付けられる。遺物は埋土中より土師器等がコンテナ1箱程度出土している。

出土遺物 (Fig.131)

甕(1～4) 基本的に口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面ヘラ削り調整を行う。1はほぼ完存で口径18.2cm、器高30.1cm。胴部外面中位に黒斑有り。また外面に煤が付着する。淡褐色。2は復元口径18.0cm。肩部に沈線による波状文を巡らす。胴部外面に煤付着。褐色。3は復元口径16.8cm。淡褐色。4は復元口径15.8cm。口縁部外面に煤付着。淡褐色。

壺(5～9) 5・6は基本的に口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面ヘラ削り調整を行う。5はほぼ完存で口径13.1cm、器高14.2cm。胴部外面に煤付着。淡橙褐色。6は口縁端部を欠損する。胴部外面に黒斑有り。淡褐色。7・8は二重口縁壺の口縁部破片。7は復元口径18.8

1. 古墳時代の遺構と遺物

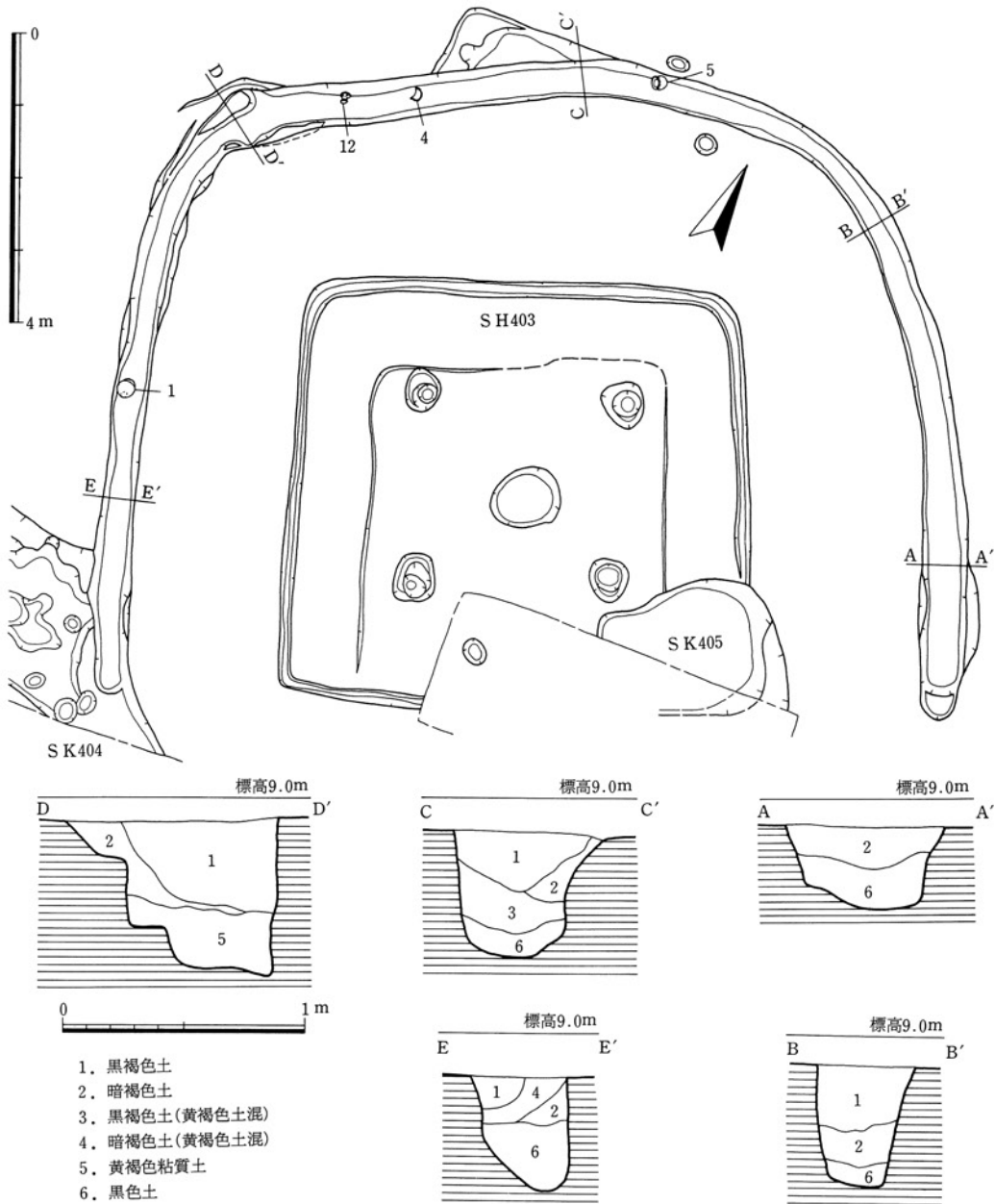


Fig.130 S D402溝及び土層断面実測図 (1/100・1/30)

cm。口縁部外面縦方向のヘラミガキ、同内面横ナデ、頸部外面横方向のヘラミガキ、同内面ナデ調整。淡褐色。8は復元口径9.8cm。内外面横ナデ調整。淡褐色。9は底部破片で外面ハケ目、内面ヘラ削り調整。淡褐色。

鉢 (10・11) 10は口縁部破片で復元口径21.4cm。外面縦方向のハケ目、内面横方向のハケ

Ⅶ. 調査の記録（4区）

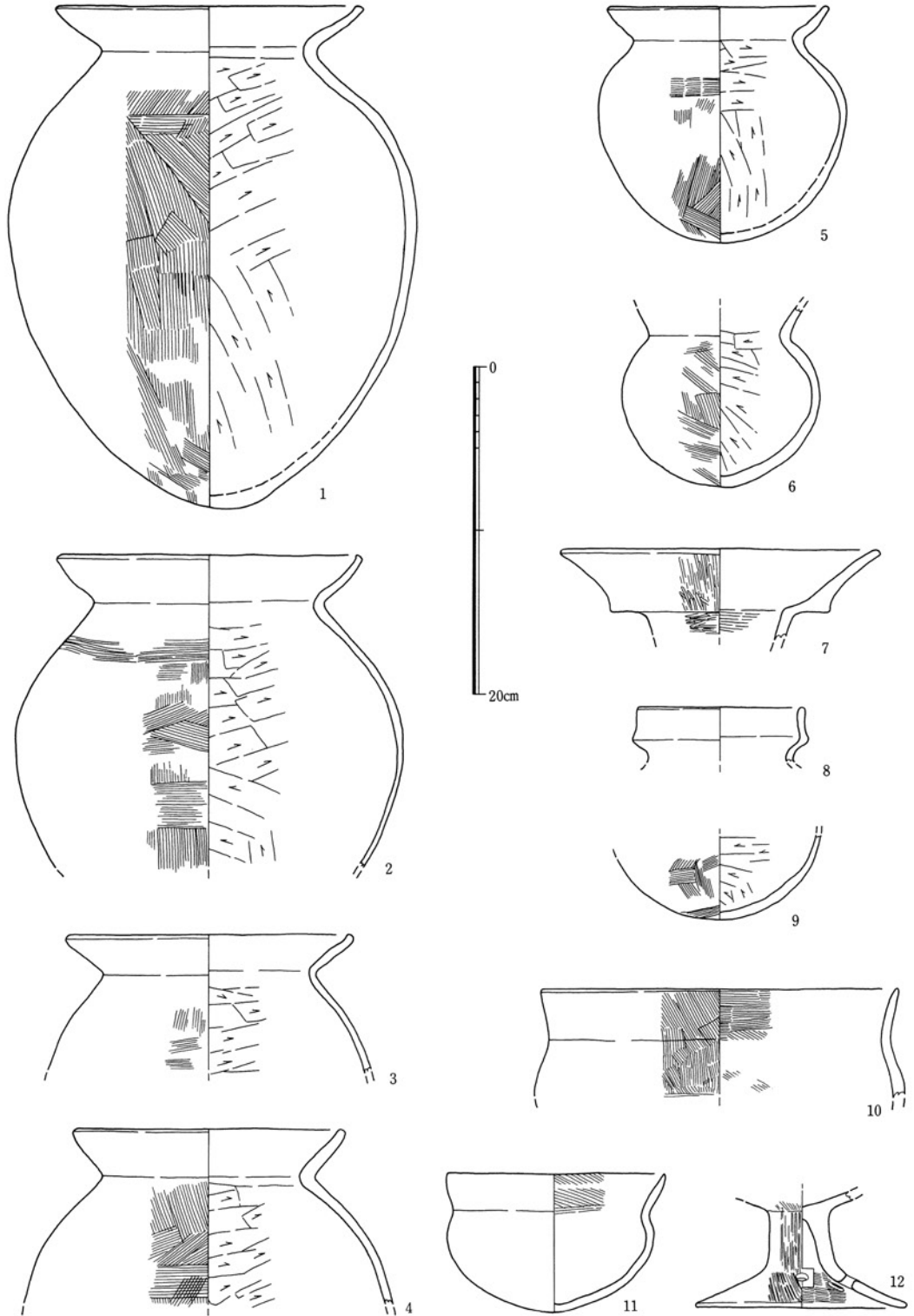


Fig.131 S D402出土遺物実測図（1/4）

1. 古墳時代の遺構と遺物

目調整。暗褐色。11は口径13.0cm、器高8.3cm。外面工具によるナデ、口縁部内面ハケ目、胴部内面ハケ目後ナデ調整。外底付近に黒斑有り。淡褐色。

高坏（12） 脚部破片で裾部径12.7cm。3個の孔を穿ち、外面縦方向のヘラミガキ、裾部内面横方向のハケ目調整。淡橙褐色。

S H403竪穴住居 (Fig.132)

CW～CY-10・11グリッドで検出した。検出面の標高は8.9m。南東隅をS K405に切られ、さらに南側を確認調査のトレンチによって削平される。平面形は一辺6.0～6.3m、床面積37.8m²程度の方形プランを呈し、床面までの深さは約20cmである。床面には黒褐色土と黄褐色土を叩き締めた貼床を施す。主柱は柱間2.5～2.8mの4本柱で、柱穴の深さは0.6～0.7m程度である。住居のほぼ中央には10cm程掘り込まれた炉が設けられている。ベッド状遺構は東壁、北壁、西壁沿いにコの字形に設けられ、貼り付けのみによって形成される。床面からの高さは5～8cm程である。また周壁沿いには壁溝がめぐらされ、南壁沿いの中央よりやや西寄りにピット(P5)が存在する。P5からは土師器壺・鉢（4～6）が出土しており、位置的に考えて2区で検出している壁際土壌の一種になる可能性がある。

遺物は埋土及び床面直上より土師器等がビニール3袋程度出土しているが、その中には韃羽口（細片ではあるが）や鉄滓（2点）が出土しており、製鉄関連の住居である可能性がある。それはこの住居が周溝（S D402）を巡らしており、特別な機能を有していたと考えられることよりも推察できる。

出土遺物 (Fig.133) 1・8は床面直上、4～6はP5、3は基底面、他は埋土出土。

甕（1～3） 1・2は口縁部破片。1は復元口径14.6cm。口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面ヘラ削り調整。淡褐色。2は復元口径18.2cm。口縁部横ナデ調整。淡橙褐色。3は肩部破片で内外面ハケ目調整。淡褐色。

壺（4・5） 4は口縁部を欠く。外面横方向のハケ目、内面横方向のヘラ削り調整。2次焼成を受けており、外面には煤が付着する。褐色。5は復元口径6.6cm。口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目後ナデ、同内面横方向のヘラ削り調整。褐色。

鉢（6） 復元口径13.3cmで口縁部横ナデ、他はナデ調整。2次焼成を受けており、外面には煤が付着する。淡褐色。

高坏（7・8） 7は坏部破片で口径11.5cm。口縁部横ナデ、外面縦方向のハケ目、内面工具によるナデ調整。外面に黒斑有り。淡褐色。8は口径7.3cm、復元裾部径10.8cm、器高9.1cm。脚部に4個の孔を穿つ。外面及び坏部内面ヘラミガキ調整、他は磨耗のため調整不明瞭。

韃羽口（9） 復元径6.8cm。高熱被射のためガラス質の付着が認められる。褐色。

Ⅶ. 調査の記録（4区）

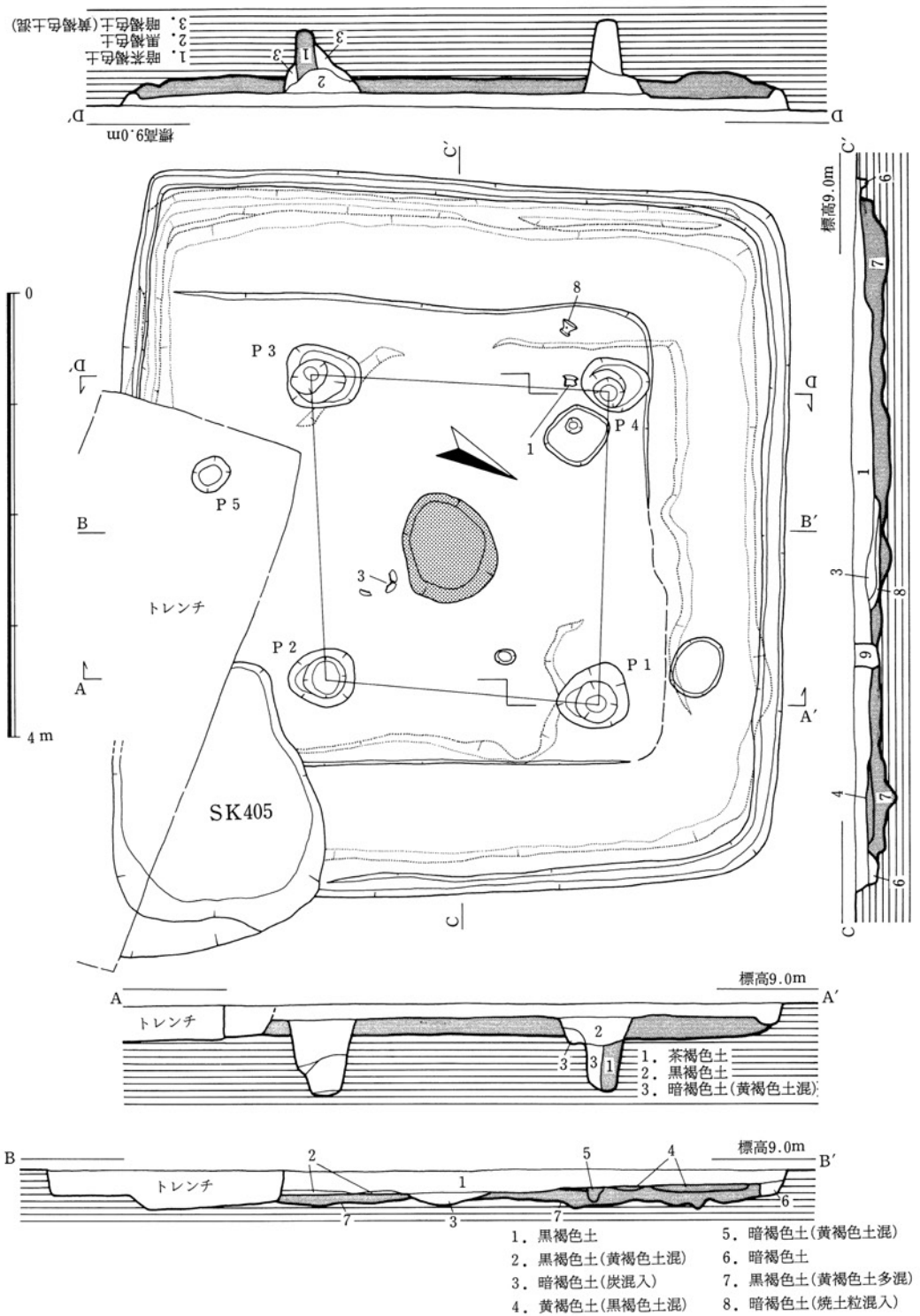


Fig.132 SH403竪穴住居実測図 (1/60)

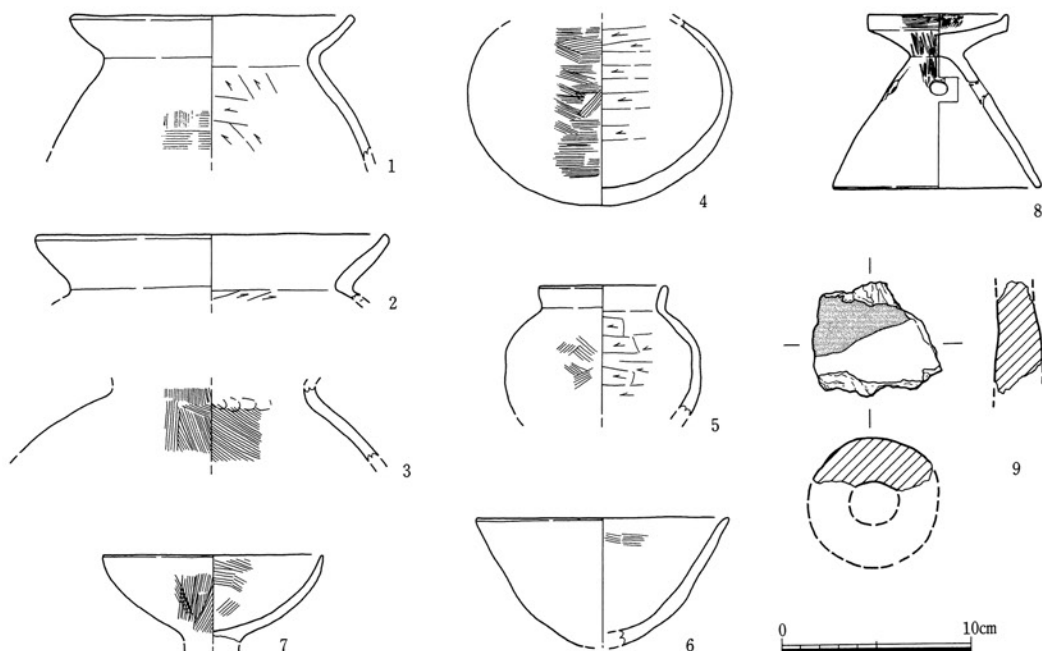


Fig.133 S H403出土遺物実測図 (1/4)

(2) 土 壌

S H403の周辺で3基検出している。

S K404土壌 (Fig.134)

C Y-9・10グリッドで検出した。検出面の標高は8.8m。S D402を切る。また遺構の西側及び南側は調査区外にあるため遺構の全貌は知り得ない。底面は起伏が多く、壁面はきつく立ち上がる。深さは最深で0.7m程度。埋土は7層に大別できいずれも自然堆積によるものと判断される。埋土中からは土師器等(ビニール3袋程度)の他、鉄滓8点が出土している。製鉄関連の遺構の可能性はあるが、特にその痕跡は認められなかった。

出土遺物 (Fig.135)

甕 (1~6) 1~5は口縁部破片。基本的に口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面ヘラ削り調整を行う。1は復元口径14.4cm。外面に煤付着。褐色。2は復元口径17.0cm。肩部に1条の沈線を巡らし、外面には煤が付着する。明褐色。3は口径17.0cm。肩部に沈線による波状文を巡らす。内面明褐色、外面黒褐色。4は復元口径16.8cm。暗褐色。5は口径16.8cm。褐色。6は胴部破片で外面縦・横方向のハケ目、内面ヘラ削り調整。肩部に4条の沈線を巡らし、外面には煤が付着する。淡褐色。

壺 (7~9) 7は二重口縁壺の口縁部破片で復元口径20.2cm。磨耗のため調整不明瞭。明褐色。8は復元口径10.5cm。胴部内面ヘラ削り調整、他は調整不明瞭。褐色。9は復元口径8.6

Ⅶ. 調査の記録（4区）

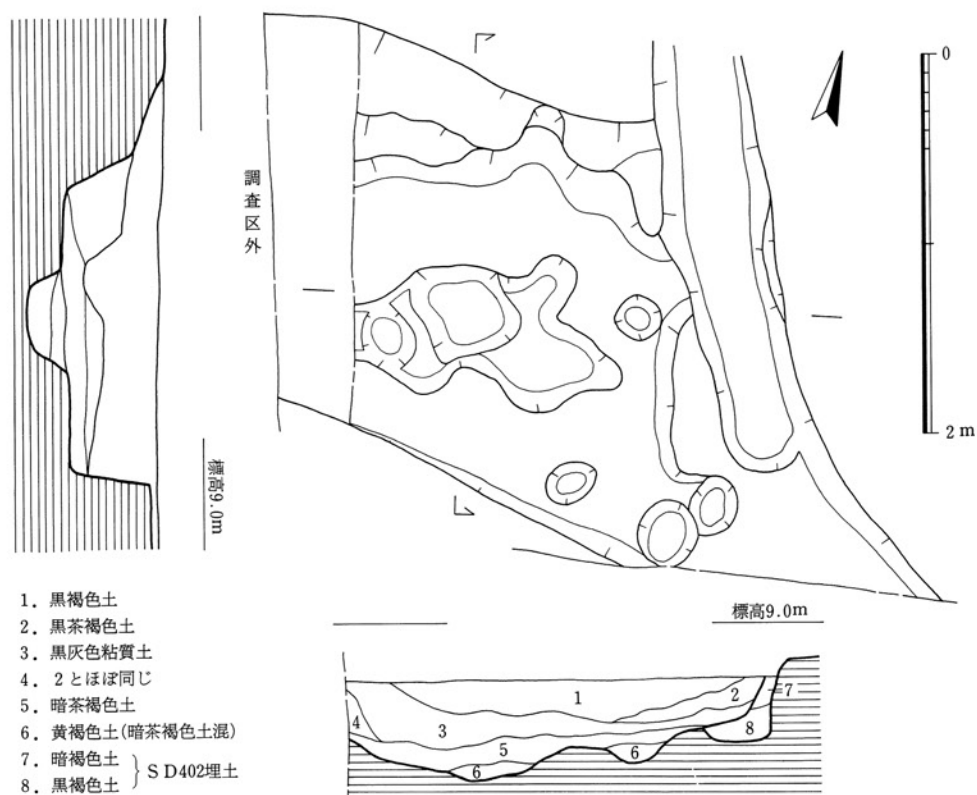


Fig.134 S K 404土壌実測図 (1/40)

cm。口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目、同内面ヘラ削り調整。内外面に黒斑有り。

鉢 (10~12) 10は底部破片で内外面工具によるナデ調整。淡黄褐色。11は復元口径12.0cm。口縁部横ナデ、外面ハケ目、内面ナデ調整。淡褐色。12は口径8.5cm。口縁部横ナデ、他はナデ調整。淡褐色。

石器 (13) サヌカイト製の搔器。最大長6.8cm、最大幅2.1cm、重量13.8g。

S K 405土壌 (Fig.136)

C X-11グリッドで検出した。検出面の標高は8.8m。S H403を切る。また遺構の南側を確認調査のトレンチのため削平されるため、その全貌は知り得ない。位置的にS K 406と同一の遺構になる可能性がある。深さは最深で0.4m程度で、埋土は黒褐色土を基調としていた。遺物は埋土中より土師器等が少量出土している。

出土遺物 (Fig.137)

甕 (1) 口縁部破片で復元口径14.6cm。口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り調整、他は調整不明瞭。明褐色。

1. 古墳時代の遺構と遺物

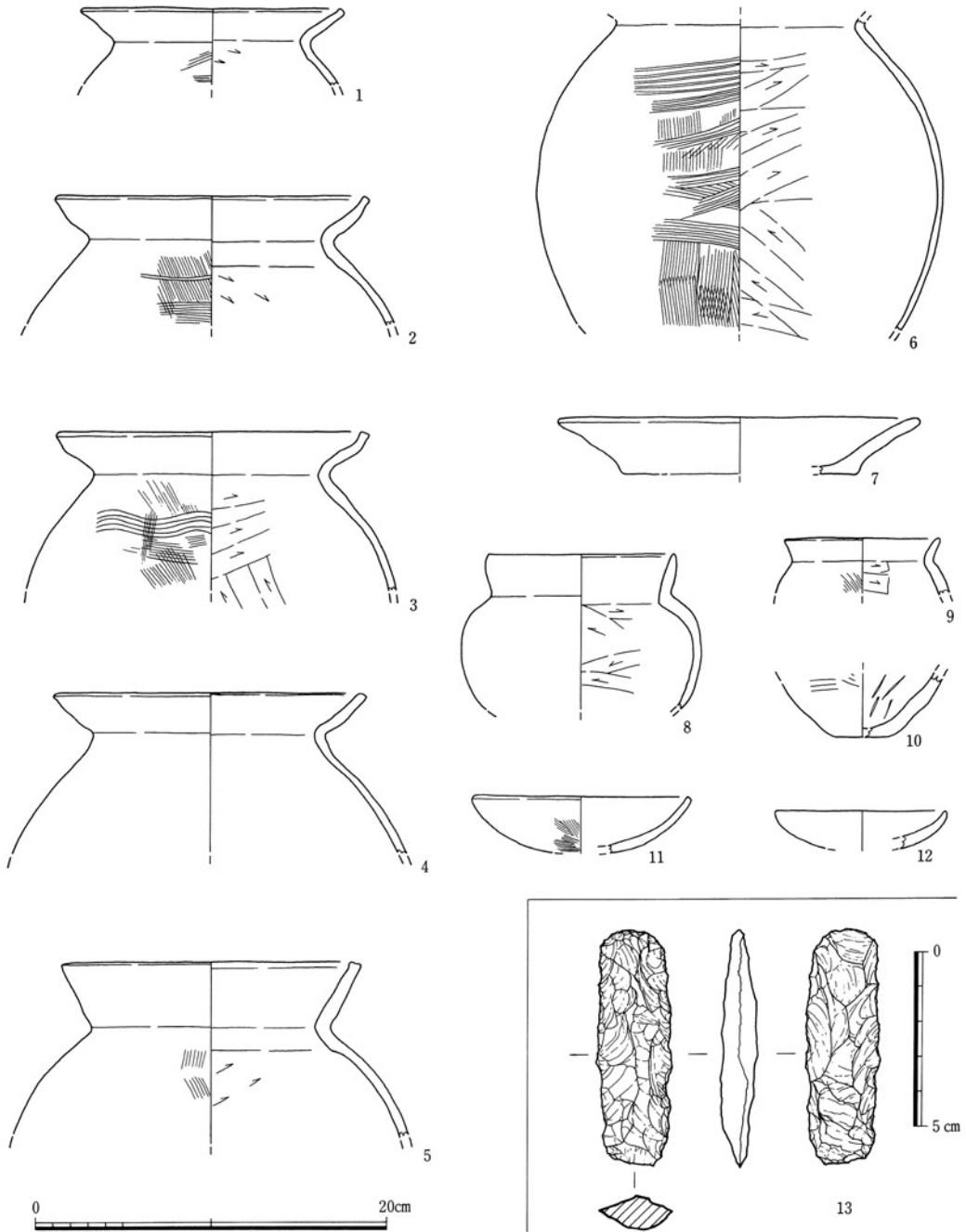


Fig.135 S K404出土遺物実測図 (1/4・1/2)

Ⅶ. 調査の記録（４区）

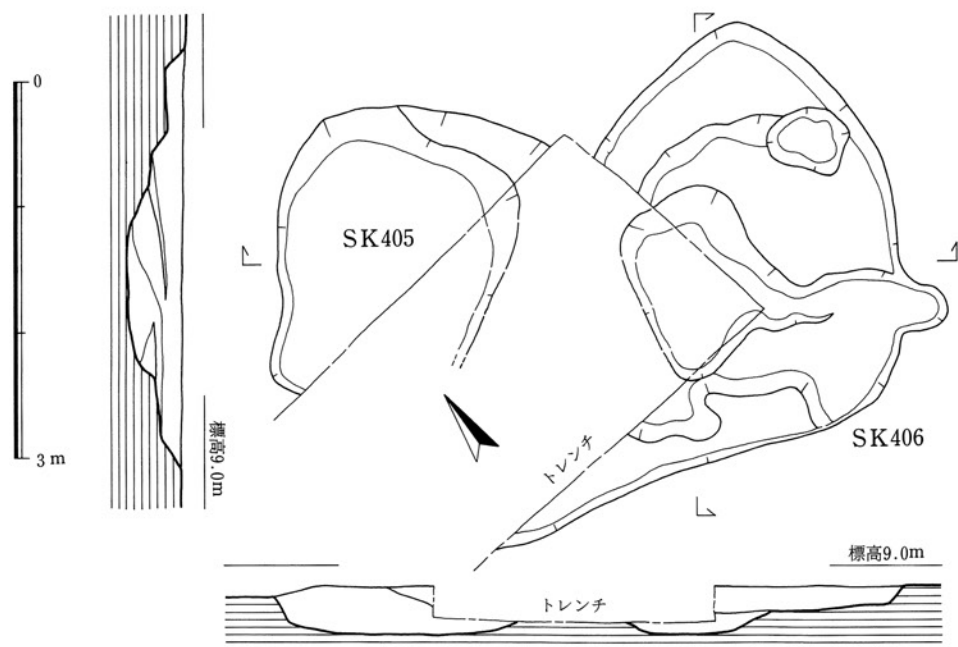


Fig.136 S K 405・406土壌実測図 (1/60)

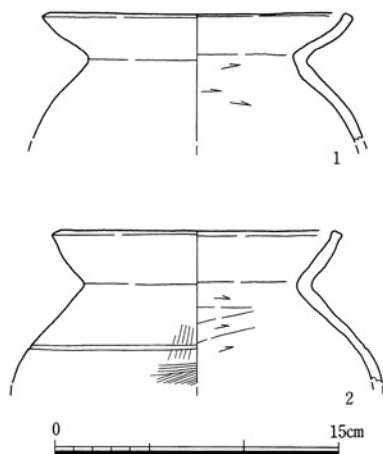


Fig.137 S K 405・406出土遺物
実測図 (1/4)

S K 406土壌 (Fig.136)

C X・C Y-11・12グリッドで検出した。検出面の標高は8.8m。遺構に西側を確認調査のトレンチに削平されるため、その全貌は知り得ない。前述したが位置的にS K 405と同一の遺構になる可能性がある。深さは最深で0.4m程度で、埋土は黒褐色土を基調としていた。遺物は埋土中よ土師器等の他、鉄滓1点が出土している。また確認調査トレンチ内からも鉄滓3点が出土しており、S K 404同様製鉄関連の遺構の可能性があるが、その痕跡は認められなかった。

出土遺物 (Fig.137)

甕(2) 口縁部破片で復元口径14.4cm。肩部に1条の沈線を巡らす。口縁部横ナデ、胴部外面ハケ目後ナデ、同内面ヘラ削り。淡褐色。

(3) 溝

2条検出している。その内SD402はSH403に伴う周溝であり、すでに堅穴住居の項で報告している。

SD401溝 (Fig.138)

CU~CW-12・13グリッドで検出した。検出面の標高は8.8~8.9m。南北方向に検出しその延長は調査区外にある。断面形は逆台形に近く、その規模は幅0.6m、深さ0.2m程度である。埋土は黒褐色土の単層であった。現況ではどのような性格の溝になるかは不明。遺物は埋土中より微量出土しているが、図示できるものはなかった。

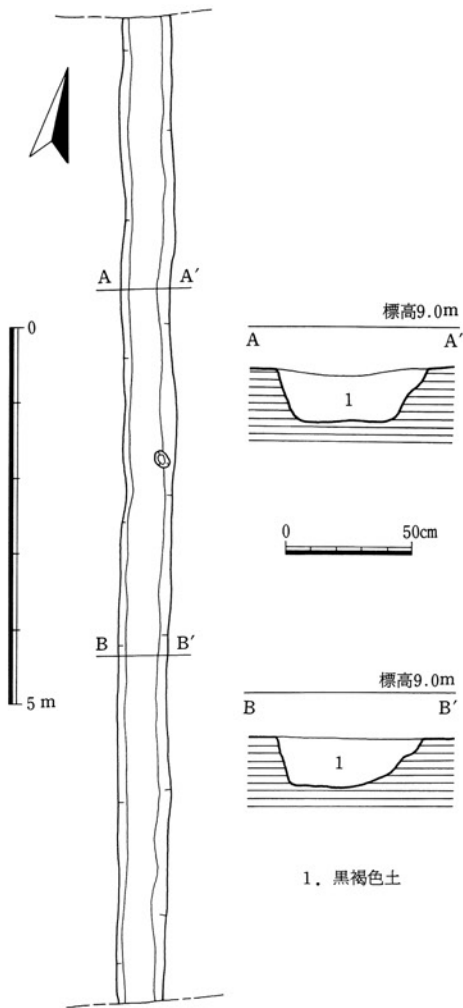


Fig.138 SD401溝及び土層断面
実測図 (1/100・1/30)

Ⅷ. 小 結

今回の大野原遺跡の調査では、多大な成果を収めることができた。特に弥生時代後期～古墳時代初頭の集落跡が中心で、多くの竪穴住居や掘立柱建物等の遺構を確認することができた。ここでは、3区で検出した縄文時代の落とし穴状遺構と、2区で検出した弥生時代～古墳時代の集落跡を中心に簡単にまとめてみたい。

1. 落とし穴状遺構

佐賀市域では、この種の落とし穴状遺構が確認されている例は九州横断道関係で調査された六本黒木遺跡¹⁾がある程度で、未だその検出例は少ない。今回3区で確認できた落とし穴状遺構は11基で、六本黒木遺跡で報告されている土壌と類似している。落とし穴については今村啓爾氏の論考²⁾があり、以下それを参考にしつつ本遺跡の落とし穴について概観してみたい。

(1) 形態と配置

今回の調査で検出した落とし穴状遺構は11基で、その形態より大きくA～C型の3つに分類できる。A型(S K 303・307・308・310)は底面にピットを有さないタイプで、今村氏分類のG型もしくはH型になるか。B型(S K 304・305・307・317)は底面にピットを1個有するタイプで、今村氏分類のB 1型にあたる。C型(S K 301・302・306・311)は底面にピット2個を有するタイプで、今村氏分類のC型にあたると思われる。この形態の差異が使用目的(捕獲する動物の違い)の違いを示すのか、あるいは時期的な違いを示すのかは現況では不明である。S K 307がA型とB型が切り合うものと考え、調査区内にはちょうどA・B・C型がそれぞれ4基ずつ存在することになり興味深い。

3区は舌状丘陵の先端部分にあたり、配置的にはその落ち際に沿うような感じで存在している。これは湿地帯に水を飲んだりぬたをうちにくる動物を狙ったものであろう。形態別にその配置を観ると、A型はS K 303が若干離れた位置にある他は一箇所に集中して存在している。これはけもの道や特に動物の集まる場所等に集中的に設けられた可能性がある。B・C型については両者が等間隔に並んだような配置状況を示している。S K 301-305及びS K 302-304は南北方向にそれぞれ約6.5mの間隔を空けて並び、S K 306・307・311・317では約5.0～5.5mの間隔を空けて、B型とC型が交互に東西方向に並列している。これよりB型とC型は同時併存した可能性が高く、さらにその企画性のある配置より、動物を巻狩式に追込んで捕獲していた可能性がある。またB型・C型の両者を意識的に配置しており、使用目的において何らかの違いがあったものと考えられる。確かにB型のものがC型よりも規模的に若干大型で、底面に逆茂木

等を立てるために設けられたピットの数も多く、C型よりも大型の動物を捕獲する目的があったのかもしれない。

(2) 年 代

まずここでVI章で報告できなかった小穴出土の縄文土器を報告する。1はP3032出土の条痕文土器。内外面に条痕を施し、暗褐色を呈する。2はP3035出土のやや厚手の条痕文土器。外面に条痕を施しナデ消す。内面はナデ調整で淡黄褐色を呈する。

P3035はS K303に切り込むピットであるが、底面において明確な切り合いは確認できておらず、この出土遺物がS K303の埋土中出土である可能性がある。この土器は条痕文土器でも古いタイプで早期まで遡る可能性がある。他に埋土中より土器が出土した落とし穴にはS K301・302があり、いずれも細片であるが轟式もしくは曾畑式系土器と考えられ、縄文前期前半頃の年代が当てはまる。この出土した土器がほぼその落とし穴の存在した時期を示すものと考え、A型は早期、B・C型は前期前半の所産ということになる。S K317は縄文晩期～弥生前期前葉の包含層に切られているため、それ以前の所産であることはほぼ間違いない。また、谷部包含層及び周辺出土の縄文土器が早期～前期前半のものに限定されるため、落とし穴状遺構がこの時期に営まれたものとして大差ないであろう。またA型とB・C型の時期差であるが、A型がやや歪で不定形であるのに対し、B・C型はほぼ定型化し、その配置状況も企画性が高いことより、A型より後出すると考えるのが自然であろう。

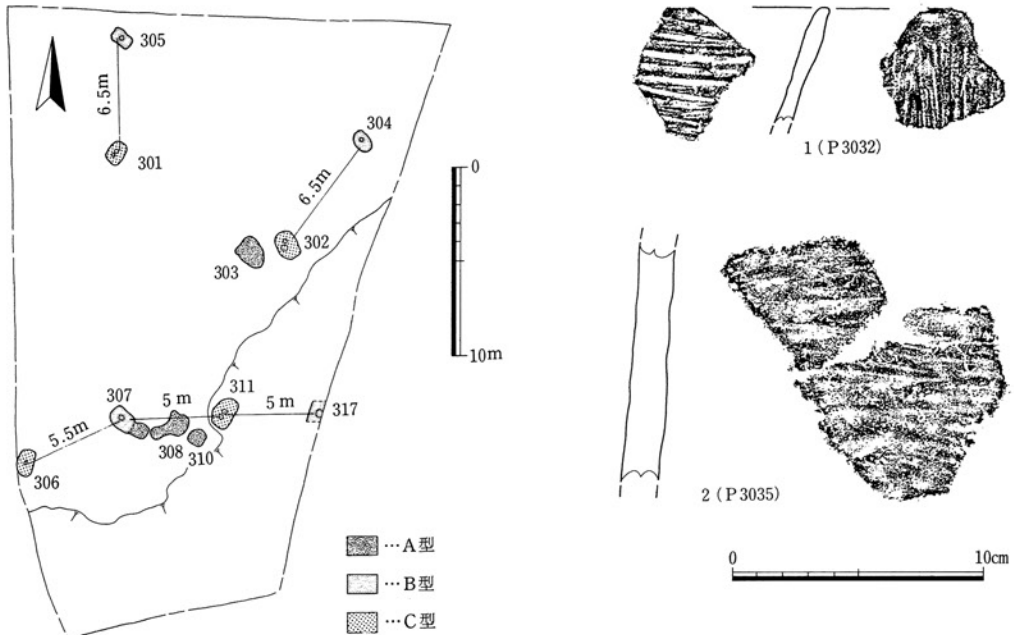


Fig.139 落とし穴状遺構配置図 (1/800)・小穴出土縄文土器 (1/3)

VIII. 小 結

落とし穴状遺構は近年、北部九州でもその検出例が増加しており、その集成が福岡県内等において行なわれている³⁾ようである。しかし佐賀県内においてはほとんど行なわれておらず、その実態が明らかでないのが現状である。今後資料の集成を図り、その実態が少しでも明らかにされていくことが望まれる。

2. 2区の集落について

2区では弥生前期末～古墳初頭にかけての集落跡を確認し、竪穴住居31軒、掘立柱建物18棟にのぼる遺構群を検出している。以下、竪穴住居を中心に概観してみたい。

(1) 集落の変遷

集落は弥生前期末から古墳初頭にかけて営まれているが、弥生中期中葉～後葉の遺構を確認していない。これは集落自体が完全に断絶してしまうのか、あるいは何らかの自然現象等の制約のために別の地区へ移動してしまうのかは現段階では判断できない。

I期 弥生前期末～中期前半にかけてで、円形住居を中心に営まれている。調査区のほぼ中央に竪穴住居が存在し、その周辺に貯蔵穴の可能性のある土壌がある。さらに北端には土壌墓が設けられている。5基ある円形住居のうち4基が北牟田型住居⁴⁾（中央に土壌をもちその両端に柱穴状のピットを有するタイプ）で、出土遺物及びその形態からSH206（5本主柱）→SH215（9本主柱）、SH222（5本主柱）→SH225（8本主柱）という建て替えが想定できる。また北牟田型ではないSH209は5本主柱から7本主柱への拡張・立て替えが考えられ興味深い。以上のごとく、円形住居では5本主柱→多主柱（7～9本主柱）への変遷が看取できる。この他、SH215、220では南壁沿いに土壌を検出しているが、これは弥生終末期に盛行する壁際土壌の初現であろうか。

II期 弥生後期初頭～終末にかけてだが、後期初頭～前葉と後期後葉～終末が存在し、後期中葉頃がみられない。狭小な調査区であり、しかも短期間であるため集落自体が断絶するとは考えづらい。後期初頭～前葉ではSH207・230がある。いずれもベッド状遺構の状態は明らかではないが、住居内に屋内土壌を設けている。またSH207では壁際土壌が存在している。後期後葉～終末ではSH216・224・229がある。大型化し、ベッド状遺構が出現する。SH216は削り出しのみで、SH224は貼り付けのみで形成されている。住居の短辺沿いを中心に設けられている。

III期 弥生終末～古墳初頭にかけてで、本集落の最盛期にあたる。10軒の竪穴住居があり、うちSH201・202・204の3軒が若干先行すると考えられる。ベッド状遺構はすべての住居に設けられ、内側を土堤状に削り出し、外側を溝状に掘り込んで黒褐色土と黄褐色土を叩き締めて形成するという定形化した構築法が確立する。その形態も様々でI・II・IV類（Fig.142）が存在する。また集落の北辺には倉庫と考えられる掘立柱建物が築かれる。SH202・203はベッド状遺

2. 2区の集落について

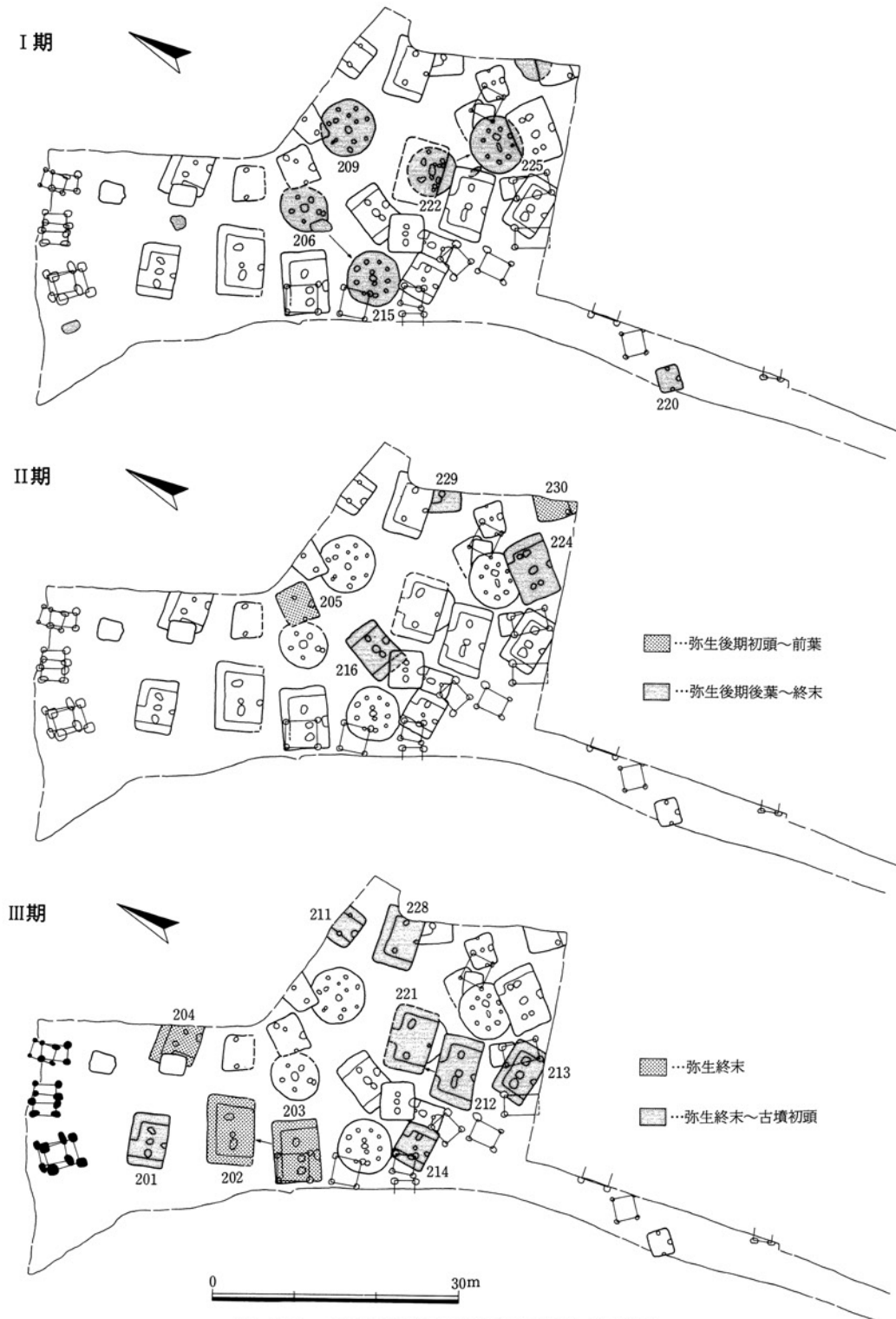


Fig.140 大野原遺跡 2区集落変遷図① (1/800)

VIII. 小 結

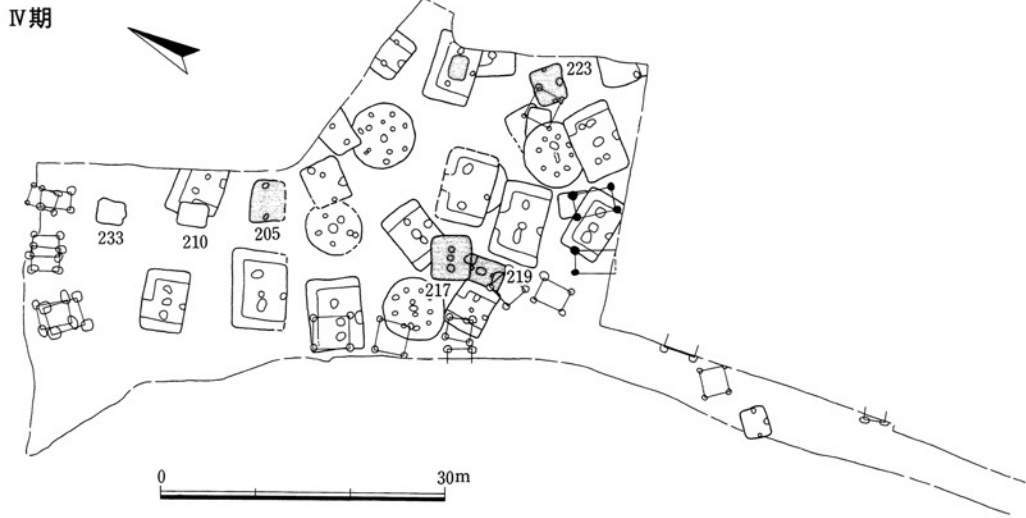


Fig.141 大野原遺跡2区集落変遷図② (1/800)

構及び主柱・炉の配置が非常によく類似し、SH212・221はベッド状遺構の配置が類似（Ⅳ類はこの2軒のみ）しており、さらにその位置的な関係より立て替えが行われたものと考えられる。出土遺物から判断するとSH203→SH202、SH212→SH221という移動が看取できる。

Ⅳ期 古墳時代初頭にあたる時期で、竪穴住居自体が小型化する傾向にあり、その数も減少する。ベッド状遺構もSH219が2コーナー（Ⅴ類）に付設するのみで、他にはみられなくなる。壁際土壌はまだ南壁沿いに存在する（SH217・223）。SH210・233も傾向及び位置的な関係より判断してこの時期に含まれる可能性があるが、時期が限定できるような遺物が出土していないため現段階では不明である。またこの時期の初めには4区に周溝を巡らしたSH403が築かれる。この時期を境に後出する遺構、遺物とも検出しておらず、集落自体が廃絶されたものと考えられる。

(2) 竪穴住居の構造

大野原遺跡では全体で32軒の竪穴住居を検出したが、ここでは弥生前期末～中期前半の6軒を除いた26軒についてとり上げてみたい。

ベッド状遺構 26軒中、16軒に認められる。5種類に大別でき、その配置はFig.142に示したとおりである。またその構築法も削り出しと貼り付けの併用…A類、貼り付けのみ…B類、削り出しのみ…C類の3種類に分類できる。

I類：短辺を中心に設ける類で、一方がL字形になる。2軒あり、弥生終末～古墳初頭にみられる。床面積20～30㎡の中型の部類のものにみられ、構築法もA類と定形化している。

2. 2区の集落について

ベッドが付設されていない部分の壁沿いにはピット群がある。

II類：3面にコの字形に設ける類で、最も多く6軒存在する。弥生終末～古墳初頭にみられ、床面積も30㎡以上と大型の部類のものに設けられる。基本的に2本支柱であるが、SH403のみ4本支柱である。構築法もほとんどがA類であるが、やや時期が下るSH403のみB類である。

III類：短辺のみに設ける類で、SH216の1軒のみ検出しているが、基本的に短辺を中心に設けることよりSH228（一方がカクランに削られ明確ではないが）もこの類に含めてよいと考える。弥生後期後半～終末で、床面積も30.3㎡と33.5㎡と大型の部類である。構築法はB類・C類で、最も多く築かれるA類への移行段階として捉えることができる

IV類：L字形に設け、ちょうどII類の長辺の中央部を抜いたような形態で、2軒検出している。SH212・221で立て替えが考えられるものである。弥生終末～古墳初頭で、床面積も40㎡前後と大型の部類である。構築法はA類である。

V類：2箇所のコーナーに設ける類で、SH219の1軒のみ検出している。古墳初頭で、床面積11.5㎡と小型の部類である。ちょうど住居が小型化する時期で、ベッド状遺構もみられなくなる傾向にあり、その移行段階として捉えることができる。構築法もC類となる。

この形態的な変遷を示すと以下のようなになる。

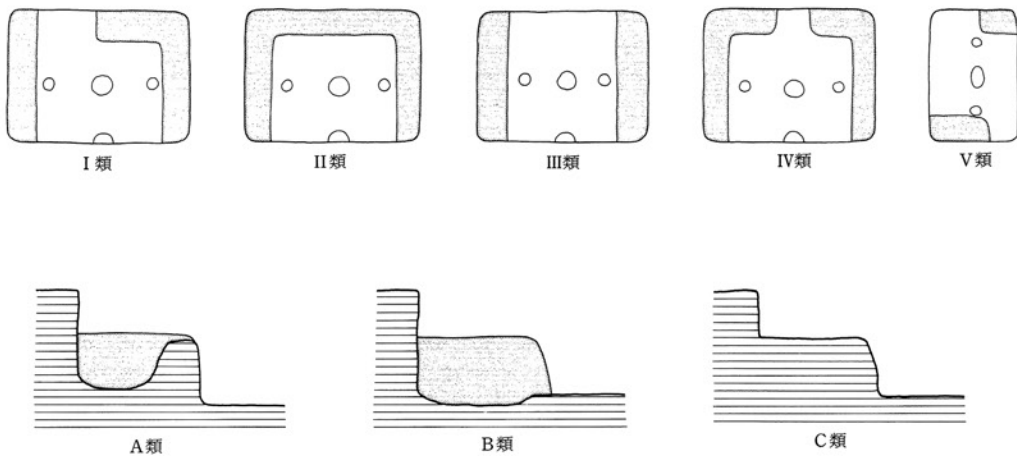
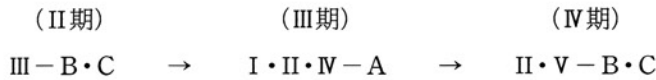


Fig.142 ベッド状遺構の配置及び構築法による分類

Ⅷ. 小 結

Tab. 1 大野原遺跡堅穴住居一覧表

(単位：m、㎡)

遺構番号	平面形	長辺×短辺	面積	支柱	炉	ベッド	壁際土壌	長軸方位	時 期	備 考
SH201	長方形	6.52×4.68	30.5	2	中 央	I - a	南壁	N-64°-E	弥生終末～古墳初頭	壁沿いピット群あり
SH202	長方形	8.1×5.58	45.2	2	西 寄 り	II - a	南壁	N-63°-E	弥生終末	SH203の立て替えか
SH203	長方形	7.4×5.7	42.2	2	西 寄 り	II ? - a	南壁	N-57°-E	弥生終末	SB254より古。SH202の立て替えか
SH204	長方形?	(5.6)×5.2	?	2?	中 央 ?	II ? - a	南壁	N-79°-E	弥生終末	SH210より古。壁沿いピット群あり
SH205	長方形?	4.2×(2.86)	?	2 ?	中 央 ?	—	—	N-62°-E	古墳初頭	カクランに削られる
SH206	円 形	径5.62	24.8	5	中 央 ?	—	—	—	弥生前期末?	SK265と切り合う。屋内土壌あり
SH207	長方形	4.4×3.9	17.2	2	中 央 ?	—	南壁	N-38°-W	弥生後期初頭～前葉	焼失住居の可能性あり
SH208	長方形	(3.3)×3.28	?	2 ?	?	—	—	N-21°-E	時期不明	SH209より新
SH209	円 形	径6.8	36.3	5→7?	中 央	—	—	—	弥生前期末～中期初頭	S H208より古
SH210	長方形	3.1×2.46	7.63	?	?	—	—	N-17°-W	時期不明	SH204より新。壁沿いピット群
SH211	長方形	4.6×(2.64)	?	2 ?	?	I ? -a・b	南壁	N-21°-E	弥生終末～古墳初頭	焼失住居
SH212	長方形	8.24×4.49	40.7	2	西 寄 り	IV - a	南壁	N-75°-E	弥生終末～古墳初頭	SH222立て替えか。壁沿いピット群
SH213	長方形	6.92×4.5	31.1	2	西 寄 り	II - a	南壁	N-94°-E	弥生終末～古墳初頭	SB251・252より古。壁沿いピット群
SH214	長方形	5.24×4.22	22.1	2	中 央	I - a	南壁	ほぼ真北	弥生終末～古墳初頭	SB266と切り合う。壁沿いピット群
SH215	円 形	径6.36	31.8	9+2	中 央 ?	—	南壁?	—	弥生中期初頭～前半	SB253より古
SH216	長方形	6.74×4.5	30.3	2	西 寄 り	III - c	南壁	N-23°-E	弥生後期後半～終末	SH217より古
SH217	方 形	4.26×(4.3)	?	2	中 央	—	南壁	N-62°-E	古墳初頭	SH217より新
SH219	長方形	4.26×2.7	11.5	2	中 央	V - c	—	N-6°-W	古墳初頭	SH218より古。SH214より新
SH220	長方形	3.14×2.68	8.42	2	?	—	南壁?	N-45°-E	弥生前期末	一部カクランに削られる
SH221	長方形	(7.3)×(4.5)	?	2	中 央	IV - a	南壁	N-74°-E	弥生終末～古墳初頭	SH222より新。SH212の立て替えか
SH222	円形?	?	?	5+2	中 央 ?	—	—	—	弥生前期末?	SH221より古。立て替えの可能性あり
SH223	長方形	3.68×3.16	11.6	2	中 央	—	南壁	N-42°-E	古墳初頭?	SB269より古。壁溝あり
SH224	長方形	7.48×5.04	37.7	2	中 央	III ? - b	南壁	N-40°-E	弥生後期後半～終末	立て替えの可能性あり。壁溝あり
SH225	円 形	径6.7	35.2	8+2	中 央 ?	—	—	—	弥生前期末～中期初頭	SH224より古。SH222の立て替えか
SH226	長方形?	(3.4)×2.48	?	?	?	—	—	N-67°-E	時期不明	SH227より新。SH225と切り合う
SH227	長方形?	(3.1)×3.7	?	?	中 央 ?	—	—	N-33°-E	時期不明	SH226より古。SH225と切り合う
SH228	長方形	7.12×4.7	33.5	2	?	II ? - a	南壁	N-83°-E	弥生終末～古墳初頭	SK270より古。壁沿いピット群
SH229	長方形?	?	?	2?	?	? - c?	—	N-30°-W	弥生後期後半	SH228より古
SH230	長方形?	?	?	?	?	? - c?	—	N-38°-W	弥生後期初頭	SK232より新
SH231	長方形?	(2.6)×2.8	?	?	東 寄 り	—	—	N-55°-W	時期不明	SH213・SB252より古
SH233	長方形	2.96×2.46	7.28	?	?	—	—	N-20°-W	時期不明	壁溝あり
SH403	方 形	6.32×5.88	37.2	4	中 央	II - b	南壁?	N-36°-W	古墳初頭	周溝・壁溝あり

2. 2区の集落について

またこの遺構の性格であるが、ほとんどのものが幅が1.0m前後あり、この遺構名称の由来どおりベッド（就寝所）として機能していたと考えてもおかしくない。ただSH211（焼失住居）のように明らかに土器等を置く、物置として機能していたと考えられるものもあり一概には判断し難い。今後この遺構の性格については、焼失住居等の当時の生活痕が残りやすい遺構の検出例の増加をまって検討していかなければならない。

壁際土壇 北部九州ではベッド状遺構が盛行する弥生終末期を中心によくみられるもので、その類例もかなりの数にのぼると思われる。しかしその性格については未だ不明な点が多い。またその名称も様々で、ここでは位置的な部分を重視し「壁際土壇⁵⁾」という名称を使用する。

本遺跡ではほとんどの住居に存在しており、その数は13軒（I期の住居を除く）にのぼる。いずれも南壁沿いのほぼ中央部に設けられる。I期のSH215・220にもみられるが、SH215は床面下層の掘り込みと重複し、その掘方を確実に検出したわけではなく、SH220は明らかに床面下層の掘り込みであり、終末期を中心存在する壁際土壇とは異質である可能性があるためこの場では取り上げない。確実な初現としてはSH207（弥生後期初頭～前葉）にもとめたい。そしてこの集落が廃絶されると考えられる時期の直前（古墳初頭）まで、継続的に設けられる。この土壇の性格についてであるが、貯蔵穴や出入口の梯子を埋め込んだ痕跡であるとか様々な見解があるようである。SH207は住居内の北東部に貯蔵穴の可能性のある屋内土壇を設けており、壁際土壇が貯蔵穴のような性格の土壇ではないということが理解できる。またその位置であるが、基本的に南壁沿いの中央部であるのだが、SH202・203・212・213・216などは炉が中央よりもやや西寄りに設けられ、壁際土壇も炉とほぼ同軸状にやや西寄りに設けられている。非常に炉の位置を意識していると言ってよい。さらに土壇内の出土遺物は小型の甕・壺・鉢類が多く（SH202・203・204・217、特にSH203では台部を欠損した小型の台付甕を粘土で板石に固定していたような状況を示している。またその下部から完存の小型の鉢が出土している。）何か祭祀的なものを連想させる。炉を意識しているということは、火災やその他の災害に対する地鎮の意味をこめた祭所とは考えられないだろうか。今回検出した住居においては、他の性格を考えるより妥当性が高いように思える。今後資料の充実を図り検討していく必要がある。

壁沿いピット群 今回検出した住居の中には、ベッド状遺構がない部分の壁沿いに小ピットが並んだように存在するものが多く、全体で6軒確認している。可能性としては土止めの囲板を押さえる杭の痕跡か、あるいは棚等を設けるための支柱の痕跡が考えられる。時期的にはIII期の住居に限ってみられる。若干遡るII期のSH224にはピット群の代わりに壁溝があり、次期には壁溝では囲板を固定しにくいいため、より強固にするために杭等で押さえたものと考えられなくもない。ただこのピット群は2列になる場合もありこの見解を消極的にさせる。また棚等を設けるのであれば上部から吊すのが自然で、多くの支柱を立ててその上に設けるとは考えづらい。現段階ではこの遺構の性格付けは困難で、今後の類例の増加をまって検討していきたい。

Ⅷ. 小 結

末筆ながら弥生終末～古墳初頭の集落に関しては、佐賀県立博物館蒲原宏行氏の有益な助言を得た。記して感謝申し上げたい。

〈註〉

- 1) 佐賀県教育委員会『大門西遺跡』佐賀県文化財調査報告書第51集 1980
- 2) 今村啓爾「陥穴」『縄文文化の研究』2 雄山閣 1983
- 3) 福岡県教育委員会『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告』-7- 1986
福岡県教育委員会『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告』-13- 1988
- 4) 石野博信「人の移動と住居型の地域性」『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館 1990
- 5) 福岡県教育委員会『椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告』-8- 1992

Tab.2 大野原遺跡2区掘立柱建物一覧表

(単位：m、㎡)

遺構番号	間 数	桁行×梁行	床面積	桁行方位	備 考
SB246	1×1間	3.3×2.5~2.3	7.9	ほぼ真北	S D264より古
SB247	1×1間	3.1×2.1	6.5	N-23°-W	S B248と立て替え関係
SB248	1×1間	3.0×2.0	6.0	N-10°-W	S B247と立て替え関係
SB249	1×1間?	—	—	—	大部分が調査区外
SB250	1×1間	2.9×2.6	7.5	N-21°-E	S H219より新
SB251	1×1間?	?×2.4	—	—	SH213より新。調査区外にでる
SB252	1×1間	4.3×2.55	11.0	N-40°-W	SH213・231より新
SB253	1×1間	3.4×3.35	11.0	N-17°-W	S H215より新
SB254	1×1間	3.95×3.55	13.7	N-32°-W	S H203より新
SB255	1×1間?	—	—	—	大部分が調査区外
SB256	1×1間	2.7×2.9	7.7	N-39°-W	一部調査区外
SB257	1×1間	3.2×2.75	7.9	N-22°-W	S H258と立て替え関係
SB258	1×1間	3.4×2.4	6.3	N-27°-W	S H257と立て替え関係
SB259	1×1間	3.5×2.6	9.1	N-43°-W	S H260と立て替え関係
SB260	1×1間	3.8×3.0	10.8	N-46°-W	S H259と立て替え関係
SB266	1×1間	2.6×2.3	6.0	N-16°-W	S H214と切り合う
SB269	1×1間	3.4×3.2	10.4	ほぼ真北(梁行)	SH223・225・227より新
SB271	1×1間?	—	—	—	大部分が調査区外

図 版



大野原遺跡周辺の景観

遺物写真は挿図番号と対照できるように
挿図番号を表記した。

5. SH212 (100-5)
図版番号 遺構番号 挿図番号



(1) S D 103・104土層断面 (西から)



(2) S D 101~104溝 (北から)



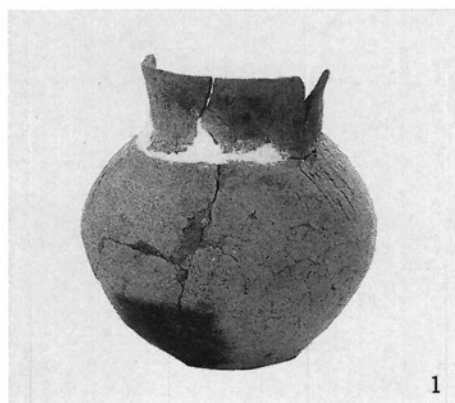
(3) S D 106土層断面 (東から)



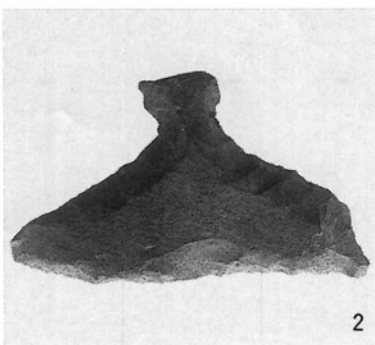
(4) S D 106周辺 (東から)



(5) 谷部包含層土層断面 (北西から)



1



2



3



4

1. 包含層 (15-26)
2. P 1006 (5-2)

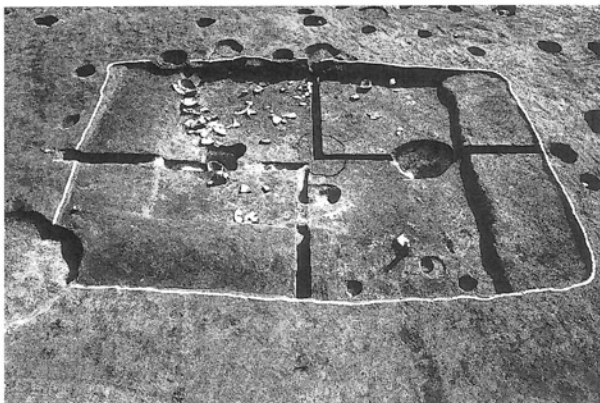
3. S K 110 (5-1)
4. 包含層 (18-48)



(1) 大野原遺跡2区全景



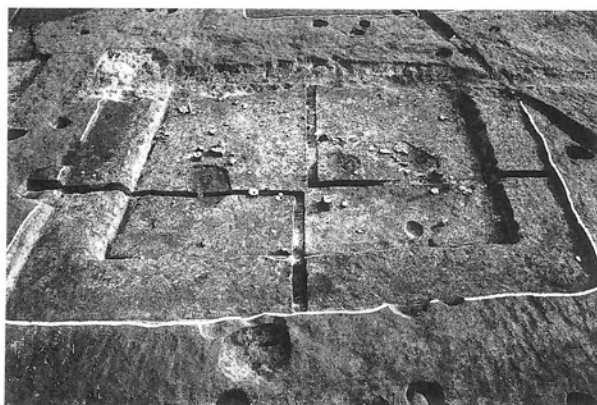
(1) 大野原遺跡 2区集落中心部



(2) SH201竪穴住居 (北から)



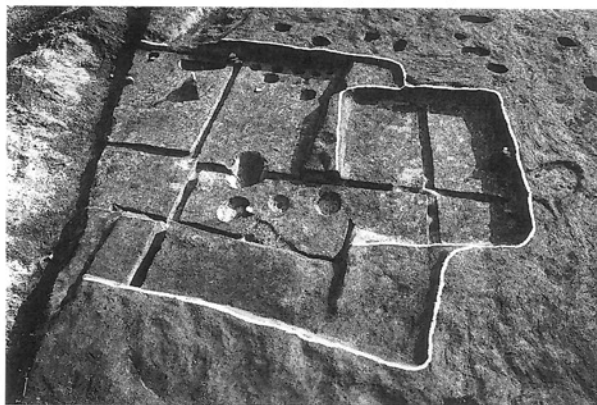
(3) SH201遺物出土状況 (東から)



(1) SH202竪穴住居（北から）



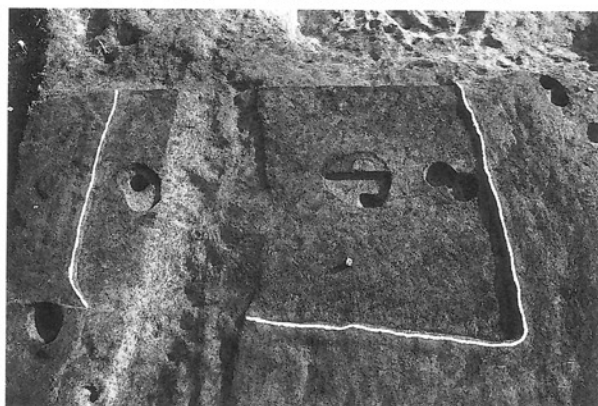
(2) SH203竪穴住居（東から）



(4) SH204・SH210竪穴住居（北から）



(3) SH203壁際土壇（北から）



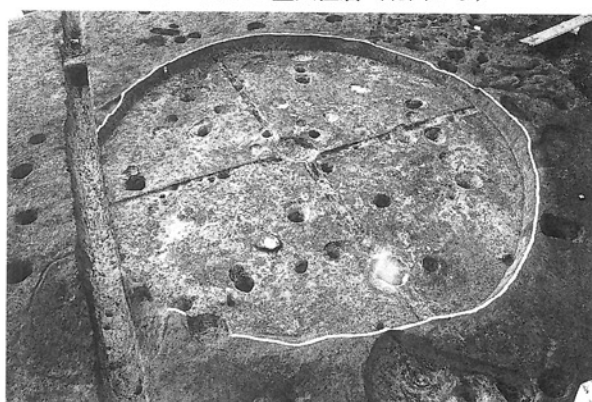
(5) SH205竪穴住居（北から）



(6) SH206竪穴住居（北西から）



(7) SH207竪穴住居（北東から）



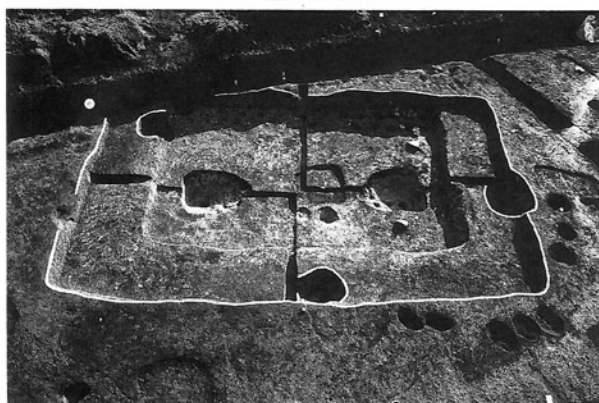
(8) SH209竪穴住居（東から）



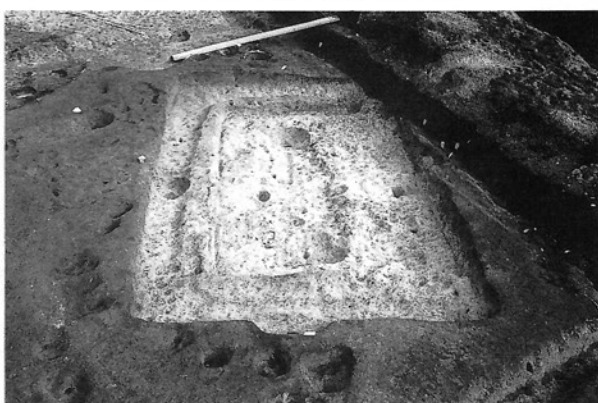
(1) SH211竪穴住居 (北から)



(2) SH212竪穴住居 (南から)



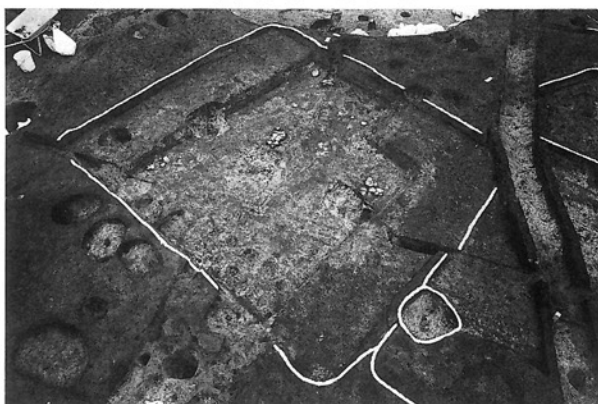
(3) SH213竪穴住居 (北から)



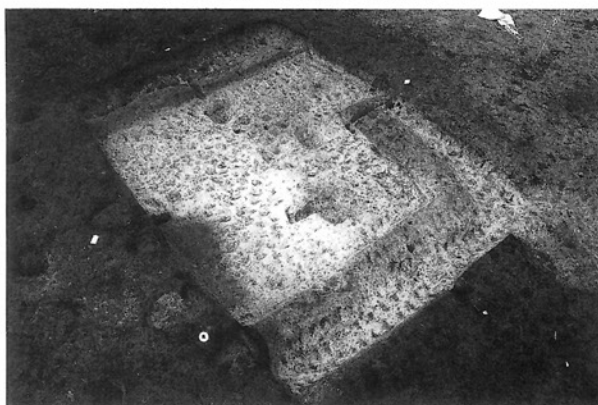
(4) SH213竪穴住居 床面下層 (西から)



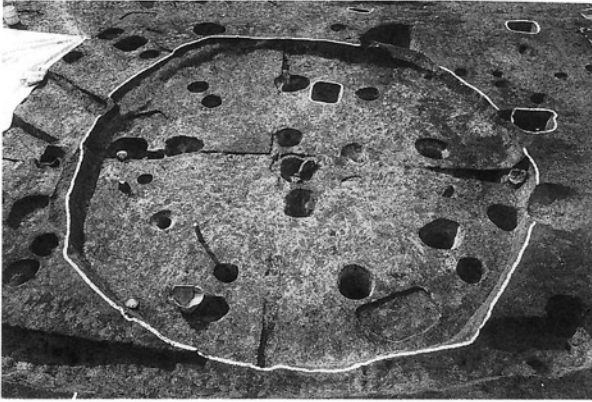
(5) SH213南壁ピット群 (西から)



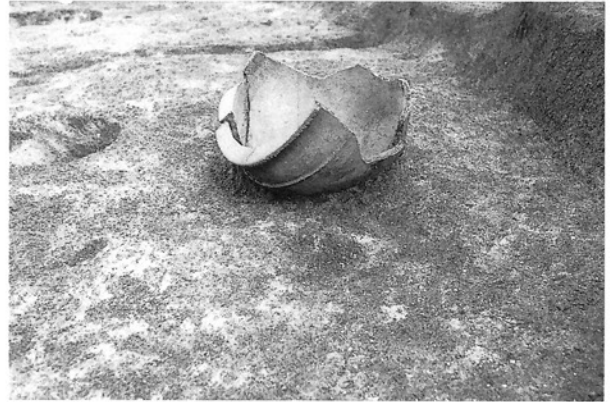
(6) SH214竪穴住居 (南東から)



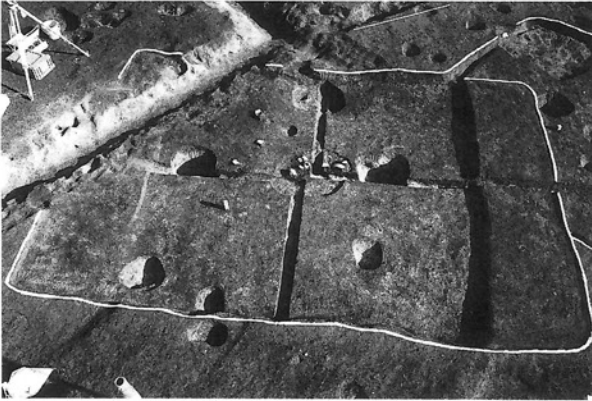
(7) SH214竪穴住居 床面下層 (南東から)



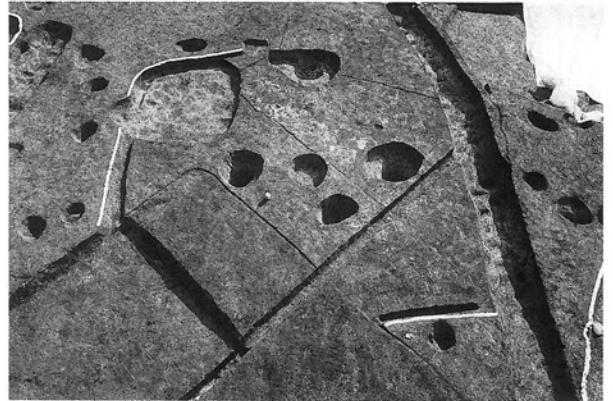
(1) SH215竪穴住居 (東から)



(2) SH215遺物出土状況 (南から)



(3) SH216竪穴住居 (北から)



(4) SH217竪穴住居 (北から)



(5) SH219竪穴住居 (南から)



(6) SH220竪穴住居 (北東から)



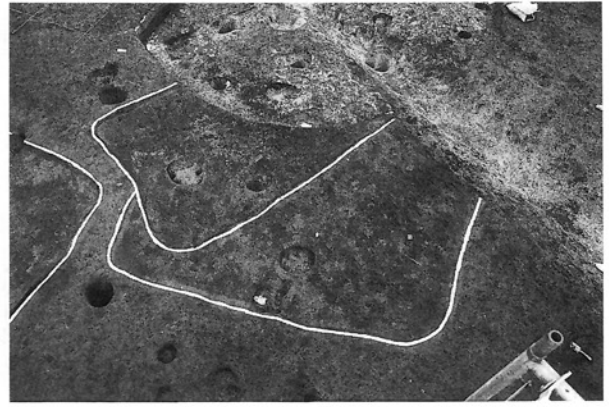
(7) SH223竪穴住居 (北から)



(8) SH224竪穴住居 (北西から)



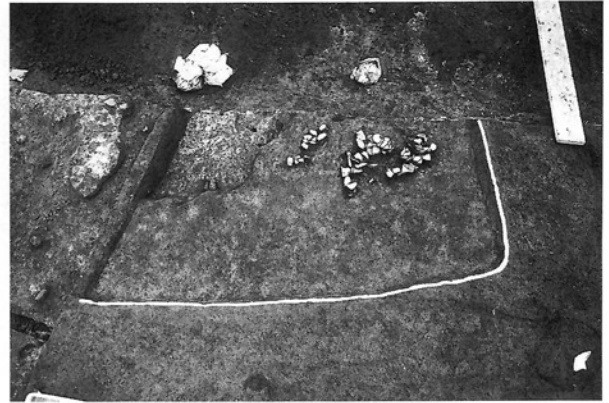
(1) SH225竪穴住居 (北から)



(2) SH226・227竪穴住居 (北から)



(3) SH228竪穴住居 (南から)



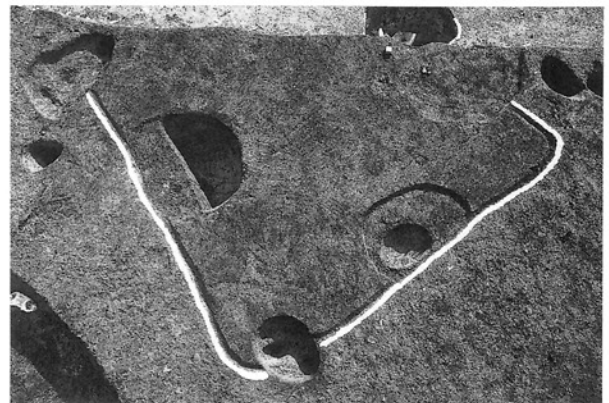
(4) SH229竪穴住居 (西から)



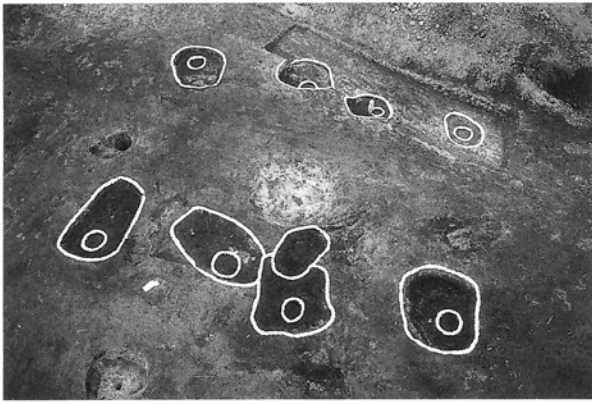
(5) SH230竪穴住居 (南から)



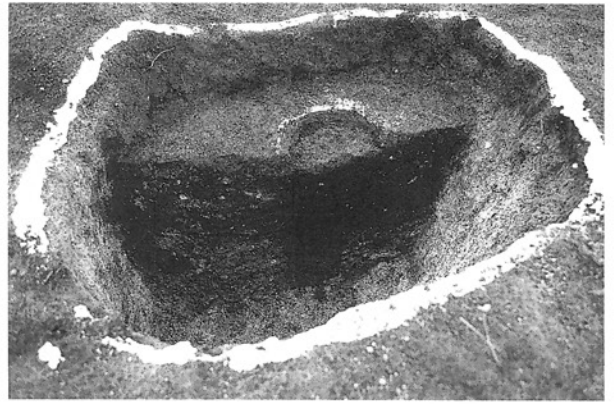
(6) SH230遺物出土状況 (南から)



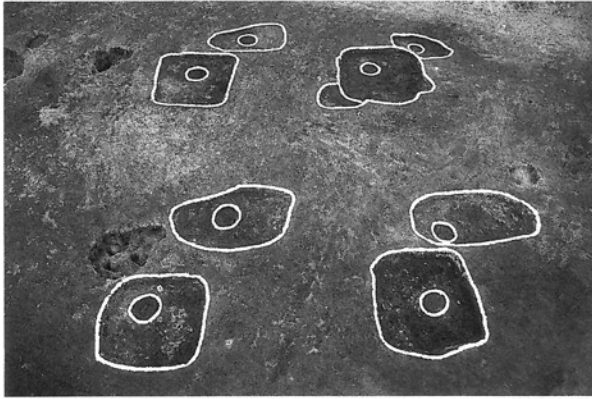
(7) SH231竪穴住居 (北から)



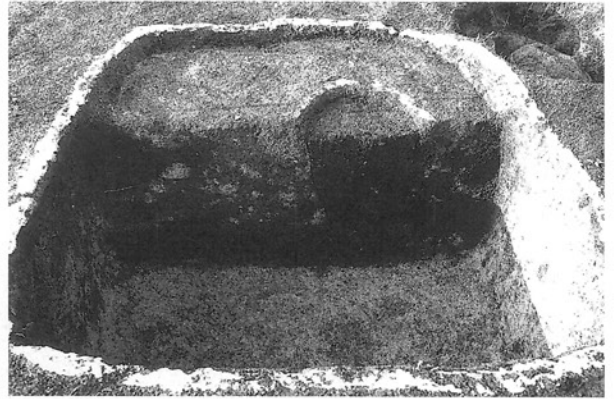
(1) S B 257・258掘立柱建物（南から）



(2) S B 258 P 2 土層断面（西から）



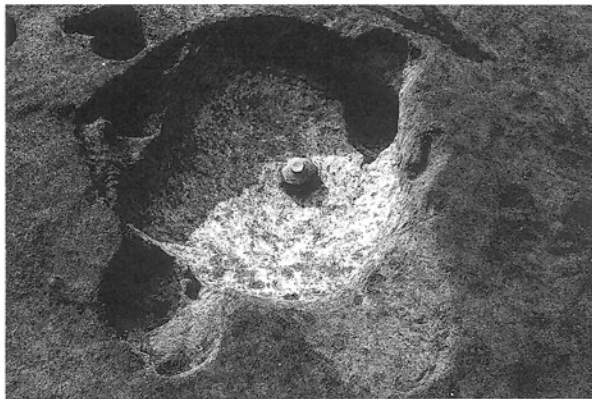
(3) S B 259・260掘立柱建物（南から）



(4) S B 260 P 3 土層断面（東から）



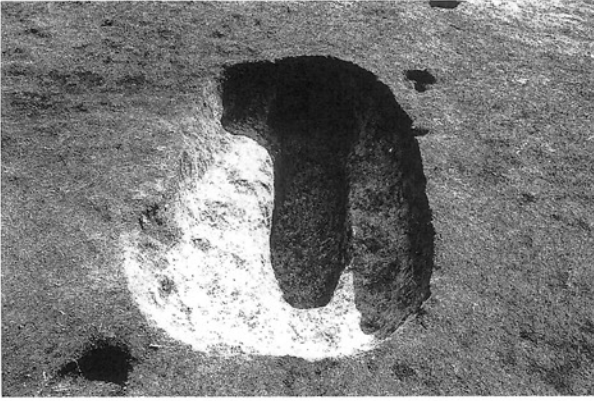
(5) S K 232土坑（東から）



(6) S K 261土坑（東から）



(7) S K 265土坑（北から）



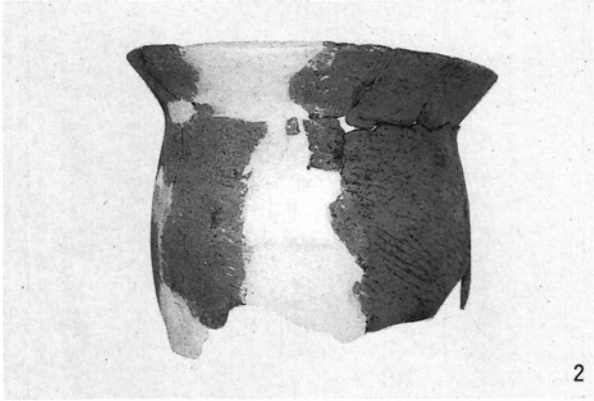
(1) S P 262土墳墓 (北から)



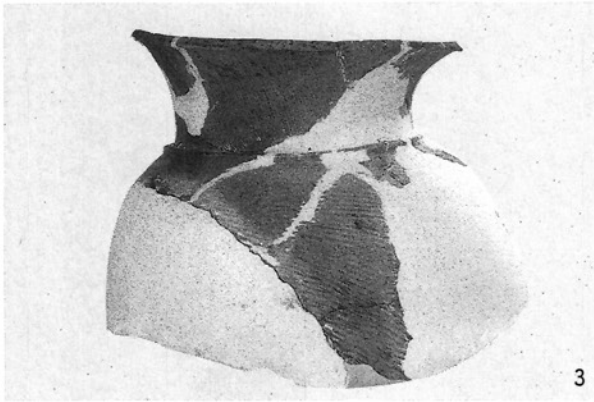
(2) S P 262土層断面 (南から)



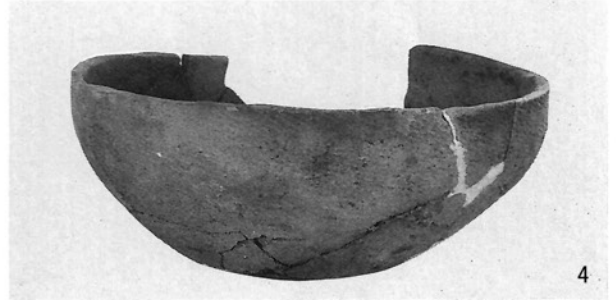
1



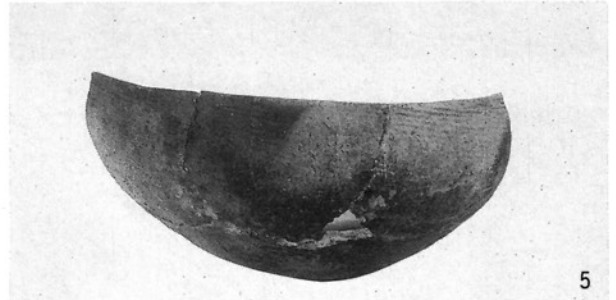
2



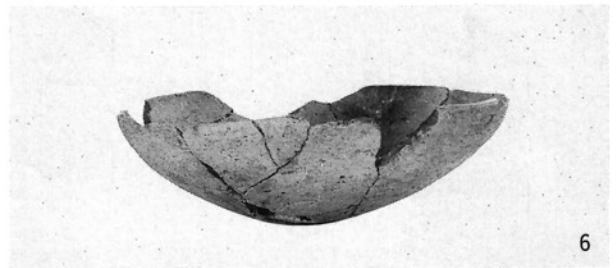
3



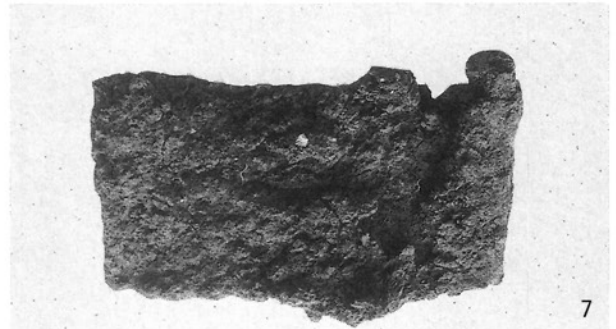
4



5



6



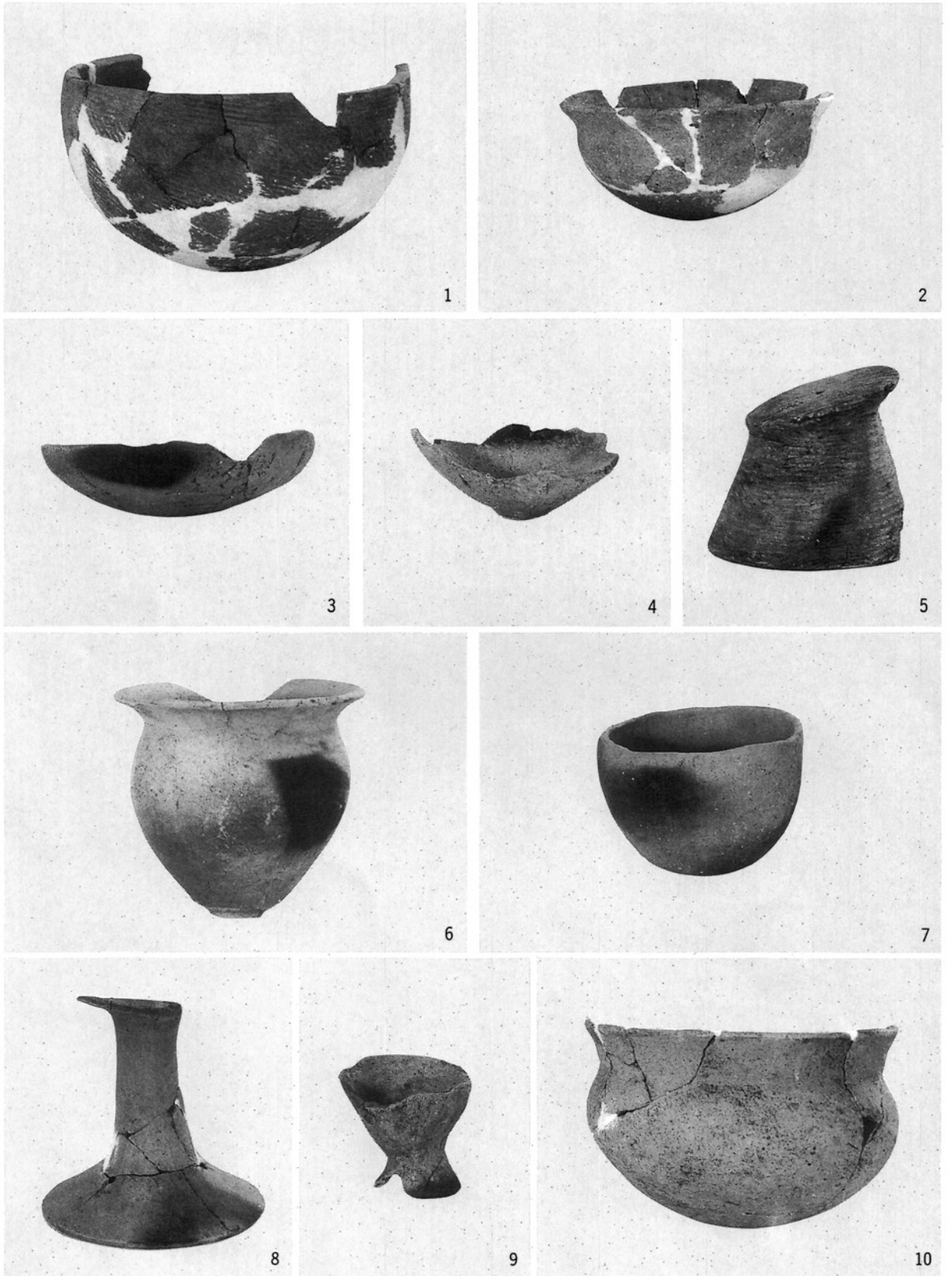
7

1. SH201 (21-1)
2. SH202 (25-4)

3. SH202 (25-11)
4. SH201 (23-12)

5. SH201 (23-11)
6. SH201 (23-15)

7. SH201 (23-25)

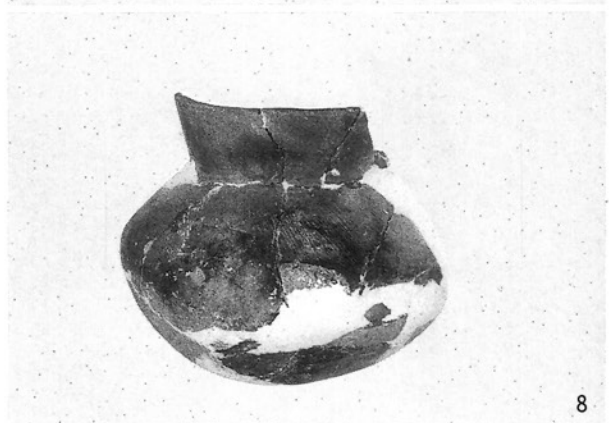
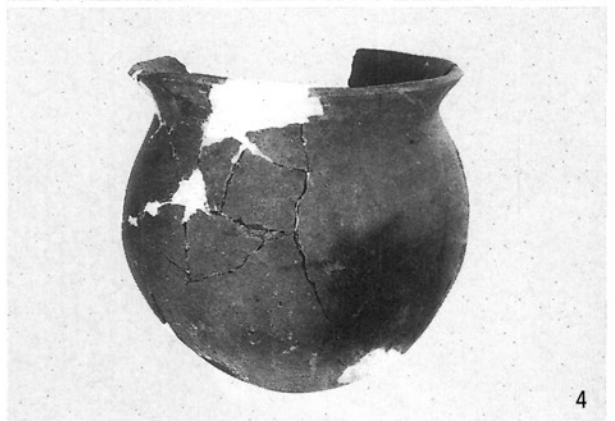
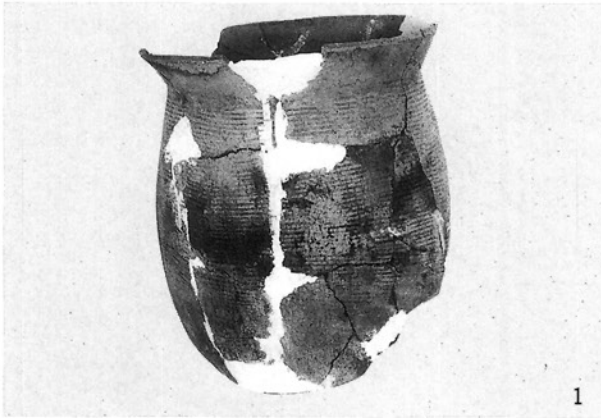


1. SH202 (26-16)
2. SH202 (26-13)
3. SH202 (26-28)

4. SH202 (27-33)
5. SH202 (27-43)
6. SH203 (29-3)

7. SH203 (29-10)
8. SH203 (29-15)
9. SH203 (29-11)

10. SH204 (31-1)



1. SH211 (43-4)

3. SH211 (44-16)

5. SH211 (46-24)

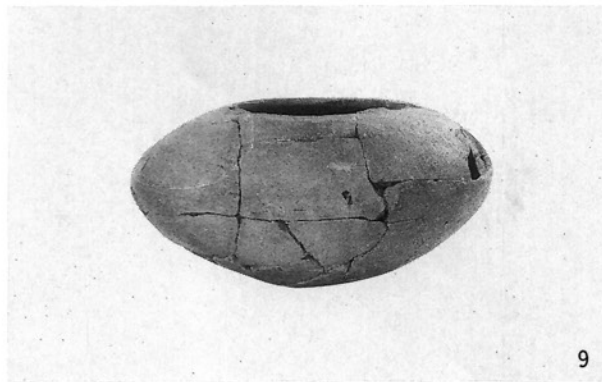
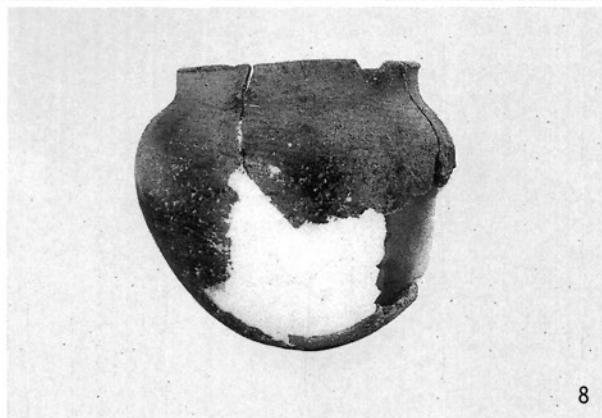
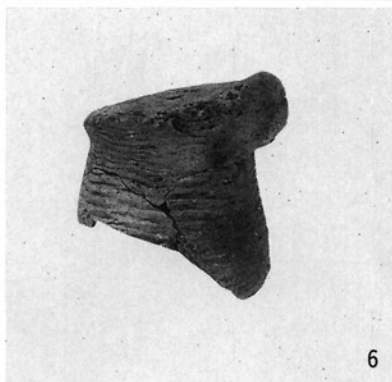
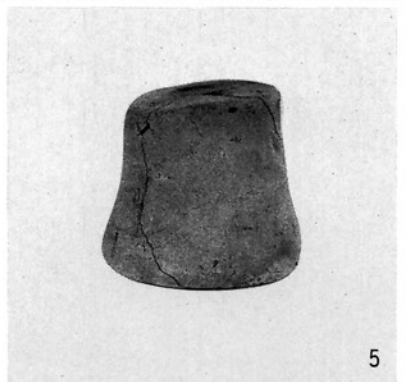
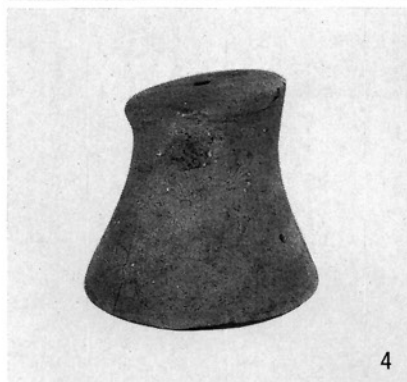
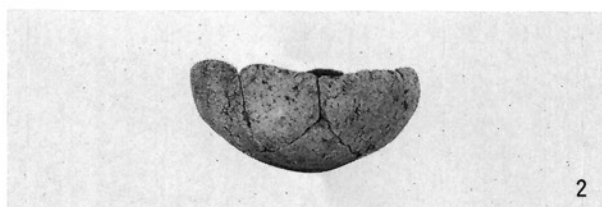
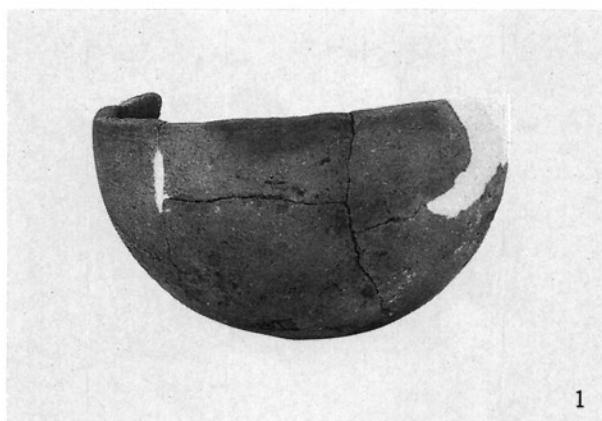
7. SH211 (47-30)

2. SH211 (44-15)

4. SH211 (43-12)

6. SH211 (46-28)

8. SH211 (46-26)



1. SH211 (47-31)
2. SH211 (47-38)
3. SH211 (47-40)

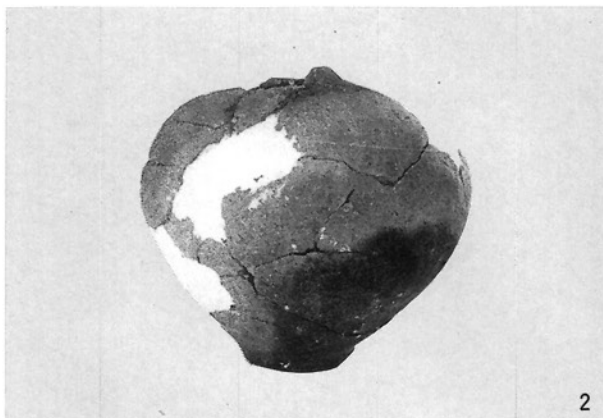
4. SH211 (48-48)
5. SH211 (48-49)
6. SH211 (48-47)

7. SH212 (50-3)
8. SH212 (52-14)
9. SH212 (52-18)

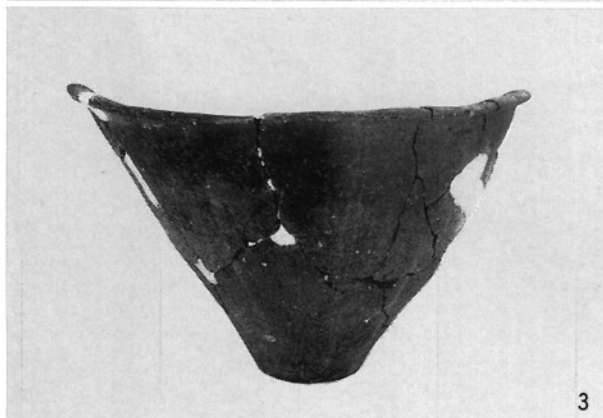
10. SH212 (53-23)



1



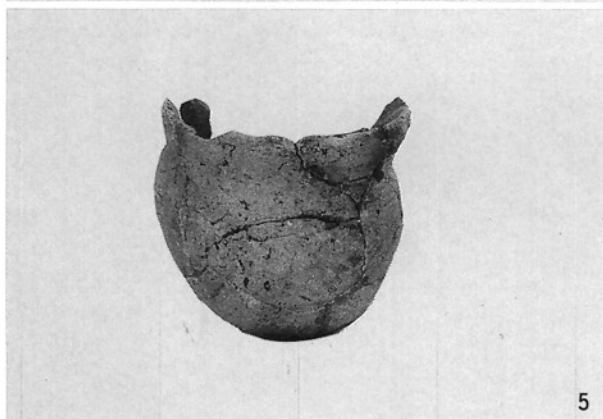
2



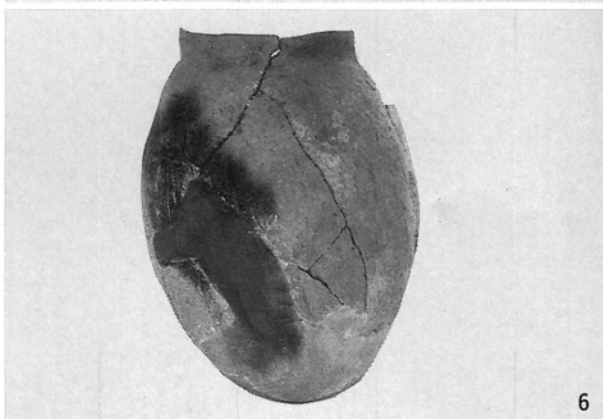
3



4



5



6



7



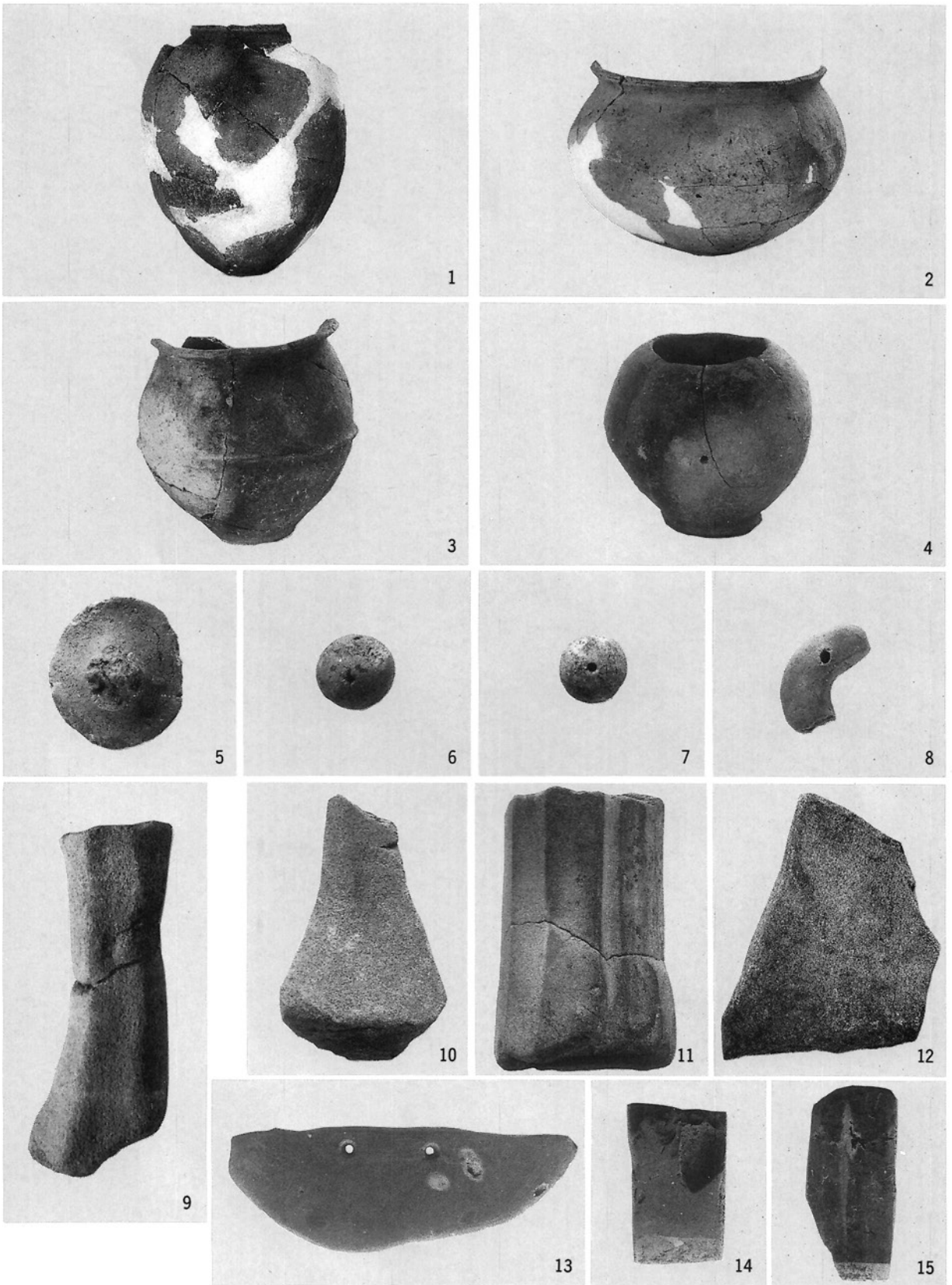
8

1. SH215 (60-2)
2. SH215 (60-3)

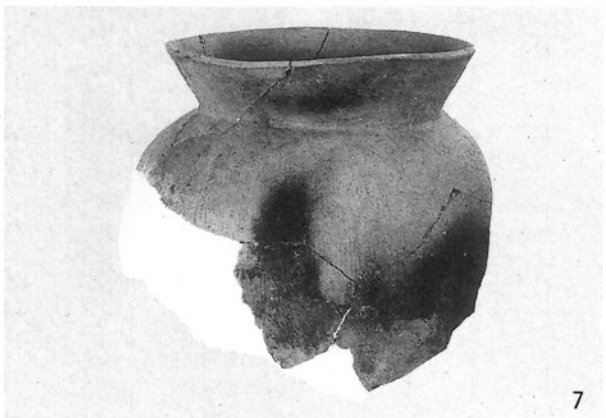
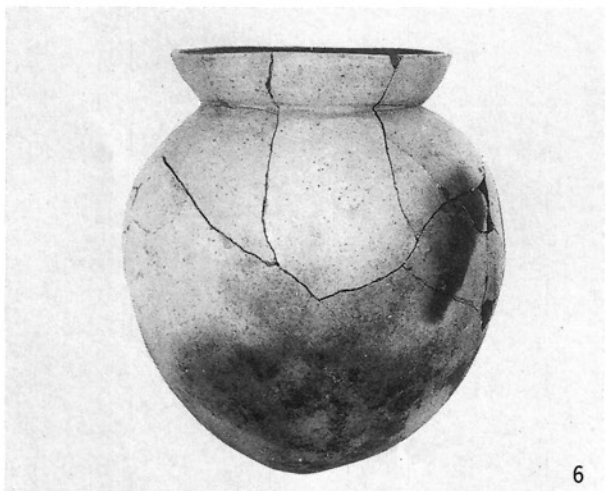
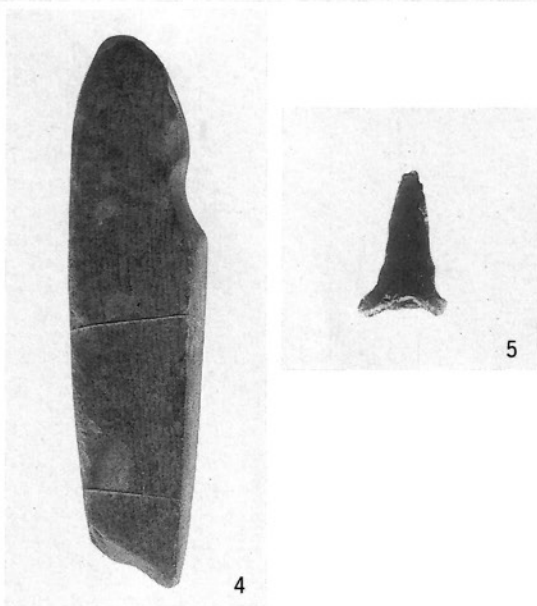
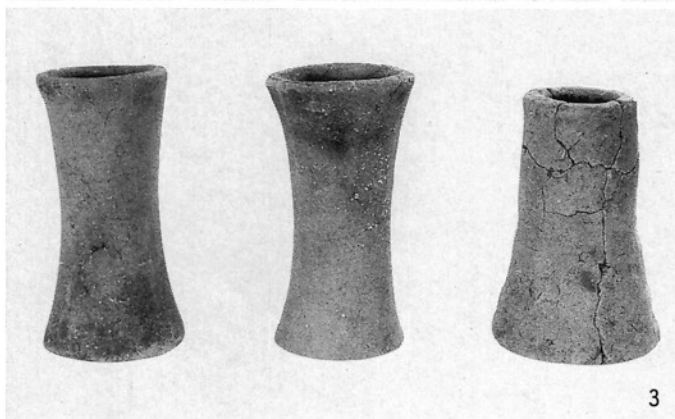
3. SH215 (60-4)
4. SH217 (66-3)

5. SH217 (66-2)
6. SH224 (77-1)

7. SH224 (77-6)
8. SH224 (78-20)



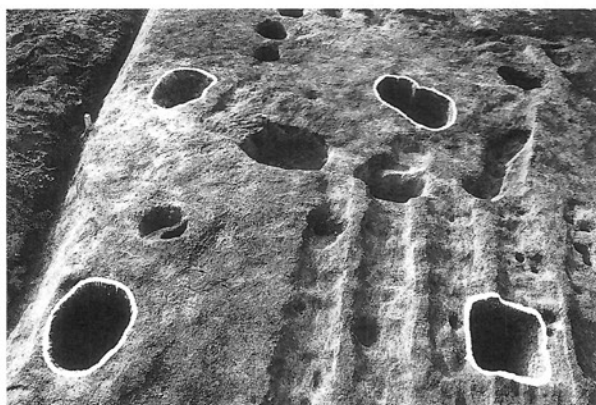
1. SH229 (87-1) 4. SH230 (89-7) 7. SH221 (72-9) 13. SH230 (89-12)
 2. SH229 (87-6) 5. SH214 (58-9) 8. SH228 (85-22) 14. SH215 (61-6)
 3. SH230 (89-5) 6. SH215 (61-5) 9~12. SH215(61~9~12) 15. SH215 (61-7)



- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. S K 232 (104-6) | 5. S K 232(106-29) |
| 2. S K 232 (104-7) | 6. S K 270(110-1) |
| 3. S K 232 (105-25~27) | 7. S K 270(110-2) |
| 4. S K 232 (106-28) | 8. S K 270(110-3) |



(1) 大野原遺跡3区全景（南東から）



(2) S B 351掘立柱建物（東から）



(3) S B 352掘立柱建物（北西から）



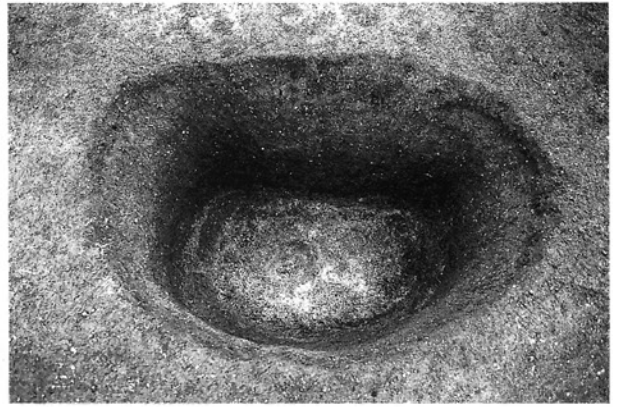
(4) S D 309溝（西から）



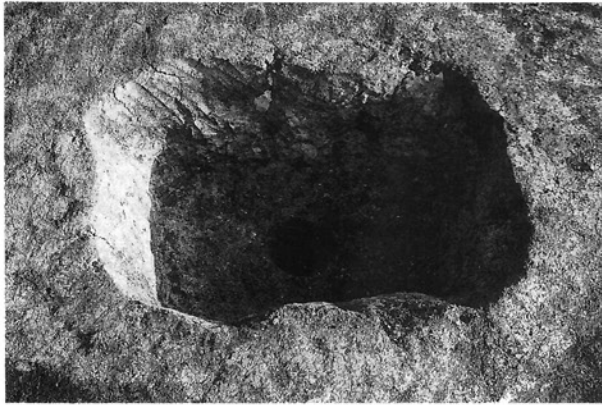
(5) 谷部包含層（北から）



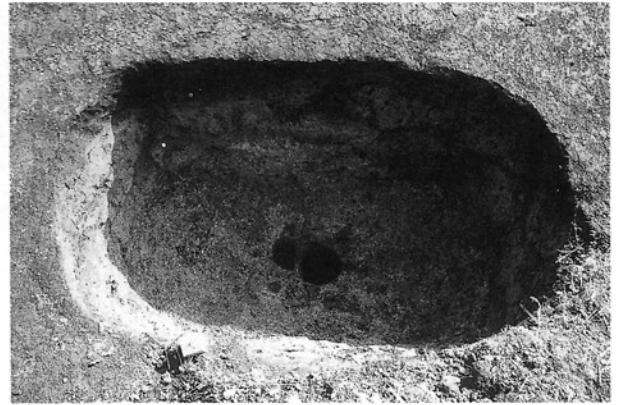
(1) S K 302土壙 (北東から)



(2) S K 304土壙 (南西から)



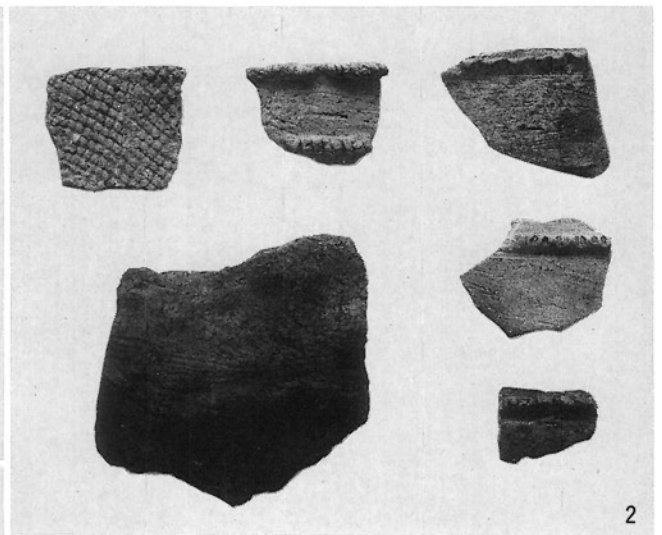
(3) S K 305土壙 (南西から)



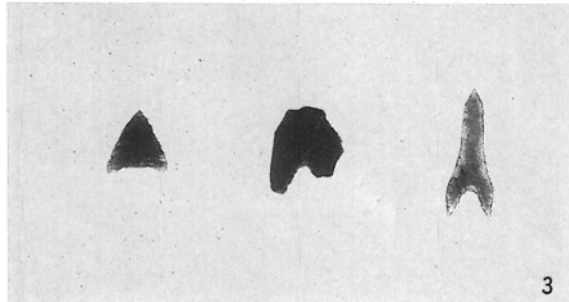
(4) S K 306土壙 (西から)



1



2

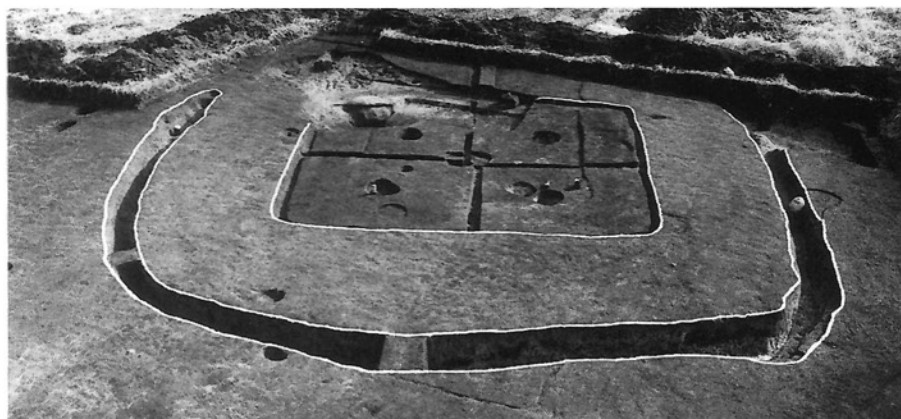


3

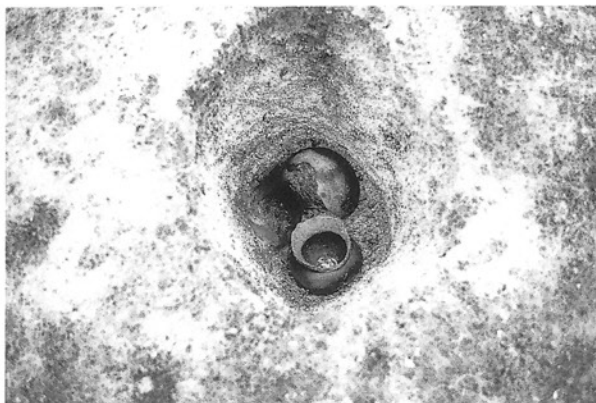
- 1. S K 313 (121-4)
- 2. 包含層 (127-6~13)
- 3. 包含層 (128-14~16)



(1) 大野原遺跡4区全景



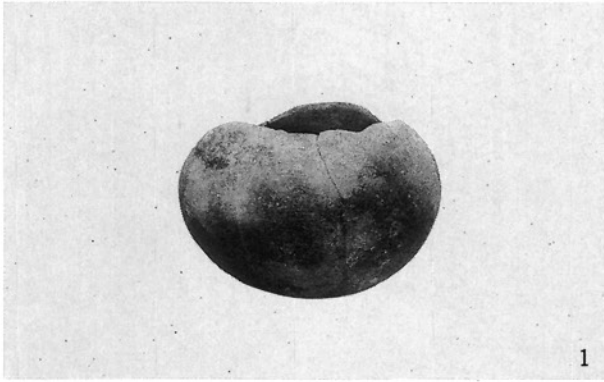
(2) S H 403竪穴住居（北から）



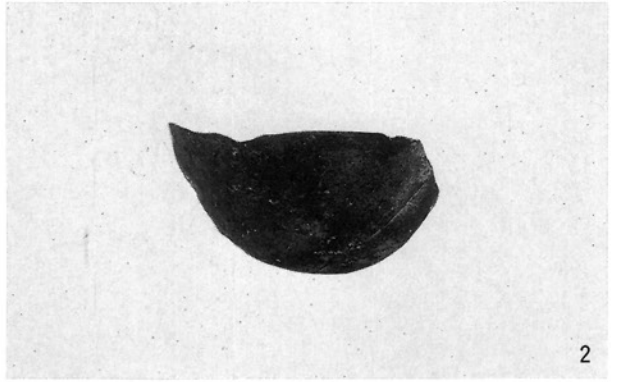
(3) S H 403 P 5 遺物出土状況（南から）



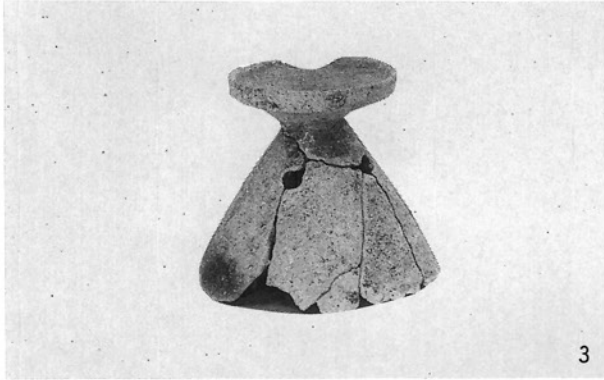
(4) S D 402遺物出土状況（北から）



1



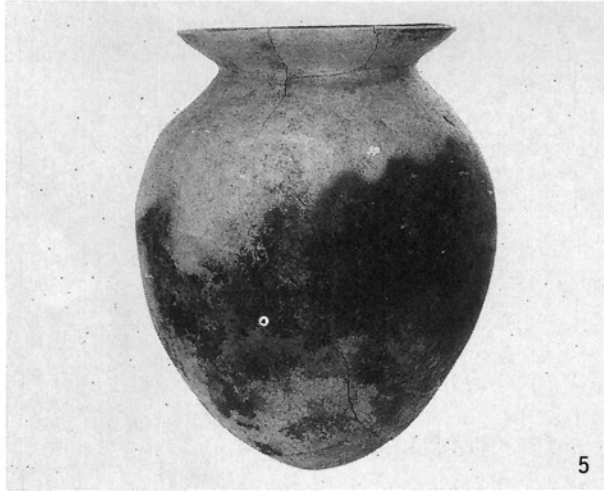
2



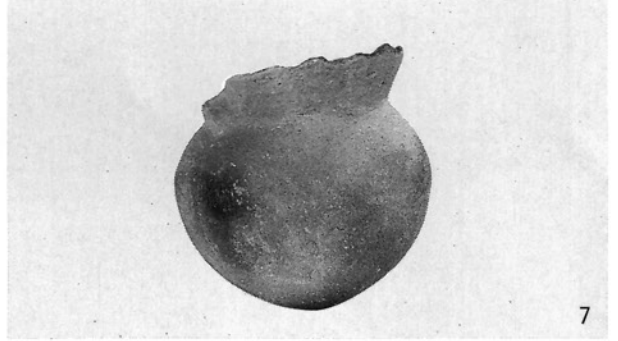
3



4



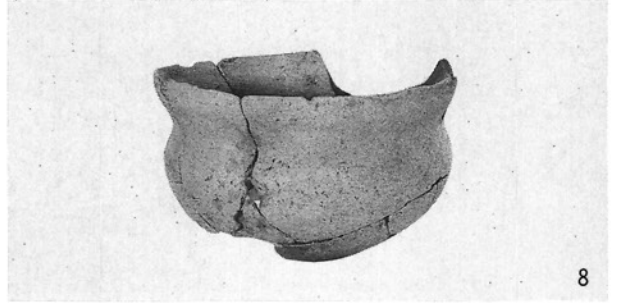
5



7



6



8



9

1. SH403 (133-4)
 2. SH403 (133-6)
 3. SH403 (133-8)

4. SH403 (133-9)
 5. SD402 (131-1)
 6. SD402 (131-5)

7. SD402 (131-6)
 8. SD402 (131-11)
 9. SD402 (131-12)

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-1-001	甕	弥生土器	口径 — 底径(12.4) 器高(4.0)	SD102	001	9-1	1
ONR-1-002	砥石	石器	口径(5.8) 底径(4.4) 器高(2.3)	SD102	002	9-2	1
ONR-1-003	蓋	土師器	口径(16.0) 撮径2.4 器高(2.2)	SD106	003	11-1	1
ONR-1-004	高台付坏	須恵器	口径 — 底径(9.5) 器高(2.6)	SD106	004	11-2	1
ONR-1-005	甕	弥生土器	口径 — 底径(9.0) 器高(5.6)	SK108	005	7-1	1
ONR-1-006	石匙	石器	長さ(5.2) 幅(1.8) 厚さ 0.6	SK110	006	5-1	1
ONR-1-007	甕	弥生土器	口径(18.4) 底径 — 器高(15.6)	包含層	007	13-4	1
ONR-1-008	壺	弥生土器	口径 14.0 底径 — 器高(9.8)	包含層	008	15-21	1
ONR-1-009	甕	弥生土器	口径(23.6) 底径 — 器高(5.0)	包含層	009	13-6	1
ONR-1-010	鉢	弥生土器	口径(19.0) 底径 — 器高(7.3)	包含層	010	16-29	1
ONR-1-011	壺	弥生土器	口径(12.0) 底径 — 器高(9.4)	包含層	011	15-20	1
ONR-1-012	鉢	弥生土器	口径(17.2) 底径 — 器高(10.1)	包含層	012	16-31	1
ONR-1-013	甕	弥生土器	口径(19.6) 底径 — 器高(10.7)	包含層	013	13-8	1
ONR-1-014	甕	弥生土器	口径(16.4) 底径 — 器高(10.0)	包含層	014	13-9	1
ONR-1-015	甕	弥生土器	口径(15.6) 底径 — 器高(6.5)	包含層	015	13-1	1
ONR-1-016	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.0 器高(2.9)	包含層	016	14-11	1
ONR-1-017	甕	弥生土器	口径 — 底径(8.2) 器高(7.2)	包含層	017	14-13	1
ONR-1-018	鉢	弥生土器	口径(23.7) 底径 8.4 器高16.4	包含層	018	16-27	1
ONR-1-019	鉢	弥生土器	口径(24.0) 底径 — 器高(6.2)	包含層	019	16-28	1
ONR-1-020	高坏	弥生土器	口径(32.6) 底径 — 器高(7.3)	包含層	020	17-34	1
ONR-1-021	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(8.6)	包含層	021	17-37	1
ONR-1-022	脚台	弥生土器	口径(11.0) 底径 — 器高(4.8)	包含層	022	14-18	1
ONR-1-023	手づくね土器	弥生土器	口径 6.7 底径 — 器高 3.7	包含層	023	16-33	1
ONR-1-024	石鏃	石器	長さ 2.9 幅 1.3 厚さ 0.25	包含層	024	18-44	1
ONR-1-025	甕	弥生土器	口径(20.0) 底径 — 器高(9.9)	包含層	025	13-7	1
ONR-1-026	甕	弥生土器	口径(15.6) 底径 — 器高(9.4)	包含層	026	13-3	1
ONR-1-027	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.8 器高(6.5)	包含層	027	14-12	1
ONR-1-028	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.8 器高(8.6)	包含層	028	14-14	1
ONR-1-029	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(14.1)	包含層	029	15-25	1
ONR-1-030	壺	弥生土器	口径(18.1) 底径 — 器高(4.6)	包含層	030	15-23	1
ONR-1-031	鉢	弥生土器	口径(16.7) 底径 — 器高(2.8)	包含層	031	16-30	1
ONR-1-032	器台	弥生土器	口径 14.0 底径 — 器高(9.1)	包含層	032	17-38	1
ONR-1-033	脚台	弥生土器	口径 9.6 底径 — 器高(4.3)	包含層	033	14-17	1
ONR-1-034	壺	弥生土器	口径(23.6) 底径 — 器高(6.5)	包含層	034	15-24	2
ONR-1-035	蓋	須恵器	口径 — 器高(1.5)	包含層	035	17-43	2
ONR-1-036	蓋	須恵器	口径 13.8 器高(1.5)	包含層	036	17-42	2
ONR-1-037	甕	弥生土器	口径 61.6 底径 — 器高(22.5)	包含層	037	14-10	2
ONR-1-038	甕	弥生土器	口径(14.0) 底径 — 器高(11.6)	包含層	038	13-2	2
ONR-1-039	甕	弥生土器	口径 — 底径(8.4) 器高(8.4)	包含層	039	14-16	2
ONR-1-040	壺	弥生土器	口径(9.4) 底径 6.3 器高 13.8	包含層	040	15-26	2
ONR-1-041	壺?	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.3)	包含層	041	—	2
ONR-1-042	鉢	弥生土器	口径(18.0) 底径 — 器高(7.5)	包含層	042	16-32	2
ONR-1-043	器台	弥生土器	口径 — 底径(19.4) 器高(7.5)	包含層	043	17-40	2
ONR-1-044	器台	弥生土器	口径 — 底径(9.3) 器高(4.6)	包含層	044	17-41	2
ONR-1-045	器台	弥生土器	口径 — 底径(12.0) 器高(11.2)	包含層	045	17-39	2
ONR-1-046	石鏃	石器	長さ 2.6 幅 1.7 厚さ 0.4	包含層	046	18-46	2
ONR-1-047	石鏃	石器	長さ 2.55 幅 1.55 厚さ 0.5	包含層	047	18-45	2
ONR-1-048	石鏃	石器	長さ 2.7 幅 1.8 厚さ 0.4	包含層	048	18-47	2
ONR-1-049	尖頭器	石器	長さ 8.15 幅 3.3 厚さ 1.4	包含層	049	18-48	2
ONR-1-050	壺	弥生土器	口径(17.3) 底径 — 器高(15.4)	包含層	050	15-22	2

大野原遺跡 1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-1-052	壺	弥生土器	口径 — 底径(8.5) 器高(12.8)	包含層	052	14-15	2
ONR-1-053	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(10.4)	包含層	053	17-35	2
ONR-1-054	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(10.3)	包含層	054	17-36	2
ONR-1-055	脚台	弥生土器	口径 — 底径(11.2) 器高(4.5)	包含層	055	14-19	2
ONR-1-056	石匙	石器	長さ 5.3 幅 8.9 厚さ 0.9	P1006	056	5-2	2
ONR-1-057	甕	土師器	口径(15.4)底径 — 器高(9.4)	確認調査	057	—	2
ONR-2-001	甕	弥生土器	口径(26.8)底径 — 器高 40.3	SH201	001	21-1	3
ONR-2-002	壺	弥生土器	口径(16.5)底径 — 器高(30.4)	SH201	002	22-7	4
ONR-2-003	壺	弥生土器	口径(22.2)底径 — 器高(13.7)	SH201	003	21-2	4
ONR-2-004	壺	弥生土器	口径(17.6)底径 — 器高(22.9)	SH201	004	22-8	4
ONR-2-005	壺	弥生土器	口径(11.4)底径 — 器高(8.3)	SH201	005	21-4	4
ONR-2-006	壺	弥生土器	口径(17.2)底径 — 器高(7.7)	SH201	006	21-3	4
ONR-2-007	壺	弥生土器	口径(10.4)底径 — 器高(9.5)	SH201	007	21-5	4
ONR-2-008	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(13.1)	SH201	008	21-6	4
ONR-2-009	壺	弥生土器	口径 12.1 底径 — 器高 13.9	SH201	009	22-9	4
ONR-2-010	鉢	弥生土器	口径 30.5 底径 — 器高 13.4	SH201	010	23-12	5
ONR-2-011	鉢	弥生土器	口径(27.7)底径 — 器高 12.0	SH201	011	23-11	4
ONR-2-012	鉢	弥生土器	口径(25.0)底径 — 器高(11.0)	SH201	012	23-10	5
ONR-2-013	鉢	弥生土器	口径 17.9 底径 — 器高 5.8	SH201	013	23-15	5
ONR-2-014	鉢	弥生土器	口径(19.2)底径 — 器高(5.0)	SH201	014	23-14	5
ONR-2-015	鉢	弥生土器	口径(17.1)底径 — 器高(4.2)	SH201	015	23-16	5
ONR-2-016	鉢	弥生土器	口径(16.7)底径 — 器高 5.1	SH201	016	23-17	5
ONR-2-017	鉢	弥生土器	口径(12.4)底径 — 器高 5.6	SH201	017	23-18	5
ONR-2-018	鉢	弥生土器	口径(20.6)底径 — 器高(4.0)	SH201	018	23-13	5
ONR-2-019	高坏	弥生土器	口径(32.8)底径 — 器高(6.5)	SH201	019	23-23	5
ONR-2-020	手づくね土器	弥生土器	口径(7.7) 底径 — 器高 3.7	SH201	020	23-20	5
ONR-2-021	手づくね土器	弥生土器	口径(7.2) 底径 — 器高(3.7)	SH201	021	23-19	5
ONR-2-022	手づくね土器	弥生土器	口径 2.6 底径 — 器高 2.3	SH201	022	23-22	5
ONR-2-023	手づくね土器	弥生土器	口径 2.9 底径 — 器高 2.0	SH201	023	23-21	5
ONR-2-024	砥石	石器	長さ 6.5 幅 4.0 厚さ 1.4	SH201	024	23-24	5
ONR-2-025	鋤先	鉄器	長さ 6.0 幅 12.0	SH201	025	23-25	5
ONR-2-026	甕	弥生土器	口径(20.8)底径 — 器高(12.5)	SH202	026	25-4	5
ONR-2-027	甕	弥生土器	口径(20.7)底径 — 器高(22.0)	SH202	027	25-3	5
ONR-2-028	甕	弥生土器	口径(14.3)底径 — 器高(7.5)	SH202	028	25-1	5
ONR-2-029	甕	弥生土器	口径(17.4)底径 — 器高(5.6)	SH202	029	25-2	5
ONR-2-030	甕	弥生土器	口径(23.8)底径 — 器高(5.8)	SH202	030	25-5	5
ONR-2-031	甕	弥生土器	口径(34.0)底径 — 器高(3.7)	SH202	031	25-9	5
ONR-2-032	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(10.8)	SH202	032	—	5
ONR-2-033	壺	弥生土器	口径(21.3)底径 — 器高(21.1)	SH202	033	25-11	7
ONR-2-034	壺	弥生土器	口径(19.4)底径 — 器高(4.9)	SH202	034	25-12	6
ONR-2-035	壺	弥生土器	口径(27.9)底径 — 器高(5.3)	SH202	035	25-10	6
ONR-2-036	鉢	弥生土器	口径(25.2)底径 — 器高(13.7)	SH202	036	26-16	7
ONR-2-037	鉢	弥生土器	口径(15.6)底径 — 器高(11.2)	SH202	037	26-19	6
ONR-2-038	鉢	弥生土器	口径(15.8)底径 — 器高(4.6)	SH202	038	26-28	6
ONR-2-039	鉢	弥生土器	口径(17.6)底径 — 器高(4.8)	SH202	039	26-26	6
ONR-2-040	鉢	弥生土器	口径(22.2)底径 — 器高 11.1	SH202	040	26-17	6
ONR-2-041	鉢	弥生土器	口径(15.0)底径 — 器高(8.5)	SH202	041	26-20	6
ONR-2-042	鉢	弥生土器	口径(19.3)底径 — 器高(5.3)	SH202	042	26-25	6
ONR-2-043	鉢	弥生土器	口径(28.1)底径 — 器高(4.9)	SH202	043	26-15	6

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-044	鉢	弥生土器	口径(13.8)底径 — 器高(3.4)	SH202	044	26-30	6
ONR-2-045	鉢	弥生土器	口径(14.2)底径 — 器高(3.7)	SH202	045	26-29	6
ONR-2-046	鉢	弥生土器	口径(8.6)底径 — 器高(3.6)	SH202	046	27-31	6
ONR-2-047	鉢	弥生土器	口径(18.8)底径 — 器高(3.6)	SH202	047	26-24	6
ONR-2-048	鉢	弥生土器	口径(18.0)底径 — 器高(5.0)	SH202	048	26-22	6
ONR-2-049	鉢	弥生土器	口径(16.2)底径 — 器高(5.1)	SH202	049	26-27	6
ONR-2-050	鉢	弥生土器	口径(19.8)底径 — 器高(6.5)	SH202	050	26-23	6
ONR-2-051	鉢	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(3.2)	SH202	051	26-21	6
ONR-2-052	鉢	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(5.0)	SH202	052	26-18	6
ONR-2-053	鉢	弥生土器	口径(10.3)底径 — 器高(8.0)	SH202	053	27-34	6
ONR-2-054	鉢	弥生土器	口径(10.0)底径 — 器高 5.5	SH202	054	27-32	6
ONR-2-055	鉢	弥生土器	口径(11.0)底径 — 器高 5.3	SH202	055	27-33	6
ONR-2-056	鉢	弥生土器	口径(10.9)底径 — 器高 7.7	SH202	056	27-35	6
ONR-2-057	鉢	弥生土器	口径(7.0)底径 — 器高(4.0)	SH202	057	27-38	6
ONR-2-058	鉢	弥生土器	口径(23.8)底径 — 器高(7.1)	SH202	058	26-14	6
ONR-2-059	鉢	弥生土器	口径(16.8)底径 — 器高 8.5	SH202	059	26-13	6
ONR-2-060	高坏	弥生土器	口径(33.4)底径 — 器高(6.9)	SH202	060	27-41	6
ONR-2-061	高坏	弥生土器	口径(29.4)底径 — 器高(3.5)	SH202	061	27-39	6
ONR-2-062	高坏	弥生土器	口径(33.0)底径 — 器高(3.7)	SH202	062	27-40	6
ONR-2-063	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(4.2)	SH202	063	27-42	6
ONR-2-064	支脚	弥生土器	口径 9.1 底径(11.5)器高 9.1	SH202	064	27-43	6
ONR-2-065	脚台	弥生土器	口径 — 底径 15.5 器高(5.8)	SH202	065	25- 6	6
ONR-2-066	脚台	弥生土器	口径 — 底径 13.2 器高(5.0)	SH202	066	25- 8	6
ONR-2-067	脚台	弥生土器	口径 — 底径 14.6 器高(4.4)	SH202	067	25- 7	6
ONR-2-068	脚台	弥生土器	口径 — 底径 16.8 器高(2.1)	SH202	068	—	6
ONR-2-069	手づくね土器	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(3.4)	SH202	069	27-36	6
ONR-2-070	手づくね土器	弥生土器	口径 4.1 底径 — 器高 2.5	SH202	070	27-37	6
ONR-2-071	甕	弥生土器	口径(21.6)底径 — 器高(5.7)	SH203	071	29- 1	7
ONR-2-072	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.3)	SH203	072	29- 2	7
ONR-2-073	甕	弥生土器	口径 15.2 底径 — 器高(13.7)	SH203	073	29- 3	7
ONR-2-074	壺	弥生土器	口径(16.4)底径 — 器高(11.6)	SH203	074	29- 5	7
ONR-2-075	鉢	弥生土器	口径 11.8 底径 — 器高 8.6	SH203	075	29-10	7
ONR-2-076	鉢	弥生土器	口径(20.0)底径 — 器高 11.0	SH203	076	29- 8	7
ONR-2-077	鉢	弥生土器	口径 20.6 底径 — 器高(9.5)	SH203	077	29- 7	7
ONR-2-078	鉢	弥生土器	口径(15.2)底径 — 器高(5.7)	SH203	078	29- 6	7
ONR-2-079	鉢	弥生土器	口径(10.2)底径 — 器高(6.4)	SH203	079	29- 9	7
ONR-2-080	高坏	弥生土器	口径 — 底径 14.1 器高(13.3)	SH203	080	29-15	7
ONR-2-081	高坏	弥生土器	口径(26.0)底径 — 器高(3.8)	SH203	081	29-14	7
ONR-2-082	脚台	弥生土器	口径 — 底径(14.3)器高(2.9)	SH203	082	29- 4	7
ONR-2-083	手づくね土器	弥生土器	口径 6.5 底径 — 器高 2.5	SH203	083	29-12	7
ONR-2-084	手づくね土器	弥生土器	口径(7.0)底径 — 器高 2.3	SH203	084	29-13	7
ONR-2-085	手づくね土器	弥生土器	口径(7.4)底径 4.4 器高 7.2	SH203	085	29-11	7
ONR-2-086	不明土製品	土製品	長さ(3.9)幅 2.1 厚さ 1.5	SH203	086	29-16	7
ONR-2-087	壺	弥生土器	口径 19.6 底径 — 器高 13.1	SH204	087	31- 1	8
ONR-2-088	鉢	弥生土器	口径(18.6)底径 — 器高 5.8	SH204	088	31- 2	8
ONR-2-089	鉢	弥生土器	口径(16.4)底径 — 器高 4.9	SH204	089	31- 4	8
ONR-2-090	鉢	弥生土器	口径(7.8)底径 — 器高 2.6	SH204	090	31- 5	8
ONR-2-091	鉢	弥生土器	口径(18.5)底径 — 器高 4.0	SH204	091	31- 3	8
ONR-2-092	鉢	弥生土器	口径(19.2)底径 — 器高 7.5	SH205	092	33- 1	8
ONR-2-093	甕	弥生土器	口径(20.2)底径 — 器高 3.1	SH206	093	35- 1	8

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-094	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(6.9)	SH206	094	—	8
ONR-2-095	石斧	石器	長さ(4.0) 幅 3.5 厚さ 1.3	SH206	095	35-2	8
ONR-2-096	砥石	石器	長さ(6.5) 幅 2.1 厚さ 2.2	SH206	096	35-3	8
ONR-2-097	甕	弥生土器	口径 33.4 底径 — 器高(4.5)	SH207	097	37-1	8
ONR-2-098	高坏	弥生土器	口径(32.2)底径 — 器高(7.3)	SH207	098	37-2	8
ONR-2-099	甕	弥生土器	口径(20.4)底径 — 器高 3.2	SH209	099	40-1	8
ONR-2-100	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(8.9)	SH209	100	40-2	8
ONR-2-101	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.2)	SH209	101	40-3	8
ONR-2-102	鉢	弥生土器	口径 19.0 底径 — 器高 5.2	SH209	102	40-4	8
ONR-2-103	鉢	弥生土器	口径(18.1)底径 — 器高(4.3)	SH209	103	40-5	8
ONR-2-104	石斧	石器	長さ 5.3 幅 2.4 厚さ 0.7	SH209	104	40-6	8
ONR-2-105	石鏃	石器	長さ 3.4 幅 1.7 厚さ 0.8	SH209	105	40-8	8
ONR-2-106	尖頭器	石器	長さ 4.2 幅 2.8 厚さ 1.0	SH209	106	40-9	8
ONR-2-107	尖頭器	石器	長さ 5.2 幅 3.4 厚さ 0.7	SH209	107	40-11	8
ONR-2-108	削器	石器	長さ 2.8 幅 1.8 厚さ 0.4	SH209	108	40-7	8
ONR-2-109	尖頭器	石器	長さ 4.8 幅 2.9 厚さ 1.1	SH209	109	40-10	8
ONR-2-110	甕	弥生土器	口径 25.3 底径 — 器高(30.0)	SH211	110	43-4	9
ONR-2-111	甕	弥生土器	口径 22.6 底径 — 器高(13.2)	SH211	111	43-7	8
ONR-2-112	甕	弥生土器	口径 27.0 底径 — 器高(22.5)	SH211	112	44-15	9
ONR-2-113	甕	弥生土器	口径 26.3 底径 — 器高(28.0)	SH211	113	42-3	10
ONR-2-114	甕	弥生土器	口径 28.4 底径 — 器高(22.5)	SH211	114	42-1	8
ONR-2-115	甕	弥生土器	口径(27.0)底径 — 器高(8.5)	SH211	115	43-5	8
ONR-2-116	甕	弥生土器	口径(23.4)底径 — 器高(7.2)	SH211	116	43-8	8
ONR-2-117	甕	弥生土器	口径(21.1)底径 — 器高(6.5)	SH211	117	43-10	8
ONR-2-118	甕	弥生土器	口径(33.0)底径 — 器高(10.6)	SH211	118	44-13	8
ONR-2-119	甕	弥生土器	口径 19.4 底径 — 器高(14.5)	SH211	119	43-11	8
ONR-2-120	甕	弥生土器	口径 27.2 底径 — 器高(11.3)	SH211	120	44-14	8
ONR-2-121	甕	弥生土器	口径 13.2 底径 — 器高(6.5)	SH211	121	46-27	8
ONR-2-122	甕	弥生土器	口径(23.4)底径 — 器高(6.6)	SH211	122	43-9	8
ONR-2-123	甕	弥生土器	口径(25.2)底径 — 器高(11.0)	SH211	123	43-6	8
ONR-2-124	甕	弥生土器	口径 17.4 底径 — 器高(17.5)	SH211	124	44-16	11
ONR-2-125	甕	弥生土器	口径 17.7 底径 — 器高(15.8)	SH211	125	43-12	11
ONR-2-126	甕	弥生土器	口径 27.0 底径 — 器高(19.3)	SH211	126	42-2	10
ONR-2-127	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(30.1)	SH211	127	44-19	12
ONR-2-128	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(17.5)	SH211	128	44-18	12
ONR-2-129	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(20.0)	SH211	129	44-17	11
ONR-2-130	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(26.3)	SH211	130	45-20	12
ONR-2-131	壺	弥生土器	口径(16.1)底径 — 器高 31.8	SH211	131	46-28	12
ONR-2-132	壺	弥生土器	口径(21.5)底径 — 器高 37.7	SH211	132	45-24	13
ONR-2-133	壺	弥生土器	口径(13.4)底径 — 器高(23.0)	SH211	133	47-30	13
ONR-2-134	壺	弥生土器	口径(22.8)底径 — 器高(28.7)	SH211	134	46-25	11
ONR-2-135	壺	弥生土器	口径(23.8)底径 — 器高(11.9)	SH211	135	46-29	11
ONR-2-136	壺	弥生土器	口径 13.4 底径 — 器高(13.0)	SH211	136	46-26	11
ONR-2-137	鉢	弥生土器	口径 22.0 底径 — 器高(14.7)	SH211	137	47-31	14
ONR-2-138	鉢	弥生土器	口径(18.4)底径(6.2) 器高 9.7	SH211	138	47-36	14
ONR-2-139	鉢	弥生土器	口径(26.0)底径 — 器高 12.8	SH211	139	47-32	14
ONR-2-140	鉢	弥生土器	口径(18.0)底径 8.2 器高 8.4	SH211	140	47-37	14
ONR-2-141	鉢	弥生土器	口径(19.9)底径 — 器高(7.4)	SH211	141	47-35	14
ONR-2-142	鉢	弥生土器	口径(31.6)底径 — 器高(10.3)	SH211	142	47-33	14
ONR-2-143	鉢	弥生土器	口径 17.0 底径 — 器高(9.7)	SH211	143	47-34	14

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-144	鉢	弥生土器	口径 8.4 底径 — 器高 4.4	SH211	144	47-38	14
ONR-2-145	鉢	弥生土器	口径 8.0 底径 — 器高 3.3	SH211	145	47-40	14
ONR-2-146	鉢	弥生土器	口径 8.1 底径 — 器高 3.3	SH211	146	47-39	14
ONR-2-147	高坏	弥生土器	口径(33.6)底径 — 器高(8.6)	SH211	147	48-42	14
ONR-2-148	高坏	弥生土器	口径(35.6)底径 — 器高(8.8)	SH211	148	48-43	14
ONR-2-149	高坏	弥生土器	口径(30.0)底径 — 器高(5.8)	SH211	149	48-41	14
ONR-2-150	高坏	弥生土器	口径(21.8)底径 — 器高(6.4)	SH211	150	48-44	14
ONR-2-151	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.0)	SH211	151	48-45	14
ONR-2-152	器台	弥生土器	口径(12.7)底径 — 器高(13.4)	SH211	152	48-46	14
ONR-2-153	器台	弥生土器	口径(14.6)底径 — 器高(14.1)	SH211	153	48-48	14
ONR-2-154	器台	弥生土器	口径 — 底径(23.4)器高(18.7)	SH211	154	48-47	14
ONR-2-155	支脚	弥生土器	口径 7.2 底径 11.1 器高 9.4	SH211	155	48-50	14
ONR-2-156	支脚	弥生土器	口径 6.7 底径 8.5 器高 7.9	SH211	156	48-51	14
ONR-2-157	支脚	弥生土器	口径 8.9 底径 — 器高(8.0)	SH211	157	48-49	14
ONR-2-158	脚台	弥生土器	口径 — 底径 14.2 器高(6.4)	SH211	158	45-23	14
ONR-2-159	脚台	弥生土器	口径 — 底径 13.8 器高(5.4)	SH211	159	45-22	14
ONR-2-160	脚台	弥生土器	口径 — 底径 12.1 器高(4.3)	SH212	160	45-21	14
ONR-2-162	甕	弥生土器	口径 24.2 底径 — 器高 37.9	SH212	162	50-3	15
ONR-2-163	甕	弥生土器	口径 26.0 底径 — 器高(28.5)	SH212	163	50-2	15
ONR-2-164	甕	弥生土器	口径(26.0)底径 — 器高(23.0)	SH212	164	50-1	16
ONR-2-165	甕	弥生土器	口径(22.6)底径 — 器高(7.4)	SH212	165	50-4	16
ONR-2-166	甕	弥生土器	口径(35.2)底径 — 器高(12.7)	SH212	166	50-7	16
ONR-2-167	甕	弥生土器	口径 17.2 底径 — 器高(8.4)	SH212	167	50-5	16
ONR-2-168	甕	弥生土器	口径(16.2)底径 — 器高(12.2)	SH212	168	50-6	16
ONR-2-169	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(24.8)	SH212	169	51-9	16
ONR-2-170	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(23.3)	SH212	170	51-8	16
ONR-2-171	壺	弥生土器	口径(14.6)底径 — 器高(17.8)	SH212	171	52-12	16
ONR-2-172	壺	弥生土器	口径(16.1)底径 — 器高(17.0)	SH212	172	52-11	16
ONR-2-173	壺	弥生土器	口径(20.8)底径 — 器高(7.3)	SH212	173	52-13	16
ONR-2-174	壺	弥生土器	口径(13.2)底径 — 器高 13.8	SH212	174	52-14	16
ONR-2-175	壺	弥生土器	口径(13.4)底径 — 器高(9.2)	SH212	175	52-15	16
ONR-2-176	壺	弥生土器	口径(17.0)底径 — 器高(10.5)	SH212	176	52-17	16
ONR-2-177	壺	弥生土器	口径(17.2)底径 — 器高(9.6)	SH212	177	52-16	16
ONR-2-178	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(9.4)	SH212	178	52-18	16
ONR-2-179	鉢	弥生土器	口径(25.3)底径 — 器高(10.1)	SH212	179	53-19	16
ONR-2-180	鉢	弥生土器	口径(17.4)底径 — 器高 6.2	SH212	180	—	16
ONR-2-181	鉢	弥生土器	口径(26.8)底径 — 器高 9.5	SH212	181	53-20	16
ONR-2-182	鉢	弥生土器	口径 10.8 底径 — 器高 6.9	SH212	182	53-24	16
ONR-2-183	鉢	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(4.6)	SH212	183	53-26	16
ONR-2-184	鉢	弥生土器	口径 14.2 底径 4.4 器高 8.1	SH212	184	53-23	16
ONR-2-185	鉢	弥生土器	口径 9.0 底径 — 器高 5.2	SH212	185	53-27	16
ONR-2-186	鉢	弥生土器	口径 17.0 底径 — 器高(6.1)	SH212	186	53-21	16
ONR-2-187	鉢	弥生土器	口径(14.1)底径 — 器高(5.0)	SH212	187	53-25	16
ONR-2-188	鉢	弥生土器	口径(15.2)底径 — 器高(3.5)	SH212	188	53-22	16
ONR-2-189	鉢	弥生土器	口径 — 底径 8.0 器高 5.7	SH212	189	—	16
ONR-2-190	高坏	弥生土器	口径(33.8)底径 — 器高(6.4)	SH212	190	53-30	17
ONR-2-191	高坏	弥生土器	口径(33.3)底径 — 器高(8.7)	SH212	191	53-31	17
ONR-2-192	高坏	弥生土器	口径(31.8)底径 — 器高(8.3)	SH212	192	53-32	17
ONR-2-193	高坏	弥生土器	口径(36.0)底径 — 器高(5.3)	SH212	193	53-29	17
ONR-2-194	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(2.8)	SH212	194	—	17

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-195	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(10.0)	SH212	195	53-33	17
ONR-2-196	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.5)	SH212	196	53-35	17
ONR-2-197	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(8.3)	SH212	197	53-36	17
ONR-2-198	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(6.8)	SH212	198	53-34	17
ONR-2-199	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(4.3)	SH212	199	—	17
ONR-2-200	支脚	弥生土器	口径 — 底径 5.4 器高(4.8)	SH212	200	54-37	17
ONR-2-201	手づくね土器	弥生土器	口径 4.6 底径 — 器高(3.7)	SH212	201	53-28	17
ONR-2-202	脚台	弥生土器	口径 — 底径 13.7 器高(5.3)	SH212	202	51-10	17
ONR-2-203	脚	土師器	長さ(7.2) 径 1.6	SH212	203	54-38	17
ONR-2-204	石鏃	石器	長さ 3.6 幅 2.4 厚さ 0.5	SH213	204	54-39	17
ONR-2-205	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(10.5)	SH213	205	56-1	17
ONR-2-206	甕	弥生土器	口径 — 底径 7.0 器高(4.2)	SH213	206	56-2	17
ONR-2-207	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(4.2)	SH213	207	—	17
ONR-2-208	鉢	弥生土器	口径 19.3 底径 — 器高(7.6)	SH213	208	56-5	17
ONR-2-209	鉢	弥生土器	口径 20.0 底径 — 器高 14.1	SH213	209	56-4	17
ONR-2-210	鉢	弥生土器	口径(15.6)底径 — 器高 5.0	SH213	210	56-6	17
ONR-2-211	鉢	弥生土器	口径 22.2 底径 — 器高(10.1)	SH213	211	56-3	17
ONR-2-212	鉢	弥生土器	口径 11.2 底径 — 器高(3.7)	SH213	212	56-8	17
ONR-2-213	鉢	弥生土器	口径(11.4)底径(2.0) 器高 4.0	SH213	213	56-7	17
ONR-2-214	鉢	弥生土器	口径 7.2 底径 — 器高 3.8	SH213	214	56-9	17
ONR-2-215	高坏	弥生土器	口径 27.8 底径 — 器高(7.8)	SH213	215	56-10	17
ONR-2-216	高坏	弥生土器	口径(35.8)底径 — 器高(4.7)	SH213	216	56-12	17
ONR-2-217	高坏	弥生土器	口径(31.7)底径 — 器高(5.0)	SH213	217	56-11	17
ONR-2-218	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(3.7)	SH213	218	—	17
ONR-2-219	支脚	弥生土器	口径 — 底径(7.3) 器高(7.3)	SH213	219	56-13	17
ONR-2-220	把手	弥生土器	径 2.5 厚さ 2.6	SH213	220	56-14	17
ONR-2-221	石核	石器	長さ 5.3 幅 5.9 厚さ 2.3	SH213	221	56-16	17
ONR-2-222	削器	石器	長さ 4.5 幅 6.1 厚さ 0.9	SH213	222	56-9	17
ONR-2-223	壺	弥生土器	口径 28.0 底径 — 器高(29.5)	SH214	223	58-1	17
ONR-2-224	鉢	弥生土器	口径 18.8 底径 — 器高(5.7)	SH214	224	58-5	17
ONR-2-225	鉢	弥生土器	口径(14.4)底径 — 器高(5.0)	SH214	225	58-4	17
ONR-2-226	鉢	弥生土器	口径(9.3) 底径 2.4 器高 5.0	SH214	226	58-2	17
ONR-2-227	鉢	弥生土器	口径 — 底径 2.4 器高(6.8)	SH214	227	58-6	17
ONR-2-228	鉢	弥生土器	口径 10.2 底径 — 器高 4.9	SH214	228	58-3	17
ONR-2-229	高坏	弥生土器	口径 — 底径(16.2)器高 4.8	SH214	229	58-7	17
ONR-2-230	支脚	弥生土器	口径 — 底径(7.4) 器高(7.1)	SH214	230	58-8	17
ONR-2-231	不明土製品	土製品	長さ 4.4 幅 4.8 厚さ 1.6	SH214	231	58-9	17
ONR-2-232	甕	弥生土器	口径(30.0)底径 — 器高 28.1	SH215	232	60-2	19
ONR-2-233	甕	弥生土器	口径(32.3)底径 — 器高(7.0)	SH215	233	60-1	18
ONR-2-234	壺	弥生土器	口径 — 底径 5.4 器高(15.5)	SH215	234	60-3	18
ONR-2-235	鉢	弥生土器	口径(24.0)底径 5.6 器高 15.9	SH215	235	60-4	18
ONR-2-236	丸玉	土製品	長さ 2.5 径 2.4	SH215	236	61-5	18
ONR-2-237	石斧	石器	長さ 5.2 幅 3.2 厚さ 1.2	SH215	237	61-6	18
ONR-2-238	石斧	石器	長さ 6.9 幅 3.2 厚さ 1.3	SH215	238	61-7	18
ONR-2-239	砥石	石器	長さ 19.7 幅 6.1 厚さ 5.1	SH215	239	61-9	18
ONR-2-240	砥石	石器	長さ 14.3 幅 9.2 厚さ 9.1	SH215	240	61-11	18
ONR-2-241	砥石	石器	長さ 18.7 幅 5.2 厚さ 4.8	SH215	241	61-10	18
ONR-2-242	砥石	石器	長さ 5.8 幅 4.0 厚さ 3.9	SH215	242	61-8	18
ONR-2-243	砥石	石器	長さ 13.1 幅 6.5 厚さ 5.5	SH215	243	61-12	18
ONR-2-244	甕	弥生土器	口径 17.8 底径 — 器高 11.1	SH216	244	63-3	18

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-245	甕	弥生土器	口径 8.4 底径 — 器高 4.4	SH216	245	63-1	18
ONR-2-246	甕	弥生土器	口径 8.0 底径 — 器高 3.3	SH216	246	63-8	18
ONR-2-247	甕	弥生土器	口径 8.1 底径 — 器高 3.3	SH216	247	63-5	18
ONR-2-248	甕	弥生土器	口径(33.6)底径 — 器高(8.6)	SH216	248	63-2	18
ONR-2-249	甕	弥生土器	口径(35.6)底径 — 器高(8.8)	SH216	249	63-6	18
ONR-2-250	甕	弥生土器	口径(30.0)底径 — 器高(5.8)	SH216	250	63-4	18
ONR-2-251	壺	弥生土器	口径(21.8)底径 — 器高(6.4)	SH216	251	63-7	18
ONR-2-252	鉢	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.0)	SH216	252	63-14	18
ONR-2-253	鉢	弥生土器	口径(12.7)底径 — 器高(13.4)	SH216	253	63-12	18
ONR-2-254	鉢	弥生土器	口径(14.6)底径 — 器高(14.1)	SH216	254	63-9	18
ONR-2-255	鉢	弥生土器	口径 — 底径(23.4)器高(18.7)	SH216	255	63-11	18
ONR-2-256	鉢	弥生土器	口径 7.2 底径 11.1 器高 9.4	SH216	256	63-10	18
ONR-2-257	鉢	弥生土器	口径 6.7 底径 8.5 器高 7.9	SH216	257	63-13	18
ONR-2-258	高坏	弥生土器	口径 8.9 底径 — 器高(8.0)	SH216	258	64-16	18
ONR-2-259	高坏	弥生土器	口径 — 底径 14.2 器高(6.4)	SH216	259	64-17	18
ONR-2-260	高坏	弥生土器	口径 — 底径 13.8 器高(5.4)	SH216	260	64-18	18
ONR-2-261	高坏	弥生土器	口径 — 底径 12.1 器高(4.3)	SH216	261	64-15	18
ONR-2-262	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(2.2)	SH216	262	64-19	18
ONR-2-263	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(5.5)	SH216	263	64-20	18
ONR-2-264	高坏	弥生土器	口径 — 底径(19.8)器高(4.7)	SH216	264	64-21	18
ONR-2-265	甕	土師器	口径(14.8)底径 — 器高(10.2)	SH217	265	66-1	18
ONR-2-266	甕	土師器	口径(10.2)底径 — 器高(10.1)	SH217	266	66-2	18
ONR-2-267	壺	土師器	口径(16.0)底径 — 器高(21.2)	SH217	267	66-3	18
ONR-2-268	器台	土師器	口径(16.2)底径 — 器高(12.2)	SH217	268	66-4	18
ONR-2-269	脚台	土師器	口径 — 底径 19.8 器高(5.6)	SH217	269	66-6	18
ONR-2-270	器台	土師器	口径 — 底径 8.8 器高(3.5)	SH217	270	66-5	18
ONR-2-271	鉢	土師器	口径(14.6)底径 — 器高(7.5)	SH219	271	68-1	18
ONR-2-272	石鏃	石器	長さ 2.2 幅 1.7 厚さ 0.3	SH219	272	68-3	18
ONR-2-273	石鏃	石器	長さ 3.1 幅 1.8 厚さ 0.45	SH219	273	68-2	18
ONR-2-274	甕	弥生土器	口径(22.2)底径 — 器高 12.6	SH220	274	70-2	20
ONR-2-275	甕	弥生土器	口径(22.0)底径 — 器高(15.8)	SH220	275	70-1	20
ONR-2-276	甕	弥生土器	口径(22.8)底径 — 器高(8.2)	SH220	276	70-3	20
ONR-2-277	甕	弥生土器	口径(28.0)底径 — 器高(5.6)	SH220	277	70-4	20
ONR-2-278	甕	弥生土器	口径 — 底径(6.4) 器高(3.4)	SH220	278	70-6	20
ONR-2-279	壺	弥生土器	口径 — 底径(6.6) 器高(4.8)	SH220	279	70-5	20
ONR-2-280	搔器	石器	長さ 4.6 幅 4.8 厚さ 1.7	SH220	280	70-7	20
ONR-2-281	甕	弥生土器	口径(21.8)底径 — 器高(7.9)	SH221	281	72-1	20
ONR-2-282	甕	弥生土器	口径(24.7)底径 — 器高(7.1)	SH221	282	72-2	20
ONR-2-283	壺	弥生土器	口径(14.0)底径 — 器高(8.5)	SH221	283	72-3	20
ONR-2-284	鉢	弥生土器	口径(11.8)底径 — 器高(8.4)	SH221	284	72-5	20
ONR-2-285	鉢	弥生土器	口径(17.4)底径 5.9 器高 8.0	SH221	285	72-4	20
ONR-2-286	鉢	弥生土器	口径(13.8)底径 — 器高(6.1)	SH221	286	72-6	20
ONR-2-287	高坏	弥生土器	口径(32.2)底径 — 器高(9.5)	SH221	287	72-8	20
ONR-2-288	手づくね土器	弥生土器	口径(5.6) 底径 — 器高 3.0	SH221	288	72-7	20
ONR-2-289	丸玉	土製品	長さ 2.3 幅 2.2 厚さ 1.7	SH221	289	72-9	20
ONR-2-290	不明土製品	土製品	長さ 1.9 幅 2.0	SH221	290	72-10	20
ONR-2-291	甕	弥生土器	口径(17.6)底径 — 器高(6.1)	SH223	291	75-1	20
ONR-2-292	土製鏡	土製品	長さ 3.7 幅 1.4 厚さ 3.1	SH223	292	75-2	20
ONR-2-293	甕	弥生土器	口径(13.7)底径 5.2 器高 25.4	SH224	293	77-1	20
ONR-2-294	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(5.6)	SH224	294	77-2	20

大野原遺跡 1～4 区 (ONR-1～4) I 種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
ONR-2-295	甕	弥生土器	口径 — 底径(4.6) 器高(11.6)	SH224	295	77-4	20
ONR-2-296	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(5.4)	SH224	296	77-3	20
ONR-2-297	壺	弥生土器	口径(12.6)底径 — 器高(12.0)	SH224	297	77-6	20
ONR-2-298	壺	弥生土器	口径(23.0)底径 — 器高(4.0)	SH224	298	77-5	20
ONR-2-299	鉢	弥生土器	口径(32.0)底径 — 器高(15.0)	SH224	299	77-10	20
ONR-2-300	鉢	弥生土器	口径(14.4)底径 — 器高(4.6)	SH224	300	77-7	20
ONR-2-301	鉢	弥生土器	口径(10.3)底径 — 器高(7.4)	SH224	301	77-8	20
ONR-2-302	鉢	弥生土器	口径(11.7)底径 — 器高(5.8)	SH224	302	77-9	20
ONR-2-303	鉢	弥生土器	口径(23.3)底径 — 器高(5.2)	SH224	303	77-11	20
ONR-2-304	高坏	弥生土器	口径(34.3)底径 — 器高(11.0)	SH224	304	78-14	21
ONR-2-305	高坏	弥生土器	口径(31.6)底径 — 器高(8.6)	SH224	305	78-13	21
ONR-2-306	高坏	弥生土器	口径(32.8)底径 — 器高(5.0)	SH224	306	78-12	21
ONR-2-307	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(12.6)	SH224	307	78-15	21
ONR-2-308	高坏	弥生土器	口径 — 底径(17.7)器高(9.3)	SH224	308	78-17	21
ONR-2-309	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(10.3)	SH224	309	78-16	21
ONR-2-310	器台	弥生土器	口径(14.6)底径 — 器高(14.5)	SH224	310	78-18	21
ONR-2-311	器台	弥生土器	口径 — 底径(15.0)器高(14.7)	SH224	311	78-19	21
ONR-2-313	不明土製品	土製品	長さ(14.4) 幅(12.1)厚さ 1.4	SH224	313	78-20	21
ONR-2-314	砥石	石器	長さ(13.0) 幅 7.6 厚さ 2.1	SH224	314	78-22	21
ONR-2-315	不明石製品	石器	長さ 7.2 幅 3.8 厚さ 3.0	SH224	315	78-21	21
ONR-2-316	甕	弥生土器	口径(16.0)底径 — 器高(6.4)	SH225	316	80-1	21
ONR-2-317	壺	弥生土器	口径 — 底径(6.3) 器高(3.8)	SH225	317	80-3	21
ONR-2-318	甕	弥生土器	口径 — 底径(7.4) 器高(6.2)	SH225	318	80-2	21
ONR-2-319	砥石	石器	長さ 7.1 幅 3.0 厚さ 2.7	SH225	319	80-5	21
ONR-2-320	砥石	石器	長さ 6.9 幅 6.8 厚さ 5.0	SH225	320	80-4	21
ONR-2-321	甕	土師器	口径 16.3 底径 — 器高 25.6	SK270	321	110-1	19
ONR-2-322	甕	土師器	口径 9.2 底径 — 器高 9.0	SK270	322	110-3	21
ONR-2-323	甕	弥生土器	口径(22.8)底径 — 器高(14.5)	SH228	323	83-1	21
ONR-2-324	甕	土師器	口径 17.2 底径 — 器高(18.8)	SK270	324	110-2	21
ONR-2-325	甕	弥生土器	口径(24.4)底径 — 器高(13.4)	SH228	325	83-4	21
ONR-2-326	甕	弥生土器	口径(24.2)底径 — 器高(10.0)	SH228	326	83-3	21
ONR-2-327	甕	弥生土器	口径(24.2)底径 — 器高(8.3)	SH228	327	83-2	21
ONR-2-328	甕	弥生土器	口径(15.0)底径 — 器高 9.1	SH228	328	84-11	21
ONR-2-329	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高 20.4	SH228	329	83-5	22
ONR-2-330	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(9.8)	SH228	330	84-10	22
ONR-2-331	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(19.5)	SH228	331	83-7	19
ONR-2-332	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高 20.3	SH228	332	83-6	19
ONR-2-333	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(15.2)	SH228	333	84-9	22
ONR-2-334	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高 7.7	SH228	334	84-12	22
ONR-2-335	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(19.2)	SH228	335	84-8	22
ONR-2-336	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(13.5)	SH228	336	—	22
ONR-2-337	壺	土師器	口径 — 底径 — 器高(7.5)	SK270	337	110-4	22
ONR-2-338	鉢	弥生土器	口径(23.4)底径 — 器高(16.5)	SH228	338	84-14	22
ONR-2-339	鉢	弥生土器	口径(18.8)底径 — 器高 12.3	SH228	339	84-15	22
ONR-2-340	鉢	土師器	口径(15.8)底径 — 器高(8.9)	SK270	340	110-5	22
ONR-2-341	鉢	弥生土器	口径(16.8)底径 — 器高(7.2)	SH228	341	84-16	22
ONR-2-342	鉢	土師器	口径(10.6)底径 — 器高 6.4	SK270	342	110-6	22
ONR-2-343	鉢	弥生土器	口径(11.2)底径 — 器高 4.3	SH228	343	84-17	22
ONR-2-344	鉢	弥生土器	口径 8.7 底径 — 器高 3.8	SH228	344	84-18	22
ONR-2-345	高坏	弥生土器	口径(33.0)底径 — 器高(8.8)	SH228	345	84-19	22

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-346	高坏	弥生土器	口径(20.6)底径 — 器高(7.9)	SH228	346	—	22
ONR-2-347	支脚	弥生土器	口径(6.6)底径(9.6)器高 8.2	SH228	347	85-20	22
ONR-2-348	支脚	弥生土器	口径 — 底径(14.6)器高(7.3)	SK270	348	110-7	22
ONR-2-349	脚台	弥生土器	口径 — 底径 14.4 器高(6.1)	SH228	349	84-13	22
ONR-2-350	土製勾玉	土製品	長さ 4.1 幅 1.9 厚さ 1.5	SH228	350	85-22	22
ONR-2-351	不明土製品	土製品	長さ(5.7) 幅(6.1)	SH228	351	85-21	22
ONR-2-352	不明土製品	土製品	長さ — 幅 — 厚さ 1.7	SH228	352	—	22
ONR-2-353	削器	石器	長さ 3.1 幅 1.8 器高(5.2)	SH228	353	85-23	22
ONR-2-355	甕	弥生土器	口径(23.5)底径 6.5 器高 30.0	SH229	355	87- 1	23
ONR-2-356	甕	弥生土器	口径(24.4)底径 — 器高(9.7)	SH229	356	87- 2	24
ONR-2-357	甕	弥生土器	口径(19.8)底径 — 器高(6.4)	SH229	357	87- 3	24
ONR-2-358	甕	弥生土器	口径(30.6)底径 — 器高(7.9)	SH229	358	87- 4	24
ONR-2-359	壺	弥生土器	口径 13.9 底径 2.7 器高 11.9	SH229	359	87- 6	24
ONR-2-360	壺	弥生土器	口径 17.0 底径 — 器高(5.1)	SH229	360	87- 5	24
ONR-2-361	鉢	弥生土器	口径(9.0)底径 — 器高(3.7)	SH229	361	87- 7	24
ONR-2-362	鉢	弥生土器	口径(11.0)底径 — 器高(4.7)	SH229	362	87- 8	24
ONR-2-363	高坏	弥生土器	口径(37.4)底径 — 器高(6.7)	SH229	363	87- 9	24
ONR-2-364	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(14.3)	SH229	364	87-10	24
ONR-2-365	器台	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(11.0)	SH229	365	87-11	24
ONR-2-367	甕	弥生土器	口径(36.6)底径 — 器高(16.2)	SH230	367	89- 1	24
ONR-2-368	甕	弥生土器	口径(29.9)底径 — 器高(7.9)	SH230	368	89- 3	24
ONR-2-369	甕	弥生土器	口径(32.6)底径 — 器高(11.2)	SH230	369	89- 2	24
ONR-2-370	甕	弥生土器	口径 — 底径 9.5 器高(4.0)	SH230	370	89- 4	24
ONR-2-371	甕	弥生土器	口径(10.2)底径 4.6 器高 12.2	SH230	371	89- 5	24
ONR-2-372	壺	弥生土器	口径(14.1)底径(7.2)器高(10.1)	SH230	372	89- 6	24
ONR-2-373	壺	弥生土器	口径 7.1 底径 5.5 器高 10.8	SH230	373	89- 7	24
ONR-2-374	鉢	弥生土器	口径(11.4)底径(4.7)器高 8.5	SH230	374	89- 8	24
ONR-2-375	鉢	弥生土器	口径 — 底径(4.7)器高(3.7)	SH220	375	89- 9	24
ONR-2-376	高坏	弥生土器	口径(26.0)底径 — 器高(7.6)	SH220	376	89-10	24
ONR-2-377	土彈	土製品	長さ 5.9 幅 4.8 厚さ 4.7	SH220	377	89-11	24
ONR-2-378	石包丁	石器	長さ 11.5 幅 4.2 厚さ 0.5	SH220	378	89-12	24
ONR-2-382	甕	弥生土器	口径 30.2 底径 6.4 器高 28.4	SK232	382	104- 7	25
ONR-2-383	甕	弥生土器	口径 28.0 底径 — 器高(33.2)	SK232	383	104- 6	25
ONR-2-384	甕	弥生土器	口径 30.3 底径 — 器高(15.2)	SK232	384	103- 3	24
ONR-2-385	甕	弥生土器	口径 24.4 底径 — 器高(7.8)	SK232	385	104-12	24
ONR-2-386	甕	弥生土器	口径 22.4 底径 — 器高(13.3)	SK232	386	104-10	24
ONR-2-387	甕	弥生土器	口径(28.4)底径 — 器高(9.9)	SK232	387	103- 2	24
ONR-2-388	甕	弥生土器	口径(26.2)底径 — 器高(8.8)	SK232	388	104- 8	24
ONR-2-389	甕	弥生土器	口径(21.8)底径 — 器高(2.8)	SK232	389	104- 9	24
ONR-2-390	甕	弥生土器	口径(26.6)底径 — 器高(7.0)	SK232	390	104-11	24
ONR-2-391	甕	弥生土器	口径(24.2)底径 — 器高(9.7)	SK232	391	104-13	26
ONR-2-392	甕	弥生土器	口径(24.6)底径 — 器高(14.5)	SK232	392	103- 5	26
ONR-2-393	甕	弥生土器	口径(25.0)底径 — 器高(10.5)	SK232	393	103- 4	26
ONR-2-394	甕	弥生土器	口径(32.4)底径 6.3 器高(23.9)	SK232	394	104-14	26
ONR-2-395	甕	弥生土器	口径(21.4)底径 — 器高(10.1)	SK232	395	103- 1	26
ONR-2-396	甕	弥生土器	口径 — 底径 7.3 器高(22.1)	SK232	396	105-15	23
ONR-2-397	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.3 器高(7.4)	SK232	397	105-18	26
ONR-2-398	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.0 器高(7.5)	SK232	398	105-19	26
ONR-2-399	甕	弥生土器	口径 — 底径 5.8 器高(17.9)	SK232	399	105-17	26
ONR-2-400	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.1 器高(17.5)	SK232	400	105-16	26

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-2-401	壺	弥生土器	口径(19.6)底径 — 器高(7.0)	SK232	401	105-21	26
ONR-2-402	壺	弥生土器	口径(18.2)底径 — 器高(7.1)	SK232	402	105-20	26
ONR-2-403	壺	弥生土器	口径 — 底径 5.7 器高(1.9)	SK232	403	105-22	26
ONR-2-404	器台	弥生土器	口径 6.8 底径 8.2 器高 15.9	SK232	404	105-25	26
ONR-2-405	器台	弥生土器	口径 8.1 底径 7.3 器高 15.9	SK232	405	105-26	26
ONR-2-406	器台	弥生土器	口径(9.2) 底径(10.6) 器高 15.4	SK232	406	105-23	26
ONR-2-407	器台	弥生土器	口径 — 底径(9.0) 器高(13.5)	SK232	407	105-24	26
ONR-2-408	支脚	弥生土器	口径 6.4 底径 9.8 器高 14.6	SK232	408	105-27	26
ONR-2-409	石斧	石器	長さ 15.4 幅 3.4 厚さ 3.9	SK232	409	106-28	26
ONR-2-410	石鏃	石器	長さ 3.7 幅 2.3 厚さ 0.8	SK232	410	106-29	26
ONR-2-411	碗	土師器	口径(10.7)底径 — 器高(4.7)	SX237	411	—	26
ONR-2-412	甕	弥生土器	口径(22.6)底径 — 器高(3.3)	SX244	412	—	26
ONR-2-413	壺	弥生土器	口径(20.8)底径 — 器高(4.6)	SX244	413	—	26
ONR-2-414	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(4.0)	SX244	414	—	26
ONR-2-415	器台	弥生土器	口径 — 底径 15.4 器高(6.8)	SX244	415	—	26
ONR-2-416	支脚	弥生土器	口径 5.0 底径 7.1 器高 13.3	SX244	416	—	26
ONR-2-417	支脚	弥生土器	口径 4.5 底径 — 器高 6.3	SX244	417	—	26
ONR-2-418	壺	弥生土器	口径 — 底径 6.0 器高(5.9)	SK245	418	—	26
ONR-2-419	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(3.3)	SK246	419	—	26
ONR-2-420	甕	弥生土器	口径(20.2)底径 — 器高(3.7)	SB250	420	95-1	26
ONR-2-421	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.9)	SB252	421	95-2	26
ONR-2-422	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(11.1)	SB257	422	99-1	26
ONR-2-423	手づくね土器	弥生土器	口径 7.2 底径 — 器高 4.4	SB257	423	99-2	26
ONR-2-424	脚台	弥生土器	口径 — 底径 14.0 器高(3.7)	SB259	424	99-3	26
ONR-2-425	壺	弥生土器	口径(30.0)底径 — 器高(3.2)	SB260	425	99-4	26
ONR-2-426	甕	弥生土器	口径 — 底径(6.0) 器高(3.9)	SK261	426	107-2	26
ONR-2-427	甕	弥生土器	口径 — 底径 8.2 器高(3.4)	SK261	427	107-1	26
ONR-2-428	壺	弥生土器	口径 — 底径 6.4 器高(5.9)	SK261	428	107-3	26
ONR-2-429	甕	弥生土器	口径 27.0 底径 — 器高 4.2	SP262	429	111-1	26
ONR-2-430	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高 10.0	SP262	430	111-1	26
ONR-2-431	小皿	土師器	口径 — 底径 7.8 器高(6.0)	SD263	431	113-3	26
ONR-2-432	小皿	土師器	口径 — 底径 7.1 器高(1.0)	SD263	432	113-2	26
ONR-2-433	小皿	土師器	口径 — 底径(6.6) 器高(0.8)	SD263	433	113-1	26
ONR-2-434	甕	弥生土器	口径(21.2)底径 — 器高(6.8)	SK265	434	108-1	26
ONR-2-435	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.5 器高(6.8)	SK265	435	108-2	26
ONR-2-436	壺	弥生土器	口径(15.0)底径 — 器高(11.3)	SK265	436	108-4	26
ONR-2-437	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(11.6)	SK265	437	108-3	26
ONR-2-438	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.8 器高(5.8)	P2001	438	—	26
ONR-2-439	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.5)	P2037	439	—	26
ONR-3-001	条痕文土器	縄文土器	— — — 器高(10.0)	SK301	001	116-1	27
ONR-3-002	曾畑系土器	縄文土器	— — — 器高(4.0)	SK302	002	116-2	27
ONR-3-003	石鏃	石器	長さ 2.8 幅 0.6 厚さ 0.6	SK306	003	118-1	27
ONR-3-004	石鏃	石器	長さ 3.3 幅 — 厚さ 0.4	SK307	004	118-2	27
ONR-3-005	壺	弥生土器	口径(21.2)底径 — 器高(3.9)	SD309	005	124-1	27
ONR-3-006	支脚	弥生土器	口径(6.8) 底径 — 器高(5.2)	SD309	006	124-2	27
ONR-3-007	甕	土師器	口径(16.3)底径 — 器高(16.5)	SK313	007	121-2	27
ONR-3-008	壺	土師器	口径(16.0)底径 — 器高(16.2)	SK313	008	121-4	27
ONR-3-009	甕	土師器	口径(12.8)底径 — 器高(5.4)	SK313	009	121-1	27
ONR-3-010	壺	土師器	口径(13.0)底径 — 器高(5.0)	SK313	010	121-3	27
ONR-3-011	鉢	土師器	口径 — 底径 — 器高(5.9)	SK313	011	121-5	27

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
ONR-3-012	高坏	土師器	口径 — 底径 — 器高(6.3)	SK313	012	121-7	27
ONR-3-013	高坏	土師器	口径 — 底径 — 器高(6.1)	SK313	013	121-6	27
ONR-3-014	高坏	土師器	口径 — 底径 — 器高(6.8)	SK313	014	121-8	27
ONR-3-015	高坏	弥生土器	口径(28.0)底径 — 器高(3.8)	P3003	015	—	27
ONR-3-016	手づくね土器	弥生土器	口径(28.0)底径 — 器高(3.8)	SB353	016	120-1	27
ONR-3-017	条痕文土器	縄文土器	— — — 器高(4.5)	P3032	017	139-1	27
ONR-3-018	条痕文土器	縄文土器	— — — 器高(9.5)	P3035	018	139-2	27
ONR-3-019	石核	石器	長さ 10.8 幅 6.8 厚さ 2.3	P3027	019	—	27
ONR-3-020	壺	土師器	口径(6.2) 底径 — 器高 10.7	包含層	020	127-3	27
ONR-3-021	甕	刻目突帯文土器	口径 — 底径 — 器高(2.7)	包含層	021	127-8	27
ONR-3-022	甕	刻目突帯文土器	口径 — 底径 — 器高(4.9)	包含層	022	127-6	27
ONR-3-023	甕	刻目突帯文土器	口径 — 底径 — 器高(4.9)	包含層	023	127-7	27
ONR-3-024	甕	刻目突帯文土器	口径 — 底径 — 器高(4.4)	包含層	024	—	27
ONR-3-025	押型文土器	縄文土器	— — — 器高(5.2)	包含層	025	127-13	27
ONR-3-026	条痕文土器	縄文土器	— — — 器高(9.4)	包含層	026	127-11	27
ONR-3-027	甕	刻目突帯文土器	口径 — 底径(7.4) 器高(2.2)	包含層	027	127-9	27
ONR-3-028	壺	縄文土器	口径 — 底径 10.0 器高(2.2)	包含層	028	127-12	27
ONR-3-029	壺	縄文土器	口径 — 底径 — 器高(4.7)	包含層	029	127-10	27
ONR-3-030	小皿	土師器	口径 — 底径 4.0 器高(1.0)	包含層	030	127-1	27
ONR-3-031	碗	青磁	口径 — 底径(5.4) 器高(2.7)	包含層	031	127-2	27
ONR-3-032	高坏	土師器	口径 — 底径 — 器高(9.3)	包含層	032	127-4	27
ONR-3-033	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(9.6)	包含層	033	127-5	27
ONR-3-034	高坏	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(7.4)	包含層	034	—	27
ONR-3-035	石鏃	石器	長さ 2.1 幅 1.9 厚さ 0.3	包含層	035	128-15	27
ONR-3-036	石鏃	石器	長さ 3.3 幅 1.2 厚さ 0.3	包含層	036	128-14	27
ONR-3-037	石鏃	石器	長さ 1.7 幅 1.5 厚さ 0.3	包含層	037	128-16	27
ONR-3-038	搔器	石器	長さ 8.0 幅 6.9 厚さ 0.9	包含層	038	128-17	27
ONR-4-001	甕	土師器	口径 18.2 底径 — 器高 30.1	SD402	001	131-1	28
ONR-4-002	甕	土師器	口径(15.8)底径 — 器高(10.5)	SD402	002	131-4	29
ONR-4-003	甕	土師器	口径(18.0)底径 — 器高(19.0)	SD402	003	131-2	29
ONR-4-004	甕	土師器	口径(16.8)底径 — 器高(8.1)	SD402	004	131-3	29
ONR-4-005	壺	土師器	口径 13.1 底径 — 器高 14.2	SD402	005	131-5	29
ONR-4-006	壺	土師器	口径 — 底径 — 器高(10.6)	SD402	006	131-9	29
ONR-4-007	壺	土師器	口径 — 底径 — 器高(5.1)	SD402	007	131-6	29
ONR-4-008	壺	土師器	口径 18.8 底径 — 器高(5.3)	SD402	008	131-7	29
ONR-4-009	壺	土師器	口径(9.8) 底径 — 器高(3.3)	SD402	009	131-8	29
ONR-4-010	鉢	土師器	口径(21.4)底径 — 器高(6.3)	SD402	010	131-10	29
ONR-4-011	鉢	土師器	口径 13.0 底径 — 器高 8.3	SD402	011	131-11	29
ONR-4-012	高坏	土師器	口径 — 底径 12.7 器高(6.4)	SD402	012	131-12	29
ONR-4-013	甕	土師器	口径(14.6)底径 — 器高(7.0)	SH403	013	133-1	29
ONR-4-014	甕	土師器	口径(18.2)底径 — 器高(3.2)	SH403	014	133-2	29
ONR-4-015	甕	土師器	口径 — 底径 — 器高 3.6	SH403	015	133-3	29
ONR-4-016	壺	土師器	口径 — 底径 — 器高 9.6	SH403	016	133-4	29
ONR-4-017	壺	土師器	口径(6.6) 底径 — 器高(6.7)	SH403	017	133-5	29
ONR-4-018	鉢	土師器	口径(13.3)底径 — 器高(6.6)	SH403	018	133-6	29
ONR-4-019	高坏	土師器	口径 11.5 底径 — 器高(4.4)	SH403	019	133-7	29
ONR-4-020	支脚	土師器	口径 7.3 底径(10.8)器高(9.1)	SH403	020	133-8	29
ONR-4-021	鞆羽口	土製品	径(6.8) 器高(5.8)	SH403	021	133-9	29
ONR-4-022	鉄滓	鉄滓	— — —	SH403	022	—	29
ONR-4-023	甕	土師器	口径 16.8 底径 — 器高(9.9)	SK404	023	135-5	29

大野原遺跡1～4区 (ONR-1～4) I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
ONR-4-024	甕	土師器	口径(17.0)底径 — 器高(9.0)	SK404	024	135-3	29
ONR-4-025	甕	土師器	口径(16.8)底径 — 器高(9.1)	SK404	025	135-4	29
ONR-4-026	甕	土師器	口径 17.0 底径 — 器高(7.3)	SK404	026	135-2	29
ONR-4-027	甕	土師器	口径 — 底径 — 器高(17.6)	SK404	027	135-6	29
ONR-4-028	甕	土師器	口径(14.4)底径 — 器高(4.3)	SK404	028	135-1	29
ONR-4-029	壺	土師器	口径(8.6)底径 — 器高(3.1)	SK404	029	135-9	29
ONR-4-030	壺	土師器	口径(10.5)底径 — 器高(8.7)	SK404	030	135-8	29
ONR-4-031	壺	土師器	口径(20.2)底径 — 器高(3.2)	SK404	031	135-7	29
ONR-4-032	鉢	土師器	口径(3.0)底径 — 器高(3.6)	SK404	032	135-10	29
ONR-4-033	高坏	土師器	口径 8.5 底径 — 器高(2.1)	SK404	033	135-12	29
ONR-4-034	高坏	土師器	口径(12.0)底径 — 器高(3.2)	SK404	034	135-11	29
ONR-4-035	削器	石器	長さ 6.8 幅 2.1 厚さ 0.9	SK404	035	135-13	29
ONR-4-036	鉄滓	鉄滓(8点)	—————	SK404	036	—	29
ONR-4-037	甕	土師器	口径(14.6)底径 — 器高(6.7)	SK405	037	137-1	29
ONR-4-038	甕	土師器	口径(12.4)底径 — 器高(4.5)	SK406	038	—	29
ONR-4-039	甕	土師器	口径(14.4)底径 — 器高(8.0)	SK406	039	137-2	29
ONR-4-040	鉄滓	鉄滓(1点)	—————	SK406	040	—	29
ONR-4-041	甕	土師器	口径(18.2)底径 — 器高(2.7)	確認調査トレンチ	041	—	29
ONR-4-042	鉄滓	鉄滓(2点)	—————	確認調査トレンチ	042	—	29
ONR-4-043	鉄滓	鉄滓(1点)	—————	包含層	043	—	29

佐賀市文化財調査報告書第48集

大野原遺跡

平成5年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 参陽堂企画印刷
佐賀市神園五丁目10-1